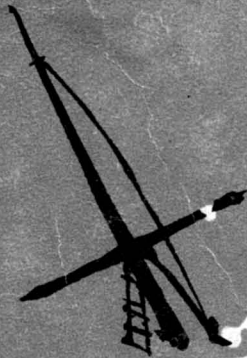


時事新報社翻譯

露艦隊

來航秘錄





露艦隊三戰記序

予嘗テ海軍勳功表彰會ノ著ス所日露海戰記ヲ讀ム其記
ス所詳密精確ニシテ能ク日露海戰ノ終始本末ヲ網羅シ
其後世史料ノ爲メ益スル所小少ナラサルヲ知ル今又同
會ノ發刊ニ係ル露艦隊來航秘録同幕僚戰記及ヒ最期實
記ノ三篇ヲモ併セ讀メリ其來航秘録ト稱スルモノハロ
ゼストウエンスキー提督ノ幕僚タル造船技師ボリトウ
スキー氏ノ著ス所ニシテ西曆千九百四年九月十日始テ
クロンスタツドニ於テ軍艦スワロフニ乘艦ノ日ヨリ始
マリ翌年五月廿三日即チ日本海々戰ノ前四日ニ終ハル
之レ同氏カ乘艦以來日々艦隊行動ノ實況ヲ手記シ以テ

其細君ニ通信セシ實錄ナリ幕僚戰記ト稱スルモノハ第二艦隊幕僚某氏ノ著ス所ニシテ其記事ハ五月廿五日臺灣海峽附近ニ於テ既ニ會戰ノ近キヲ察シ運送船ノ一部ヲ解放シ上海ニ回航ヲ命シタルノ日ニ始マリ開戦後口ゼストウエンスキー提督重傷ヲ負ヒ最後命令ヲ發シタルノ時ニ終ハル又最期實記ト稱スルモノハ實戰者ノ一人タル某將校ノ著ス所ニシテ其記事ハ五月九日第二第三艦隊カ始テホニコ一灣ニ會同セシ時ニ始マリ口ゼストウエンスキー提督ノ坐乘驅逐艦ペトウエイ號ノ投降決議及ネボカトフ提督ノ降伏談判ノ時ニ終ハル其記スル所ノ要各異ニシテ一ハ則チ萬里遠征ノ苦味艱難ヲ詳述シ一ハ則チ專ラ艦隊苦戰ノ狀ヲ描寫シ又其一ハ則

チ戰策ノ利害得失武器ノ優劣等ヲ詳論セリ故ニ此三者ハ互ニ相補足シ讀者ノ研鑽ニ利スル甚タ多シ若シ此三者ヲ併讀スルトキハ露國艦隊ノ裏情一トシテ其要ヲ得サルモノナク且ツ其悲惨ノ狀炳然トシテ眼中ニ映スルカ如シ讀者チシテ無量ノ感ニ禁ヘサラシムルモノアリ抑モ彼レ艦隊カ旅順浦鹽艦隊ノ敗衄ヲ聞キ萬里ノ波濤ヲ凌キ苦辛艱難ヲ極メ之レカ應援ニ努メタル大膽不撓ノ勇氣ハ之ヲ稱スルニ餘リアリト雖モ其出征準備ノ盡サハル所アルト兵員ノ研磨訓練ヲ缺キ航行十餘ヶ月ノ間孜々トシテ此ニ努メサリシハ將帥タルモノ、能ク心ヲ用ヒタリト言ヲ得ス開戦ノ時ニ臨ミ屢ハ隊形ノ不整ヲ來シ炮火ノ効力ヲ著明ナラシムルヲ得サリシハ豈ニ

其レ之レカ罪ナラサランヤ且ツ其兵員カ屢ハ反心不羈ノ形勢ヲ示シ司令長官ノ信賴ヲ薄弱ナラシメタルハ平生軍紀ノ頽廢ヲ表白セルモノニシテ是亦敗戦ノ一原因タルヲ疑ハス所謂戦ノ勝敗ハ地ノ利ニ如カス地ノ利ハ人ノ和ニ如カストハ是此ノ謂ナリ蓋シ此書ハ能ク敵ノ缺窞ヲ明示シ之ニ依テ將來益ス我カ士氣ヲ鼓吹シ忠君愛國ノ至衷ヲ發揮セシムルノ良箴トナスヘキカ曩ニ著ス所ノ日露海戦記ハ我カ艦隊ノ實見觀察ニシテ所謂表面ノ顯象ナリ此三戦記ハ彼レ艦隊ノ實見觀察ニシテ所謂裏面ノ寫影ナリ此二者ハ則チ表裏相照シテ能其眞象ヲ示スモノナリ勳功表彰會カ前後彼我ノ海戦記ヲ發刊シ世ニ公ニセシモノ蓋シ其意焉ニ在ラン予聞ク此三戦

記ハ嘗テ時事新報社ニ於テ稿ヲ購ヒ之レカ譯ヲ施シ上梓發刊ノ企圖アリ然ルニ偶々勳功表彰會ニ於テ佐世保紀念館設立ノ舉アルヲ聞キ此稿ヲ寄贈シ以テ其資ヲ幫助セリト果シテ然ラハ此書ノ讀者ニ與フル裨益ハ獨リ勳功表彰會ノ賜モノトミニアラス其一半ハ則チ時事新報社ノ賜モノト言フヘキカ今其梗概ヲ略記シ以テ之カ序トナス

明治四十年初冬

海軍大將 柴 山 矢 八 撰

拜啓先頃御來訪被下候翌朝新聞紙を閲し候處前日回向院の大相撲にて太刀山常陸山を破り而も其手解は人々によりて觀る所を異にし太刀山自身も亦確と記憶せざる由記載有之小生は之を讀みて感懷今更の如きものあるを覺え申候東西二人角牴の贏輸すら真相を窺ふの難きと是の如くなるに况や日露兩帝國百餘隻の軍艦か日本海に於て二日間奮闘を續け其區域南北三百餘海里東西二百餘海里に亘れる未曾有の大戦に候得は其大要たにも研究するの至難なる事は申までも無之次第に候へども我れ無比の大勝を制し以て戦役の大局を決せしめたる此の海戦の顛末を知るは海國民たる面目上缺く可らざる事なるに同時に未來の發展に關しても必ず研究し置くべきもの、一ツかこ被存候海戦の當時東郷大將の公報及諸將校の談話等にて兎も角も我戦況の大要こそ知られたれ露國側の行動に至りては具體的のもの殆んど無之頗る遺憾に存じ居り候處今般貴會にて曩に時事新報紙上に掲げ世間の喝采を博したる露艦隊に關する紀事三篇を一巻に收めて御發刊相成候趣洵に結構なる御企にて斯くてこそ彼我勝敗の原因も略ほ究められ従つて國民を裨益すること多かるべきは小生等の信じて疑はざる所に有之候知彼知己百戰不殆との孫武子の言は嘗に軍事當局者か作戦上に必要なるのみにては可無之と被考候先は右迄勿々不備

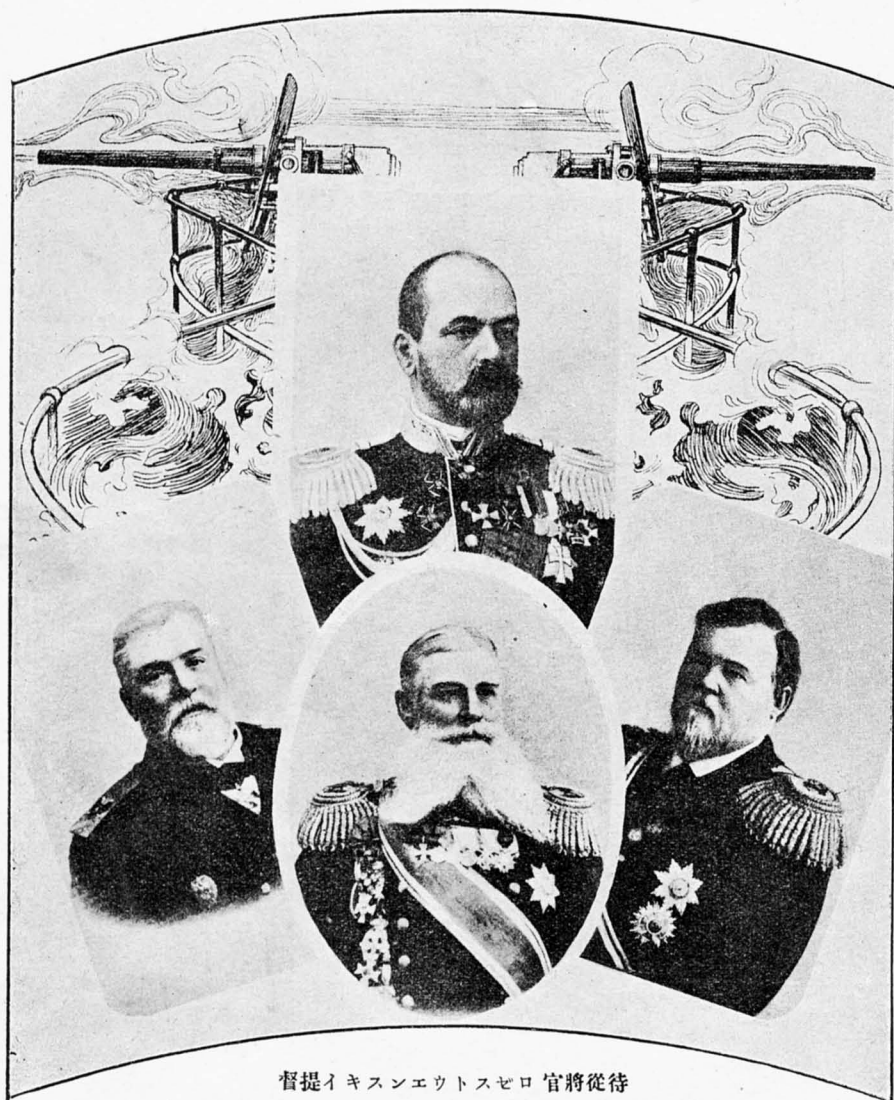
六月廿九日

海軍中佐子爵 小笠原長生

海軍勳功表彰會

田熊萬藏殿

露艦隊四提督の肖像



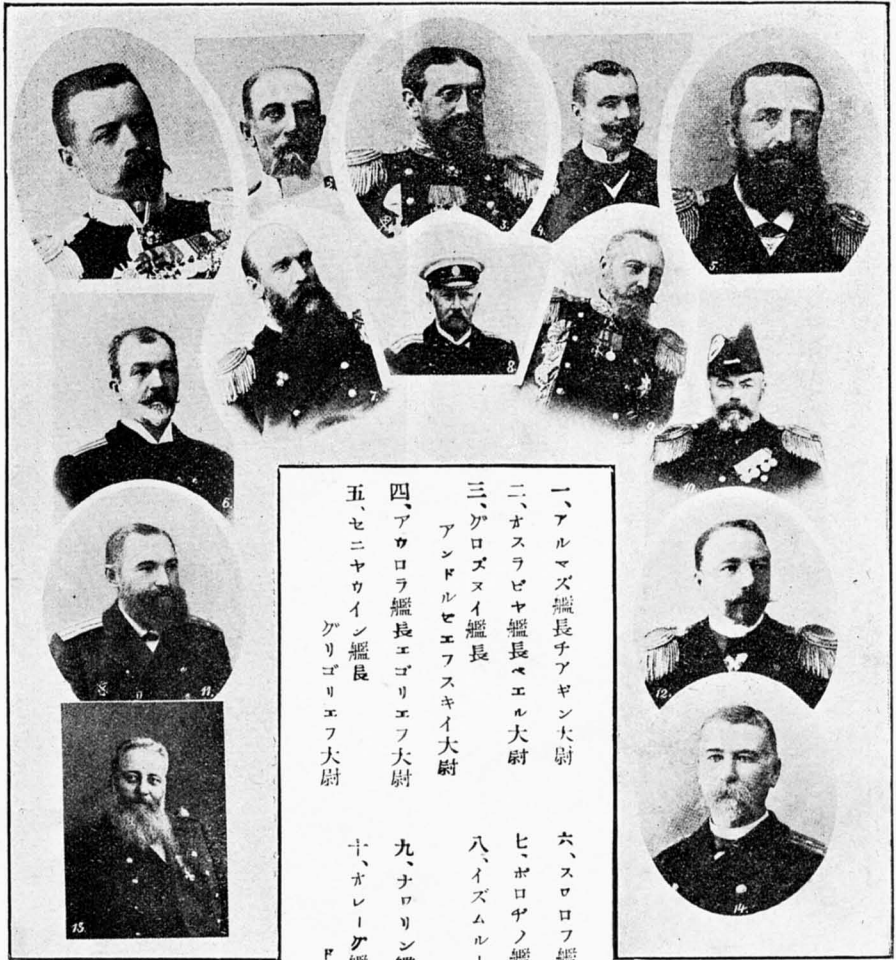
待從將官セロツエウシキ提督

ネボカフト提督

フエケルガルム提督

エウクソイト提督

露艦各隊長の肖像



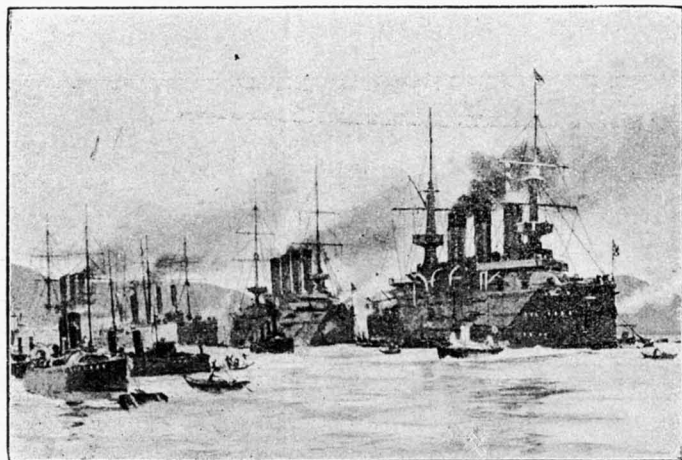
- 一、アルマズ艦長チアギン大尉
- 二、オスラビヤ艦長マエル大尉
- 三、カロズヌイ艦長
アンドルセエフスキイ大尉
- 四、アカロラ艦長エゴリエフ大尉
- 五、セニヤウイン艦長
グリゴリエフ大尉
- 六、スロロフ艦長イグナツウクス大尉
- 七、ボロザノ艦長セルブリヤニコフ大尉
- 八、イズムルード艦長ノエルゼン大尉
- 九、ナロリン艦長ヒテンゴフ大尉
- 十、オレーク艦長
ドブロトログオルスキイ大尉

長艦イッシ、三十
尉大フロゼオ

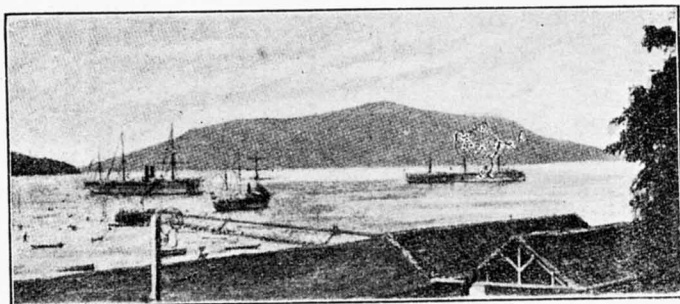
長艦ンシクラバア、四十
尉大ンシリ

長艦フモヒナ、一十
尉大フノオデロ

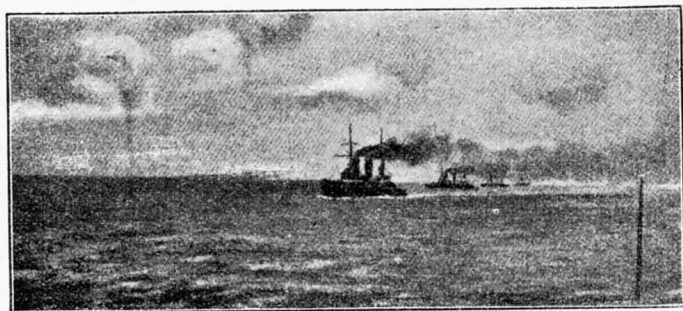
長艦クーレオ、二十
尉大グンエ



露艦第二大平洋艦隊リパカ港
出帆當時の光景

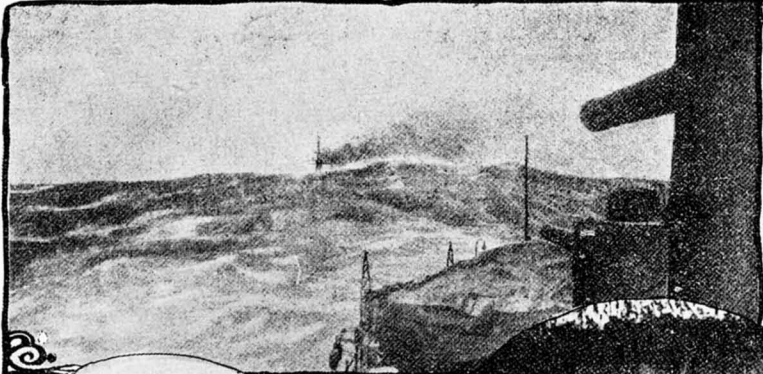


第二大平洋艦隊ダカール
に於て石炭積取の光景



第二大平洋艦隊北大平洋
航行の光景

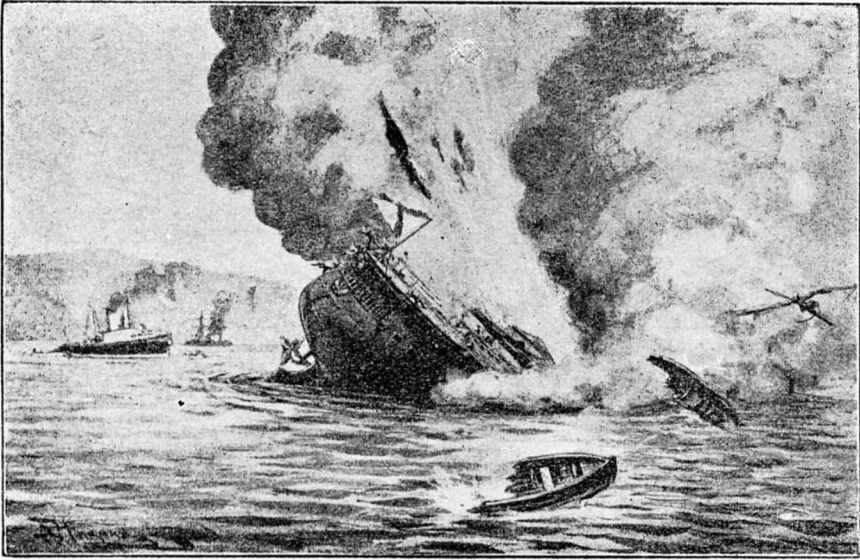
喜望峯廻航中、
暴風艦隊ノ苦心



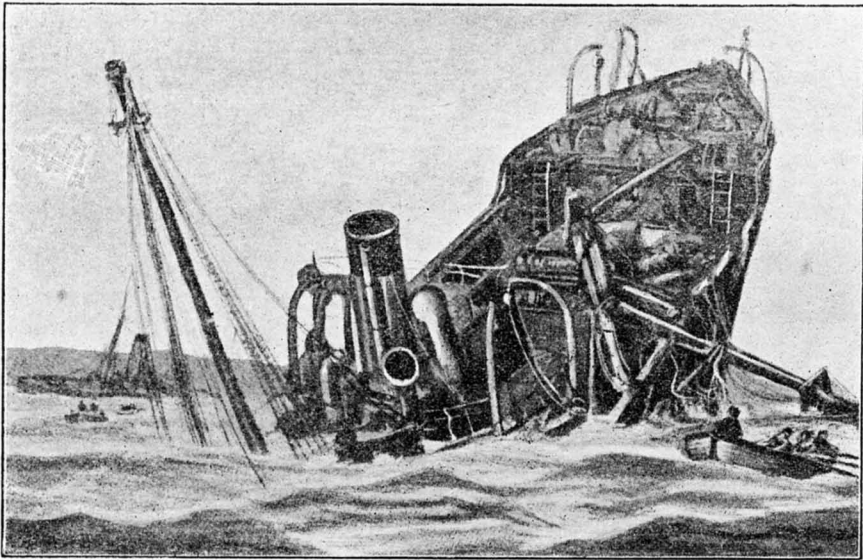
マダガスカル島ノ
土人及貴族



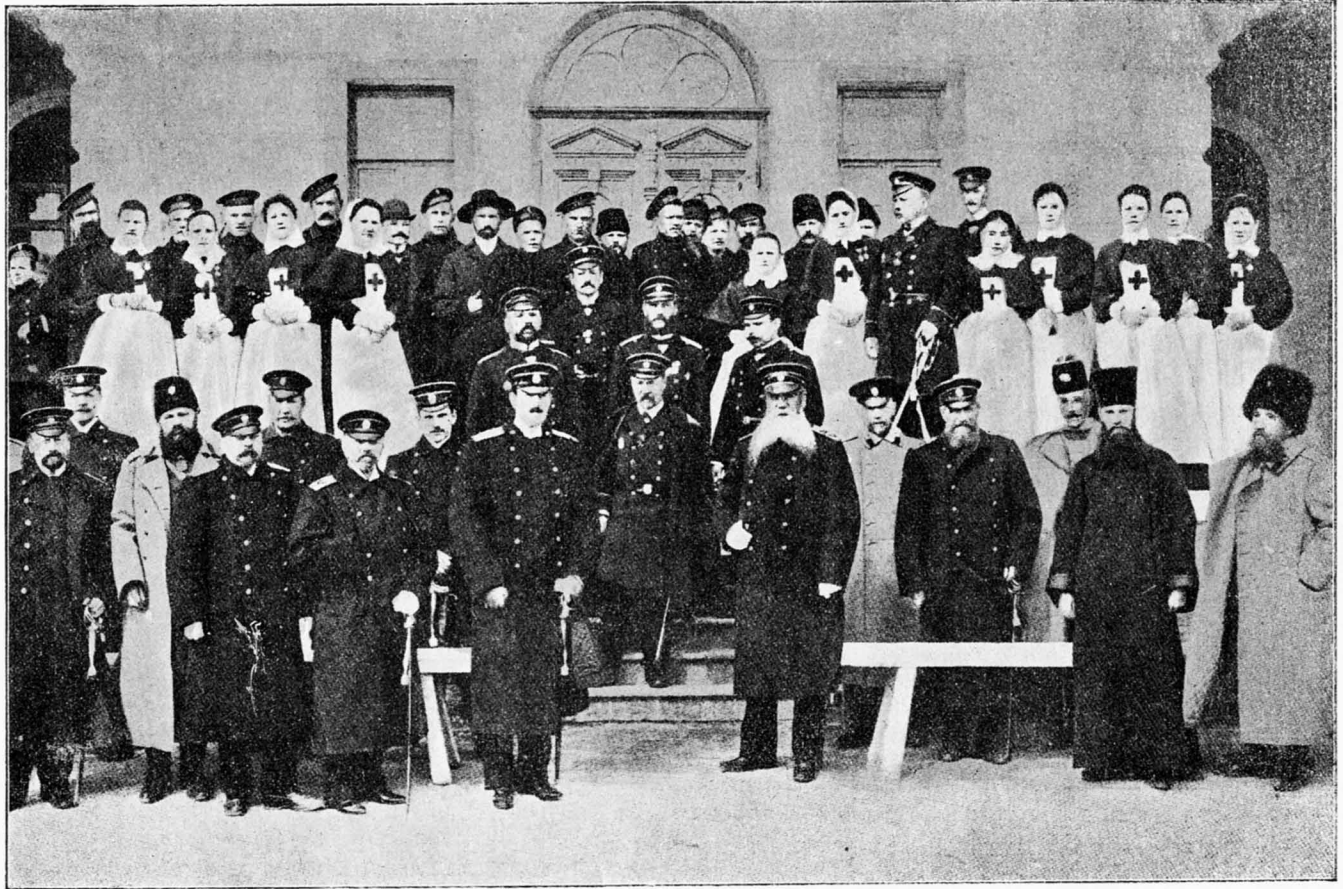
マダガスカル島
第二艦隊ノ錨地



本日大海海戦に於て露艦最期の光景



本日閉塞船旅順口沈没の光景



。他其督提フロカマ公大ルヲキ。官武級高時當議會城籠順旅

緒言

本會の曩に、日露海戦記を刊行したる趣旨は、既に世に認識せらるゝが如く、日露戦役に於ける、我か海軍の偉勳を表彰して、是れを不朽に傳ふると同時に、吾人國民海事志想の涵養に資し、尙當時我か海軍の策源地たり、今は東洋の重鎮たる佐世保軍港に、一大紀念館を設立するに在り、此の故に、當年屠龍搏虎の勇を振はれたる歴戦將校にして、此の編纂を助けられたるもの尠からず、海戦記か一種の特色を有するは畢竟是れか爲耳、是を以て、上梓先づ

天覽の榮を辱ふし、亞で多數の賛成購讀者を得、版を重ねる四、其の部數四萬有餘、本會は我か同胞の斯道に熱心なるを憚はずんば非ず。

然り而して、本會は未だ以て是れに満足するを得ず、何となれば、事に主客の別あり、物に表裏の差あり、日露海戦記に於ける我が軍は即ち其の主にして、敵軍は自ら客たり、故に表面の事實は主客ともに網羅し盡せりと雖も、客の眞想即ち敵艦隊裏面の消息に到ては、之を窺ひ知る能はざればなり、本會の慊焉たりしもの豈望蜀の類ならんや。

是の時に當り會ま、時事新報に譯載せられたる、露艦隊來航祕録、露艦隊幕僚戦記、露艦隊最期實記の三戦記は、孰れも敵艦隊幕僚の手に成りたるものにて、慘憺たる當時の光景を描寫して餘蘊なく、寔に千古稀有の珍書たり、故に其の記事は滿天下の喝采を以て始終するに到れり、是を以て本會は、本會の希望を時事新報社に齎し、三戦記の出版權譲受の事を交渉せしに、同社は、多數讀者の希望に應せん爲め、將に是れを一巻に收めんとして既に其

の準備に着手の後なりしも、幸に本會の趣旨を賛し、且つ進んで本會の事業を幫助せんとして直に快諾せられたり、是れ即ち本會の此の三戦記を出版するに到りし所以なり。

之を要するに、彼の日露海戦記は味方の觀察にして、此の三戦記は敵側の觀察なり、乃ち今や、主客對照、表裏併觀の道を完備して復遺憾なきに到れり、依て以て當年鯨鯢驅逐の跡を尋ね、以て斯道の研鑽に資する所あらは、本會の望焉に過る莫し、若し夫れ行文流暢にして明快なる讀で而して鑿かざるは、畢竟譯者時事新報社の賜なり、爰に、其の來歴を敘し以て觀覽の便に供すと云爾。

明治四十年八月中澁

海軍勳功表彰會

露艦隊來航祕録

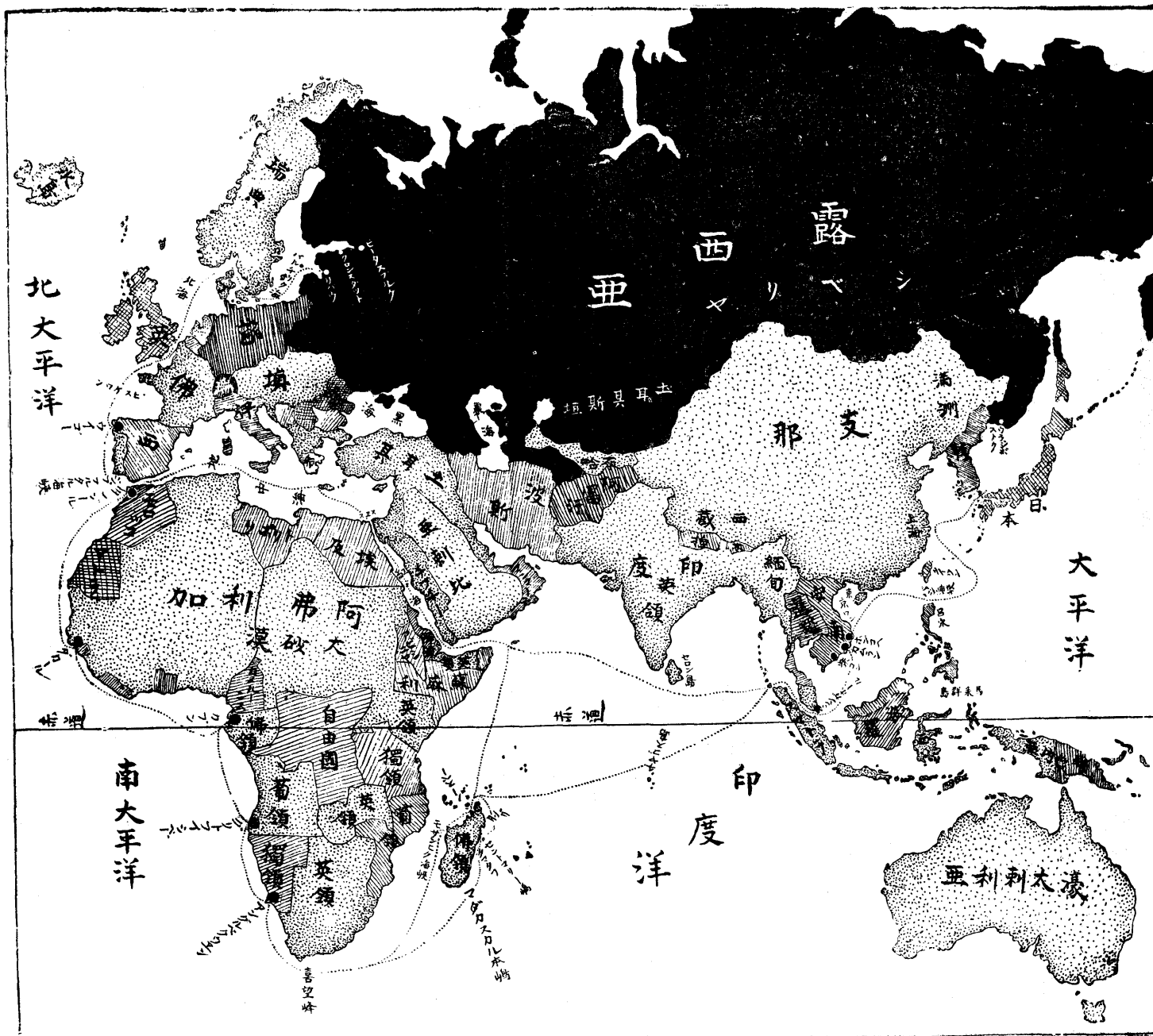
(一)原著の序文

第二太平洋艦隊旗艦の幕僚たりし技師ポリトウスキイ氏は一千八百七十四年八月二十五日を以てタシケントに生る、業をインペラトルニコライ一世海軍技術學校に受け、一千八百九十七年に卒業せる人なり。艦隊の極東出發前は彼得堡造船廠に職を奉じ、五月二十七日の海戦に戦艦クニヤズスワロフと其運命を同うして戦歿せり。此日記は氏が其令閨に寄せたる書信より編録せる者なるが氏が之を記したるは固より出版の意ありしに非ず、氏は頗る主觀的人にて日々その自ら働きし事、配慮せる事等を一々其最愛なる令閨の許に音信せり、書面を認むる爲に時々職務の寸暇と休息の時間を利用し連續せざる文句にて切れくりに書せるものなり。又此日記は其と共に大なる價值を有せり、何となればリバウ發航の當日より、五月廿三日(海戦の二日前)まで

の事を殆んど漏れなく記録せられたればなり。著者の筆趣は、眞面目と正確を主として些の文飾もなく其意ふ所、感ずる所を其儘記せり、文章の切々なるにも關せず叙事單純にして頗る寫實的なり。著者は元來海上生活の人に非ず、是れ造船技師は唯船艦を建造するのみにて、敢て其船艦にて航海せざるを以てなり。故に氏が今回の航海は、生涯に只一度の航海なりしなり。左れば氏の目に映じたる出來事に關する氏の見解は、何等の遺習や、何等の社會にも關係なき所謂局外者の見解にて、全く公平無私なる見解なり。之れと共に氏は參謀部に在りしを以て、他人の識る能はざる幾多の事實をも識れり。著者ポルトウスキ氏は、最初より成功を信せず、艦隊が益遠く航するに従て氏は艦隊が失望と望み無き業に赴く者なる事を、愈々明かにするに至れり。氏は書面の一節に令閨に書して曰へり『若し御身は僅にても（艦隊の爲せる）失敗の事を想像し得て、又余も一切の事を明白に言ふを得ば御身は只驚くのみなる可し。若し幸に生命ありて歸らば後日譚る可し、我等は征戰すへき處

を有せず、余は萬事に對して手を振はざるを（失望の狀）得ざる狀にまで達せり、たゞ運命免れ難しと思ひて自ら慰め居り他に慰めとなる事を想起せざればなり』氏の任ぜる職務は、責任ある困難なる、職務なりき、船舶特に水雷艇は屢々破損せり、之が修繕を爲すにも極めて乏しき材料を以て困難なる境遇に於て爲さざる可らざりしなり。一例に左の一事を想像す可し、水雷艇が大洋に於て舵を破損したりとせん、之を修繕するが爲には潜水夫を使用せざる可らず、激浪の爲に艇體の動搖甚だしく其四周には沙魚のあるあり、潜水夫を潜入せしむれば何時も激浪の爲めに打毀たる、打毀たる、や既に滅亡の外なし、沙魚追尾して小銃を以て之を驅逐せざる可らず。斯の如き困難にも關せず、何れも修繕の作業を完うし、一隻も艦隊より除かれしものなかりき是等の多くの功勞は之を故ポルトウスキ氏の功に歸せざるを得ず。氏は艦船修繕の方法を案じながら、非常に困難なる境遇に處し、大海の激浪を意とせず敢て倦むことなく諸艦船の間に往復せり。

然れども氏が斯の如き勞に當りたるは今回が始めてに非ず、千八百九十九年にゴトランドに於て坐礁せる、戦艦**アブラクシン**の曳下しに着手するや、嚴寒の際に結氷中に在りての作業なれば、如何に大なる勞に任じたるかは、尙ほ人々の記憶に新なる所なる可し。氏は學窓を出るや僅に二年にして、此業に當り銳意其勞に任じたりしなり。故に氏は能く**スワロフ**型戦艦の事に通曉せり。一千八百九十九年より、氏は**ボロヂノ**建造主任の補助を命ぜられたり、思ふに是ぞ氏が免れ難かりし運命なる艦隊に任命せられし原因なりしなる可し。氏は斷えず浦鹽到着の事と露國に歸還する事とを熱心に想像せり、されど運命は別に定められたり。氏は人生精力の満開の期に戦歿せり。年齢漸く三十歳に過ぎざりき我が造船技師の間に氏の如き人物を失へるは、非常の損害なり、氏は實に天才なる學識豊富、精勵勤勉なる技師にて、且つ此舉に經驗を得たる後は大なる實驗家たりしなる可し。故に將來露國の新軍艦を建造するに當りても、氏は如何に貴重の人物たりしや知るべきなり。



第二第三大平洋艦隊バルチック海より對島海峽迄の全航路を示しなる圖

露艦隊來航秘録目次

(一)	艦隊の門出危険なる日本人……………	一頁	(一九)	敵なきに戦闘準備……………	六
(二)	賠償金の要求怪しき汽船……………	四	(二〇)	旅順陥落の來報……………	七一
(三)	千古の耻辱漁船砲撃……………	八	(二一)	敗報に接せる「殘艦尙ほ天涯に漂泊す」	七四
(四)	驅逐艦の破損第二枝隊石炭積込……………	一四	(二二)	本國在勤者を恨み他艦隊乗員を羨む……………	七六
(五)	西班牙の態度英艦隊の追尾……………	一七	(二三)	進退未だ決せず秘密の電報……………	七九
(六)	日本の水雷艇旅順の敗報……………	二二	(二四)	東航か西還か何人も知らず……………	八〇
(七)	運送船の機關破損ダカール着……………	二六	(二五)	尙ほ馬島に在り一同無聊に苦む……………	八三
(八)	ダカールの風俗全艦の休航……………	三〇	(二六)	艦長の不人望謀反兵の捕縛……………	八五
(九)	運送船の破損航海長の無能……………	三四	(二七)	炎熱沈没、反亂、疾病、敗北既に顯然たり……………	八七
(一〇)	諸艦損處を生ずリランレウイール市……………	三六	(二八)	佛艦の電報傳達日本へ野砲輸送……………	九〇
(一一)	赤道通過の祝祭葡國の中立嚴守……………	四〇	(二九)	碇泊正に一箇月悲觀絶望不平……………	九二
(一二)	南回歸線の通過戦地の風説頻々……………	四四	(三〇)	艦隊演習同志打日本間諜の手腕……………	九六
(一三)	獨領に碇泊中の困難……………	五三	(三一)	綿々たる遠征の恨勇士皆家信に泣く……………	九八
(一四)	喜望峰廻航マダカスカルに向ふ……………	五五	(三二)	露國海軍の大腐敗開闢以來の大耻辱……………	一〇〇
(一五)	馬島に集合の豫定暴風中怪船の追尾……………	五八	(三三)	日露開戦一週年商人暴利を貪る……………	一〇四
(一六)	尙馬島に進航中益々風濤に困む……………	六〇	(三四)	海戦豫想日露軍艦比較……………	一〇七
(一七)	又も風聲鶴唳全艦隊の警戒……………	六二	(三五)	日本軍艦の砲力……………	一〇九
(一八)	乗員の絶望的慨嘆マダカスル碇泊……………	六四			

(三六)	第一艦隊は何處に在りや……………	二二	(五五)	艦内戦闘準備……………	一八四
(三七)	艦隊四十二隻海員一萬二千……………	二二	(五六)	カムラン灣の退去を迫らる……………	一八六
(三八)	淹留既に二箇月悲報頻に至る……………	三〇	(五七)	外洋に第三艦隊を待つ……………	一九二
(三九)	參謀本部の不親切好男兒日本を識れり……………	三四	(五八)	ホンコーへに碇泊……………	一九四
(四〇)	奉天は遂に奪取せられしか……………	三六	(五九)	露國式の冒險と大祭當夜……………	一九八
(四一)	愈々拔錨諸艦船の混雜……………	三六	(六〇)	佛提督中立違反……………	二〇三
(四二)	印度洋開關以來の新航路……………	三五	(六一)	朝鮮海峽の豫想と疑心暗鬼……………	二〇五
(四三)	開關以來の新航路封緘命令の傳達……………	三六	(六二)	哨艦の無責任ホンコーへ撤退……………	二〇九
(四四)	日本艦隊接近説露艦區々の行動……………	四〇	(六三)	又も港灣放逐、第三艦隊愈々接近……………	二一四
(四五)	艦隊滅亡の豫想……………	四〇	(六四)	第三艦隊の來着と發向準備……………	二一六
(四六)	大洋中の市街……………	四一	(六五)	艦隊愈々臺灣の東岸に向ふ……………	二二一
(四七)	驅逐艦内の生活……………	五一	(六六)	愈々臺灣に接近す……………	二二三
(四八)	我提督の冷酷……………	五一	(六七)	運送船拿捕……………	二三四
(四九)	前程愈々暗澹……………	五一	(六八)	戦闘準備を始む……………	二三五
(五〇)	戰慄死地に就く……………	五一	(六九)	最後の書面四通……………	二三七
(五一)	愈々危険なる海峽通過……………	六一			
(五二)	夢の如き戦闘計畫……………	七一			
(五三)	警戒嚴重カムラン灣に入る……………	七四			
(五四)	願はくは第二の旅順たる勿れ……………	七九			

露艦隊來航祕録

(一) 艦隊の門出危険なる日本人

九月十日 出來事はみな恍惚として消え去れり、俱樂部よりの朝の歸宅電報に驚かされし吾が妻、彼得堡(露都)よりクロンスダットまでの赴任の至急仕度スワロフ艦乗込の任命知人との訣別見送り新任の職務……何やら新たなる位置に身の据らぬ心地す。今日ポロチノの(著者の今まで在職せる艦)士官長官及び造船職員技手等に別れを告げたり、ポロチノにては皆愉快に談じて祝盃を舉げ萬歳を唱へ樂隊は祝譜を奏せり余は人々に善く受け居られたりと見えたり倍て新任の此處には如何ある可きや。特に造船職員と技手等とは深く別れを惜みたり彼等の泣ける顔を見ては我が胸も裂くるばかりなりき、彼等は何れも別れの辭を皆まで曰はずに涙に咽びたり人々にみな接吻して久しき間の厚意を謝せり彼等は紀念にして余に聖ニコライの畫像を贈れり余も彼等に紀念として寫眞を贈る可しと約したり他に恩義の酬いやうもなく善き考へも浮ばざりぬ。

九月十二日 我が艦隊は昨日を以てクロンスダットを出發せり陛下は御召艦アレキサンドリヤにて艦隊を見送られ艦隊を一周せられたり始終音樂を奏し萬歳を歡呼せり艦隊もそれ〴〵之に向て答禮を行ひ最も壯觀を極めたり轟々たる砲聲濛々たる砲煙天に響き海を覆ひて隣艦を觀る能はざる如き事さ

へもありき、今日朝七時にレーウエリ港(露領)に到着せり此處に殆んど一箇月近くも碇泊す可しとの事なり。今日はスワロフの軍艦記念祭日にて祈りの式ありたるも別に祝賀の催しとはなかりき。夜の八時我が憂愁果して如何ぞ真に身の置き處もなしボロチノに作業中は我が心は休息の事自由を得る事の思ひなどに満されしに非ずやボロチノのは竣工せり自分も今頃は既に自由の身となりて家に居り御身と共にす可かりしなり然るに此處に居るとは嗟これも運命なり余は之れが最後の別れの様に念ふなり偶然の事ながら今余が居る士官室に居りたる前任者は發狂して他に移され余は彼の室を領するとなれり御幣を擔ぐやうなれど兎に角に縁喜好からじ。今日風説に據れば巡洋艦アジアの長官は艦橋に在て突然發狂し其巡洋艦をアフラキシンに衝突させんとて其方向に進行せしめたるも幸に彼と共に在りたる當直將校の沈着なる働きにてアジアを救ひ又アフラキシンの破損を免れたりとの事なり。

十月十六日 艦隊は海上ボルンホルム嶋に向ふ途上に在り月日は白駒の隙を過ぐるが如し此處には目に映ずる風光所感の新しきものあれば又危険も話柄も諸事の働きも皆な新しからざるはなしリパウ港出帆の前夜スワロフに於て艦長ヲウイー閣下並に其乗員の爲め門出の祈りを行へり昨日は連夜の祈りを行ひ今日は禮拜式の執行あり諸事兎に角に壯嚴ならざるに非ず天氣は無類の快晴音楽を聴きながらの朝飯然るに驅逐艦フィストルイがオスリビヤに衝突して自體に孔竅^{あな}をあげ又水雷發射器を損じたりとの突然の急報あり間もなくフィストルイはスワロフの附近に來れり、提督は同艦と聽管にて談話せり孔竅は兎に角に填塞したる様子なるも余は其修繕の作業を命せらるゝなる可しボルンホルム嶋附近に投錨其處にて驅逐艦修繕の事を工夫せり。今夜は頗る危険なる夜なり乗員皆な着衣のまゝ臥す

可く全艦の備砲は悉く裝填せらる可し狭き海峡を通過するなり此海峡に於て日本の水雷に觸るゝやの危険あり縦し幸ひに水雷無きにせよ日本の多くの士官が既に久しき前より瑞典^{スウェーデン}に來りて我が艦隊を全滅す可きを命せられたりとの風説に注意せば勢ひ之を危ぶまざるを得ざるなり此海峡は水雷艇の襲撃水雷の沈設には最も適せる海峡なり御身が此書信を接手する頃には我が艦隊は既に此危険の場所を通す可し併し心配無用なり、クロバトキン將軍は又も失敗の侮辱を受けたり如何に苦々しき事ぞ遂に全く我が國の敗にや。午後四時ボルンホルム嶋には碇泊せず同島を過ぎたり瑞典の南岸を眺望せり途中多くの汽船に邂逅す非常の警戒を以て航せり、艦隊は互に一定の間隔を保ち若干の梯團に別れて航走せり各艦隊梯團の傍側には驅逐艦を伴隨せり我が航路の前程に我が艦隊に向て航走し來る汽船若くは帆船あれば我が驅逐艦は是に近接して航路を警戒す即ち汽船や帆船を逐い退くるなり。全速力を出し浪を蹴て快走する驅逐艦——これ恰好の繪畫其狀長蛇の如くに快走波間を飛行す、其艇體の低きものは殆ど波間に没せる如く僅に水面に艇影を觀得るのみ。

十月十七日 丁抹^{アムステルダム}の沿海ランゲランド嶋附近に投錨運送船カムチャツカ號に在り、あゝ今日は稀なる好天氣我等はランゲランド嶋邊に投錨するや余は茶を喫するの邊もなく驅逐艇フィストルイにてカムチャツカに移乗し直に仕事に着手せり長靴を穿き雨衣を着せるも石炭倉に入りて工作せる爲め全身汚れて眞黒になれり何地にてか羅紗を買ひ求めて縫工水兵に命じて被服を新調せざる可らざるに至れり。長靴は少しも役に立たず脛革が膝の上まで達せざるは遺憾なり今日の如くに時々匍匐して働き股衣^{ズボン}を破ること間々なきに非ずフィストルイの仕事は大仕事なりき、海は荒れ出せり驅逐艦は動搖せり

仕事は艦の外部よりせざる可らざるに波浪の爲めに妨げられ波は甲板を洗へり職工は今夜徹宵艦内に働かざる可らず明日は外部より工作するを得べきか。夜に入りて風浪益々高しスワロフの艦内ならんには艦の衝突を氣遣ふの外餘念もなかる可し、驅逐艦は狭苦しく且つ危険なり艇は木の葉の飛ぶが如くに疾走せり余はカムチアツカに移乗するを得たるも今夜この船中に一泊す可き寢室を得らるゝや否やも尙不明なり、此處に持來れる巻煙草尠なく甚た心細しランゲランドには丁抹の巡洋艦水雷艇等碇泊して今此處に投錨し居る我が艦隊の碇泊地に水雷を沈設せんとする危険なる日本人より我等の錨地を保護せり、我が艦隊の各艦には驅逐艦に至るまで何れも丁抹の水先案内を乗込ましたり波羅的海を出でなば水雷の危険も自ら免る可し、カムチアツカの士官室に在りて紙片を見出せるまゝ亂筆に一書を認めたり若し天氣が此儘にて好くならずんば次の錨地までカムチアツカの御客となり居らざるを得ざる可し今人々のいふ所を聞けば空きたる吊床なきを以て着のみ着の儘にて士官室の一隅にある長椅子の上に一夜を明かさざるを得ざる可しとの事なり別に苦にする事もなし兎に角に一睡を爲すを得べし非常に疲勞せり。

(二) 賠償金の要求怪しき汽船

十月十八日 今朝六時頃フェイストルイよりスワロフに歸艦するを得たり領事の來訪せる事を聞きたり漸くの事にて第三回の書面を認むるを得て自分の名を記する違もなく郵券も貼らずに其書面の投函を領事に依頼せり、十一時に提督より朝餐の招待を受けたり提督は其筋より余に聖アンナの勳章を賜

はりたりとて其祝辭を辱ふせり余に取りては意外の賜物なり此勳章は勳綬と共に賜はりたり又我が提督は中將に昇進せられ侍從將官に補せられたり。

後三時休息せんものと思ひ横になりしも眠られずシライベリキイに赴かざるを得ざる用事出來せりそは同艦にて小汽艇の桁を折りたるが爲なりき、一隻の端艇たりとも其の儘にして置くを得ざるなり、我が艦隊の始めての碇泊地に於て既に船艇破損の夥多なる斯の如しフェイストルイも損處を生じシライにも損處出でゼムチユーグは汽艇を損じ脚艇を沈没せしめ又我が艦隊に石炭を供給せる丁抹の汽船三隻も破損せり汽船の持主は賠償金として六千留を要求せり是等汽船の破損を出張して調査せざるを得ざる可し、船艦の輕少なる破損假令ば驅逐艦プロゾルリーウイが艦首を挫きて破損を生じたるも勿論自ら浸水を妨ぎ止めたる如き類は枚舉に遑あらず。

十月十九日 スカーゲン岬に向ふ途上に在りアリヨルに又も不時の災難生じたり狹隘なる海峡を通過せざる可らざる最も危険なる場合なるに同艦は其舵を損じたり同艦は投錨せり破損の程度は尙ほ明かならず察するに同艦には始終其艦體を破壊せん事を期し居る例の惡漢の一人乗込み居る者なる可し是れ何者なるや識れざるも水兵の一人なるに相違なし。

朝の七時に拔錨せり天氣は可なり好し荒れ出すやも知れず日光なほ輝き浪も高まらずと雖も風は次第に強くなれり此の地方は溫暖なり十二度乃至十三度位なりアリヨル錨を抜きて艦隊を追へり。

十月二十日 未だスカーゲンに到着せず間もなく同處に着す可し天氣は又も快晴獨逸海の天氣の美なる又格別なり、今時計は一分間毎に後るゝなり今此處には八時半なるも彼得堡にては大約尙ほ八時

頃なる可し、余は船中にて時々英語獨習書を繕くも勉強困難なり一は怠惰にもよる可けれど又暫く廢し居りたる故なる可し、スカーゲンに投描、第四回の水先案内に託して投函せり陸上と他に交通の道なし電報を發する事は今の所思ひもよらず、今投錨し居るは港内に在らずして洋中なり、昨夜は通宵アリヨルの事を心配せり既に前に記したる如く同艦は艦隊を離れ信號の答信もなく自然危険なる位置に在りたり今同艦も他艦と共に舳艫相衝みて投錨せり。余は今こそ斯くも繁く御身に書面を書き送くるを得れ後に書面を送る事困難になり又は途中長時日を要するに至らば御身は音信を得ずとて心配するに至る可し今より此事を豫め注意し置くなり勿論余は書面を認むるを得ば斷えず認め送る可し急ぎ擱筆せざる可らず郵便は間もなくエルマクにて送らる可し次の航海は數日を要す可しとの事なり、戰爭の新しい話は少しも聞かず憂慮に堪へず驅逐艦プロゾルリーウイの復水器を破損せり同艦はリパウに遣はさる可しゼムチューグの脚艇を沈没せり又船梁を折りたり此船梁は今日取りてカムチアツカに送り同艦にて其を甲板に引揚ぐる際に海中に落して沈没せしなり此地は非常に嚴重なりエルマクに對して信號を揚げたるに同艦は之に答信せざりしかばエルマク號の艦尾に向て實彈の發射を始めたたり斯の如き始末なれば同艦は匆忙動き始めたり。

此日(十月廿日)三時頃に瑞典の汽船一隻我が艦隊に航走し來れり「重要なる公信を有す」との信號を揚げ居れり、灣内より最も疑はしき三本橋の帆船一隻出帆せりとの露國通信員の飛信を齎らし來れる者なりき、今各艦の傍側を通過する諸船舶に對して全艦の砲口を指向く可しとの命令を發せられたり我等は前にも平底の船舶に邂逅したるも我が驅逐艦は何時も是等の諸船を逐退けたり最も危険なる地

は既に通過せるなり、三十分程前にナワリン或はナヒモフ(善く記憶せず)より二箇の輕氣球を望見せりとの電信に接したる旨を提督に具申せられたり果して何を爲さんとするにや或は日本人に非ざるか夜の八時全艦は驚駭を以て滿されたり、人々皆海上を凝視す天氣は晴朗に且つ温かにて月明かなり海上の最も微小なる疑はしき物影さへ一々注意して調べられ備砲は悉く裝彈せり何處にも水兵起立せり今夜は着服のまゝ大砲の側に臥せしめらる可し其も半舷交代にて他の一半の半舷人員は水兵も士官も不眠の警戒なり、戰地を隔つる斯くも遠方に在りながら斯る驚駭あるは寧ろ奇怪至極に非ずや序でながら茲に記す可き一事こそあれレーウエルの海兵團に屬する一人の水兵が同地に於て我が艦隊の一艦に従軍乗込を志願せる者ありき許可せられざりしかば此水兵は一運送船の倉庫に潜伏して其倉庫内に今日まで隠れ居りたり、御身よ此水兵は運送船の惡臭堪へ難き倉庫内に幾日の間潜伏し居りたるかを計算せられよ加ふるにレーウエルの海兵團にては此者を以て脱營者即ち嚴刑に處せらる可き犯罪を行ひし者とせられたり勿論今は此水兵の事を海兵團に報知し彼は艦隊に止めたり珍談に非ずや。萬事速に終りたき者なり時局の爲にや總ての人々は神經過敏になれり。旅順より歸還せる士官の談話に據れば露國に居る者は旅順に居る者よりも神經過敏になり居る事なるが斯の如き者は我が艦隊にも多しとの事なり、旅順にては人々が如何に其境遇に慣れしかは左の談話にて推するを得べし旅順にて水兵が屢々前線に出る事を願ひて戦線より歸り來る際には微醉にて歸り來る者間々ありたり彼等は何處にて酒を飲むにや一向不明にて市中にては一切酒精類を販賣せざるに水兵等が前線に出で酔うて歸るは甚だ不思議なりき然るに遂に事實は明かになれり其事實とは何ぞや即ち我が水兵は日本兵を殺し彼等の

水筒にあるブランデー酒を奪はんが爲に前線に往く者なる事と識れたり。此事を一考せられよ酒を飲むために決死の冒險さへも敢てする者あり而して之を爲すや敢て自慢の爲にもあらず何の意味もなく上官に隠れてさへ之を爲すなり。

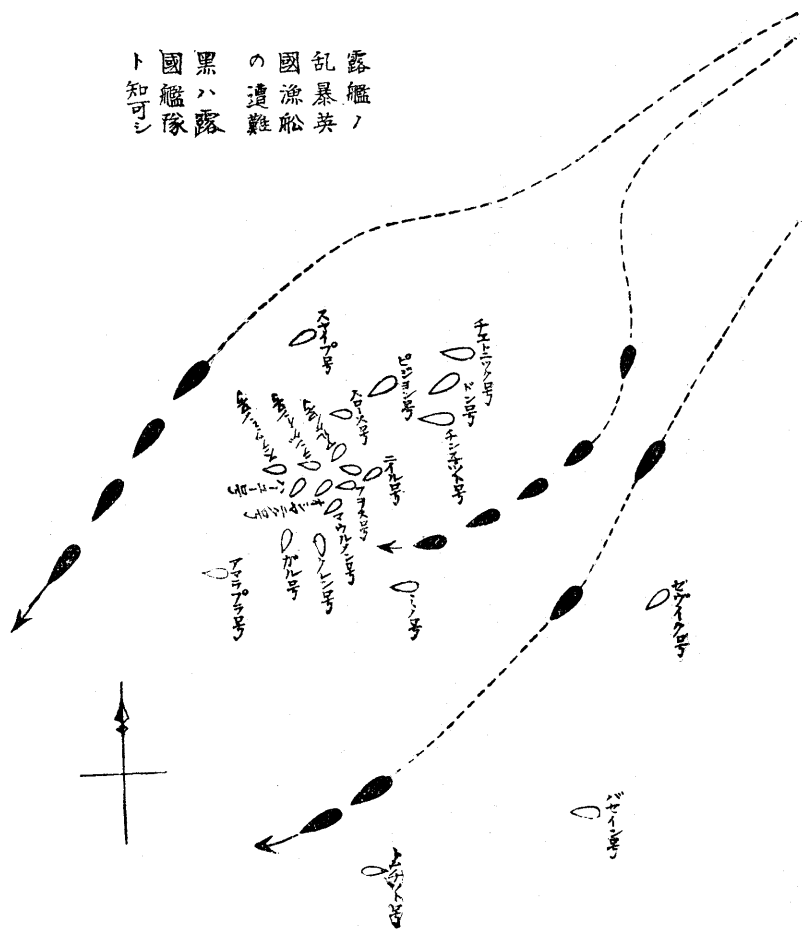
(三) 千古の耻辱漁船砲撃

十月二十一日 嗚呼日は暮れたり神經過敏と不安心なる夜全艦人々皆既に夕刻より難儀なる状態にて何れも慄ひ怖れ居れり、十二時頃に前進せる船艦より彼等は燈火を有せざる怪しき四隻の水雷艇を認めたりとの通報を得たり。斯くて一層の注意と警戒とを加へらるゝに至れり然し兎角するうちに夜は明けたり、無事なりしは先づ有り難かりき、今は海上濛霧あり四邊一物を見る能はず御身の嫌ひなる例の氣笛は斷えず鳴り響けり余は昨夜被褥も着ず上衣をかけたるまゝ服を着けて臥したり、夜る結氷せり脚を厚羅紗にて巻きたり厚羅紗は用立ちたり御身の賜物を大に感謝せざるを得ず。

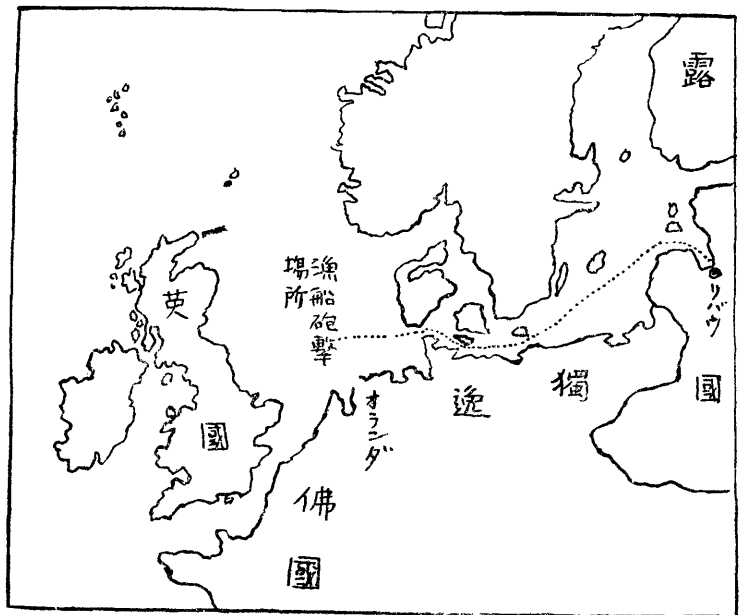
今獨逸海に入る可し獨逸海は何時も風浪高しとの事なり然し今日は至つて靜穩なりたゞ濛霧深しスカーゲンよりプレスト(佛國)に赴く可しプレストにても陸上との交通なかる可しとの事なり、東方に往くなれば一度も上陸するを得ずとは甚だ滑稽に非ずや而して日々に此事實に近附き居るなり世界を一週して一箇所の市街も見物せず如何に御身は感せらるゝや。夜九時無線電信ありて艦隊より非常に遅れたるカムチャツカは水雷艇に襲撃せられたりとの急報あり急ぎ詳細を識らざる可からず、夜十時カムチャツカは八隻の水雷艇に四方より襲撃せられたりと報告せり。カムチャツカは艦隊の所在地點を

問へり、航路を變更し又水雷艇は遅れたりとの説あり我が艦隊は曩きに艦隊の所在地點を問ひたるは日本人の仕業なりと皆思へり、天氣は風雨なりスワロフは動搖す若し此上に海が尙ほ荒るゝなれば驅逐艦は後續を見合はして近くの沿岸に寄らざる可からずとの事なり、嗚呼天は何事を我が艦隊に爲さんとするか夜半一時頃突然前程に當りて船影を認むるや戦闘用意の號音鳴り渡れり、船を近か寄せて而して認めたり——何事なりしかは言語に窮する次第なり、我が枝隊の諸艦は皆な砲火を開けり轟々たる砲聲は瞬時も息むなく煌々たる探照燈は暗を破りて閃き亘れり余は此時軸部の艦橋の上に在りしが耳は全く砲聲の爲に聾し砲火に目眩みて居たゝまらず手にて耳を蔽ひ下に走せ下り上甲板の梯口に來りて始終を見物せり。一小汽船が憫れなる状態にて海上に漂ひ居れり其小蒸汽船の舷端の黒と赤の彩色は明かに認められ一本の煙筒と雖も亦明に見るを得たり船の上には人影を認めず思うに驚駭して下に遁込みたる者なる可し、我が戦闘艦より發射せる幾發かの砲弾は此不幸なる氣船に命中せり余は炸裂するを認めたり、暫時にして發射停止は命せられたり左れど他の諸艦は尙その發射を繼續せり思うに汽船は撃沈せられたるなる可し。第二第三の汽船も船上には人影もなく惘然なる状態にて波浪の間に漂へり是等の船に對して我がスワロフよりは發射せざりき。是等諸船に乗り居れる人々は如何に感じたるや御身これを想像せられよ是れ漁船なりしなり、今や耻辱を全世界の前に招きたり、然し彼等漁船も亦不注意なりしを免れず彼等は我が艦隊の通過する事を承知し又日本人が我が艦隊を破滅せんと企て居る事も承知し居る筈なり、彼等は我が艦隊を認めたる事なれば若し網を曳き居りても其網を遺棄して他方に避く可きに非ずや、網は後に修繕する事をも得べしプレストに到着せば我等の演じ

露艦ノ
 乱暴英
 國漁船
 の遺難
 黒ハ露
 國艦隊
 ト知可シ



リバウ港より北海漁船砲撃迄の航路の畧圖



たる大過失の如何を識るを得べし、若し我が艦隊の所在を問ひたる者はカムチャツカに非ずして日本人なりとせば今や日本人は我が艦隊が何處に在るやを識れるなり、若し果して然りとせば今夜こそは或は襲撃を受くるやも識れず今は月影明るし然し四時より黎明の六時までは暗らし襲撃に最も適せる時刻なり、速に大洋に出でたし大洋は此憂ひなく全く安全なり、余は今横臥し一睡す可きや自分にも決心せず我等には段々面白き事件生ずるを以て御身に之を報せんとの望みも起れり是等の書面を皆保存せられたし此書面は皆如何なる日記よりも善し或は後日自ら此書面を讀みて今の總ての大狼狽を記憶に喚起する事もある可し。

嗟如何なる不幸不運ぞやアウロラより無線電信にて通報あり同艦は水線上に四箇の砲彈の貫通孔を受け煙筒を射抜かれ牧師(露國の軍艦には必ず牧師一名乗込めり)は重傷を負ひ砲術長も負傷せり是れ我が枝

隊の諸艦よりアウロラを砲撃せる結果なり同艦並にドンスコイは遠方に在りしなり、(艦隊は六箇の枝隊となりて航行せり)かの汽船砲撃の際人々皆な狼狽の極狂亂せるを以て何れの艦かは識らざれどもアウロラを日本の軍艦と見誤りて同艦に向けて六吋砲弾を猛射せるものなりアウロラは他の諸艦より甚だ遠隔せる距離に在りたり實に言語同斷の悲しむ可き椿事に非ずや只その射撃が正確なりし位が多少の慰めなる可し。

十月二十二日午後三時三十分 昨夜書面に認めたる如く我に砲撃せられたる第二第三の兩汽船も同じく損害を受けたりアウロラの牧師は片腕を撃落されたる由アウロラは牧師を治療するため病院に送りたきを以て近き港に入る事の許可を願ひたるも提督は之を許さざりきアウロラには各種の砲弾六箇も命中して舷側を打抜き煙突を貫きたり人員の損害は比較的に尠かりき、アウロラは我一枝隊の反對なる方面の水平線に現出するや否やスワロフに對して探照燈の閃光を指向けたるこそ同艦に取りての失策なりき、是れが爲にアウロラを敵艦と誤認せしむるの動機を興へたるなり余は昨夜——というても今朝六時まで臥したり又も着のまゝなりき、今日は閑暇なれば終日晝寢を爲す可し或は今夜も亦寢ることを得ざるやも識れず。今水兵の理髮師來りて余の髪を刈りたり理髮師水兵の持居る鋏は指を入れる、鑢が如何にも大きく大なる羅紗鋏なり其大なる指を入れる、鋏の鑢には爛布を巻き付たり余は流盼にて其雑多の物を入れある理髮道具箱を注視せることを彼も氣が付きて「眞實の髮鋏を買ふことが間に合はなかつたので」と申譯けせり、獨稽古の理髮者としては先づ可なりに刈りたり水兵の間には什立職靴工錠鍛治菓子師料理人麵包燒職理髮師寫眞師煙草職人等凡ての諸職一として無きはなし、軍艦

には諸職人の代表者集れり此の諸職人は戰艦の内在りて各々相當の職を見出すを得べし。

今日の日も暮れたり今日までは先づ大なる變事もなく過ぎたり六時頃に我が艦の推進機に漁網を纏絡せり然し機械は尙ほ運轉せり漁夫が此邊に長き漁網を引き置きたる其上を我が艦が通過せるなり、今日晩課の祈禱ありたり今夜は果して如何なる可きや天氣は良好靜穩にて月は四時頃まで照り亘り昨夜の如く又濛霧起る可し果して濛霧起り曉來始終汽笛を鳴し續けなり今朝英國海峡に入る可し又も乗員に吊床を興へられず乗員は皆な着のみ着まゝにて大砲の側に睡れり。

十月二十三日 夜の七時英佛兩國間の英國水道に在り今日は御身の爲に一筆も記せざりき段々親しくなりたりと見ゆ今朝奉神禮の祈禱ありたり後ち朝飯を喫し昨夜は一睡もせざりしを以て横になり休息せり二時半まで臥したり其より一働きして晝飯をなせり、今休息せる許りなり夜に至つて靜かにて今降雨あり我が戰艦は既に此邊まで襲ひ來る大洋の波浪に揺られて緩徐に動搖せり若し途中何事も無ければ明日はブレストに着す可し、今日正午頃に英國の沖を過ぎ英國の南岸を望見したるも霧の爲に明かには見えざりき、嗟是れ實に濛霧のアリビオンなり(アリビオンとは昔時の英國の名稱謂ふ意は曖昧なる英國なり)我等は此富強にして狡獪に且つ我等に取りて心の黒き此の陸地の一角を望見して思はず斯く心に浮ばざるを得ず、我等は倫敦より三時間巴里の鐵道線路より六時間の里程に在り。戰艦には種々の多くの鳥類飛來りて止れり長き間飛び廻はりて弱り且つ疲れたるなり水兵は是に餌をやり再び之を放てり徒れゝにて非常に退屈なり憂悶の爲に壓殺さるゝ如き念ひす、今御身と共に在らんか余は何を爲す可きや又も終宵眠るを得ざりや。

(四) 驅逐艦の破損第二枝隊石炭積込

十月二十四日 天候の良好なるを機としてプレストに立寄らずに直にビスケイ灣を横切りて航する方遙に便利なりとの説ありビスケイ灣は甚だ評判の悪しき海上にて同灣の航海には天氣の良きこと至つて稀れなりとの事なり故に同灣を航するに全速力にて駛走す可しとなり、我が全艦隊の渡る迄は天氣は保ちたり——先づ静穩の方なりき、コレヤ號は何處かの港に入りたり思うにシエルプール港なる可し同艦より無線電信にて艦隊の汽船砲撃事件に關しては更に聞く所なしと報せり、驅逐艦フウウイは諸他の驅逐艦と相前後してシエルプールに入港せり同艦に何か損處を生じたるなり。

ビスケイ灣に入りたり我等はプレスト(佛蘭西)に赴くを得ずして直にビスケイ灣を航しウイゴ(西班牙)に赴けり、午後一時頃に咫尺を辨せざる程の濃霧起りて勿論後續船艦の所在をも見るを得ざりき恰も牛乳の中を航する如くなり各艦互に汽笛を鳴らして呼應せり。我が枝隊は左の諸艦より成れり、戰闘艦スワロフ(一萬三千五百十一噸)、アレキサンダー三世(同姉妹艦)、ボロチノ(同上)、アリアル號(同上)並に運送船アレドイリ等なり、プレストに寄港せざりしは却て僥倖なりしやも識れず同港に入るは中々困難且つ危険なり況して濃霧ありては入港全く不可能なりウイゴより若しクリトに寄らずとせば我等の前には廣き航路且つ渺茫たる大洋あり。アレキサンダー三世港を出帆以來既に二週間此間に我等は我が提督の許可を得たるもの、外は一通の電報も何處にも發するを得ざりき是れ波羅的海に我が艦隊を待設けたる日本の間諜に機先を制せられざるが爲に斯くせられたるなり日本

人(波羅的海に在る日本人は百人以上との事なり)は我が艦隊はオレーグを待受くる爲にリパウ港に滞留す可しと想像したるに相違なし然るに提督はオレーグを待たずに出帆せり日本の間諜が發したる電報は電信局にて之を受附けたるも二日間この電報を差押たるを以て間諜は機先を制するを得ざりしなり、此一事を以てするも彼等の無能を知るに足る可し此事は眞實なるが如し。

夜霧は散じたり我が枝隊は再び集合せり、ウイゴを出帆する迄は乗員は被服のまゝ大砲の側に寢ざる可らず。室内に居るも職務を取るも何事を爲しても煩悶實に堪へ難し士官室に入りて搔掻子や假面遊戯を爲すも犬に戯れて遊ぶも何をしても手に附かずスワロフには犬三匹居りて始終士官室に出入せり其内デプスとフラグマンスキイは面白き犬にて紐の先きにコロップや紙片を結びて屢々この犬どもを狎戯せり犬どもは躍り走りて狂ひ戯る面白き事は是れ位のものなり是れとても稀なり又も甲板に出で、其の嘆美す可き海にても眺む可し。誰の仕業にや熱帯地方の仕度にとて一匹の犬の全身の毛を刈りて頭にのみ毛を残したれば宛然獅子の如くなれり牧師先生の仕業ならんと疑はれしも先生は然らずと辯護せり。今夜若くは明朝はウイゴに着す可し我が運送船アナドイリより石炭を積込む爲に我等に碇泊する事を許すや否やは先づ見物なり各艦には石炭の殘餘甚だ乏しくなれるなり。

十月二十六日 西班牙に近附けり既に燈臺見ゆ朝にはウイゴに着す可しリパウ出帆以來何れの港にも入らずして今ウイゴに着せり人々の嘆聲を漏すも道理なり我等は尙ほ進みてタンジエールに達するを得べし此の航程は大に天候の如何に由るとの事なり。

戰闘艦第二枝隊(この一枝隊はシロイベリキイ(戰闘艦一萬〇四百噸)オスラビヤ(同一萬二千六百七

十四噸)ナワリン(同一萬〇二百六噸)ナヒモフ號(巡洋艦八千五百二十四噸)其他より成れり)の司令長官フェルケルザム提督は英國海峽を通過せる時我が枝隊に別れ英國の海岸に赴き運送船より戰鬪艦に石炭の積込みを始めたり。此處にて我等は我が外務大臣の恐懼如何を想像して笑ひ居れり(序に記す各大臣は何れも我が艦隊の派遣に反對なりしも提督等は斷然之を主張せり)外務大臣に先づ第一着に汽船砲撃事件を以て第一回の歐洲の衝突を傳へて驚愕せしめ次で英國近傍にての石炭積込みを以て第二回の衝突を傳へ續いて我が外務大臣は我が全艦隊が舳艫相啣でウイゴの中立港に入りたるを知らば其驚き果して如何。

十月二十六日 ウイゴ附近の灣内に在りウイゴに着せり陸上の交通は許されず三十頁を認めたる六回目の書面を領事の手を経て送附するために依頼せり無論郵券を有せずこの書面は着するや否や心元なし、我等は此處に一晝夜近く碇泊す可し其より以上は西班牙の官憲之を許さざるなり此處は温暖にて天氣も良し朝には日蔭の所にて氣温二十度以上なり四邊山にて圍み風景甚だ美なり市街は一小市の様に見受けたり。

十二時官憲は我等艦隊に唯石炭の積込の爲のみならず今は此處に一分間も碇泊するを許さず提督は時日の遷延を利用するが爲に同港の港務長官に向ひ我が艦隊は破損修理の爲に同港に五日間碇泊すとの趣きをマドリットに打電する旨を告げたり西班牙官憲の禁止に頓着せず今運送船より石炭の轉載を始めたり此石炭なくんば我艦隊は往生す可し船首綱(石炭を積込む軍艦と運送船を連絡せる綱)の邊りには皆歩哨を立たしめて其綱を何人も取る事を許さず是等の事は皆な如何に終結す可きや、各戰鬪艦の傍側には何れも石炭送運船碇泊し居るも石炭の積込みを許されず電報は各方面に發せられたり今はマドリットよりの返電を待居るなり石炭の積込みは果して許されざるや。提督は電報を接手せり其電報に據れば英國人は汽船砲撃事件よりも此悲劇を演じたる場所に遺されたる我が驅逐艦の難破船に對して何等の救助をも與へざりし事を憤激せりとの事なり、然し我が驅逐艦の遺りし者あざりき驅逐艦はシエルブルに在りたり提督は倫敦駐劄の我が大使に其趣きを返電せりマドリットよりの返電は着せり右の電報に據れば政府は石炭の積込みを制限する事を求め如何程積込むを得べきやは明日通知す可しとの事なり、提督は信號を揚げて我が艦隊に朝の七時に拔錨の準備を爲す可き旨を命令せり、今日提督の上陸せる際、禮を厚うして提督を迎へ人民も亦大に歡迎の意を表せり其記事は此處にて發行する夕刊新聞に既に掲げたり。

(五) 西班牙の態度英艦隊の追尾

十月二十七日 書面を兵卒にも非ずアルグワデル(憲兵の事)にも非ざる者に託したり此處にては憲兵の事を斯く名附くるなり其者に少々銀貨を與へたり。我が戰鬪艦は何れも碇泊して返辭の如何を俟てり是れ全くの耻辱なり露國の購買したる石炭は戰鬪艦と舷を接して碇繋せる各運送船に在り而して我は此の石炭を積取るを得ざるなり是れ何人の仕業なるか不運にして賤劣愚鈍にして狡獪なる西班牙人の仕業に非ずや勿論その裏面には英國の手が明に見ゆるなり然り西班牙人は敢て自らも开を隠さざるなり。午後一時に各戰鬪艦は毎四百噸宛の石炭を積取るを得るの承認に接したり此處にて今各船に

於て何事を爲すやを見物す可し眞黒に煤り汚れたる水兵も士官も石炭の積込に目の眩む程に奔走せり夏服も何も見定めがたく——石炭の塵煙にて悉く眞黒になれり顔も眞黒にて煙煤球の如くなり白き處はたゞ齒のみなり。明朝タンジエールに向け出帆す可しとの事なり今日終日は多忙にて一筆も執るを得ざりき。

十一月一日　ツイゴ―よりタンジエールに向ふ途中に在り。昨夜前進す可き許可ありたり今日は七時に我が枝隊は拔錨してツイゴ―の灣を出帆せり斯の如き始末なるを以て遂に上陸することを得ざりき。昨日アナドイリの機關士は上甲板より船艙に墜落せり然し幸ひに怪我もせざりき。新聞に風説を掲げ獨逸海に於て汽船を砲撃したる際にアウロラの牧師負傷し今タンジエールの病院に入院せしめたり全艦隊も同處に投錨し居れりと云へり、我が艦隊は左まで同處に碇泊し居る必要なし同處には碇泊場もなく全くの外洋なるを以てツイゴ―とは大に趣を異にせりツイゴ―は世界にても容易に得難き良灣なり灣内水深く又甚だ廣濶にして長し、西班牙人は斯かる天與の富源地を利用する能力を有せざるなりツイゴ―は確に世界的の商業貿易を爲すに適せる良港なるも今は海岸の惘然なる一小市に過ぎず、西班牙人は概して甚だ貧乏なりと見ゆ是れ彼等は非常に懶惰なるが故なり、ツイゴ―の重要な貿易は鰯なり同港には鰯の水産業場の設置あり此鰯は灣内に於て漁せられ灣内の海面は各漁業組合の爲に四方四角に區劃せられたる幾區かの漁場に別たるゝなり鰯を漁する爲に漁夫が他の組合所有の漁場に入りて漁を爲す事は組合間の嚴禁なり若し此禁を犯す者あれば忽ち喧嘩が起る可しこの灣内には其規約を犯す者を見張りて専ら喧嘩を業として居る如き船ありて此船は規約を犯せる者あるを認めれ

ば忽ち之を捕へて復酬を爲すが爲に其船を曳きて海岸に至るなり。天氣は今良好なり然し暗黒實に咫尺を辨せずといふ有様にて星も見えず上甲板には止むを得ざる必要の燈火を殘せるのみなれば何所も眞暗にて互に額合せをも爲し兼ねまじき光景なり。アリヨルは又も推進機の機關を損じたる由然し兎に角に操縦して他艦と進航を共にせり。

夜十時頃我が艦隊に追尾して來る怪しき船舶あるを認めたり其船舶は今や我が艦隊を包圍して我等と同航路を取りて進めり五隻若くは六隻なり、夜半全く暗黒になりし時ありしが其時は等の船舶は特更に我等を挑むが如き態度を爲せり、即ち或は其全艦の燈火を穩し或は我が艦隊を追越し或は追尾し若くは我が艦隊に接觸せんばかりに接近し來る等種々の行動を爲せり。今我が枝隊は此不明なる船舶の恰も半圓形の中に圍れて進行せり此船舶中の一隻が探照燈を以て他の一隻を照したる時に我等は其艦影を熟視せるに其形狀より考ふれば是等の船舶は固より軍艦に相違なし彼等船艦の行動の様子燈火信號の事又は彼等に邂逅したる地點等を一切記録す可き命令を發せられたり乗員には吊床を與へず大砲の側に臥さしめたり。

夜色少し明るくなりて星影顯れたるも星影は屢々密雲に覆はれたり此夜景の狀は燦然たる銀河の眺めなど古郷タシケントの夜景を懷想せしめたり。今我が枝隊を取圍み居る船艦は必ず英國艦隊に相違なく黎明に至らば其影を穩す可し速に大洋に出でざる可からず大洋に出で百哩も離れて航すれば何人も認められざる可し。

十一月二日　英國艦隊は終夜我が艦隊に伴隨せしが今他方に航走し去れり朝八時を報ずると間もな

くアリヨルは信號を掲げて推進機を破損せる事を報じたり諸艦は皆な進行を止めたりアレキサンダーは端艇を下してアリヨルに海軍技師を遣はせり、九時に我が各戦闘艦とアナドイリは尙ほタンジエールに向けて航走せり。途中に時々葡萄牙の陸岸を眺望す我が各戦闘艦進行を止めし時英國人は之を以て敵意を表せる示威運動と解したるなる可し彼等は迅速に一列に集りて忽ちに戦闘序列を作れり、嗚呼この悪漢是れ狡猾にして到る所に破廉耻を演じて顧みざる海上の優强者、露國の不倶戴天の仇敵、全世界は彼を憎めり左れど皆な恨みを呑んで之を忍耐せり、若し御身は西班牙人が如何に英人を憎みて誹謗するかを見れば果して如何ぞや彼等は憤慨して鐵拳を固め若し爲し得べくんば何事をも爲し兼ねまじき有様なり此の海上の王が我が航海に妨害を加へし事果して幾何ぞ妨害は悉く皆な英國の仕業ならざるはなし我等は既に九箇國の沿岸を通過せり瑞典、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、ベルギー、オランダ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン等の諸國なり今は十箇國目の沿岸―葡萄牙を通過す可し。葡萄牙は英國の同盟國と視傲さるゝ國にて到る處英國最負なりとの事なり。夜我が艦には皇帝アレキサンダー三世の紀念の祈禱ありたり英國艦隊は終日我等を護送し少しにても暗くなるや否や又も半圓形を爲して我等を包圍せり彼等が燈火を現はして航進する間は昨夜演じたる如き所作を爲さるるなり若し何事もなくんば明日の三時頃にはタンジエールに到着すべし、一時間前に葡萄牙のセントビンセントの岬を通過せり往年大海戦のありし古戰場なり大雨ありしも室内は息苦しく蒸熱くなれり我等を護送せる英國巡洋艦の数は増加して十隻になれり我が枝隊は全く彼等に取圍れて航進す英國艦隊に比すれば我が艦隊は如何に小弱ぞや。彼英國艦隊は何時まで長く我等を護送せんとするか或はジブラルタルまでか或は尙ほ其先きまで行く

やも知れず乗員は又も服を脱せず大砲の側に横臥す是が爲め水兵は大に疲勞す。

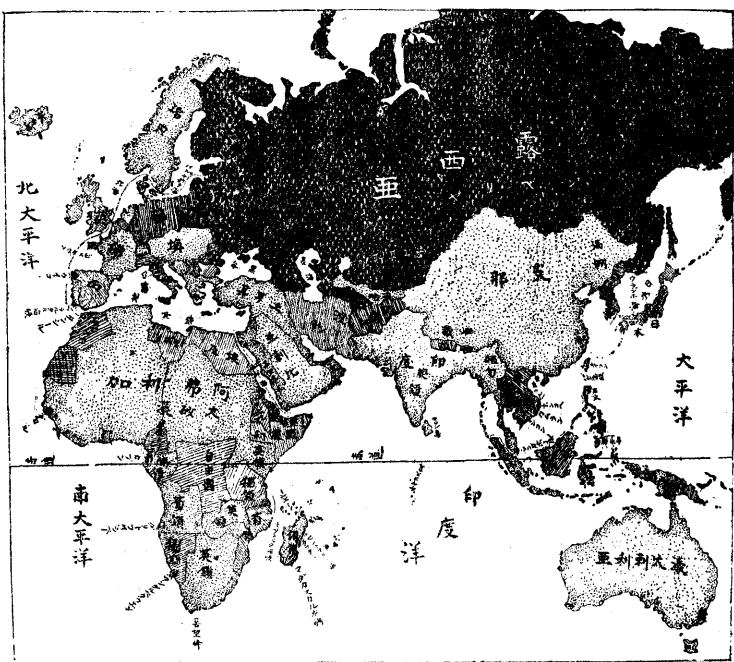
(六) 日本の水雷艇、旅順の敗報

十一月三日 今日略式の奉神禮儀と感謝の祈禱ありたり未だ宣誓を爲さざりし三名の技師は宣誓を爲せり後ち祝祭日なるを以て士官並に水兵は甲板上に整列せり提督は陛下の即位十年の紀念に就きて乗員に向ひ簡短なる演説を爲し祝盃を舉げ乗員は萬歳を唱へ樂隊は祝譜を奏せり終りて士官室に於て祝賀の朝餐を設けられたり。

今モロッコ、タンジエールの碇泊場に在りタンジエールの市街は我等が歐洲に於て觀る市街と大に其趣きを異にせり同市街は黒色人種亞刺比亞人等居住せり歐洲人もあれど皆な市街外に住居し其白堊の家屋は山坂をなせる海岸に廣く散在せり市街は遠く眺望すれば風景絶佳なり何人も上陸を許されざりき。御身は記憶し居るなる可し或日の新聞に一人のモロッコの盜賊が米國人を捕へ行きて之を贖ふ事を要求したる事を掲げたりしをこの盜賊先生はタンジエールより二十五露里の處に住居し其時米國人より要請したる金にて甚だ立派なる別荘を建築せり此の者は今も尙ほ盜賊を業とし其黨類が八百人もあるとの事なり、市街の外に遠く往く事を何人も敢て爲さるる由奇態なる風習なり眞實にや。我等は此處に三時に來りて驅逐艦を除くの外は我が全艦隊皆な投錨せり此處には數隻の佛國汽船と英船一隻碇泊し居れり。

五時頃にタンジエールに他の汽船―病院船アリヨルも到着せり同船は白色に塗り其煙筒に赤十字を

畫けり橋頭にも赤十字旗を掲揚せり先日の砲撃事件に由り負傷せし八名の中なるアウロラの牧師は壞血の爲に病死せり英國のグーリに現今二隻の日本水雷艇碇泊し居るとの通信あり是れ想ふに我が艦隊を襲撃せんと試みたる者の一部なる可し、今碇泊場には船舶輻輳せり我が全艦隊は其運送船を率ゐて悉く投錨し又其外に我が艦隊に石炭を供給する私立汽船會社の多くの石炭船も碇泊せり、風説に依れば露國にては既に尙ほ七隻の巡洋艦を購買したるを以て是等の諸艦も間も無く來りて我が艦隊に合す可しとの事なり是れ甚だ結構なる事なり、我が各戰鬪艦は皆な石炭の積込みを始めたなり全艦の繁忙と元氣とは非常なり他艦と競争して最も速に石炭の積込みを終りたる艦の水兵には賞金を與へらるゝの規定を設けたり過般の石炭積込みの後にアレキサンダー



リバマ港よりタンジール迄の航路を示したるもの

の乗員は一千二百留の賞金を與へられたり。戰地よりは例の通り更に新しき通信を得ず昨日は旅順に取りては惡運の日なりき即ち日本軍は皇帝誕生の日を以て旅順に自國の國旗を立てん事を期したりスワロフの投錨するや否や諸方より汽艇若くは端艇を飛ばして諸艦の艦長その他將校等續々來訪せり陸上よりは此の地の地方官我が領事請負商人若くは外國軍艦の艦長等も來訪せり一言に之をいへば恰も演劇の開場前に群集の押寄せ來る如くに凡ての人々はスワロフに急ぎ來れり全く斯の如くなり我が船艦よりは殷々たる禮砲響き各種の旗を掲げ樂隊の奏樂あり他の諸艦並に陸上よりもスワロフに對して禮砲を放てり活氣充滿せり。地方住民の衣服は甚だ美麗なり恰も假面舞踏の服裝の如し或者は緩濶なる股衣に短き上衣を着て青き房のつきたる赤のトルコ帽を戴き其服の色も種々様々なり顔は何人を見ても皆な黒し風采は尊大なり斯の如き人々を市中に見るは最も面白し、我が驅逐艇隊は此の地より既に地中海に赴きたり彼等は此長途の航海を十一月一日に爲せり。

夜英字新聞ジブラルタル報知にアレキシーフが出發すとの報知を掲げたり又同紙上にステツセルは旅順を以て其墳墓と爲す可しと打電せりとの事を記せり、此の(石炭積込)光景を御身に觀せし石炭積込の爲に上甲板に於ける全人員の非常召集四方眞黒にて諸汽船と戰鬪艦とは電燈を以て照され船艙内も甲板の上も人々右往左往に馳せ廻り起重機は頻りに動き水兵の切れ々なる言語樂隊は最も愉快なる調子にて水兵の働きを勵す音樂を奏せり音樂に連れての働きは最も速かなり、モロッコは佛國の保護國なりとせらるゝも此處には英獨の郵便局あり或は西班牙のものもあるやも識れず。

余は今汽船パルラス號より歸れり此の汽船は我が艦隊に石炭を積込む爲に來りて其積込の際に其舷縁

を損じたり戦闘艦には種々の商人來りて繪ハガキ葎類編物白靴ヘルメットなどを販賣せりヘルメット（是れ英人が常に熱帶地方にて用ひる帽）は既に買ひたりハガキは六組も買ひたるも餘り必要にも非ざれば其中の一組を從卒に與へたり彼は大に喜べり適當なる靴なし然し白靴は熱帶地方には大に必要なり。今スワロフに我が領事館附のカフヤス（土耳其の憲兵）も來訪せり顔は黒く赤きトルコ帽に婦人服の如き長き下衣を着し洗足に後のなき黄色の上靴を穿けり實に奇態なる身装なり彼は此處に我等の出帆まで居りて郵便物を取り集む可し彼を乗せ來る汽艇の爲に百フランクを拂はざる可らず廉ならざる船賃なり今是より戦闘艦アリヨールに赴かざる可らず同艦に何事か起りたりと見ゆ。あゝ濡れたり脚は膝まで濡れたり汽艇にて會社の社長を尋ねて悉くの石炭船を訪ひアリヨールに赴きたり。雨は實に盆を覆せしが如き大雨にて近く在る船舶さへも恰も暮にて隠したる如く見えざるまで降りたり雨は降り注ぐ汽艇よりは雨水を汲み出すテントは漏れり非常の困難なり余の身體より雨菌の生せざりしこそ幸なれ、今また漁船エスヘランス號に赴かざる可らず同船の錨に何か異状を生じたり然し大抵行かずに濟むやも知れず。夜七時遂に行かざるを得ざりきエスヘランス號に赴きたり深き靴を穿きたり然し雨は晴れたり。

此地の新聞に旅順に在る我が軍艦は又も滅亡せりとの報を傳へたる眞偽いかゞにや又當地の新聞に左の如き説を掲げたり我が艦隊の提督は英人と談判中に英人が我が枝隊のウイゴー出帆を許さゞりしかば英人を毆打し遂に戦争になれり其砲聲を聞きし者多し英人は撃破せられたり云々と之を以て見れば當地の新聞には虚報多きを知る可し、タンジエールよりダカールに向ふ。

十一月七日

五日の朝にタンジエールを出帆し今ダカールに向ひつゝありダカールは阿弗利加の西岸に在りてセントルイ及びベルデ岬を去る程遠からざる地にて佛領なり二日間も御身に書面を認めざりしは二箇の原因よりなり一は大に立腹せる爲めと一は繁忙なりしが爲めなりタンジエールにて御身より返電を得ざりしを以て余は大に怒りたるなり。昨日は深更まで製圖と計算とに勞したり休息の寸暇も得ずタンジエール拔錨の際にアナドルイの錨は海底電線に引き懸りたり其の時提督の命令にてカーベリ（海底電線）を切斷せり思ふに此出來事に依りて又も一場の外交談判は始まる可し英國人は必ず故意に切斷したる者と云ふなる可し幸にカーベリは佛國のものなりき若し是が英國のものなりしならんには悪評は一層甚だしかりしなる可し、タンジエールにて一種特別の覽を見たり其覽は一端は山の端より始めて滿天に廣がりたるものなりき。

夜七時要事は非常に輻輳せり朝より始めて今尙は執務せり多分この圖と書類を持ちて深更まで坐せざるを得ざる可し御身は此の書面を至急には落手せざる可し後には書面を送る事も段々稀れになる可し我等は間もなく非常に遠き船路出帆の港より到着の港まで十七日乃至十八日間を要する航海を爲さざる可らず、久しく書面を得ざればとて決して驚く勿れ又心配する勿れ今度の航海には寧ろ是れが常事なり我が足に土を陥まざること既に二十三日間なり陸には少しも寄らず願くば速に浦鹽に到着したし、余は四邊の物に全く厭きて嘔氣を催ほす程いやになれり人は言ふ大洋は美觀なりと未だ必ずしも然らず實に緑なる水は美ならざるに非ず然し是れ海波穩かなる時の事なり海の荒るゝ時は如何荒るゝ海は

恰も是れ愚なる意味なき激怒せる物質と外は思はれず海も美なることなきに非ず左れど是れ陸岸と相俟ちての眺めにていふ可き事なり唯の海のみは決して愛す可きものに非ず。

(七) 運送船の機關破損ダカール着

十一月八日 今夜一時頃に運送船マライヤ號は如何にせしにや機關を損じたり全艦隊は止まりて同艦の機關の修繕を待てり、朝の七時まで同所に止まれり同時にマライヤ號の機關の修繕を了へて全艦隊は前進せり空しく七時間も徒らに時間を費すは實に愚の極なり今は余に取りて實に一時も千秋の思ひなり我等は港に止まること尠なければ尠なきだけ早く行きて浦鹽に其だけ速に到着するを得べし一言に云へば浦鹽は即ち約束せられたる地希望の港なり。

十一月九日夜七時 今日四時に夏至線に入り將に赤道に到らんとす然し特別に熱き事も息苦しき事もなし。今日不愉快なる風説を耳にせり即ち我が艦隊は長くマダカスカル近傍に碇留して種々の演習を爲す可しとの事なり果して然るにや此の風説は余をして煩悶に堪へざらしめざるを得ず若し我等は果して永く同處に碇泊すとせば浦鹽には何時到着す可きか余は此の風説は閑人の想像にて終らん事を祈る。

十一月十日 余の從卒は余に信服し居るやに見ゆ勤勉家にて又滑稽者なりリバフ出帆後間もなく御身が買ひくれたる砂糖漬の箱を見て彼は余に向ひ「御與様はリバフに御出でになつたのでムいますか」と問へり今日彼は余が室に水桶と把稿たしとを持ち來りて「御邪魔でも床を掃除致しませう」と云へり。ダカールよりガブンに到るは甚だ容易なる可し我等は斯の如き港に赴かんとす斯の如き港は余の未だ聞かざる所なり若し聞きし事ありとせば其は甚だ久しき以前の事なる可し尙は實業學校若くは中學校などに在りし時聞きし事あるやも知れず御身に遣はす可き寫眞を調製しく、事を軍艦の寫眞師に注文せり寫眞は餘り好くなき寫眞なるも然し無きには優る可し。

十一月十一日 今日甚だ熱苦しき日なり汗は恰も水を灌ぐ如くに流る今夜は只一枚の木綿の布を覆うて臥し身に着け居るものとは只一箇の十字架のみなり斯く息苦しき夜にも關せず船の明窓を閉ぢて臥さざるを得ざるなり是れ戰時には凡て船中の無用なる燈火は或は消すか或は之を覆はざるを得ざるを以てなり。若し此邊にて尙ほ斯くも息苦しとせば赤道の邊りに至らば實に地獄の如くなる可し空氣は非常に水蒸氣を含めり机の箱は濕潤て好く開るを得ざるに至れり金屬の物は忽ちに銹を生せり室内に在る時は始終繻袴一枚にて控鈕はたを脱して居れり實驗者の談に依れば人々皆な熱帯地の發疹に罹る可く甚だ痒しとの事なり熱帯地方にて斯の痲疹を發するは熱さの爲に始終皮膚を刺激するが故なりと云ふ此の熱さと息苦しとは風の無きが故に特に堪へ難し無風帯なり。戰艦には斷えず換氣機運轉せり總ての人々皆な懶く眠たげなる態なり。夜九時ダカールに明日朝入港する爲めに特更に速力を緩めて航走す想ふにダカールには數日碇泊す可し同港に於て我が艦隊に莫大なる石炭——約二千噸を積込まざる可らず甲板は皆な石炭にて埋めらる可し。

十一月十二日 朝八時今ダカールに到着せり艦隊は皆な錨を投じたり、市街は一部は海岸に位置し一部は一小嶋嶼に在り、今日は我が提督の誕生日なり祝賀の御馳走ある可しとの事なり甚だ息苦しく

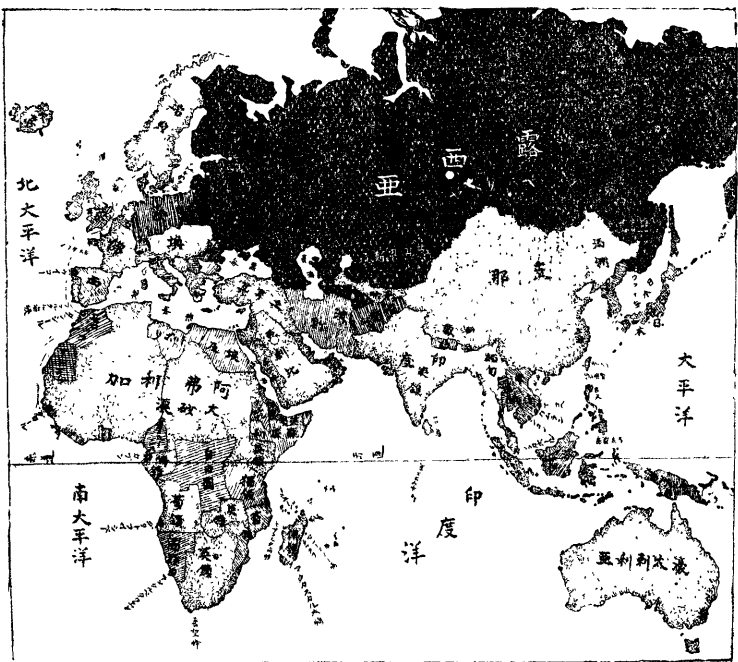
熱し汗は灌くが如し空氣は濕りて手拭は乾はかず。

午後二時要事ありてナヒモフに赴きたり同艦に於て學校以來の友人なる一人の技師に會ひたりナヒモフにて朝飯を喫したり我が艦には祝賀の朝食ありたり余は其に列席せざりき其祝宴にはアリヨルより提督の親戚なる一人の看護婦列席せり提督は貯蓄石炭の全部を積取りたる後に陸上と交通する事を許したり十一月十六日の夜まで此處に碇泊す可し諸艦にては皆な石炭の積込みを始めたも我が艦のみは尙ほ積込を始めず艦の周圍には小舟に乗りてネーグル人が漕ぎ廻れり海水に銀貨を投じて與ふれば彼等は巧に之を得るなり其衣服としては腰の邊りに至極細き布を纏ひたるのみにて赤裸なり彼等は眞黒にて手足は比較的長く細くして甚だ醜し余は彼等を見て一種病弱の者などに對する如き惡感に打たれたり、オスラビヤがタンジエールに着せし時ジブラルタルより石炭を運びて積込む爲めに舢舨と籃とを得ん事を請へり然るに英國人は故意に自ら舢舨を雇ひ去り籃を買ひ占めたるを以てオスラビヤは一も得る能はざりしなり。

夜五時佛國派遣の當港駐在の知事が嚴然たる態度にて來り彼は石炭の積込みを許可せざる旨を通じたり我が提督は是に答へ歐巴より電報を得るまで兎に角に積込む可しと告げたり他の諸艦は既に久しく積込みに着手し居りたるに我が艦にては今始めしかかりなり縣知事は或は我が艦隊の此處に碇泊するを許さずと通じ來るやも知れず是れ實に我等に取りては非常なる意外の事なる可し想ふに滿洲に於ける我が軍の結果が面白からざりしものありしならん——其が爲に佛國人も斯の如き冷かなる態度に出る者なる可し我等は尙ほ未だ何等確たる通知にも接せず。

夜廿二回目の書面を郵便局に赴きし序に大急ぎにて投函せり。此處は電報料非常に高しダカールと歐洲とを連絡せる海底電線に何處にか故障を生じ電報は一度米國に發し米國より更に歐巴に傳へるなり。當地の風説に依ればステッセルは脚部に負傷せりとの事なり、最初は佛人は石炭の積込みを許したるも後に巴里より我が艦隊を碇泊場に入るゝ勿れとの命令來りしとの事なり其に頓着なく我が艦隊は依然投錨して石炭を積込めり我等は石炭の塵を防ぐ爲に扉も明窓も皆な閉ぢたり船内恐しき惡臭なり渴に苦めり飲料物は皆な温かになりて甚だ不味なり然し飲んで飲んで限りもなく飲めり今日余はリモナーデ六壘を買ひたり、艦隊の談話は石炭の事にて持切れり是れ今我等に取りての大問題なり今後の航海も我等の成功如何も皆な石炭に關せり水兵に石炭

リバウ港よりタンジエールの航路を示したるもの



積込を急がする爲に獎勵法を設け最も速に積込みたる者に賞金を與へ居れり明けても暮れても石炭の
話にて齒が浮く様なれど矢張り皆な石炭の事を談じ石炭の事を問答せり。

(八) ダカールの風俗全艦の休航

十一月十二日 今日朝來灣内の碇泊所を巡航せり艦内は士官室も戸棚も食卓もみな石炭の塵煙な
らざるはなし石炭の積込みより甲板の上にて起る塵煙は宛然雲霧の立昇る如き状なり乗員は一目見たる
のみにては其誰たるやを見別難き様に眞黒に汚れたりガブンは寄港せざる可しとの風説なり是れ最
も望む所なり一擧して遠航せん事を好むなりガブンは殆んど赤道直下に在る地なり其熱さ甚だしかる
可きは當然なり。午後三時今日は朝飯の際に氷菓子の御馳走ありたり氷菓子は勿論其名の如く冷かな
るにも關せず氷菓子より水蒸氣が湯氣の如くに立てるにても其熱さを察するを得べし人々皆な日射病
に罹らざる様に注意し居れり我等は兎に角に此處に水曜日即ち十一月の十六日まで碇泊すべしとの
事なり若しガブンに寄港せず航海豫定表にある其次の港に直航するものとせば此航路は中々の大航
海なり提督は當地の軍隊司令長官を訪問し又同司令長官を十五日の朝飯に招待す可し今ドンスコイよ
り特別に來艦を請求せられたり。

十一月十四日 余は昨夜出張せる運送船マライヤより只今歸艦せるばかりなりマライヤは水線下に
破損を生じたるなり、今日午後三時頃に大尉ネリドフ氏急病にて死去せり氏は巴里駐劄の我が大使の
令息なり氏は非常の語學者にて七箇國乃至八箇國の言語に通じたり明日葬式を執行せらる可し。將校

等は陸岸より歸艦せり其談話に依れば陸上には別に珍しきものも無しとの事なり若し出來得るなれば
明日は余も上陸す可し今日は非常に疲勞せり。

十一月十五日 五時コーヒ店に入りてリモナーデを飲みたり此處に御身の一笑了資する談話ありコ
J店に於て余は何か食事を爲さんものと思ひてネーグロ人のボーイに料理の目録を持來れと命じた
るに彼は繪ハガキ象牙細工その他羅紗にて包みたる板などを持來れり、市中には何も爲す可き事もな
し最初に發航の汽艇にて本艦に歸る可し。今ネリドフ氏の葬儀と見えて弔砲の音聞ゆ、陸上より七時
發の汽艇にて歸艦せり我が艦の軍醫ナイン氏は奇妙なる人なり上陸の際に何樹よりにや果實を振ぎ
取りて其を食したる由なるが本艦に歸るや否や腹痛を催はして嘔吐せり。此處にも矢張り日本人居れ
り多分二名なる可し將校中に彼を見たりといふ者あり是れ勿論間諜なる可し、明日出港す可し然し朝
早くドンスコイに赴かざる可らず郵便を發するまでに尙ほ二語三語を認めんと思ひて歸艦し漸くの事
にて間に合へり次の航路は長かる可し約十日を要す可しとの事なり余はダカールの街を歩きながらも
斷えず御身の事のみを念へり若し御身此處に在らば此のネーグロ人やネーグロの婦人と小兒又は此處
に住居する歐巴人などの見慣れぬ風俗光景を御身は如何に面白く見物するならん此處には萬事が異様
なり小兒は赤裸にて市街を走り廻りて遊び居れり土人は皆な守札を掛け居れり彼等は多く破廉耻者な
り且つ懶惰なり一人のネーグロは艦長の許に來りて錢を乞へり艦長は彼に向ひて「爾は何も働かざる
の故に金錢を有せざるなり」と告げたるにネーグロは左の如き言を爲せり「貴殿は斯く澤山の金錢を
所有せり尙ほ此上に何事をか働かんとするか」と當地に居住する歐洲人は至て尠なし且つ年老いたる

歐巴人を見ること特に稀なり是れ壯年の時に若干年間此處に居住しても多くは此の殖民地より歸國するが故なり風説に依れば此地方は氣候甚だ悪し、との事なり猩紅熱流行するといふ菓實を買ひ求むる事の出来ざる次第も御身は想像するを得べし、海中に錢を投じて遊び取らしめたるネーグロ人は露國貨弊が此處に通用せざるを知りて我が士官等と市中に於て之を兩替せり、土人は多く甚だ美しき長下衣を着せり白若くは色染なりネーグロ人は洋傘を翳せるも皆な洗足にて徒歩せりネーグロの婦人は間々婦人用の套衣に類したる着物や歐巴人用の帽を冠れり小兒は背に負ひ居れり此處には亞刺比亞人を見受くる事あり住民の宗教はロマ舊教一部マホメット教一部偶像教一部なり、市中の貿易は汽船入港の日に營む事となり居りて多くは物價二倍位騰貴し品物によりては全く賣切るゝものありて求むるを得ざる事あり當地の郵便局は一種異風なり官吏ネーグロ人は室内に坐し人民は街より直接に其臺の樣に出で居る窓に來りて用を達すなり。

十一月十六日

ダカールに在り今日は朝來各艦を巡訪せりドンスコイ、オスラビヤ、アレキサンタ

一、ポロチノ等を巡視せり、三時頃に抜錨せるも我等はガブンに向ふ者なるや否やは尙ほ確知せず旅順の十一月二日の攻撃は日本軍が非常の損害を受けて撃退せられたりとの風説當地に専らなり。

十一月十七日

昨夜は早く十一時に寢に就きたり明窓を開きたるまゝにして臥したり今朝早く甲板

洗滌の際に明窓より水が流れ込み机を濡し余自身も少々頭より灌ぎかけられたり急ぎ起て明窓を閉鎖せり、昨夜舵機操縦の或實地試験を爲さんが爲にスワロフより他艦に移乗せり、スワロフとアリヨルと僅かの事にて衝突を免れたり此時全艦隊は集合したるも先づ何事も無なかりしは幸なりき。夜八時

將校等はダカールに於て種々の小鳥二十羽を買求めたるも彼等は餌を買ふことを忘れしかば手當次第に種々の餌をやりて養へり小鳥は段々死しかけたり、常に樂隊は祝祭日の朝飯の時のみ樂を奏し居るなるが今日は突然に午餐の時に奏樂始りたり是れ退屈より思ひ付し事なる可し午餐にも朝飯にも食ふよりは多く皆な飲む方なり何にても飲まざるものはなし普通の水は勿論鑛泉赤白の葡萄酒麥酒各種のレモン水など何にても飲み居れり是れ熱さの爲めなり一番に熱さに苦み居るは提督なる可し石炭積込みの際は扉も明窓も悉く閉るを以て提督の居室は氣温五十度に昇れり余が室内は今明窓を開き通風機にて新鮮なる空氣を流通せしめ居りて尙ほ二十七度の氣温なり、或將校等は蘆を買求めたり或者の蘆を士官室に敷きて臥し或者は應接室に臥し居れり艦長は上甲板に寝ね居れり、今夜運送船マライヤの機關に何事か故障生じたり全艦長は航進を止めて同船を待ちたり朝四時頃にドンスコイの報告に據ればキングストンに土砂を侵入せしめたりとの事なり是れ同船は砂州の上を通過せるものなり艦隊は陸を去る九十露里の海上を航せるもドンスコイの此事件後は更に遠く海洋に出でたり今日は實に熱き日なり余が室の熱さの如何は床板の焼け居る熱さが靴の底よりも感せらるゝ一事を以て推すを得可し、夜七時あゝ熱し波浪の飛沫の入るを以て明窓は尙ほ閉鎖し居らざるを得ざるなり、ポロチノは一箇の機關に損處を生じたり全艦隊は停止して同艦を待てり今ポロチノは他の一箇の機關にて航走せり、我が艦隊より離れて三箇所に雷雨あるを見受けたり、黒雲天を覆ひ電光閃々たり甚だ熱苦し。

十一月十八日　ポロチノは萬事が不都合なり他一機關も同じく運轉せず托室は次第に熱するのみなり全艦隊は航進を停止してポロチノを待てり此のポロチノ事件と同様なる種々の事情の爲に時間

を全く無益に徒費する事敷となり我が艦隊の阿弗利加廻航の如きは歴史上に未だ類例なき事件なり、漸く朝八時に至りて**ボロチノ**は其機關を修繕するを得たり今全艦隊は其通常の速力にて航走す、夜七時昨日航海以來始て二頭の鯨を目撃せり外に何も珍しき事なし只だ眺むるものは水と天のみなり艦内哨兵が苦熱の爲に弱りて手を引きて助け来る如き事あり機關室の上の邊は温熱六十一度に達せり然し熱さの最も甚しき地點には未だ到らざるなり。赤道通過の祝祭を行ふ準備を始めた祝祭は通常乗込員のする演劇と誰にても始めて赤道直下を通過する者に水を灌ぎかくる一事を以て舉行するが例なる由、二十分前に本艦の發動機に故障を生じ全艦の電燈は一時に消え船は暗黒裡に没せられたり今は皆な修繕せられたり、従卒が自ら洗濯したるリンネルの夏服上下を持来れり甚だ上出来なり、彼は言へり「是れより奇麗には洗はれません只遺憾なことは火熨を掛くる事が出来ぬばかりです然し其は何でもありません」云々と。

(九) 運送船の破損航海長の無能

十二月二十一日夜十一時 日の没するや否や種々の事件は演出せられたり八時より今まで艦隊は停止し居たり今僅に五ノットの速力にて進めり又も不幸なる、**ライヤ**の爲に妨げられしなり機關に損所を生じ何處かのポンプの運動が止りたりとの事なり余は**マライヤ**に就きては特に恐れ居るなり。同艦は**ダカール**に於て浸水を來し余は其事に就きて證明して同艦は自ら其唧筒を以て動きながら安全に航するを得べしと上申せり、今其唧筒が破損せりと假定する時は(同艦には唧筒一箇なるを以て)同艦の浸水は之を排去するの道なきなり、勿論近邊に船渠もあるなし目下**ローランド**は**マライヤ**を曳船となし居れり是れ**マライヤ**の一機關に破損を生じ他の機關の推進機の翹端を折りたるが故なり、之を要するに今**マライヤ**は獨力にて航進するを得ざるに至れりカブンまでは猶ほ遠し又も非常の妨害なり海上静穩なるは先づ以て幸なり若し暴風雨にてもあらんには**マライヤ**の運命は頗る危険なり静穩なる天氣にてさへも**ローランド**は長時間を消し非常の困難を以て**マライヤ**に曳綱を與へ得たり一本の綱を切り他の一本を與へて之に代へたり。

十一月二十二日 **ローランド**は今尙ほ**マライヤ**を曳船せり**マライヤ**より一切の積載物を他に轉載して同船を歸し遣る方遙に便利なる可し斯くせば妨げもなくなり種々の配慮も減す可し今朝飯の際に提督は**カムチアツカ**が列外に出て、信號を掲げ「我に著しき破損あり操縦するを得ず」と告げたる旨の報告に接したり然し幸にも損所は左まで大ならざりき同艦は既に一般隊列に加はりたり、若し我等が浦鹽に到着せば此航海中に幾度その温度の變を被ふる可きや露國出帆の際は冷氣なりしが次第に温暖になり忽ちに炎熱となり其より又再び涼しくなり後ち再び炎熱となり今後は段々涼しくなるのみにて浦鹽に達する頃は既に冬期なる可し。

十一月二十三日 夜八時に**ボロチノ**は又も事件を生じたり何故にや機關の運轉止まれり漸く回復はしたるものゝ兎に角時間を空費せり、**マライヤ**は尙ほ曳船せり**ガブンの**事を聞知するを得たり艦隊は同地に三十露里を去る海上より接近するを得ざる由**ガブンの**交通は**ローランド**を以てす可しとなり何人も**ガブンの**上陸を許されざるは勿論なり皆な艦上に居るの外なし我が戦艦の市街近くに入るを得

ざるは幾多の砂洲其他の妨げあるが故なり、今日拂曉にノテオルよりスワロフに無線電信にて左の件を報じ來れり即ち同艦乗込の火夫は一揆を起して汽鐘に要するだけの必要な蒸汽を保たしめずとの事なり艦長は火夫の處分を請へりメテオルの乗員は義勇兵なり、今日は終日圖と計算とに勞せり明窓を開き置きたるに次第ノに波浪の飛沫が明窓より入りて卓上を濕せり今日艦内の氷室に入りたり斯かる苦熱の中より入りたる事なれば一層の寒冷を感じたり今日一日は全く知らざる中に過ぎ去りたり終日室内に座して仕事し多くの用を濟したり頭が重くなりたるを以て少し新鮮の空氣に當りたり。

十一月二十六日 此處に一場の諧謔は演出せられたり我等は朝來錨を投じて止り居れり此地に來りて此處に止りしも我等は何處に在るやを知らずガブン何處なるやを知らざるなりローランドをして西方なる陸岸に航進せしめ燈臺とガブンを尋ねしめたり、陸岸を眺望し得たるやを識らざるなり誰にや既に此處にて沙魚を見たりといへりダカールにて艦隊拔錨の際に病院船アリヨルは一脚艇に何やら重要な書類(大方郵便物)を齎らしてスワロフに來らしめたり拔錨を急ぎし爲め本艦は遂に其書類を受領せずに出帆せり。航海長も艦長も皆な赤面せり我等は既にガブンを三十哩も先きの方に通り過ぎたるものなる事を知りたり今引返してガブンに逆航す可し是に依りて我等は既に赤道を二度も通過する事となれり赤道祭は通常始め第一回に通過する時に行ふが當然なり我等は喜望岬に風浪を避く可きを以て赤道を三度通過する事となるなり夜六時我等は既に投錨せり今我が艦隊に佛國の脚艇一隻來航し何やら公報を齎らせり同艇は我が艇に接近せし咄嗟に殆ど沈没せんとせり——我が艦尾の渦巻く波動の中に陥りしなり然し何事もなく無難にて僅に其舵を損じたるに過ぎざりき、佛國の士官は提督

と共に午餐をなせり戦地の状況に關して佛國士官は知る所なしガブンにては通信員の電報をも受けずとの事なり是れにても都會なり斯の如き都會は殖民地に甚だ多し我が露國にはまさかに斯の如き都會なかる可しと思はる此處にては知事さへも電報を受くる事なしといへり、此處に居住する歐巴人は約七百人位なり其他はネーグロ人なるが彼等の間には食人々種もありこの最近二箇月間に食人種は四名の歐巴人を食ひたりとの事なり、風説に依れば明日英國汽船一隻入港す可し同船は我が露曆の十月二十七日以來の新聞紙を搭載し來る可しといふ廿九日若くは三十日に歐洲に向け當地より汽船出帆す可く我等の差立てし書面もこの汽船にて送らる可し、戦地よりは何等戦況の通信にも接せざるを以てスワロフの士官一同はノーオエウレミヤ新聞社に返信料濟の電報を送りて戦況を問はんものと思ひ提督に其發電の許可を願ひたり提督は之を許さずりしも電報をウイレニウス提督に發し同提督よりして我等に極東よりの通信を傳へらるゝ事となりたり彼得堡より電報到着せり同電報は我が提督に其艦隊をガブン附近に碇泊せしめず何處にても他處に碇泊せしむ可しといひ來れり佛國人も同様に此處より我が艦の解纜を望み便利なる灣の所在を示し且つ水先線案内を與ふ可しと約せり、然し我が艦隊は其等の事に頓着なく必要なるだけ此處に碇泊せり彼の獨逸海なるハル附近に於て汽船を砲撃したる事件は如何に落着したるにや近頃明らかになりたる事實に依れば彼の事件の際にアウロラはスワロフを射撃したる由然し一弾も命中せざりしは我が艦の幸運なりき、當地に居住する歐巴人が一驚を喫したる由にて左の如き談を爲せる者あり我が艦隊の來着三日前に汽船一隻來泊せり其來泊の目的を尋ねたるに食糧買入れの爲めなりといへり、其に次で又も二隻の汽船來港せるを以て其目的を問へば何れも食糧

を得る爲なりといへり。其より間も無く我が艦隊は舳艫相啣で來航せしかば先きに汽船の來泊したる理由もさてこそと解せられたりと云へり、當地にては極東來航の露國艦隊がガブンに來泊す可しとは夢想だもせざりしなり、我が艦隊の事の風説も追々聞えざるに至り、又我に取りて必ずしも利益なるに非ざる巴里の命令も其地方領地の官憲に達する者稀なるに至るは寧ろ我等に取りて利益なり。

(十) 諸艦損處を生ずリブレウール市

一月二十七日朝十一時 今日既にアリヨル、アレキサンダーの兩戰闘艦を訪ひたり二時頃にナヒモフ、ボロチノ、メテオル等に赴がざる可からず諸艦は何れも損所を生じ又は浸水を來したりとの事なり、アレキサンダーの艦内にダカールより偶然の事にて一人のネーグロ人を誘拐し來り其を當地に上陸せしめたり其ネーグロ人の談に依れば此地のネーグロ人は死人の肉を喰ふ由是れ家畜類に乏しく獸肉高價なるが故なり彼等は死人を喰ふ前に死人の手足を切り取りて其の若干時日沼地などに棄て置き其腫脹するを待て之を喰ふ由これ斯くすれば人肉が軟かになるが故なりといふ此邊の海水には潜水夫を入るゝを得ず沙魚甚だ多し、當地の縣知事より進物として野菜果實等を贈られたり朝飯には芒果(マンゴ)鳳梨(アナナス)蕉芭果(バナナ)其他の珍果我等の膳に上りたり就中最も美味なるは鳳梨なり知事の多く贈りくれたる果物の中には何人も其何なるや名をも知らず野菜なるか果實なるかの見別けも附かざるに至りては少々滑稽なりき、一運送船はハンブルグより私信電報を得たりクロバトキン日本軍を海岸に撃退壓迫せりとの事なり甚だ愉快なる話なるも信じ難し。

夜十一時上陸せる人々の談話に依れば此地は非常に植物に富み居るとの事なり全く植物園も同様にて又動物も甚だ多しといふ我等の軍艦に非常に大なる蝶々飛び來りその大きさは虚事ならんと思はるゝ程にて大さ實に一尺五寸もあり佛國人は陸岸にて二丈位の死したる王蛇を見物せしめたり我が士官等は土人の王を訪問したるに王は午睡し居れり遠慮なく彼を起し其妻にも面會せり王も其臣下同様のネーグロ人なり、面白き事出來たり先にも報せる如く知事は我等に進物を贈られたり此進物の野菜を持來れる官吏に禮の心ばかりに一二の銀貨を與へたり彼は之を受取りしも後ち其金を何處にやりたるやを知らざりき多分我等の負傷兵に義捐せるなる可し。

十一月二十八日 今夜雷雨あり烈しき雷鳴なりしといふ余は熟睡して之を知らざりき、今朝九時上陸せる士官等はリブレウールより歸艦せり多くの面白き談話を齎したり彼等は植物の豊富なるに一驚を喫せり果實並に鸚鵡二羽を携る來れり一羽は十フランクにて買ひ求め一羽はロマ舊教の一僧侶が進物として果實と共に提督に贈りたるものゝ由過日金を與へたる官吏が親切に我が將校等を案内せり彼が我等に別れて歸る際に前日の如き事をせられては困ると思ひ幾度か「何もしてゝに及ばず」と繰返へせり我が將校等は土人の王を訪問せり王は英國の海軍服に三角帽を戴きて將校等を接見し其妃にも面會せり王並に其妃と共に撮影せり誰にや過日佛貨の惠與を請ひたる寡婦の女王と腕を組みて撮影せる者あり、王の女官中には酒に酔ひ居る者ありたり此王は當年七十二歳の由なるが其長兄が死したる爲に後を繼ぎて王位に就き今日にて僅に二日目なりとの事なり、第一等の女官はマルガリタといひ老ネーグロ婦人にて中々精悍なる婦人なり彼は跣足にて駈け歩けり然し此處の住民は概して布の衣

服を纏ひ居れり歐巴人に對して能く禮を重せりリブレウイール市の狀況は略明かなる可し知事は我が提督に最近到着の新聞を遣せり此新聞は我等リパフを出帆せる當日十月二日發行の分なりき。

十一月二十九日 前便の書面は尙ほ書き終らざりき汽艇は陸岸に向け出帆せり此汽艇にて送られたる最後の郵便物は明日の朝に歐巴に向け出帆する汽船に間に合ふ可し、提督は船艦と陸上との交通を日没後黎明まで禁じたり昨夜十時頃に提督の特別許可を得ずして出船したるドンスコイの脚艇を碇泊場内に於て拿捕せり之が爲に當直將校は三日の禁錮に處せられたり今夜も亦碇泊場内に於て亦も提督の許可を得ずして三名の士官が乗出したる端艇を拿捕せり本日の命令書にてドンスコイ艦長に對する宣告を公にせり又三名の士官は軍法會議に附せらる可し彼等士官は明日歐洲に向け出帆する汽船に移乗せしめ露國に護送せらる可し艦隊が如何に嚴重に犯則者を處分するかを見る可し。

夜九時今日アレキサンダーの水先案内は同艦乗込員がデカルより誘拐し來りたるネーグロ人の事を話せり此のネーグロ人が乗り來りたる脚艇がアレキサンダーの舷側を離れ去りし時このネーグロ人は大に怒り狂人の如くに猛り狂ひて小舟の事を誇り跣足にて甲板の上を踏み鳴らし乗員を鐵拳を固めて威赫するなどの騒ぎを爲せりアレキサンダーが既に錨を抜きて動き始め到底同艦より逃れ去る事の出來ざるを知りて此のネーグロ人は砲塔の側らに坐し今度は熱涙を注ぎて泣き出だせり乗員はネーグロ人の周圍を取り圍みて此の頑健な青年が恰も猛獸の吼る如くに泣き居るを笑ひながら見物せり後ち彼は何事をもせられざるを知りて安心せり彼は怪氣深き性質と見えて始終その妻の事を心配せり乗員は忽ち此のネーグロ人と親しくなりて幾語かの露西亞語を學ばしめたり記憶力は中々に能く數日間にて殆

んど乗込員半數の名を覺えたり乗込員が最も珍としたるはネーグロ人の脚掌の白き事なりネーグロ人の足の裏は概して白し水兵共には是が一種の滑稽の如くに感ぜられたるなり將校等は此のネーグロ人の歸途の旅費にとて六十留を集めたり彼は非常に喜びたり此のネーグロ人は一商店に勤め居る者の由にて多少開化せり佛語は自由なり。

十一月三十日 夜七時ローランドにて上陸したるが三十分前に陸地より歸艦せり非常に疲勞せり我等はローランドにて今朝八時にリブレウイールに上陸せり、十時頃に市街に往きたり然し市街といふも名のみなり我が汽船は陸岸に充分接近して碇泊するを得ざりしかば端艇にて上陸せり余はボロチノの將校等と共にして始終彼等と共に散歩せり、始め我等は食事をなさんが爲に料理店に入りたり同行六名なりき我等の食卓に運れたるはレモナード六壞食餅魚類牛肉大豆小鳥果實等にて五十五フランを取られたり料理店を出で棕櫚樹の並木道を通りて市街に出で獨逸人の商店天主教の會堂二三の村落植物栽培場等に至りたり時間が短かりしを以て直に歸途に就きたり、土人の王の處と商店とに立寄り其より埠頭に至りローランドに乗込みたり陸地に在りたるは僅々五時間に過ぎざりしも随分疲勞せり運動に慣れざるが故なる可し一行と共に二三箇所にて撮影せり。我等は又佛國軍隊に勤務し居るネーグロ人村落のネーグロ婦人と植物栽培場の樹隠の小卓を圍みてその小兒などと共に撮影せり、土人の王の家に至りしに王は食事中なりしが後ち王は出で來りて自ら來客に椅子を進め已れば安樂椅子に坐せり王も王の家人も皆な衣服を纏ひ居れり身體に草を下げ假面の如くに顔に彩色（全身色どりて肉膚を見すしたるネーグロ人は粗野なる樂器を奏しながら其處此處に舞踏せり、時間は切迫せり我等は起ちた

るに王も起ちて我等と握手したり此時王の宮殿には多くの將校等來集せり彼等は其邸内の居館を遠慮なく徘徊せり寡婦なる女王は椅子に倚り居りしが少々酪酊して我が士官等に眞面目になりて佛貨を贈惠せられん事を請へり、植物栽培場に散歩して鳳梨、芭蕉果、椰子果等を澤山に買ひ集めたり、我等が草を圍みて芭蕉果や檸檬や鳳梨等を食したる植物栽培場は當地にて生れたる一佛國婦人の所有の由なり、我等は此家が料理店なりと想ひしかば屋敷や家中を遠慮なく徘徊してレモナードや其他の飲物などを注文せり後にて料理店に非ずして一私人の邸宅なる事を知りたり當家の女主人なる佛國婦人は甚だ愛嬌ある婦人にて自分の身の上や又目下佛國にて教育中なる其兒女の事などを談話せり女主人は我等の買ひたる物品を二人のネーグロ人に持たしめて埠頭まで送らしめたり當地が一體に諸植物に豊富なることは實に植物園内を散歩する如き感を爲せり周圍はみな棕櫚樹、芭蕉、檸檬、合歡ねむのき、薛荔つた、芒果その他バオバブぼぼ(二百年乃至六百年位の壽命を保ち大木にて一名をアダーソン樹)と稱する大木や數知れぬ花木にて滿されたり是等の樹木は皆な枝葉繁りて暗きまでに天を覆へり且つ樹木は皆な巨大なり、歸途我等は渴を醫さんとて一小店に立寄りしに林檎酒を出されたり斯く我等は凡そ飲物に一として飲まざるなきを知る可し我等は市中に賣り居る塵芥の如き粗品を多く買ひ集めたり、ネーグロ人の樂器猛獸の齒を以て作りたる小投鎗其他の武器類又は骨細工など皆な買ひ集めたり途中にてアレキサンダーにて連れ來りしネーグロ人に逢へり彼は今我等の間に露國式の名前を以てアンドレイ、アンドレエチと呼ぶる水兵等は皆な斯く呼び居れり。

(十一) 赤道通過の祝祭葡國の中立嚴守

十二月一日 今朝は早く起されたり私人所有の運送船に赴かざる可らず、夜五時今カブンを出帆し一時間前に錨を抜きたり何處に赴くや不明なり今日スワロフの後續艦アレキサンダーに於て赤道祭を行へり遙に同艦にて舞戯し水を灌ぎかけらるゝを見たりアリオールは又も舵の電氣機に異變を生じたり然し同艦は艦隊の進航を妨ぐる事なく進航せり。

十二月二日 今朝九時にスワロフ艦内にて赤道通過祭を始めたり其祭は先づ赤裸の眞黒な人間が陸戰隊用の砲車を曳き其砲車の上には(ネプチューン及びヴキーナス)の神に份したる異様のものと航海長水先案内露國の賤女その他トリトン(神話の海神)等乗りて百鬼夜行的の行列を以て始められたり行列には喇叭笛などを吹きたる連中も一列となり舳部にて奏する樂隊の進行曲にて艦尾の方より艦首の方に練りゆきたり艦首の高き處にて演劇を始めたり乗員一同の見物人は艦首に集り艦橋も檣樓も帆架も皆な見物人を以て滿たされたり將校艦長提督の一同は艦橋に見物せり演劇者は皆な半ば裸にて身體を種々に彩色せり黒もあれば赤もあり青も黄も緑もありネプチューン神は麻屑にて作りたる長き髭をつけ三叉鎗を持ちたり航海長は時針儀望遠鏡六分儀等を持ちて賤女は小兒を懷けり小兒は(瘦犬を之に擬したり)歌劇の音樂に伴つて小兒の泣く段になりし時その犬の尾を堅く蹙れば犬は苦しまぎれに吠え叫ふなり之を小兒の泣聲と見立てたり役者は中々に巧みに演じたり甲板の上に帆布を以て水溜を作り其に水を滿たせり演劇の終るや否や防火唧筒を以て提督始め水兵に至るまで水を注ぎかけたり次で

役者一同は其水溜に躍び込み次で見物一同も躍び込みたり水溜に浴したる者に今度は大なる刷毛に白粉を一パイ含めて之を身體に塗りつけ木を以て巧に作りたる大剃刀を振りかざして人々を剃り始めたり水溜の貯水は最初は奇麗なりしが身體を彩色せる役者の浴したる後は不思議なる色に變じたり。各將校並に艦長その他下士に至るまで殆ど皆な水溜に浴せり皆な彼等は例の剃刀にて剃られたり余並に二三の者は水溜の水浴を通れたり然し四方より水を浴せかけられしを以て全身濡鼠の如くなりき通げ隠るゝ者あれば之を探がし出して水溜に引來れり賄頭は水浴を免れんとて其自室に通げ込みたるも遂に通れ得ざりき艙口の蓋を開くや否や水を注ぎかけんとしたれば賄頭は室内の物品まで水浴の難を受けてはたまらずと自ら室を出でゝ水溜に浴せり牧師先生も此の運命を免れざりき始の間は足の方より水溜に入られしかば其れはよかりしも後には足を捕へて倒し頭から入れられたり、犬も水浴せられたり一匹の犬の如きは水溜に投せられ四方に人々取圍み居るを見驚き恐れて大聲に吠出せり乗員は皆な此の祝祭に大満足の状態なりき特に近頃まで尙ほレーウエルの陸上に在りたる乗員の爲には最も大なる愉快なしなり四時頃にマライヤに又も何事か出來せり同艦に艦長に代る可き士官を遣はせりスワロフよりマライヤに士官を移乗せしむる爲に艦隊は皆その航進を止めたり、艦長は今グロイトフェイスベイに向て航せり同所は葡萄牙領に屬す若し何等かの故障ありて同所に赴くを得ずんば艦隊は獨逸保護の下に在るアングラ、ペクウエンに赴く可し

十二月三日 夜七時今日我が戰艦に晩課の祈禱ありたり余はこの祈禱に深く趣味を感じり特に船中の祈禱は一種いふ可らざる趣味を有せり周圍に起ちて祈り居る者は皆な白き服を着けたる士官水兵のみにて又祈禱の堂役や世話役その他詠歌者皆な跣足にて勤め居るも其祈禱の狀と讚美歌などは一として懐かしき遠き古郷の露國を忍ばしむる種ならざるはなし。

十二月四日 炎熱少しく減じ始めたり最も炎熱の甚だしかりしはダカールなりき今は大に凌ぎよくなれり若し喜望岬の附近に至らば上衣若くは外套を要する程なる可し印度洋は炎熱甚しく息苦しく且濕氣多しとの事なり、全艦隊の乗員は提督の命に依りて齋戒を始めたり齋戒とても船中の事なれば食物なども通常のものを食し只祈禱に相會するのみなり、若し豫期の如く萬事故障なくんば我が艦隊は一月の初め若くは終りには日本の沿岸に到着す可し、即ち我等皆な此處に送り居る退屈極れる變化なき生活は尙ほ二箇月を餘せり、地中海の方を來航せる艦隊に邂逅するの期は左まで遠からざるべし萬事は旅順艦隊並に浦鹽艦隊の狀態如何と旅順と浦鹽の形勢——我が艦隊が極東に到着せる機會にクロバトキンは如何なる活動を爲すやに關せり。グロイトフェイスベイは書籍の記する所に依れば左まで望ましき所に非ざる如し村落は僅に七戸あるのみにて其中の二戸は空屋なり四邊は曠野にて水もなく住民は水を運び來るとの事なり、然し魚類は饒多にて良好なる碇泊場なりといふ。想ふに我等は明日の拂曉に同所に到着す可し段々冷氣になれり室内は二十四度なり。

十二月五日 氣温いよゝ降下せり今室外にて僅に十四度なり十二時には錨地に碇泊する豫定なり、今我等は益々旅順を遠ざかりたるも喜望岬を廻航せば漸次旅順に近附く可しタンシールより蘇士を通りて旅順までの距離と喜望岬より旅順までの距離は殆んど同一なる可し我等は阿弗利加を廻航せるお蔭にて如何程無用の勞を爲したるや知る可らず。

午後一時五十分我等は遂にグリートフイシペーに到着す餘り奇麗にもあらざる灣なり一方の陸岸は險崖絶壁にて他の一方は全く傾斜せり傾斜せる方の陸岸に若干の家屋あり船中よりは望遠鏡を以てするも餘りよくは見えず海岸は皆な砂地なり勿論此處には電信局郵便局もなし満目たゞ砂礫を見るのみなり、今スワロフの側面を葡萄牙の砲艦通過せり（その艦名はリムボボなる可し）砲艦は小形の汚れたる船なり同艦は今灣内深く入りて投錨せり想ふに我が艦隊來航してグリートフイシペーに投錨したる事を地方官憲に通知する爲來れるものなる可し是れ實に葡萄牙人には意外の事なりしならん然し我等は此處に長くは碇泊せざる可し、明晩は拔錨すべしとの事なり、午後四時葡萄牙の砲艦リムボボは我が艦隊を一週してスワロフの傍側に投錨せり同艦の艦長は通告する所あらんとて我が提督を來訪せり余は未だ其の通告の何たるやを知らず然し我に取りて喜ぶ可き事なるや否やは疑はし昨日我が艦隊の到着前に同砲艦は威赫の爲に發砲して灣内に碇泊せる石炭船を外洋に驅逐せり、勿論この石炭船は我が艦隊の着するや否や灣内に入り來りて提督の指定せる位置に投錨せり、提督は葡萄牙砲艦の艦長に我が艦隊は陸岸より四哩の地點即ち中立海上に投錨せる如く装ひて之を欺き信せしめたり。然るに葡萄牙より我が艦隊がグリートフイシペーに到着せる事の通信に接したりとの報知ありたり。此事が何處よりリスボンに知れたるや甚だ不思議なり同地よりの命令にて此處に軍隊を遣はされしなり想ふに始終我等を附け狙ひ居る英國人の所業なる可し病院船アリヨルは艦隊に別れてケーブタウンに赴けり。此處よりして我等はアングルベクウエンペー或は目今獨逸人の稱するリベエツペーに赴く可しアングルベクウエンペーは當地を去る一千露里の地點に在り明日此處より三時に出帆す可し。

（十二）南回歸線の通過、戦地の風説頻々

十二月六日　グリートフイシペーの錨地に在り御身に送る書面は一時間前に歐洲に歸航する一汽車船にて巴里に差立る爲に投函せり石炭船の乗員は陸上に在りたり彼等の談に依れば海岸は悉く皆な綺麗なる貝殻を以て滿され又綺麗なる小鳥甚だ多しとの事なり、葡萄牙砲艦の艦長は石炭船の船長等に石炭積みは之を許可せざるを以て石炭を艦隊に積み得るや否や疑はしと告げたる由なり、如何に馬鹿正直のことぞや其實をいへば破廉耻極れる行爲なり、明朝は六時に起す様に頼みたり多く各艦を巡視す可き要務あるを以てなり十二時に陸上との交通杜絶せり。

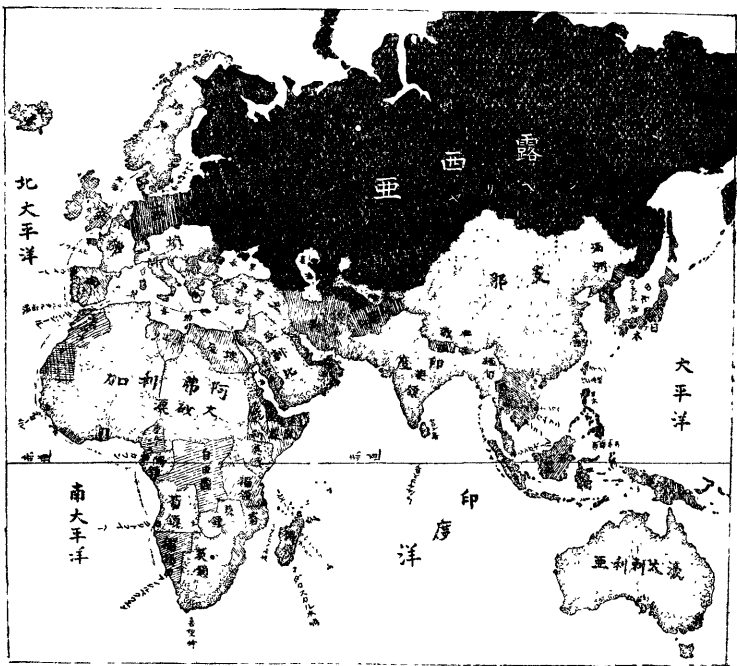
十二月七日　グリートフイシペーよりアングルベクウエンに向ふ。今日終日御身の爲に書面を認めて終に食卓にも就かざりき然し書面も充分に書くを得ざりき今卓につくや否や又も妨げられたり今日は一の確たる事もせず一日を徒らに送りたり、今日ポロチノに赴きベリヤにて寫せる寫真を見たり甚だ小さく顔は明了せず。四時我が艦隊は皆な錨を揚げ始めたり二時間程経てマライヤは信號を揚げ舵機に異状ある事を報せりローランドはマライヤを曳船と爲す事を命せられたり病院船アリヨルも我等と共に航進せり海上多くの鯨を見たり又陸岸より遠く離れて飛ぶアリバトロス（信天翁）を見たり其羽翼の大き十六乃至十七フット程なり船中の生活は毎日異なるなし昨日も今日も同じ事にて余は只だ過去の事を記憶に浮べて日を送れり。

十二月十日　昨日南回歸線を通過せり斯くして我等は一度この回歸線を經過せりアンクルベクウエ

ンに近づけり明日の朝に同港に到着するが爲に殊更に速力を弱めて徐々に進行せり旗艦の航海長の談に依れば我等がマダガスカルマダガスカルの南端に到着すれば(浦鹽までの)航程の半ばを終らるものなりといへり
 アングルベクウエンアングルベクウエンに到着せば極東より新しき報知を得べしと思はる。同港は元來の獨逸國民に屬せり彼等其殖民地に居住する佛人よりも戦争に對して趣味を有する事深かる可しと思はる、コレヤ乗込の一水兵はマラリヤ病に罹れり此病氣が他艦に傳染せざる様にしたき者なり我が艦隊の衛生狀況は餘り宜しからず皆多くは一度病氣せざる者なし。天候不良なり風は強く波は高し此の緯度には屢々暴風雨ありとの事なりアングルベクウエン港に入るに先立ても恰もガブ入港の際の如く汽艇を下して前驅せしめ水の深さを測量せり此灣内は未だ充分に測量せざるなり船艦坐洲の憂なき能はず郵便物は既に集められたり此書面は明日早朝に投函する様に急ぎ認む可し。

十二月十一日 アングルベクウエンに向つて進めり。今まで尙ほ入港錨地に到着せず艦は極めて徐々として進航す坐洲を恐るゝが故なり風は益々強くなり波は後甲板を洗へり我等の希望峰廻航は風波なき時にても餘り愉快なる航海には非ざる可し。一時頃にいよいよアンクルベクウエンに到着せり各戰艦は皆な投錨せり然し各巡洋艦のみは外洋に居れり灣内狭くして投錨の場處なきが故なり甲板上に風を避くる物のなき處には立ち居るを得ず風力烈しく吹飛ばさる可し波浪は何處にも侵來せり汽艇は今も下すを得ず陸上と船艦との交通なし郵便物も發送せず此の時の風力は十點(風力を一點より數へて十二點まで算す)なりと聞かば御身は其の風の如何に烈しかりしやを察するを得べし、此處に郵便船の到着するは一年に僅か五回に過ぎずとの事なり或は然らんと思はる我が石炭船の一隻は此邊に

リパツ港よりアングルベクウエン迄の航路を示したるもの



て各艦に積込みて空船となり今歐巴に歸航す可しといふ其時は郵便を此船に依頼す可し。

十二月十二日 夜に入りて天氣少しく穩になれり汽船を本艦の舷側に接近せしめたり(石炭積込の爲に)然し風の烈しき爲に激浪汽體を動搖して船舷を破壊せり且つ我が艦の七十五密砲一門を折り挫きたり其外に擬門蓋を破壊せり是は別の物を以て取換ふるか又は修繕を爲さる可らず、大砲は運送船より豫備砲を取りて据附く可し要務益々多くならんとす郵便船は三日間當地に碇泊せり天候の爲にクープタウンに赴くを得ざるなり、英國より出でたる通信に據れば奉天に戦争ありしとの事なり日露兩軍の損害は五萬に達せり又同通信に據れば日本軍は強襲を以て旅順の一砲臺を占領し露軍は此砲臺を爆破し日本軍に三萬の滅亡を與へたりとの事なり凡て是れ風説に

過ぎず、陸上より通信あり曰く我が航路に當りて毎夜一汽船の外洋に出で探照燈にて其航路を照し來航船に追跡すと勿論是れ日本の雇船にて我等に追跡して或は我が艦隊に何等かの害を與へんとする者なるべし我が艦隊には先にも發狂者を出せり戰艦アリヨールの一士官も發狂せり運送船コレヤの水兵も亦發狂せり。英國の一汽船此處に入港したりしが今出帆せり獨逸の運送船は領地人民の反亂を鎮撫する爲に軍隊を輸送し來れり。波は尙ほ高く風も亦烈し各船艦互に交通杜絶せり郵便は遂に發送するを得ざる中に郵便船は出帆せる者の如し此郵便物を或は軍隊を輸送し來れる汽船に依頼するを得べきか該汽船は間もなく歐羅巴に歸航す可し然し萬事みな想像たるに過ぎず、我等は何の意義もなく此處に碇泊し居るなり風は尙ほ強烈なり依然として交通杜絶なり余はマライヤに赴かざる可からず。少し静かになりし如し然し昨夜は又も荒れたり少し鎮まりては又荒るゝなり。

十二月十三日 依然として碇泊せり非常の警戒を以て此處に碇泊せり探海燈は周圍の水平線に残る隅なく探照せり此處には我が艦隊と艦首を並べ二隻の嶋嶼巡航船碇泊し居れり英國船なり、地圖を開らきて何處を見るも假令ひ小なりとも英國の領地を見ざるなきは實に驚かざるを得ず此のアングルベククエンも往年英國領たりしなり後年英國は之を獨逸に譲りたるも英國は尙ほ二箇の嶋嶼を領せり到る處の各港に於て地方官は(或地方は表面だけなりとも)皆な我が艦隊に妨害を與へざるはなかりきアングルベククエンは我が艦隊の入港せる始めての獨逸港なり此處の地方官は甚だ親切なり。當港の衛戍司令官は云へり余は外交家に非らず而して敢て公然に露國艦隊の來航を知りたるに非ざるを以て同艦隊が陰に碇泊し居るなれば我が目には觸すと、然り余は忘却せり丁抹にも何等の妨害もなかりき

然し丁抹に在りし者の談話に據れば丁抹の人民は露國よりも寧ろ日本に對して同情を有し居るとの事なり。同國の政府は止むを得ず露國に扶助を與へたる者なる可し獨逸人は全く之に異なれり政府も人民も共に我が國に同情を表せり今後の事は知らざるも今までの事に就きては別に獨逸人を非難す可き事なし我等は尙ほ投錨し居れり何時まで碇泊し居るや知れず、陸上より英字新聞を持來れり(ケープタウン刊行)新しき報知は皆な悲しむ可き事のみなり、クロバトキンは依然として其位置にあり、新聞の所報に據ればクロバトキンは遼陽の戰爭後に三萬七千の補充を得たりとの事なり果して斯く少數なりしや第二軍の司令長官は哈爾濱に到着せるばかりなり是れ一軍尙ほ存せざる事を意味する者なり又カウルパールス將軍が第三軍司令長官に任命せられたる事を知れりカウルパールスは甚だ無能なる將軍なりとの風説なり、旅順に於て日本は全港灣の死活の運命を制する程の何れかの山地を奪取せり、灣内にて發射するも無益なれば至急出港の準備を爲せりとの事なり是れ英字新聞の所報なり是れ皆な如何に悲痛なる事柄のみぞや露國の事遂に茲に到れるか、郵便物を持ちて上陸せる士官等の談に依れば居住民は十數名の獨逸人と他の歐羅巴人に過ぎずとの事なり、我が士官等は獨逸が内亂鎮定の爲に歐羅巴より輸送し來りたる軍隊を見たり軍隊は一千二百人なり獨逸の將校中に露語に通ずる者二人あり一人は最も巧みなり當地にては一般に英國人に對して悪感情を有せりと聞きたり英國人は今此處に獨逸人が鎮定に來れる反亂民に兵器を供給せりと云ふ彼等は到る處に總ての事に對して破壊を逞うせんとするなり、風は依然として烈し我等は碇泊して天候の恢復を待ち居るのみなり嗚呼錨地は得たるも不都合に不都合のみなり今マライヤ及びメテオルは無線電信にて報じて云へり兩艦は非常に機關を破

損して他艦の補助あるに非ざれば自ら繰縦するを得ずとカムチャツカの補助を要するも之に着手する事を得ず。

(十三) 獨領に碇泊中の困難

十二月十四日 昨日の夜十時より午前一時までの間に汽艇に乗じて諸艦を巡視せり是れ全く一の旅行なり天候は甚だ不良なり波浪高く風荒く波の飛沫を浴る程なり風にて波浪を飛ばして海一面に霧の幕を以て覆へるが如し、汽艇は烈しく各艦の間を往來し其艇首に波を浴び海水瀑布の如くに汽艇に入り海水の飛沫我等の目に入りて觀視に困難なり汽艇の動搖激烈にして其推進機が間々水上に露出して空中に廻轉せり加之夜は眞暗なり余は某船に乗り移りたる後カムチャツカに赴かざるを得ざりき、夜は眞暗にてカムチャツカは何處に在るやを知るを得ざりき同艦を尋ね廻りたり同艦は他艦よりも一層遠く陸岸を離れて碇泊せり同艦周囲の海上の出來事は能く筆紙の盡す所に非らずカムチャツカに移乗するを得ざるのみならず同艦の舷より種々の物品を入れて吊り下げたる袋を受取る事さへ出來ざりき余は雨具外套を着したるも尙且つ全身濡鼠の如くなれり端艇より艦に移乗するは實に非常の苦痛なりき汽艇は激浪の爲に動搖せられて恰も舞ひ狂へる如き狀を爲し居れば汽艇の破滅を意とするに非ざるよりは船艦の舷側に艇を乗り近づく事も難し勿論梯子なども其用を爲さず只艦より引き下げたる繩梯子が艇の上に来りたる瞬間に之に引掛かる一事あるのみなり其の刹那に手若くは足を脱せんか海中に陥さるゝを免れず其の海中も艦の舷と艇との間の海中なれば推進機にて壓着けらるゝか又は

打たるゝを免れざるなり或は沙魚の餌食となるやも知れざるなり。昨日一士官は斯の如き場合に海中に落ちたりしも幸ひに海水を浴びたるのみにて無事なりしは實に幸運なりき、余もカムチャツカに乗り移る爲めに此の冒險を爲し本船より下げたる繩に取附くや否や艇は余の脚下を離れ去りたり余は水の上に吊り下りたり昨日の事は實に忘れんとして忘るゝ能はざるなり今日は少しく靜穩なり。

海は尙ほ靜かならず余は汽船ラウエンタレルに赴かざる可らず同船に破損を生じたるなり幸に同船に乗り移るを得て其損所を見るに之を修繕する爲に尠くも一時間を要す可し又漸くの事にて汽艇に移りたり汽艇は動搖甚だしく波に球の如く翻弄せられ海水は瀧の如く流入せり幸に本船の舷側を離れたるも本船より投下せる網の端は汽艇の推進機に搦まれり一時は進退谷りたるも幸に網は推進機より脱し非常の注意を以て速力を減し徐航してスワロフに歸艦せり余が汽艇より本船に一條の綱に吊り下りて乗り移る際に小言をいひながら此の危険なる曲藝を演せしかば此の様を見て誰やら「若し君の妻君が見なば如何ならん」と云ひし者あり實に危険千萬なりき、今日當地の知事は我が提督と朝食を共にせり知事は小汽船アレルトにて我がスワロフに來航せり知事の談に據れば當地にて斯る暴風は普通の事なりと云へり。余は周圍の境遇に全く厭きたり深く厭忌の感を生ずるに至りたり人々は皆な云へり我等の航海は全く特別なる航海にて甚だ困難なりと然り全く特別なる航海なるも余は海の「美觀」にも全く厭きたり願くば一日も早く此の航海を終りたき者なり余は今後一生涯船に乗らず海上の生活は實に嘔吐を催す程嫌やになりたり、家郷を離れての生活は總てが不規則なり右を見ても左を見ても破損挫折又は修繕などの出來事ならざるなく四邊たゞ破壊を見るのみなり、余が時として一種の感情に

うたれて筆を取る事さへもあるは既に御身の讀める所なる可し斯の如き状況の航海を爲すは智慧ある仕事にあらす今この事は萬事に於て歴々と認めらるゝなり。

十二月十五日 今日七時に起床せり今日は石炭船タルトムンドに赴かざる可らず同船はオスラビヤに近附きたる際に水線下に破孔を穿たれたり海は全く静かになれりオスラビヤも浸水せりとの事なり同艦にも赴かざる可らず、今日始めて海中に遊び居りたる願鷺(鶉の類)を見たり獨逸遠征軍司令官並に駐屯軍司令官は我が提督に會見の爲に來艦せり提督自らは答禮に赴かれず旗艦の艦長を遣はせり。**アリヨノル**は錨一箇と錠鎖四十サーゼン(サーゼンは我が七尺強)を失へり今四爪錨にて掃索中なり沙魚を恐れて潜水夫を入れず**カムチャツカ**の機關に又も何か故障を生じたり。

十二月十六日 **カムチャツカ**は石炭船より英字新聞を得たり同新聞の傳ふる所に依れば地中海航行の我が艦隊が蘇工海峡通過の際に紅海或は蘇士附近に於て日本艦隊に襲撃せられ我が船艦は損害を受けたりとの事なり是れ固より新聞の虚報なる可し、**ローランド**は昨日外洋に出でたり是れコレラにて死したる一水兵死骸葬送の爲めなり今艦隊は一切の燈火を滅し全くの暗黒にて航進す可き命令を與へられたり先きにも燈火を消したる事ありしも悉く皆消したるには非ざりき船艦通行の最も必要な明示を止められたるなり今は此の明示の必要なきに至れるなる可し此處より明日拂曉出帆と決定せられたり。

我等は是より**マダカスカル**に到着する間の航海途上に如何なる偶然の事に遭遇すべきか其の偶然の出來事の何たるかは實に想像の外なり今日は終日車を廻す栗鼠の如くにグル／＼奔走せり**ポロチノ**、**アリヨール**、**アレキサンダー**等の諸艦に赴きたり**ポロチノ**には例の如く諸艦よりも永く止りたり、**ポロチノ**の一士官石炭庫の穴に陥り脚を負傷し今臥床し居れり**ポロチノ**に赴きて何時も同艦乗込員の余に對する同情の深きに感ぜざるを得ず余は幾度か此の事を記せり余は何時も同艦に至る際には喜び勇みて赴けり各艦の汽艇總掛りにて**アリヨール**に錨と錠鎖の搜索に助力せり今日三時に是を尋ね得たる由再三潜水夫を下したりといふ。

十二月十七日 **アングル**、**ベクウエン**より**マダカスカル**に向ふ途上に在り夜の四時に漸くの事にて寢る事を得て七時に起床せり昨日黎明に出帆するするの用意を爲したるも間もなく濃霧起りて朝の十時まで出帆するを得ざりき濃霧の晴るゝや否や艦隊は直に拔錨に着手せり、夜一隻の斯克那船來港して艦隊の附近に投錨せり同船は英國旗を掲揚せり鳥糞積載の爲めに此處に入港せりとの事なり我艦隊の此の次の錨地は**マダカスカル**の一小嶋セントマリーの附近と豫定せられたり此一小嶋は**マダカスカル**の北東岸の附近に在り今度の此の大航路の航程に我が艦隊は果して如何なる事に遭遇すべきか。

(十四) 喜望峰廻航 マダカスカルに向ふ

十二月十八日 今日略式の奉神禮(祈禱)ありたり我が艦隊と同方向に航進し行く一隻の汽船あるを遠く認めたりマストの上より僅に其汽船の煙筒と二本のマストを望見するを得たり此の汽船はセントヘレナ嶋より來れる汽船なるやも知れず或は又我が艦隊は此の汽船より意外の事を受くるやも知れず最初は只僅に其煙筒の煙りにて之を認めたるも今は艦體を望見するを得たり。我が船艦の附近海上

に間々何樹にや葉と枝などの浮流するを見たり海は風ぎ居るも波浪は巨大なり天氣は悪しくなるべしと豫想せられたるも今尙天氣よし**アウロラ**は機關を損じたるも今は修繕を終へたり今日**スワロフ**は十五分間片舷の機關のみにて航進せり他舷の機關には何處かの鐵栓を曲げたり、始終厄介をのみなし居る**マライヤ**さへも先づ無事に航進せり同艦は**アングル**、**ベクウエン**に碇泊中に修繕を加へたる者なる可し、夜八時我が艦隊と同航路に向ひ遠く離れて航進し居るその一汽船は我が艦隊を超越して**ケーフ**タウンに向ひて前に進み行けり。

十二月十九日 嗟實に十二月の十九日(露皇帝の命名日)となれり實に思はざる意外の地にて此の日を迎へたり余は**クロンスダット**にても彼得堡にても又**ツアルスコエ**、**セロ**、**タシケント**若くは**ボルタワ**に乗込みて**ゴフランド**に於ても此の祭日を迎へたりしが今は喜望岬にて之を迎ふる事となれり、**阿弗利加**の南岸にて此の祝日を迎ふべしとは夢にも想はざりき、今日は奉神禮儀並に感謝の祈禱を執行し各艦よりは祝砲を放ちたり若し知らざる者が此の大砲の音を聞かば新聞紙上に必ず戦争ありたりとの記事現はるなるへし未だ喜望岬に到らず。

今**ケーフ**タウンに向ひて大洋を航進す所謂**阿弗利加**南岸の机山を望見す此の山は最も高き山の一なり、大洋の波浪は實に巨大なり船體の動搖漸く甚だし**ナヒモフ**及び**ドンスコイ**は特に烈しく傾動して左右兩舷に傾斜する状は見るも恐しき程なり是に依りて余は大洋の波濤に關する一の思想を得たり此波濤は普通の波浪に過ぎざるも風なき浪にて其原因は數日前に吹きたる風にて起されしもの、所謂餘波なり風は風ぎても海は數日間荒れ居るなり波浪は高くして且つ長し波浪の寄せ來る時は宛然海水の

山脈を見る如き状あり此の水の山は甲板よりも高く上がるなり波浪の高さは間々七十フィートに達する事ありといへり是れ自ら實驗せる旗艦の航海長の談なり書物には波浪の最高程度を四十三フィートと記せり若し船體が其波浪の上に乗上ぐる事を遅れなば其の巨濤の水は甲板を洗ひ去る可し若し天氣良好ならんには我が艦隊が喜望岬及び**アグリアス**一言にいへば**阿弗利加**を廻る時に波浪は敢て増大せざる可しと願ふは斯くありたし人々は皆な喜望岬の附近の天候を恐れ居るなり喜望岬附近の航海の危険と何時も荒るゝといふ事は余が幼時讀みたる書籍に依りて此想像を心中に遺せり、日中我が**スワロフ**の甲板上に於て水桶の遊戲を爲せり此の遊戲の仕方は左の如し先づ水を入れたる桶を高く吊し其の桶に穴明けたる短き板を附け置くなり遊戲者はこの桶の下に行きて長き棒にて桶の下に附したる板の穴を突くなり其の穴に突き當る事甚だ稀なり多くは棒が穴に當らずして桶を衝くを以て遊戲者は其の水を浴るなり我が艦隊は海岸近く航進す海岸は山岳重疊として暗澹たる光景にて更に樹木を見ず机山は高く且つ峻はしきを以て他の山嶺に異なれり其峻はしき事は恰も山を切り割りたるが如き光景なり是れ机山の名ある所以なり喜望岬は不定形なる堆壘の巖崖なり其處に燈臺あり此の岬と**ケーフ**タウンを通過せり、夜**アグリアス**の岬に達す可し是れ**阿弗利加**の最南端なり此處にも同じく燈臺あり此處を過ぐれば即ち太平洋を出で、印度洋に入り茲にて我が艦隊は一洋を過ぎたるも尙は一洋——即ち印度洋と太平洋とを殘せりといふ可きか距離よりすれば我等は今彼得堡より最も遠隔せる距離に在り今迄は距離の上よりすれば始終日本と遠隔するのみなりしが是れよりは次第に日本に接近し行くなり、**ケーフ**タウン附近に於て米國旗を掲げたる四本マストの巨大なる帆船に邂逅せり同船は我が艦隊

に向て進行し來れり海上は今尙ほ静かならず巨濤は依然として我艦を動搖せり。今ナヒモフ、ドンス
コイ等に乗居らば決して心地好からざる可し。

（十五） 馬島に集合の豫定暴風中怪船の追尾

十二月十九日の續き 三隻の怪しきスクナー型船の我が艦隊に向ひて航進し來るに會せり天氣は荒れ出せり、一時間を経なば我等は彼得堡と同一經度に到るし此處と彼得堡とは時刻も同一なり即ち同じく十二時なり海は非常に荒れ出せり阿弗利加は暴風に逢はずに廻航すること難しと見えたり斯の如き風波にては恠しきスクナー型船に對して運動する事も難かる可し、又我が艦隊と同一航路を取りて追尾し來る一汽船あり同船は最初燈火を揚げ居りたるも今は燈火を見ず、今までは月光ありしも間もなく月落ちて全くの暗夜となる可し此時に當りて如何なる危難の襲ひ來るやも知る可らず、我が提督は**レーズウイ**の如き小驅逐艦を艦隊に加へて伴ひ行く事を欲せざるなり小驅逐艦の一部の士官は他の船艦に移さる可し運送船**マライヤ**及び**クニヤズ**、**ゴルチアコフ**も同じく**マダガカスル**より露國に歸還せしめらる可し是等運送船の機關は何れも不完全にて始終厄介なり、**マダガカスル**に於て全艦隊は補助巡洋艦の諸艦と共に集合す可し、我が艦隊に追尾して一汽船の進行し來れるあり、同船は燈火を消したり是れ決して物好きに爲す行動に非ざる可し最初斯の如き報知を聞く毎に余は胸騒ぎしたるも今は其様な事なし勿論是れ大に恐怖を起さしめざるに非ざるも以前の如き事なし是れ何故なる可きか或は神經の遲鈍と爲れるにや。此處は今夏なり然し其にも關せず此處には南極より昨冬の氷塊を漂流

し來れり故に夏期中に此處の海岸に氷塊を浮流し來て其が巨大なる氷山を成し間々水面上に百フィート位の高さに達する事あり、

十二月二十日 書面を認めんとて机に向ふや否や妨げられて認むるを得ざりき機關に不整なる音響を發せし時即ち推進機が急激に一度に廻轉を始めし時に異様の感に打たれたり是れ波浪の爲に推進機の上なる水嵩を減じたる時に推進機の廻轉に對する水の抵抗力を減じたるに原因せり推進機が全く空中に現はるゝ事あり。

波浪は依然として巨大なり、始終我が艦隊に追尾し來れる汽船は今その影を没せり該汽船は夜に入りなば又再び何處にか現出す可し、風吹き荒みて巨大なる波浪は更に高くなれり然し波浪は順風なれば激浪も船尾より襲ひ來れり山の如き波濤が天空を摩するが如くに起ちて上甲板の上に襲ひ來るなり船體は非常に傾動し始めたり夜に入りて若し風力いよゝ強くならんには或は烈風になるやも知れず然し順風にて幾分か幸ひなり我が**スワロフ**は快速に進航せり傾動甚しからざるに非ざるも逆風に向て進航する時の如くに甚しからざるなり余の私室にも他の多くの士官私室にも甲板は皆な海水なり今我等は皆な脚を折曲げて踞坐せり此の海水の士官私室に入るは明窓の閉鎖が不完なると粗惡なる摺合はせをなせる水線上の舷より浸水し來る者なり舷側を打つ怒濤の音響は恰も大砲を發射せる如き音をなせり此天氣は實に日本艦隊も我を襲撃するを得ざる可しと思ふ程の光景なりき、勿論日本人は其汽船より水雷を發射するを得ざるに非ざる可きも斯の如き海の荒れ方にては其の水雷が命中するを得るや否やは疑はし汽船より射撃を爲すが如きは固より思ひもよらざる事なり**スワロフ**、**アレキサンター**、**ボ**

ロチノ、アリヨール等の諸艦には多くの不完全なる點を發見せりスラワ建造の際には此の缺點を除去するを得べし。

(十六) 尙馬嶋に進航中益々風濤に困む

十二月二十一日 昨日は實に非常の荒れにて願はくは二度と斯の如き天候に遭遇せざらん事を今日は黎明の頃は風ぎ居りたるも後ち再び烈風となれり風力は十一點に達せり甲板上に起立し居るは困難なり船の周圍は右も左も怒濤の山にて圍みたる如く波浪益々高くなれり波浪の高さ實に四十フィートに達せり十二時頃には益々怒濤高く三四時頃に至りて海波の狂嘯既に其極度に達せり余は其光景を描出するの美辭的の言筆を有せず我がスワロフは動搖甚しく船體ギョームと唸るが如き響きを爲せり到處に防水の準備を爲したるも尙且つ海水は諸處に侵入せり甲板に流れ込む水は宛然瀧の如き狀を爲せり室内は息苦しく居るに堪へざるに至れり空氣は縦ひ不潔にあるまでも恰も蒸風呂の中に在るが如き様なり海水は砲塔にまでも打込み機關室より全甲板上は一處として海水の侵入せざる所なし甲板上は歩行に難く波浪の爲に船より外に洗ひ流さるゝの虞あり波は砲塔より艦橋までも打込み風は益々烈しく船は愈々動搖す波は陸岸を洗ふ如くに船に浸入す、前方を眺むれば目前に横はるものは狂瀾怒濤の巨壁なり船桁に吊したるカッターは激浪の爲に粉碎せられ海中に投棄せられたり波濤の如何に猛烈なりしやは之を左の事に徴して察するを得べし、スワロフの後續艦はアレキサンダーなりきアレキサンダーが激浪の爲に高く上げられし時我がスワロフより往々アレキサンダーの衝角を見るを得

たり又時としてアレキサンダーの艦首が波底を離れて空中に出で其艦尾のみが波浪の上にある事ありて其時にはスワロフよりアレキサンダーの甲板全部を見るを得る事ありたり余は此の狀を看たる時に最初は自らも之を信せず是れ夢を見居るに非ずやと思ひたりポロチノは最も能く激浪に堪へたり。烈風益々その威を逞うして若し戦艦にても巡洋艦にても其一隻が機關を損し若くは舵機にても損したらんには遂に滅亡を免れざるべき程に甚だしくなれり他艦より補助を與ふる如きは固より思ひも寄らざる事なり斯の如き場合となりては各艦みな自艦の事を慮るのみなりローランドは遂に始んと激浪に堪へざる如き狀なりき波浪は益々猛烈を極めて同船に注ぎ入りたりローランドは波浪の浸入を免るゝが爲に速力を加へて猛進し遂に我等の視界より隠れたり、暴風も追風にて波浪も艦尾より襲ひ來りしは饒倅この上もなかりき若し斯の如き激浪が艦首若くは横舷より襲ひ來りしならんには果して如何なる運命に遭遇せる知るや可らず。

五時頃にマライヤは機關の一部に損所を生じたり同艦は停止したるが波浪の上に横になりて反轉せり此の憫むき狀を御身に目撃せしめば果して如何なる可きかマライヤが海底に沈没せんとする狀を全艦隊が認め居るも何等の助けをも與ふる能はざるなり其の傾動甚だしく始んと水線下の舷側を全部露出する如き事もありたり波浪は相重なり相追ひて船の上を越せり同艦隊は少しにても自ら爲あらんと欲して小なる帆を掲げたるも何の効もなかりき、全艦隊は速力を減せずマライヤの側らを進航して機關修繕の事を勧め又險惡なる天候の恢復を待たん事を勧めたり、此時よりマライヤを見失ひたり其存亡も今は知るを得ずマダカスカルに到着するまでは何事をも知るを得ざる可し前途果して如何なる可

きや印度洋も我が艦隊に取りては一難關なり今日も再び天候の險惡を氣遣ひたるも今の處は左まで甚だしからず昨日の如き烈風は此の地方に一週間も續く事ありとの事なり、今夜暴風少しく風ぎたる時に雨降り出して暴風雨となりたり然し暫時の間なりき此の降雨なくも我等は可なりに濡れたり。

昨日提督の食堂にて朝飯の際に面白き事ありたり人々皆な順に列席せり此の時波浪は上甲板を打越したり提督の食堂の戸口が未だ鎖されざりしかば海水は瀧の如く食堂に侵入せり列席せる者は皆な一整に足を締め水兵が水を掻き出すまで皆な足を締め居りたり。余は曩きに御身に書して我等は彼得堡と同じ經度を通過したりと云ひたるは誤りなりき我等は今日の朝八時に同經度を通過せり。

(十七) 又も風聲鶴唳全艦隊の警戒

十二月二十二日 風波は次第に風ぎたり本艦は靜かに傾動せりスワロフには佛人の料理人並に同じく佛人のスチュアード乗船し居りたりしが此の料理人はウイゴにて船より上陸して遁げ去りたり此に於て賄方を料理人となしたり艦内の者は皆な此の新しき料理人に小言を云ひ居りしが遂に彼を放逐する事に決定せり一人の士官が賄室を監督する事となしマダカスカルに於て料理人を上陸せしむ可し。追風と共に伴ふ波浪の爲に艦隊はマダカスカガル附近に到着せんとする豫定よりも餘程早く到着す可し。

十二月二十三日 我がスワロフは靜かに尙は傾動し居るも風は全く風ぎたり八時三十分頃にポロチノは艦列を出でたり何か舵機に損所を生じたり然し同艦は艦隊より遅れずに並行し航進せり今全く修繕したるが如し我が錨地たる可きセントマリー嶋迄は尙ほ一千四百哩あり途中安全ならんには同地で六日乃至七日にて到着す可し、始終夜間にはマライヤに知らずる信號を爲したるも同船の事は更に消息を得ず若し同船は難破せざりしとせば艦隊よりは遙かに遠方に在るなる可し同船の速力は至つて不充分なるを以てなり、マダカスカルに到着せば同船の消息を得らる可し。

十二月二十四日 夜スワロフの石炭庫より出火せり出火のある船艙内に蒸気を漏洩せしめて忽ち火事を消し止めたり。萬事好都合にて完全なりき今日は風風ぎたるも巨大なる波浪は尙ほ高し明窓は開くを得ずアリヨールは舵機機關を損じて列外に出でたるも速に修理して艦列に入りたり、今日艦旗を降す前に地平線上に煤煙に似たる雲の如きものを認めたりマライヤが艦隊を追ひ來れる者と想へり心配は無用なりき、カムチャツカは粗惡なる石炭の爲に充分の蒸気を出すを得ずとて艦隊に遅れたり同艦の艦長は信號にて粗惡石炭百五十噸程を投棄する事の許可を請へり提督は蒸気の降下は謀反兵の所爲なりと認め石炭の投棄を許さず却て惡謀者を舷外に投棄す可きを命じたりカムチャツカの出來事の終るや否や他艦と共に動かすに止り居りたるスワロフは舵機に破損を生じたり兎に角に修理して航行するを得たり。

十二月二十五日 今夜意外の事ありたりカムチャツカと信號にて通話せり同艦は其の速力の事の信號を掲げたり然るに我が艦の信號兵は之を解して「爾は水雷艇を認めたるや」と解釋したり茲に於て當直將校は全艦の士官を起して急を告げ、間もなく水雷艇の襲撃を被むる可しと告げたり全艦に警戒を與ふる喇叭太鼓等を打鳴らして忽ち警戒騒動を惹起せり。強風吹き起れり又も恐しき暴風の襲ひ來ら

んとするには非ざるか既に海岸近く進みし事なれば我等は少しも風の事に注意せず只た風力と風の方向如何のみに専ら注意せり、マダカスカルに於ける我等の碇泊地までは若し途中に何事もなくんば四日間の行程を遣せり今まではマダカスカルに向ひて豫定よりも早く航進し居れり是れ近頃までの追風の賜物なりマダカスカル巡洋艦クバニも我が艦隊に合す可し同艦は我等に遅れて露國を出帆せる船にて同艦は我等に追尾し來れるも我等は今日に至るまで未だ其艦影を認めず、又多分同島に於て蘇士を通過し來れる艦隊も我等に合す可し、天候は荒模様なり波浪は亦も高くなれり、大西洋は始終靜穩なりしが印度洋は始終風波のみなりマダカスカルの以東は印度洋も靜穩なりとの事なり室内の空氣を清潔ならしめんと欲するも一分時間も明窓を開くを得ざるなり旋風機の働きは甚だ薄濁なり。

（十八） 乗員の絶望的慨嘆マダカスカル碇泊

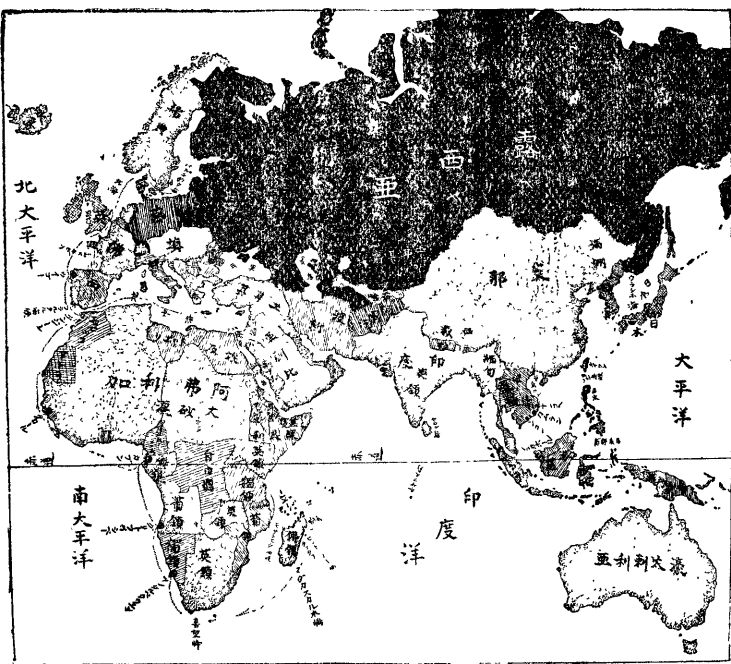
十二月二十六日 今日終日雨降りなり運送船メテオルは何故にや停船せり同船は淡水運送の任務を執れり戦闘艦巡洋艦等は何れも自ら淡水を作るも屢々この給水船の補助を要する事あり給水船は常に他の運送船に給水せり然るにメテオルも他の諸艦と同様に充分汽鐘に蒸汽を満すを得ざる粗悪なる石炭の爲に大に迷惑せり、風波は益々荒くなれり或者は之を以て地方的暴風となし或者は之を以て定期的暴風と爲せり若し船舶が此の定期風の中心に會したらんには特に其の困難甚だしかる可し昔時の帆船は此の時風に會せば難破を免るゝ者稀なりしなり時風は汽船に取りては帆船の如くに恐る可きに非ざるは勿論なるも而かも幾多の困難なき能はず、今夜は全くの暗夜なり満天黒雲に鎖されて雷雨

或は近く襲び來り或は遠く彼處に去れり。

十月二十七日 昨日は定期風(時風)にて風波烈しかりき一時まで甲板に居りたり朝になりて風は漸く風ざたり今マダカスカルの東岸に沿ひて三十哩の沖を航進す陸岸は明かに望見するを得たり陸岸は岩石重疊して險岨なり十一時過ぎにスワロフの汽鐘室に於て蒸汽管を破裂せり蒸汽漏出して汽鐘の火中に入りたり機關兵の一部は石炭庫に遁れて汽鐘室の戸口を閉鎖せり又室内に残りたる火夫は他の方法にて其の難を免れたり。

十二月二十九日 セントマリー嶋附近に在り陸上より通信を得たり公言するを憚る如き通信なり旅順に在りたる船艦は悉く殄滅せりグロムボイは破滅せりクロバトキンは依然として奉天に止りて兵を閲せり、第三艦隊はリバフより出帆せり或は出帆の準備を爲せりといふ是れ果して眞實にや是れ果して何を爲さんとする者にや是れ或は全く喪心の結果に非ざるか斯の如きは御身が想像し得ざる程に侮辱ならざるを得ず、何處を見るも失敗と醜怪と又は妄愚と不平不和のみなるに非ずや、勿論御身は彼得堡に居る事なれば萬事を耳にせる事なる可きも此處には何も知らず居りて萬事を一度に知るなり故に勢ひ總ての事を一處に並べて考ふる事なれば自ら慄然たるざるを得ず、嗟一の光明なる點もなし周圍は皆な暗黒にて光明の影もあるなし、嗟我等の事業は不利不良なり甚だ不良なり、ローランドは我等の錨地より一百露里を隔つるタマタフ市に赴けりケーブタウンより病院船アリオル來航して新聞を持來りアリオルの士官等の説に依ればケーブタウンには市中に於て最も多く露語に通ずる者ありとの事なり是れ露國より遁れ來れる猶太人なり同市には猶太人一萬三千餘も居住せり彼等の多

くは皆な兵役の義務を免れんとて露國より遁れ來れる者なり猶太人等はアリヨルを見物せんとて群集せり警官に依頼して彼等を散せしめたり。タマタフ市に赴きたるローランドは電報にてマライヤの來着せる事を報せり此處に瑞西の國旗を掲げたるスクーナ船來着せり海を有せざる國の船を見るは甚だ奇怪に非ずや。マライヤは來着せり艦隊よりせる通信にも間々信す可らざるものあり一例を示せば今日タマタフより我が艦隊はドルバン附近に於て石炭を積込みたりと電報し來れり是れ全くの虚報なり斯の如き電報を發し來れるは是れ英國人を騒がし彼等をして之を調べしめんとする目的より出でたる者なり一言に之をいへば英國人が中立に反せざる事を自ら辯護せしめんが爲めなり。アリヨルはケーブタウンよりノーオエ、ウレミヤ新聞並にビルゼーウイ



マダガスカル迄の航路を示したる圖

ヤ、ウエドモスチ新聞を持來れり我等は非常の渴望を以て之を讀みたり。我が艦隊はマダガスカル嶋とセントマリー嶋の間に碇泊せり今日セントマリーの陸上より同嶋の一方の海岸に何れかの汽船二隻碇泊し居る事を信號にて報知せり我が艦隊に電報を發したるは此の汽船に非ざるか是れ日本の巡洋艦なりと想はるローランドの爲に心配せり同艦は歸り來らざるなり、若し此處に日本の巡洋艦碇泊し居れりとせば彼等は忽ちローランドを拿捕し之を撃沈する事難からず、蘇士を通り來れる自國艦隊はマダカスカルのモザンビク海峡(西岸)に碇泊するに非ざるか未だ同艦隊の事に就ては何等の報知をも得ず。

十二月卅一日 今我が提督並に參謀將校數名はセントマリーに上陸せり余は上陸するを欲せず此の機會を利用せざりき我艦隊の爲に食糧軍需品を運送し來れる汽船エスベランスは今日に至るも尙ほ來着せず同船はアングルベクウエンよりケーブタウンに赴き同地より此處に來着す可き筈なり、此マダカスカル近傍に長期間碇泊するやも知れず碇泊期日は我が艦隊より彼得堡に發したる電報に對する返電の如何に依りて決定せらる可し明日此處に佛國の一汽船來着し郵便物を集めて來月三日に出帆す可しローランドは未だ歸り來らず他の諸艦は何處に在るや不明なり。マライヤを露國に歸還せしむる問題は全く決定せられたり同艦は紅海を経て還航す可し同艦の積載貨物は悉く他の運送船に積移したり同艦は艦隊より患者並に疲弱兵を收容して蘇士を経て歸還す可し先づ是にて艦隊は一の重荷を減じ得たる心地す。

一月一日(露曆にては十二月十九日)

今日セントマリー島に上陸せり我等の散歩は先づ漸くの事

にて陸岸に到着するを得たる事を以て始められたり、海は風波甚たしくカッターは激浪の爲に非常に動搖せり全身濡鼠の如くなれり我等は出帆し來れる事を後悔せり此地方の風土の光景はガブندگان地方と大同小異なり何處を見ても熱帯植物甚だ豊かなり住民の風俗は全く別なり此の地の住民はガブندگان等の土人に比すれば衣服を纏ひ居る者多し佛國人は此の地の住民に信用を置かず此の地の兵卒は皆な他地方より募集せられたる者のみなりマダカスカルに於て近頃土人は二名の歐巴の士官を殺害せり我が艦隊が此處に來着せる時土人等は殺害事件の爲に彼等を罰するが爲に來れるものと思像し或る土人等の如きは遁逃せる者さへありたり、セントマリー島はマダカスカルに取りては宛もサガレン島の如しセントマリー島には二箇處の監獄あり一は國事犯者の監獄他の一は刑事犯罪者の收容所なり、此處の黒人に最も奇とする所は其歩行態度なり彼等は歩行するに何れも身體姿勢を正しくし尊大に構へて歩行せり余は海岸を散歩し一村落入りて舊教の會堂に入りたり、今日は新曆の元旦なり住民は何れも禮服を着せり村落にて甚だ奇麗なる貝殻六箇を一フランにて買求めたり海岸を徘徊して貝殻五十箇を集めたり其の中の一個は直徑六吋乃至八吋あり散歩中も海岸を遠く離れて碇泊し居る本船まで風波を冒して(風は尙ほ烈し)カッターにて乗り行かざる可らざる事を想像して幾分か不愉快なりき。

本艦に歸還するや否や意外にも今來着せるばかりなるエスペランスに赴かざるを得ざる要事生じたり風波は益々高くスワロフに來訪せる二名の佛國人は陸に歸るを得ざれば艦内に一泊するなる可し彼等の乗り來れるカッターの水兵なる黒人等は我が乗員と同室に宿泊する事を許されたり此の偶然の來客は我が水兵等に非常の愉快を與へたり、朝にローランド歸り來り左の如き報知を齎らせり、マダカスカル附近に於て怪しき一隻の汽船と日本の驅逐艦とを目撃せり日本艦隊の一部は新嘉坡に來れり又フエルケルザムの艦隊がノツシベに來泊せるを目撃せり、彼得堡よりタマタフに未だ返電を得ず、明日佛國の汽船は此の返辭を齎らすならんタマタフに於て我が將校等は非常の歓迎を受けたり同地にては露國艦隊の來泊を祝する爲に料理店の魚にさへも兩頭の鰲と我が國旗などを形取りたり。

(二十九) 敵なきに戦闘準備

一月二日 今日早朝に起床せりエスペランスに赴かざる可らず又も濡れて靴も上衣も着代へざる可らず昨日濡したる衣類の乾きたるは幸ひなりき、佛國人數名は歸れり電報をも託したり又彼等に書面の發送なども託したり余はエスペランスに赴きしたため書面を委託するを得ざりき、我が艦隊は遠からず錨地を他に轉ず可しノツシベに赴くや否やは疑はし、同地には投錨するを得ざる可し戦闘艦のためにも運送船のためにも灣内甚だ小さく不便なりエスペランスに於て肉類の貯藏所を冷却する冷却機を破損せり是れ大に悲しむ可き事なり肉類は皆な腐敗せるため鹽肉を需求せざる可らざるに至れり、四時汽船ヘルノスツコ來着せり、同船は彼得堡より何等の報知をも持ち來らず、六時に同船は既にチエゴ、スアレッツに出帆せり我が艦隊は明日拔錨して何れの灣にや北方に赴く可し、オスラビヤの火夫永眠せり今日五時に葬式ありたりオスラビヤは列外に出で半旗を揚げ弔砲を放ち遺骸を海中に葬りたり此の儀式の際に諸艦の乗員士官一同は正面に整列して樂隊は「名譽とならば」を奏したり。

今日無線電信班に於て一の電報を受けたり非常に遠隔せる地より發電せる者の如し何れの艦に於ても此の電報を譯解する者なかりき何處の國語なるやをも解するを得ざりき或は是れ曩きにマダカスカルに着したる我が艦隊の一部より發電せる者に非ざるか。

一月三日 タングタング灣に在り今日早朝拔錨してセントマリーよりマダカスカル附近のタングタング灣に來れり同灣は先きに碇泊せる地に比すれば最も安全なり、今夜始めて外部より見ゆる全艦隊の燈火を消したり到る所の隅々に哨兵立ち居れり皆な小聲にて談話せり最も注意して地平線上を望見せり、近く碇泊し居る諸艦の影は黒く朦朧と見ゆ大砲は何時にても發射するを得るばかりに準備せり舷側には波に動く水雷防禦網を見亦探照燈は忽ちに周圍を探照するの準備を爲せり四邊寂として音なきも士氣の揚がれるを感じ森として警戒せり。

一月四日 今日は巡洋艦クバニの來着を待ちたり明日は又蘇士通過の艦隊來着す可し。英字新聞の所報に依れば露國は伊太利亞並に獨逸に各種の船艦三十隻の建造を注文せりと事なり。無線電信班に於て得たる不明なる暗符に就きて今日ナヒモフ乗組員の一人之を解し得たりとの事なり、此の電報は日本の發信なりき此の電信は「露國艦隊は燈火を消してセントマリー附近に碇泊し居る」と報せし者なり、今日當地の某軍隊司令官なる佛國將校我がスワロフに來訪し艦内に一泊せり今日も防禦網を下し水兵を大砲の側に配備し汽艇並に各艦の搭載水雷艇は何れも海上に在りて自艦を警戒せり、當番外の三分の一の士官は甲板上に在り多くは好奇心にかられてなり夜は随分暗く天は半ばほど密雲に鎖されたり何處にや時々火光の閃くを認め又小聲にて談話せる者あり火光は陸岸より放なたれ海上より

も是に答ふる信號の火光を認めたりアウロラは報告して曰く同艦は其艦尾に當りて六箇の火光を認めたりと余も自ら海上に一度に四箇の燈火を認めたり、今夜は果して何事の生ず可きや襲撃を受くるやも知れず全艦隊の形勢何となく異様なり。艦内の燈火は皆な覆ひ隠されたり、黎明に巡洋艦は秘密命令を持って何れかに拔錨す可し想ふに石炭に關する事件なる可し。

一月五日 我が艦隊の前日の錨地に碇泊し居りたるマライヤは未だ艦隊に來り會せず、巡洋艦は出帆せりローランドは歸り來らずクバニも來らず蘇士通過の艦隊も同じく來らず、今夜佛國旗を掲げ佛人の乗組員を有するエスベランスに一の出來事ありたりエスベランスの乗員は燈火を滅して碇泊するを欲せず彼等はストライキを起して艦長を威嚇せり是れ勇敢なる佛人等が皆な襲撃を怖れたるものなり、今エスベランスは何處にか派遣せらる可し石炭船は來着せり何等かの報知を齎したり是に依りて我等は明日何處にか出帆する事となれり然し行先きは不明なり。同夜クバニはデエゴスアレツに在り蘇士通過の艦隊はノーズベールに在りとの事なり我等は明日同處に赴くものなる可し。

(二十) 旅順陥落の來報

一月六日 旅順は遂に陥落せり我等また何をか云はんや我等はタングタングよりノーズベールに赴く途中に在り旅順陥落の悲報はローランド之を齎したり同船は今日來着せり又六日に巡洋艦スウエトラーナ驅逐艦ビエードウイ及びポールドイの二艦は我が艦隊に合したり、ポールドイは機關を破損せりローランドは直に曳船をなして來れり此の外二隻の石炭船到着せり此の二艦はノーズベールに赴く可き

事を命せられたり。

一月七日 ポールドイは石炭の缺乏を通報せり艦隊は皆な停船しポールドイはアナドイリの舷側に寄りて同船より石炭を積み取りたり海上穩かにして何等の損害危険をも受くる事なく之を終りたるは甚だ幸ひなりき、今日は奉神禮並に感謝の祈禱ありたり基督降誕祭の爲なり祈禱終りて提督は乗員に向ひ簡短にして剴切なる一場の演説を爲せり、各艦は制規に従て皆な三十一發の祝砲を放ちたり、同夜ポロチノは海上信號器を以て左の通信をなせり曰く日没前に同艦の檣樓より我が艦隊と同一航路を取りて追尾し來る四隻の大軍艦を認めたりと其の中の三隻は引き返して艦影を沒したり残れる一艦には燈火を點じたり少時にして同艦は燈火を隠して航路を轉じ遂に隠れたり且つマダカスカルには日本の軍艦碇泊し居るとの通信に接したり夜に入りて非常を戒めたり我が航路と反對の方向に當りて燈火を認めたり皆な敵の襲撃を危懼せり運送船並に各戰艦に對して敵艦隊より襲撃を受し場合に如何に運動す可きやの命令を發せられたり巡洋艦スウエトラナはノーズベ碇泊の艦隊に差遣せられたり。士官私室は息苦しくして寝るを得ず朝の六時まで衣物を着たるまゝ士官室の長椅子に寝ねたり六時私室に移りて明窓を開きたり海水は卓を濡し寢臺にまで注ぎたり然し少しも邪魔にならず睡眠をも妨げざりき。今尚ほ前方に在るスウエトラナと今朝無線電信にて通信を交換せり且つ同艦はノーズベに碇泊し居る艦隊とも通信を爲せり。我が巡洋艦アウロラ、ドンスコイ、ナヒモフ等何れも同地に投錨し居る事を知りたり昨日我が同一航路の後方に認めたるはデエゴスアレツに在りたるクバニをも共にせる是等の諸艦なりしならんと想ひたり、今にして思へば其の想像は全く誤りなりき我等は未だ測量をもせられざる不明なる場處に赴くなり海圖には左まで重きを置かれざる者の如く水深さるも掲げられず、只廣く開きたる場處なるに我等の今航進するは甚だ狭き心地して或は淺瀬に坐洲の憂ひなきかを氣遣へり。

メテオルは專ばら淡水を積込みて運送船に供給し間々軍艦にも給水せりローランドは曳船を爲し且つ通報任務に當りて艦隊より少しく離れて航進せり同船は吃水の淺き船なり、タングタングよりノーズベに赴く途中に於いて、スウエトラナ、ビエードウイ、ポールドイの諸艦は我等に合したり、又たアウロラ及びドンスコイ、ナヒモフの三艦は我が艦隊より分離せり諸艦は三日前にノーズベに來着せる者なる可し今日久しき以前より着手し居りたる戰艦ポロチノ、アリヨール、インペラトル、アレキサンダー第三世並にクニヤズワロフ等に關する記録の草稿を終りたり此の草稿に尙ほ多少の校訂を加へて之を彼得堡に送達す可し多くの者は此の記録に不滿なる可し余は尙ほ是に依りて多く敵を作らざるを得ざる可し然し意と爲すに足らず一度決心せる事は之を斷行せざる可らず况んや此の記録は甚だ重要なるに於てをや。

七時にノーズベを出帆せる驅逐艦アイヌイ來着せり同港に在る諸艦は皆な無事なりとの事なり同驅逐艦は病院船アリヨールを錨地に導く可き事を命せられたり今我が艦隊は錨地より三十哩の地點に在り入港危険なる爲に終宵外洋に擊留し明日黎明を待ちて入港す可し通宵危険を冒して運送船と共に外洋に漂へり。

（二十一） 敗報に接せる「殘艦」尙ほ天涯に漂泊す

一月九日 艦隊は徐々航進せり即ちノーズベールより甚だしく遠隔せざらんが爲めに方向を變じたり、午後二時にローランドは信號を掲げ「乗員反亂す」と報せりビエードウイは反亂の鎮撫を命ぜられ若し必要と認むる場合には彼等を射撃す可しと命せられたりビエードウイは斯の如き全權を以てローランドに赴き直に乗員の反亂を鎮定せり其の原因は火夫が一名の病兵に交代する事を背んせざりしより此の事件を惹起せりとの事なり。昨夜は殆んど睡眠せず四時に臥したるも七時に起きたり我等は果して何事に遭遇す可きや。

極東に於ける我が戦艦の殄滅と旅順の陥落の後は萬事は根本的に一變せり、今や我等は極東に急ぐの必要なしが艦隊の進退を決す可き道は左の一を選ぶに在るのみ即ち或は我が艦隊は尙ほ極東に航進を續く可きや或は我が艦隊の日本の沿岸に赴く可き必要の來るまで何處にか無期限に碇泊す可きか或は又艦隊を露國に歸還せしむ可きか何れか其の一を選ばざる可らず、若し我等は何處かに碇泊して時期を待つ可しとせば我が提督は能く艦隊に止る可きか若し提督が辭任すとせば彼の幕僚は果して如何なる運命に遭遇す可きか。余は今坐して職務を取れり我が懐かしき小露西亞進行曲の音は響けり、明窓より眺むればノーズベールに着せるなり、甲板上に駆け上がりて珍しき風光を眺めたり灣内は波靜かにして周圍は山なり特に其中の二山は高き大山なり全山森林にて灣口に關門の如くに聳立せり太陽の炎熱燒くが如し、我が不幸なる祖國の殘艦は悉く灣内に集合せり樂隊は進行曲を奏せり我等は既に一

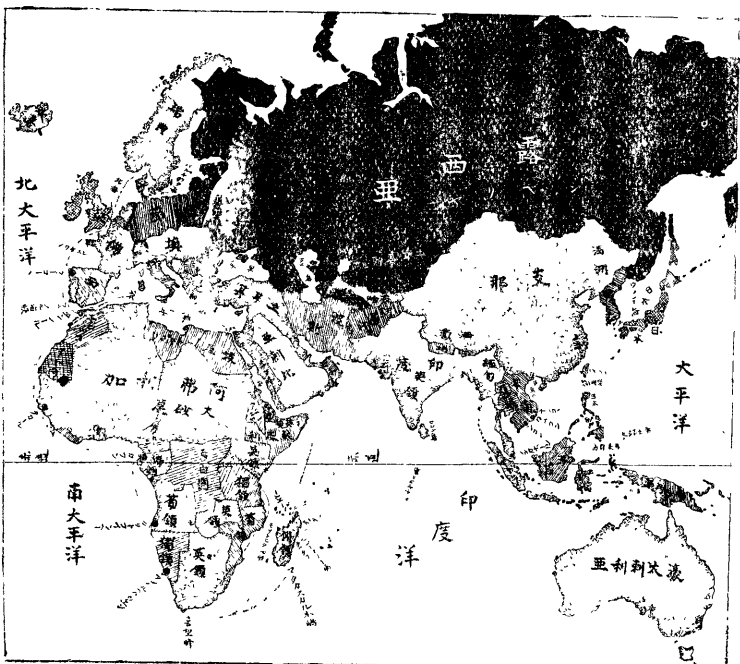
箇月前にタンジエールに於て別れたる諸艦と

此處に會合せるなり、露國のものとして存したる諸艦は皆な此處に集りたり、此等も亦何等の名譽もなく耻づ可きの滅亡を遂んとする者に非ざるか、艦隊は尙ほ尨大なり然かも何の利益かある尙ほ大なる戦艦ありたるも其等も或は破壊せらるゝに非ずんば悉く海底に沈没せり嗟我が諸艦は大海軍滅亡の大悲劇の最後的一幕を演せんとするものに非ざるか。

我がロジエストウエンスキー提督とフェルケルザム提督とは熱切なる友情を以て相會し互に接吻を爲して迎へたり、フェルケルザム艦隊の汽艇の水兵は何れの水兵なるやを辨別するを得ざりき彼等は皆な普通海軍帽の代りに熱帯地方に適したる帽を戴けり然るに我が水兵は皆な日覆の附たる海軍帽を戴けり、フェルケルザムとエンクウイストの兩提督は我が

敗報に接せる殘艦尙ほ天涯に漂泊す

ノバク港よりノーズベール迄の航路を示したるもの



提督の朝餐に招待せられたり、新しき報道に接したるも皆な不愉快なる事のみなり、此の地には電信も郵便もなし驅逐艦は郵便並に電報を發する爲にマユンゴに遣はされたり同市は當地より二百露里なり此處には歐洲人の居住者至つて僅少なり新聞には種々の風説を掲げて何れを眞とも信じ難し一通信の如きは實に愕然たらざるを得ざる報道を傳へ旅順は四萬餘の守備軍を以て降伏し其の中には約一千の士官ありと云へり、實に信せられざる話なり日本人の獲物は既に充分なり彼等は旅順に沈没せる我が軍艦を引揚げて其札に舊艦名を附したるまゝ其の軍艦を以て我等と戦はんとす。

（二十二） 本國在勤者を恨み他艦隊乗員を羨む

フエルケルザム提督は露國より書面も郵便も來らずと云へり同提督は本國の海軍參謀部に書信を遣はされん事を二回も電報にて請ひたるも參謀部にては其に對する返信さへも爲さざりしと云へり、既に二箇月も其の家郷の消息を得ざる此の八百五十名餘の士官に對して彼等彼得堡に坐せるもの共果して如何なる感想を懷き居るにや彼等は實に冷淡なり彼等は自己の爲めにさへなれば他人の事は既に問ふ所に非ざるなり。

運送船コルチャコフ並にマライヤは前途艦隊に伴隨せず之を露國に歸還せしむ可しとの事なり我が艦隊は從前通りの艦隊序列にて一月中旬にマダガスカルを出帆す可しとの事なり、ファイヌイの艦長來訪せり此驅逐艦には破損破壊の箇所甚だ多しとの事なり明朝同艦に赴き修繕の處理を命ぜざる可らず、我等の前途には一大航海の横れるあり何處にも寄港せず印度洋を横斷せざる可らず海上安全ならん

には二十日にしてスンダ海峽に到着す可し同處より日本には既に程遠からず果して如何なる可きや、我が艦隊も旅順艦隊と其の運命を同うせんとするに非ざるか、ノツシへの濱は長崎の港に酷似せりと
の事なり私室に閉居するを得ず甲板さへも靴の底より其熱さを感じる程に熱せり、マダガスカルに向ふ途中にて我等の遭遇せる定期風は此の島に非常の損害を與へたり我等が其の難を免れたるは實に天佑を感謝せざる可らず蘇士を通過して來航せる艦隊の航海は我等よりも甚だ容易なりしなり彼等は屢々安全なる港に入りたり其の航路も短く士官も水兵も屢々上陸を許されたり然るに我が艦隊は荒野の如き灣に入りながら大旅行を爲せり、水兵は一回も上陸を許されず士官とても上陸を許されしこと甚だ稀なりき明日は上陸を許さる可しとの事なり余は敢て之を望まず陸岸は開けざる荒野なり。

今夜は明窓を開きて寝ることを得べし夜は既に更けたり早く臥さる可らず明朝は又早く起きて灣内を廻航し諸艦を巡視せざる可らず今の所にては破損は少なきやうなるも之を發見せざるものなるべし明日は自ら之を巡見す可し。

今日は早朝より諸艦を巡視せり驅逐艦の生活は左の如し、艦は狭小にして且つ不潔なり又甚だしき炎熱に堪へず且つ艦は始終動搖せり甲板の上は皆な種々の物品に滿され諸方の片隅に乗員起臥し其處に夫までも同居せり或る驅逐艦には猿も同居せり實に足の踏み所もなしと云ふ有様なり水兵は皆な士官と共に起臥して少しも水兵を抑壓する様子なし水兵も亦甚だ善良なる勤勉忠誠なる者のみなり、ポロチノにも赴きたり、士官室並に艦長をも訪問せり最近にポロチノを訪ひたる際に乗員は慰みの爲に演劇を仕組みたり甚だ上出來なりき特に喜劇は上出來にて専門の俳優に一步を譲らずとの評判なり、日

光は激烈なり余はカムチャツカを走り出でカッターの木製の梁に腰掛けたり斯く走り出でたるは焼かるゝ如くなりしを以てなり。

(二十三) 進退未だ決せず秘密の電報

一月十一日 今日十二時半より釣絲を買ひながら艦長と共に上陸せり、エスベランスは食糧品を載せて來着せり、陸岸にて象皮病といふ疾に罹れるネーグロ人を見たり其足は太く脹れて杭の如くなり居れり此病氣にかゝる者は只だネーグロ人とマレイ人種のみなりといへり、提督は何事にや電報を接手せり佛國の一驅逐艦は私信と共に此の公信をマუნゴより持來れるなり公信は固より暗號電報なり今其を翻譯中なり。

彼得堡よりは我艦隊の進退に關して決定したる事をいひ來らず何事も公表せられず想ふに評議中なる可し、艦隊より三名の士官は職を免せられたり發狂せる少尉と疾病に罹れる大尉と外にアウロラの將校一名なり、運送船マライヤ並にコルチアコフの二隻を露國に歸還せしむる爲に是が證明の委員會を組織せられたり余も其の委員の一人に加へられたり明日上陸する心算なりしも此の委員會の爲に其の意を果すを得ざる可し、艦隊の進退決定の彼得堡より來るを此處に碇泊して待ち居るは實に無聊に堪へず。

一月十二日 今日ハウラルに取りて是れ如何に不幸なる日ぞや朝に一水兵は日射病に罹り同夜また二人の士官は意外の樁事にて變死せり一人は准士官一人は大尉なり此變事の爲に准士官は胸部を挫き脊髓を折り大尉は頭部を打ちて人事不省に陥りたり此士官は實に氣の毒なり彼は黒海艦隊の(マダカスカル)に來航せる(士官なりしがウラルに轉乘したるばかりの人にて三十分前に黒海艦隊より此の巡洋艦に乗り込みしなり艦隊には多くの士官居るも彼は黒海艦隊の海軍帽(帽の廂も皆な白色)を戴き居りし故特に目に附きたり彼はスワロフに來りしが變事の一時前前に其巡洋艦に赴きたり我が艦に止る可きを勧めたるも之を辭して其の乗艦に赴きてこの變事に遭へるは誠に氣の毒に堪へず同大尉はスワロフに來るや否や艦内に多くの友人ありしかば黒海艦隊の事に就きて種々の談話を爲し同艦隊と編制人員の事を憤慨して非難せり余も偶然客室に居りて之を聞き大に面白く感じたり同大尉は黒海艦隊の人員を非難していへり彼が共に奉職し居りたる士官の中に殺されたる者三人あり四人の友人の中より既に三人殺害せられたりとせば余の運命も亦知る可きに非ずや云々と彼が此談を爲したるは變事の一時間前なりき彼が辭し去る前に少時間余は彼のウラルに乗込むに至りたる次第の談話を聞きたり、今士官集會室の談話はスワロフが陸上との交通を禁せられし事の談話にて持切れり是れ一人の水兵逃亡せるが故なり(上陸して定時に汽艇に歸り來らず)別に搜索も爲さざりき。

一月十三日 我等は皆な乗員より露國に金を送る可き方法に就きて談話せり如何にしても送金の方法なし今日は大三十日なり日々同じことを繰り廻し居るを以て誰れ一人今まで新年の事をいひ出でし者もなし、日射病に罹りし水兵は遂に死したり死後その體温尙ほ四十三度を保ち居りたりとの事なり、書面を認め終るや否やウラルに赴く爲めカッターに乗らざる可からざりきウラルは獨逸より購入したる汽船中の一隻にて中々に立派なる船なり室内は皆な美術的の裝飾を施し金色燦爛として頗る見事な

り且つ其の船體も中々に巨大なり船内に入りたり葬儀は始りたり船内の式場は華美と神聖とを調和し善美と亂雜とを合せたる如き感あり祈禱の式終りて大尉の遺骸は本艦よりカッターに移されたり汽艇はこのカッターを曳船し陸岸を差して赴き會葬者を満載せる幾隻かの汽艇とカッターとは其に續けり棺を本船より下したる時弔砲を發し各艦何れも半旗を掲揚せり乗員は甲板に整列し樂隊は「名譽とあらば」の譜を奏したり陸上には二組の樂隊と會葬者ありて之を迎へたり外にも一人の埋葬式あり是れ同じウラルの水兵にて日射病にて死したる者なり墓地にて「パニヒダ」(死者冥福の祈禱)を行ひ棺を地中に下したり儀仗兵は三回の一撃發射の弔銃を放てり新塋の上に墓標の十字架を建て、人々皆な散じたり斯くして二人の露國人の遺骸は萬里の異域に止められ二箇の白木の墓標は弔ふ者なき此の異域に遺されたり彼等は其の遺骸を露國を隔る斯くも遠き異域——此の他國に葬らる可しとは夢想だもせざりしなる可し又彼等は同じ災難に枕を並べて死し又同じ所に葬らる可しとは夢にも想はざりしならん然り是れも人生の運命なり、又一人の水兵アリヨールに於いて發狂せり然し此の様なる事は是れにて澤山なり。

（二十四） 東航か西還か何人も知らず

一月十四日 (露曆の一月一日) 余は四時に士官室を去りたり後に多くの士官等尙ほ酒をかたむけつゝ残り居れり昨日はボロチノのカッターにて陸よりスワロフに歸還せり。ノツシへの住民は種々なる人種の混合なり黑人種、雜種、マレイ人種、猶太人、印度人種の外に多少歐洲人もあり當地には馬は甚だ尠なし人の肩に擔はるゝ輿に乗り行くなり猿猴、鸚鵡、蜥蜴、鱷魚の種類は甚だ多し鞍肉と大なる角を有する牛など家畜は中々巨大なり。

今日は元旦なれば各艦の將校等は互に祝賀に往復せり皆な時刻に遅れて歸艦し且つ威儀も何も頓着なき様子になれり各艦にて互に無暗に御馳走を強ひて若し飲酒少量なれば却て辱しめらるゝ有様なり。

一月十五日 クニパは來着せり明日同艦に赴かざるを得ざる可し今日は殆んど終日旅行せり朝飯後よりアウロラ、ナヒモフ、ゼムチユグ、シゾイ並にウオロチチ等の諸艦に巡航せりウオロチチは是れ義勇艦隊の汽船なり同艦に於て十留を投じて巻煙草千本を購求せり是にて大に満足せり、余及び他にも多くの者に熱帯地方の麻疹を發し皆な大に閉口せりリバツ以來始めて訪問したるゼムチユグにて余が顔が鬚髯だらけに變はりしたため余を知る者なかりき、オレーグ、イズムールドは驅逐艦と共に確に歸航す可しとは一般に専らの風説なり、セバストポリより甚だ醜怪なる通信の書面を得たり其通信に據れば水兵が謀反を起して許多の災害を爲せりとの事なり又彼得堡に於て大騷擾のありし事を傳へたり、今日早朝他に赴かざる可からざる用事ありしも今日は敵地上陸の練習ありし爲め汽艇もカッターも一隻も得る能はざりしかば遂に何處にも赴くを得ざりきボロチノ型の軍艦に關する記録の草案を終りたり之を印刷に附する爲めに事務員に渡したり、若し十九日或は二十日の出帆を確實なりとせば漸くの事にてこの原稿を彼得堡に發送するに間に合へるなり。我等はオレーグ並に同艦と共に來航する他の諸艦を待たずに出帆するに非ざるか是れ甚だ愚なる事なり、今我等は此處に急ぐ必要ありや又

何も我等を逐ふ者もなきに非らずや安全に碇泊し居る事なれば他艦が來航して艦隊を優勢ならしむるは何も巡洋艦や戰鬪艦が之を邪魔にする必要なきに非ずや。

一月十六日 先づ天氣は好し余は朝飯を終るや否やドンスコイに赴き同艦よりボロチノに赴き其れより更にウラルに移りたり今スワロフに歸りしばかりなり何處にても食せずスワロフにて漸くパンとバターとありつきたりチョコレコトをも與へられたるは更に有り難かりきウラルの前身マリヤ、テレザなる名にてハンブルグ米國間の航海をなせる獨逸船なり。

一月十七日 余はクバニに赴きたり是れ亦嘗て獨逸の旅客船にて大西洋を航海せる船なり船内廣く且裝飾も華美を極め船内生活の萬事整頓せり然しクバニも他の購入船艦と同様に軍艦としては甚だ不便なり船體の周圍は木造にて何等の装甲の防禦もなく只だ容積のみ大にして備砲も甚だ尠なし余は上陸して書面とハガキと共に之を投函せり郵便局の窓の前には人々群集して出帆の船に間に合ふやうに投函せんとして押合へり端書を買はんものと思ひて暫く待ち居りたり郵券は保存中に皆なゴム糊が粘りつきて用を爲さざるに至る以てゴム糊のつかざる端書の方が遙に便利なりゴム糊が何處も手元にあるに非ざれば甚だ不便なり一商店にてアラビヤゴムを買求めたり、市中の少年の中には間々奇麗なる聲音にて露語の單語を言ふ者あり市中の物價は非常の高價なり艦隊の來航を機として利を博するなり商業の活發なる事未だ曾てあらざる所なりと云へり此處に「巴里コーヒー店」と仰々しき銘打ちたるコーヒー店あり此の店の主人の言に依れば艦隊出帆後はこの酒店を閉ちて巴里に歸る可し近頃の如くに利益を博したる事は未だ曾てなき事なりと云へり余は郵便局より此コーヒー店に來りトランプの遊戲を爲せり

多くの士官等集りてトランプの遊をなし居れり大金を賭けての遊びなりノーズベール碇泊中に一度に四百フント即ち四千留を賭けたる如き事あり、此處に遊びし後埠頭に到れば既に汽艇出帆の時刻なりき陸上に四時間程遊びて八時頃に本帆に歸艦せり士官室に來りて多くの新しき事を知りたり七時に出帆すへしギンスブルグを経て送遣せられたる郵便到着せり、彼得堡には種々の事件ありたり今日我等は此のマダガスカルを出帆してスンダ海峽に赴くにや或は單に艦隊の錨地を他に轉ずるにや今尙ほ全く不明なり我等の現今の状態にては其の何れに決するも難からず。

（二十五） 尙ほ馬島に在り一同無聊に苦む

一月十八日 今日陸地に赴きたり郵便局の前は多くの人々群集せり勿論露國人なり多くのものは或は郵便を差立或は郵券を購ひ居るなりコーヒー店には皆な卓を圍みて艦隊の士官等陣取り何れもトランプの遊戲を爲せり随分大金を賭けて遊び居たり佛國驅逐艦隊乗組の士官等はこの状を見て大に驚き居たり余は自ら遊びもせず又賭博もせず終日散歩せり。

一月十九日 昨夜は疲勞にも關せず十二時まで起き居たり通宵雨降りなりき甲板は夜にも冷へる事なかりしに昨夜の雨にて熱せられたる甲板は漸く冷て蘇生せる如くなりき今も風に雨を混じて吹き居れり、佛國の驅逐艦は又一公信を齎らしたり勿論暗號の公信なり何か面白き報知なるやも知れず。

一月二十日 昨日ドンスコイの汽艇座洲せり今日之を曳下したり艦隊の汽艇は一隻の舢舨を沈没せしめたり此の舢舨にはシャンペン、ラム、レモン等の入れある數箱を積みありたる由にて苦情を申込ま

れたり大方之を賠償せざる可し御身に書面を認めんと思ひて坐するや否やゼムチユグに出張を請はれて同艦に赴き今歸りたり此の破損沙汰には余も閉口せり余は雨を冒してカツターに乗りゼムチユグに赴きたるが同艦の破損も亦この風雨の爲にマストの上部を折りたるなり余は又今日アウロラ、ウラチミル、ウオロ子等にも出張せりウラチミル、ウオロ子の二艦は義勇艦隊の汽船なり貴婦人の傷病兵慰問會より我が提督にゲオルギイの聖像と十字架(何れも頸にかくるもの)を士官並に兵卒に分與する爲に送附し來れり余も十字架一個を分配せられ自分の十字架と同じ鎖りに之を着けたり美麗なる真珠入の十字架なり。

又も風説を傳へて我が艦隊は一月二十四日を以て當地を出帆す可しと風聞せり是れ例の想像談に過ぎざる可し二十二日に當地より佛國の郵便船一隻歐洲に向け出帆す可し此書面は今度出帆の此の船に間に合ふ最後の書面なる可し今後書信を暫くの間送るを得ざるなり。

一月二十一日 朝四時より非常の大雨ありたり其の雨の降るさまは之を目撃せざれば想像も出來ぬ大雨なり多くの者はこの大雨を利用して身體を洗はんとて甲板の上に出で石鹼と雨の淡水にて洗浴を爲したる一事に徴しても其の雨の如何に大雨なりしかを察す可し此の大雨にも關せず余はマライヤに赴き委員會に出席せり同艦の艙口より艦内に這込みたり余はマライヤの甲板の上に立ち居りしに一人の男帽も戴かずに鬚髯だらけの顔にて甲板の上を徘徊し居りたり余は殆んど此の男に注意も爲さず其の男は突然余の側らに來りて手をのばして握手せんとせり余は何んとも言ふの違もなく大方これ酒に酔ひたる水兵の戯れならんと思ひたり其の男は叫んでいへり「僕は君をよく識れり實に暫くにて

邂逅せり僕はテトフなり」と是れ發狂せる戦闘艦アリヨールの準士官なる可しと想像せり余も手を出して彼にいへり「君は餘り鬚髯が長くなりし爲め一寸見では誰なるやを知るを得ざりき」と其の實は鬚髯も左まで長くもあらざりき彼は忽ち聲を出して笑ひ始め余に問ひて云へり君は死を恐るゝか死を見たる事ありやと且つ周圍を指していへり是れ皆な露國なり云々と余は彼と暫時言語を交へ彼の状を見て不快の感に打たれたり彼は不潔なる甲板の上を徘徊せり何人も敢て彼に注意せず彼が想ふまゝの事を爲すにまかせ置けり或は艙口に落ち若くは梯より墜落する事あるやも知れず實に氣の毒なる状なり。

(二十六) 艦長の不人望謀反兵の捕縛

一月二十一日續 十二時にマライヤよりスワロフに歸艦せり非常の炎熱なりマライヤにて働き通したる爲め大に疲勞せり太陽が垂直に照り附くる下に働きたり舷側にて水にて頭を濡しハンカチーフを頭に巻き居りたり靴の皮も焼けて足に熱さを感じたりスワロフに歸ればゼムチユグ艦長より書面を持來れる者余を待ち居たり同艦に赴かざる可らずドンスコイにも亦赴かざる可からずドンスコイには實に閉口せり殆んど毎日の様に同艦に赴かざるを得ざるなり、私室にて朝飯を喫したり給仕をなし居りたる從卒が「臺を上げます」といへり余は其何の事をいふやを解せざりしが彼は木頭一箇を持ち來り足をのする臺にする爲めなり書面を書き仕事をする時に甲板が焼け居るを以て足に非常の不快を感じるが故なり、夜の六時コルチャコフ、ボロチノ、ドンスコイ、ゼムチユグ等の諸艦に赴きたりゼ

ムチユークにても我がスワロフと同様に罐詰の空罐をコップに代用するに至れり實に困難なる航海なり士官等特に水兵等はあらゆる缺乏と不便とを忍びたり水兵の如き身の置き所もなし、露國に歸還せらるゝ人々は皆なマライヤに集りたり病人犯罪者罷免者發狂者泥酔者等なり、艦長に非常の特權を與へられ若し艦内に於て艦長の命に服せず規則に従はざる者あれば直に殺すことを得るの權能を與へれば忽ち銃殺す可しとなり然り艦長は矮小瘦軀の人なり彼が如き者此の艦に何の用をなさんや此の船をして無事に露國に歸還せしめんと欲せば今は身體強健にして決斷力を有する艦長ならざる可らず。艦隊に於て此の航海中に犯罪者を審理する委員裁判を組織せられたり今日此の裁判を開きてスワロフの水兵を審問せり此の水兵は士官に對して不敬侮辱を與へたるものにて審理の結果六箇月間の懲役に處せられたり大方マライヤにて露國に送還せらる可し。

一月二十二日 マライヤの件は略ぼ明白になれり昨夜マライヤに謀反兵を捕縛する爲め武装せる水兵を差遣せり四人を捕縛せり彼等はマライヤ乗組兵にて皆な義勇兵なり彼等を艦倉に入るゝ爲に各戰鬪艦に分置せり其の中の最も兇暴なる一人我がスワロフに分置せられたりマライヤに夜間武装せる水兵を差遣せられたる爲め大に影響を與へ他の乗組兵を忽ち鎮撫するを得たり彼等は此の事件が彼等の爲めに斯くも不利益に終る可しとは自らも信ぜざりしなる可しマライヤより捕縛せる犯人は數日間艦倉に入れ其の後に上陸せしめて之を放逐す可しとの事なり、ポロチノの艦倉は敢て居られざる程に非ざる可きもスワロフの艦倉に至りては殆んど一分間も居るを得ざるなりスワロフの艦倉は非常の氣温

にて又煽風器の備設もなし斯の如き所に人間を長く入れ置くを得べしとは思はれざるなり、四人の捕縛者中に一人は發頭人首謀者なりとの事なり彼等犯人は殆んど人間の居住せざる陸岸の荒野に放棄せらる可し彼等は斯くて如何になる可きや彼等を雇ふ者もなかる可く此處より他に遁るゝ事も難かる可し彼等は外國の雇兵になるを得ざるに非らざる可きも此處には軍隊の組織もなし彼等の境遇は實に憐む可き者なり、余は敢て外國軍隊の事に就きていふに非ず佛國政府は只義勇兵のみを募りて外國人のみを以て軍隊を編制せり、此の軍隊は殖民地の危險なる地方にのみ駐屯せり此の軍隊に加はる者は諸事に絶望せる者や犯罪者逃亡犯人若くは冒險者などの類のみなり彼等を軍隊に雇ふに際しては一切過去の經歷如何を問はざるなり是等軍隊には諸國の民種と種々なる社會境遇の者あり、此の軍隊は兵卒と貴族士官並に各種の階級より成れり此の群集軍隊を制御する規律は甚だ嚴重なり此の軍隊の中には多くの露國人も居るとの事なりマダカスカルには斯の軍隊久しく居りたるも佛人は一時之を何處にや他に移したりとの事なり佛人も今は此の事を後悔して殖民を服従せしむるが爲には軍隊を駐屯せしむるの必要を感じ之を歸還せしめたりとの事なり、是等外國軍隊は甚だ殘忍暴惡にして土人を殺戮し土人に罪過あれば勿論の事何等の罪もなき土人の村落を掠奪し之を焼き拂ふ如き事さへ屢々あり是れが爲に住民は大に靜穩にして佛人を恐れて敢て反抗せざるなり。

（二十七） 炎熱沈没、反亂、疾病、敗北既に顯然たり

一月二十三日 スワロフの士官室には大なるピアノあるを以て機械を以て此のピアノを彈奏せり直

接し自己の手を以てピアノを彈奏するを得る者一人も居らざるなり今日我が艦には他艦より一人の水先案内移乗せり此の水先案内は中々の音樂家にて暫く彼の彈奏を聞き後ち舞蹈など始めたり士官の中にケクヨク若くはカマリンスカヤ(無踏の名)などを爲す者あるは甚だ奇と云ふ可し是等の舞蹈を爲すには別に種々の衣服を着更へてなせり是れ皆な退屈より來る遊戲なり此のマダカスカルに我が艦隊が寄泊してより既に一箇月に近し長き間一様平凡なる生活を爲して他に爲す可き事もなきを以て皆な退屈して愚になるは當然なり或は慰みに闘犬を爲さしめ皆な熱心に犬の怒りて噛合ふを見て口笛を鳴して犬を勵ましなどして遊び居れり、マダカスカル嶋には怪しき人物甚だ多しノシベには露語に通じ居る怪しき人物來れり其の者は露語に通ずるものなる事を理由と爲してスワロフ其の他の諸艦に食糧の受負を爲し艦隊の爲めに盡力せん事を申込みたり此の人物は最初タマタフ市に徘徊し居たる由なるが別に是れといふ原因もなくして當地に來れりとの事なり彼は粗服を纏ひ頭髮を長くして一見スラヴ人種の如し。

今夜一隻の郵便船は歐洲に向けて出帆す可しとの事なりマユンゴより一の暗號通信を得たり然し例に依りて何等の快報をも傳ふる者に非ざる可し、我が艦隊の進退は全く未定なり露國に歸航す可きか或は何處にても其の地に寄泊す可きか或は又極東に航進す可きか何人も其時期も出帆をも知る者なし此の曖昧未定は獨り余のみならず總ての者を苦悶せしむ。

二月二十四日 炎熱甚だしく息苦しく且つ濕氣甚だしく何處も不潔にて厭忌に堪へず退屈は殆んど堪へざる程なり明日の運命も知れず戰地よりの報知もなきを以て皆な苦悶抑壓に堪へざるなり、艦隊には何等の快活なる談話もなく皆な懶惰無爲無識にて勞働を好まず放縱怠惰なるを以て斯の如き生活が如何で人々に快感を與ふるを得べきや此處には實に意外の事のみ起るなり、ハンブルグと米國間の航路に往復し居りたる元獨逸汽船ベンガリヤは暗礁に觸れてマダカスカル附近に於て沈没したりとの報知あり同船は我が艦隊に石炭を積み來れるなり此の船は大船中の一隻にて一萬八千噸の船なり同船は暗礁に觸れて更に深き所に進航し其處にて沈没せり乗員は皆な救はれたり。

昨日ナヒモフに恐る可く悲しむ可き事件生じたり其の事件とは他にあらず艦隊の諸艦中にパン釜を有せざる船は皆な碇泊中そのパンを他艦若くは陸上より其供給を仰ぎ居りナヒモフにてはパンを焼かざるに同艦にパンを供給せざりし由にて乗組員は皆な乾麴のみを食せり昨日同艦の乗員は新鮮なるパンの供給を要求せり彼等は忽ち煽動せられ其朝の祈りを行ひたる後ち乗員一同その場を散せず反抗の態度を示して散會の命を奉せざりき、其結果この乗員の一部は他艦に移乗せしめ一部を銃殺するより外他に施す可きの策なかりき是に依りて出來得るだけは此の騒動を鎮壓するを得べしと思はれたり然し之が爲に其他の者の迷惑はその幾何なるやを知らざるなりマライヤにて捕縛せられアレキサンダーの糧倉に拘留せられたる水兵は病院船アリヨルに移乗せしめたり艦内糧倉の苦熱の爲に發病せるなり。

一月二十五日 來る廿九日を以て彼得堡より我艦隊の進退に關する命令達す可しといふ説は確實なるが如し或は極東に航進せしめらる可きか或は又露國に歸航せしめらる可きか抑々又今後特別なる命令のある迄碇泊し居る可きか何れにか決定す可し成る可く速に萬事を公にせられ度き者なり不明不定

は何よりも悪し。今の如き降雨の季節に此の地に碇泊し居るは非常に害なり艦隊には種々の熱病續發せり歐洲人には此の地の氣候は全く適せざるなり且つ現今の如き錨地は艦隊乗組員の精神の上に非常の害なり今の所の状況にては艦隊は全く解放せられ乗員も分散せられたるが如き有様なりナヒモフの事件の如きは實に其一例といふ可し。

明日の朝六時卅分迄に蒸汽を満す可しとの信號ありたり外洋に出で、大砲の發射演習を行ふ者なる可し是れ我が艦隊が本國出帆後始めての演習なり、レーウエリにて出帆前に最後の發射演習を行ひたる事あり、今日は上陸せざりき怠りてなり天氣は面白からざるも雨は始終降れるに非ず陸上より海馬の子蝶螺其他の柔軟動物艦を持來れる者あり香水をふりかけ煙草の烟を吹きかけ又は燐寸の火などをつけ虫類を怒らし他愛もなき遊びを爲して慰み居れり然し斯の如き事も恕せざる可からず他の樂みもなきを以て此の様な事を思ひ附きて遊び居るなり。

（二十八） 佛艦の電報傳達日本へ野砲輸送

一月二十六日 灣内の天候は至極穩かなり外洋も多分穩かなる可し今大砲射撃に出帆す可し諸艦は皆な八時までに拔錨せり數隻の佛國驅逐艦が我が艦隊の後を追ひて航進し來れり是れマユンゴより電報を傳達する爲に來れるなり、通常朝飯は毎日十一時なるも今日は射撃演習あるが爲めに朝飯を三十分前に始めたりナヒモフより一人の水兵海中に落ちたるも之を救ひ揚ぐるを得たり。佛國の驅逐艦はノーズペーに來着して同灣に碇泊し居る我が驅逐艦ホールドイに電報を傳達せり、ホールドイは直に

旗艦スワロフを追ひ來りスワロフより出したる紐に結びて其電報を提督に傳達せり此の電報は我等に何事を傳ふる者にや今射撃は開始せられたり艦内の物品調度類ガラスの器具等は一々整理せられたり夜六時艦隊は射撃演習を終りて今錨地に歸航せりロイテル電報の所報に依れば彼得堡並に莫斯科に於て戒嚴令を布き軍隊を配置せりセブスターホルに於ては海軍兵の擾亂尙は止まず兵營並に司令部等燒却せられ軍隊は謀反兵を射撃する事を拒みたり全露國に亘りて軍隊の擾亂起りたりとの事なり是等の電報に對しては大に戒心せざる可らざるや勿論なるも余は此の電報の事實なるを信ず。今日艦隊の演習中にポロチノとアレキサンダーの兩艦は將に衝突せんとして僅に危難を免れたる事二回なりしとの事なり此の不幸を免れたるは先づ何よりの幸福なり若し衝突せば其損害は實に測り識る可らざりしならん。昨日スワロフに一椿事ありたり數日前の事なりしが同艦に於て作業を爲したる際に瓣を開きたり作業後に其瓣を閉塞する事を忘却せり然るに昨日他の瓣が閉塞されある者と信じて他の一箇の瓣を開きたり、夜に入りて海水は艦内の諸處に浸入し水は既に機關室をも襲はんとしたる程なりしも之を止めて先づ無事なるを得たり。余は艦隊に乗込みたる事を後悔せり艦隊に於ては恰も鎖にて縛せられし如く何事も自ら爲すの權能を與へられず他人のする過失を只座視し居るに過ぎず時としては余自らさへも精神に異狀を來さんかと思ひし事あり此の艦隊に乗込みたる一生の過ちを辯解するの言なし。

一月二十七日 今戰艦アリオールに赴かんと思へり明後日は陸岸に赴くべし天氣は宜し降雨なしといふまでの事なりオレーグは一隻の汽船を捕拿したりと通信せり其汽船は日本に向け野砲二百六十門

を輸送せんとせる者なりとの事なり信じ難き話なり余の知る所を以てすれば此の汽船は阿弗利加を廻航す可き汽船にて此處に在りて我が補助巡洋艦を俟ち居りし者なり。上陸してコーヒー店に入りトランプを爲せり百七十フラン即ち六十四留程勝ちたり夜八時に歸艦し食事に遅れたるを以て私室に於て食事を爲せり陸上にて間諜に非ずやと疑はるゝ人物を目撃せり其者は露國人に克似したる風貌にて技藝家などの如くに頭髮を長くせり。

夜十一時獨逸人は實に驚く可き程の實地家のみなり彼等は自國の士官を石炭船に乗込ませしめ其汽船の副艦長を勤めしめ居れり是等士官等は我が艦隊の航海の状況を視察せしめ自國海軍の利益に資せんが爲に遣はされしなり、斯の如き事は我が露國人などの到底企て及ぶ所に非ず故に我が露國は非常の損失のみを爲し居るなり、我が國には未だ全良なる海軍も陸軍も存せざるなり是れ決して兵卒の如何には依らざるなり乗員の編成恒久の軍備先見の明等に關する事なり。コーヒー店にて佛英露伊奧等の人々居たり非常の大金を賭けて遊びたり一度一人の大尉は五千フランを勝ち又其を負たり。

（二十九） 碇泊正に一箇月悲觀絶望不平

日々オレグ、イズムルド其他の驅逐艦の來着を待てり是等諸艦はノーズベール附近に在りとの事なるも是れ通信員の電報にて公報としては一も受けざるなり我が露國にては萬事何處にても斯の如し來月の二日に歐巴より當地に郵便到着す可し當地よりの郵便船は八日に出帆す可しとの事なり此處にて諸船の到着を待たる可し、マダガスカルに長く碇泊す可しとの説は確實なるが如し我が艦隊が此の嶋に

到着してより明日にて丁度一箇月なり實に光陰は矢の如し一箇月の時日は既に空しく過ぎて又來らず尙ほ此の先き此處に長く碇泊するや否やも不明なり何時かは此の錨地の碇泊を終らざる可からず彼得堡の當局は果して如何なる考慮をなし居るにや、此の地にての風説に依れば彼のクラド中佐の論文の出でたる後露國の一般社會は我が艦隊を露國に召還せん事を要求し居るとの事なり我が艦隊が航進す可きや否や或は前に進む可きか或は後に退く可きかの此二ツに一ツを今日まで斯くも永く決定するを得ざるにや此の艦隊に要し居る費用は實に莫大なる者なり我が艦隊が數週間此のノーズベールに投錨し居るとも是に依りて艦隊は少しも良くならず又優勢にもならず却て百の害ありて一の利益もあらざるなり、遂に我等は此處に空しく碇泊して時日を費し居る間に日本に其船艦と汽罐とを充分に修理するの猶豫を興ふるものなり日本は充分に我が艦隊を迎撃するに準備す可し我が艦隊には敢て根據地あるに非ず嗟我は只だ一の僥倖を頼み居るに非ずや、故に我が艦隊を派遣したる當初に抑も如何なる計算考慮を爲したるにや我が艦隊は實に是れ露國に取りては最後の力なり、若し此の艦隊にして殄滅せられんか我が國の海軍は是れにて全滅なり斯く思ひ居るは余一人に非ずして皆な斯く思ひ居れり、是等の事が萬事艦隊の士氣を振はしむるや否やは疑はし、陸軍の方にては大方皆な斯の如くなる可し、我が露國にては萬事が不都合のみなり尙ほ是に加ふるに内亂騷擾もあり是等の事如何になりゆく可きや。

一月二十八日 今日には又も上陸せり此處にて義勇艦隊の汽船ウラヂミルが浸水を來したりとの事を知りたり明日は是が檢分に赴かざる可らず市中には新しく露西亞語にて書きたる看板現はれたり。士

官等は皆な何も必要のなき塵芥同様のものを買ひ集めて其を本艦に持來るも悉く之を放棄して再び其に注意もせざるなり今日は郵便を差出したり又コヒー店に入りてトランプを爲し二百五十フランを勝ちたりコヒー店より市中に散歩したるも何も面白き事にも遇はず再びコヒー店に行き其處より埠頭に赴きたり、**エスヘランス**は今外洋より來着せり同船は毎日腐敗肉を舷側より投棄するが爲に灣内より外洋に赴くなり同船は遙か遠方に當りて三隻の大軍艦と一隻の小軍艦とを望見せりと通信せり、是れ或は日本の軍艦なる可し、今日余は自身に陸上にて一人の日本人を見たり多くの者も彼を見たりとの事なり前に此の日本人を見し者なかりき。又も暗號電信を受けたり今尙ほ其翻譯を終らず暗號電報は論功行賞に就きて驚く可き奇怪なる事を傳へたり又通信員の電報に依れば露國の擾亂は益々恐る可き形勢なり同電報は特に彼得堡の擾亂の激甚なるを傳へ其事態は市中に障害物を設くるに至りたりと云へり又二千人の殺害と七千餘の負傷者を出したりとの事なり通信員の電報は虚報なる可しと思はる然し火の無き處には煙は起らざるなり。明日は病院船**アリヨル**に赴かざる可からず同船には負傷者收容の爲に汽艇を附屬せしめざる可らず最初設計者は果して如何なる考慮なりしにや、此の汽船を病院船に爲すが爲には莫大の費用を要したるも豫め一小汽艇をも建造せざりしなり、我が露國にては何處も皆な到る處斯の如き愚昧なる不注意のみなり、兎に角に病室だけを造る事を忘れざりしは幸ひなり。

一月二十九日 食糧運送船**エスヘランス**の通信は忽ち其効果を見たり昨夜は黎明に至るまで各艦皆な探海燈を以て海上を照せり先きに云ひたる余が見たる日本人はギリオグラフに依りて數通の電報を發したり又この日本人は郵便夫と共に我が艦に入らんと試みたり。獨逸石炭船の報知に據れば露國に

て新に購入したる諸船は目下獨逸海附近に在り、遠からず我が艦隊に來援して一勢力を加ふ可しとの事なり是れ亦虚報なる可し若し此の報告が確實なりとするも我等が其諸艦の來着を見るは遠き事なる可し、ノツシベに來着する迄は一箇月を要す可し此の來援加勢は甚だ都合なる談なるも先以て信じ難き談なり、又同獨逸船の報知に據れば黒海艦隊も出で來れりとの事なり彼等が此の風説を爲せるは既に久しき事なるも然し黒海艦隊の出動云々は固より信するに足らず是れ獨逸人が**オレーグ**並に其と共にせる諸艦を以て黒海艦隊なりと誤想せるに相違なし。今日は義勇艦隊の**キエフ**並に**ウラチミル**の兩艦に出張せり是等運送船内の生活は之を**ボロチノ**の如き諸艦内の生活に比すれば全く樂園の如し居室は多く室内も廣大にして且つ清潔にて閑靜なり食物も良好なれば又陸岸との交通往來も自由なり**ウラチミル**にて朝飯を饗せられ同艦の汽艇にて我が艦に歸航せり、運送船**ユピテル**の某水兵は不平を起して同船より石炭運送用の端艇を切り落したり其端艇は潮流にて陸岸に漂着せり其は夜中の出來事なり歐洲人の當地に於ける生活の状況は甚だ異とすべき者あり彼等は資産を得んが爲に殖民地に來りて直に其生國に歸り去るなり凡ての事を節儉し殆んど小舎の如き家に生活し一切の費を節約して渡世せり數年間斯の如き生活を爲し居れば彼等は忽ち相應の資産を得るを以て斯くて其殖民地を永久に見捨て、歸國するなり彼等の居屋は恰も野營の兵陣を見るが如くにて家財道具の如きも皆な見る影げもなき品物を集め便利と安樂といふ如きは固より思ひもよらざる事なり。

廿九日の日も過ぎたるが我が艦隊の運命は未だに不明なり**オレーグ**其他の諸艦も未だ來着せず何等新しき事もなし。

一月卅日 驅逐艦レズウイは破損の爲にヂブーチに於て其艦隊を離れたりと、事を報せる電報を得たり大方同艦は全く極東に來航するを得ざる可し、昨日當地の縣知事は我が提督を訪問して艦隊の士官等がコーヒー店に於て莫大の金を以て大賭博をなす旨を訴たり賭博を禁せらるゝか或は全く陸上との交通を斷たる可し、二三日前に當地の獨逸人は獨逸皇帝誕生の祝祭を舉行し國旗を立て、祝典を擧げ今日までも酔ひ居る者あり、艦隊が前進するに従て艦隊に伴ふ驅逐艦は段々に減するに至れり又艦隊に残りて伴居る驅逐艦も汽罐の破損し居る爲に充分の蒸汽を發するを得ざるなり。

(三十) 艦隊演習、同志打、日本間諜の手腕

二月一日 上陸せり今は陸上との交通を禁せられたれば郵便發送の機會を利用して上陸するの外なし至急出帆して此處よりスンダ嶋に向け航進するやも測られざるを以て郵便を差立てかぬるやも知れず今日は間もなく射撃演習に出帆す可し巡洋艦は錨りを上げ始めたり歸航は夜に入る可し。御身は余の書面の判讀に苦むなる可し此の書面は皆な寸暇を利用して斷續の如何に頓着せず記するものなり定めて讀むに困難す可し特に數枚に亘る日誌を御身は一度に接手する事もある可ければ其時には之を讀むに一層困難なる可し成る可く順序を逐うて讀む可し。

夜八時前に錨を抜きて外洋に出でたり昨日の演習に一彈ドンスコイに飛び來りて艦橋に落ちたるも砲弾は僅かに觸れたるのみにて遠く飛びゆきたりと、事なり一人の死傷を出さざりしは實に天幸なり五時頃にノーズベールに歸航せり今日は何れの艦をも同志打するが如き失策を演ぜざりき。

間諜なりと疑はれたる者より我提督は書面を接手せり彼は間諜と疑はれし不正なる讒誣を辯疏せり彼は一二の事件を記して云へり彼がウラルに赴きたる際同艦の一士官は彼を毒殺せんと試みたりと又當地の知事は彼に、ノーズベールの退去を勧めたりとの事を記して結極金錢を請へり、此の者の事を知事に訴へたるは彼と共に某船に赴きたる郵便配達夫なり郵便配達夫の言に依れば此の間諜と疑はれし男は屢々何處に行くにや船内にて其姿を見失ふ事ありて或時の如きは乗員等に混じて同じ食卓を圍みて食事を爲し居りたる事さへありたりと言へり、又彼は露西亞語に通する事を士官等には秘し居りたりとの事なり間諜が自由に我が艦内に入込みたりとは實に驚く可き事に非ずや實に奇蹟なり、日本の艦隊は斯の如き事は夢にも無かる可し我が艦隊に斯の如き事あるは皆我等の公言するを得ざる事情の反映ならざるはなし、御身は我が艦隊の中には如何なる人物の居るかを想察せるなる可し、我等未だ露國を出帆せざる前に一人我が艦隊に乗込む事を願ひ出でたる者ありて其者は艦隊乗込を許さずんば射撃す可しと威嚇し其許否の返辭を聞く期日までも申込みたり其者は乗艦を許されて下士に用ひられたり後其者は未丁年者なる事識れたるも如何とも爲し能ばざりき其者は今も艦隊に居るなり、或る事情に徴して考ふれば我が艦隊は容易に當地を出帆せざるものゝ如く思はる陸上より得たる通信に依ればクロバトキン將軍は進撃に移りたりとの事なり然し進撃沙汰は既に幾度も聞きたり信するに足らざるなり。

二月二日 今日佛國の郵便到着す可き筈なり多くの者は書面の來るを待ち居れり陸岸との交通を許されたり然し余は上陸するを欲せず上陸する者に塵三枚と帽と郵券とを買ふ事を託したり人々が上

陸して日の暮るゝまでも歸り來らざるは何故なるやを解するを得ず。今郵便物を運送し來りて其を分け始めたり是れまた少しも面白からざる。以知のみに非ざるか其中には我に着せる書面ありや其に何事を通信せりや一地方よりのみ發送せられたる郵便に非ざるが如し余は今の所強て上陸せざる可し我等がオレーグと共に來る可しと思ひたる郵便は今佛國の郵船にて箱にて二十五箇を郵送せられたり其の箱を開けば豈圖らんや皆これ人々の注文したる煙草や靴などのみなりき、其もフェルケルザムかチブーチに於て時間のなき爲に受くるを得ざりし品物のみなり其を受けたる人々の満足は果して如何ばかりぞ。

（三十一） 綿々たる遠征の恨勇士皆家信に泣く

二月二日 郵便は勿論みなスワロフに送致せられたり余は此郵便物の處理に熱心盡力して包の袋を割き其を分類し一々其書面が何艦に着せるものなるやを聲高に叫びたり我が周圍には同じく士官等群集して之を分配せり各艦よりは其郵便を受取る爲に主計が出張して郵便を分類し居る側に人々と押合て立ち居れど斯く多くの郵便を分類し居る間に余に宛てたる郵書が偶然に自分の手に觸るゝ事もありて余は直に其を我がポケットに入れたり又時としては我が名を呼びて余に書面を渡す者もありたり其分類を終るや否や余は私室に駆け込るに我が卓上にも既に書面と何やら大包なる公信郵便物を置きたり其郵便物は委員會の船艦建築に關する書類なりき其他の書面は皆な御身よりの書面なり其書面を手にして之を讀み胸躍りて殆んど爲す所を知らず私室を出で客室に行き椅子に奇りて恍惚として灣

内を眺め居りたり。今從卒來りてポロチノの下士官が余に面會を求め來れりと告げたり其に驚かされて出で行きしに其下士官は紐にて束ねたる郵便を余に與へ其を艦長が自分に配送せられたる郵便物の中より見出したるといへり下士に其勞を謝し且つ艦長に余が謝意を宜しく傳へられん事を請へり。悉くの人々に皆な郵便の到着せざるはなかりき其郵便物の中には今リバン若くはクロンスタットに晏然として碇泊し居る諸艦や旅順に於て既に滅亡せる諸艦に宛てたる書面もあり又は目下建造中の戰艦に宛てたる書面さへもありたりウラルに於て砲彈の爲に死したるポポフに宛たる書信さへありたり其他發狂して今マライヤに乗り居るテトフも書面を受けたり今皆な書面を讀み新聞を握りて専ら心を其にのみ注ぎ皆な熱心に談論せり、今日の午餐は非常に賑かなりき幕僚の多くの者は賞與を得たり凡ての人は皆な故郷の書面と贈物とを受け多くの人々が防寒の物品を得たるは驚く程なり故に人々は互に祝盃を擧げ祝の歌などを唱しあへり、嬉しさの餘りに泣き居る者さへ二人程あり皆な何となく元氣を覺えたり、皆な久しく家郷より音信を得ざりしに突然一度に其音信を得たる事なれば其喜びは實に非常なるものなり、若し驅逐艦が御身の發したる電報を余に送致し來る如き事もあらば余の満足は此の上なる可し。

二月三日 昨日貿易商人に裝ひたる一人の日本間諜スワロフに乗込たり此の間諜を捕縛せんとするの様子さへもなかりき、郵便局にては露國人が皆な何故に書留郵便を差立るやを不思議にせり余は一士官と共に郵便局より賣店に赴きたり、一軒の店にて甚だ奇麗なる畫ハガキを見て之を買ひたるに大に失敗せり皆な同じ繪のハガキのみなりき、村落の間を散歩せり一匹の犬を連れゆきしに其犬は輕症

なる日射病にかゝれり其より犬の頭を氷にて冷し體軀を洗などさせられたれば今は全快せり我等には例の如く多くの小兒等が物珍しく付き従ひ其中の三人は我等の買物を持ちて付き従へり余の買物は二人に持たしめたり一人は洋傘を持ちたるが其は土人の兒なり、五時に埠頭に着したり我等の爲にカッターを遣はす事を忘れたるにや其を暫く待ち居りたるも遂に來らざりしかば**ドンスコイ**の汽艇は我等をスワロフに送り呉れたり、午餐に遅刻せり繪ハガキに皆な宛名を書し郵券を貼りたり從卒はその様子を見てまるで「郵便局の如し」と言ひたり。

(三十二) 露國海軍の大腐敗開闢以來の大耻辱

二月四日 間々左の如き通信を見る事あり佛國の一新聞に電報を掲げてスワロフは喜望押附近を廻航中に行衛不明になりたりと此の虚報は眞面目なる新聞の掲ぐる所なり、露國の騷動を傳ふる諸電報中にも斯の如き虚報尠ならず可し騷擾のあるは相違なき事なるも諸新聞紙上に記せらるゝ如き甚だしき事は無かる可し露國はさなきだに今は至難の時なり露國には國內の擾亂なくも非常に困難なる場合なり、彼得堡の秩序は恢復せられたりとの報あり喜ぶべき事なり、佛人の言に據れば**オレーグ**は僅に此二日に**チブーサ**を出帆したりとの事なり此處に到着するまでは約一週を要す可し今士官室に於て**メニシコフ**に**ピリレフ**に與へたる答辯書を一讀せり想像するに社會の人々は**メニシコフ**を憤慨して「彼は何故に斯くも我が海軍を誹謗するかは何人より此の言を爲すの權能を得たるか彼は海軍に奉職せりと雖も少しも海軍の事を知れる者に非らず如何で斯の如き事を言議するを得んや」と絶叫せる

者の如し嗟愚も亦甚だしと云ふ可し、彼れ海軍軍人等は日本の海軍に對して些の損害をも與ふる事を爲さず日本海軍よりも二倍も優勢なる我が海軍を不名譽と侮辱と無益に滅亡せしめながら尙ほ敢て何事かを論議せり、我が海軍よりも恥辱なる行動を爲す者またとある可きか、世界開闢以來斯の如き事は何處にも其例ありしを聞かず此の慚愧に堪へざる耻辱は實に言語同斷の沙汰の限りなり彼等は破廉耻厚顔にも如何で他人の非難に對して其非難を爲すの權ありやなど言ひ得る者あらんや我等海軍人の外に何人も何事をも解せずなと如何で廣言するを得んや。

余は今日また奇怪なる言をなす者あるを聞きたり或る海軍々人は憤慨して「何ぞ馬鹿々々しきや、陸軍には既に行賞ありしに旅順の海軍々人に何の賞をも與へざるは慨嘆に堪へず」と余は敢て誹謗せんとする者に非ず只だ話のまゝを傳へんとする者なり、余は此の言を聞き實に自ら驚きたり是れ言語に絶したる話なり、此の熟睡せる如き愚鈍なるは實に其分限をも知らざるなり、自負傲慢その厚顔甚だしい可し露國は彼等海軍々人を見れば勢ひ問を發して「露國人民の汗と血とを以て建造したる我が海軍は何處に在りや」と問はざるを得ず彼等海軍々人は果して何事を爲せしか彼等は敵に損害を與へるか我が祖國に利益を與へるか露國の名譽を高く發揚せりや、嗚呼我が海軍軍人には既に此の問ひをも爲すを得ざるなり、彼等は技術上の事を技術者よりも能く知れり法律上の事を法學者よりも能く知れり彼等が其の海軍省を設け置くは全く自己の爲に設け置くなり、彼等は半神の如く諸他の者は皆な下等の賤民なり彼等は名譽勳章尊榮富貴其他あらゆる者を専有しながら、其海軍の事に關しては全く無識無能なり、彼等は海軍に一も準備せる事なかりき彼等の職を奉じ居れるは全く軍事の爲に非ず、海

軍は——是れが生活上の一切幸福を得る爲の一切の方法たり又是に依りて他人を誹議し倨傲自慢して「我等海軍軍人なり」と高言する方法たるに過ぎざるなり是れ實に悲しむ可き事に相違なきも是れ事實なるを如何せん、余は前にも御身に此事を言ひたる事あるを記憶す、今回此の航海にて益々余は前の見解の正しきを確め得たり然るに露國は不幸にも尙ほ彼等海軍軍人に望みを屬し居れり、メニシコフは人物としては余の好まざる論評家なるも其海軍に關する論評に就きてはメニシコフにもクラド大佐にも寧ろ感謝せざるを得ざるなり是に依りて露國は多少たりとも我が尊貴なる海軍の腐敗せる現狀を知る可きを以てなり。余は今祈禱所に赴かんと仕度し居りたる處に御身よりの電報を受けたり實に欣喜に堪へず況して十數日間返辭を得ざりし事なれば其喜びは一層大なりき、今日陸上に音樂を奏せしむる爲に樂隊を上陸せしめたり士官等はテニス爲して遊び縣知事並に其令夫人なども交はりて遊びたり陸上に一の悲む可き事ありたり一人の水兵は准士官を毆打せり。

二月五日 昨日の出來事の爲に陸上との交通は只だ午前中のみ許さるゝ事となれり若し遅れて汽艇を出す様なる場合には一々提督の許可を得ざる可らず後にて聞けば昨日陸上には尙ほ二三の出來事ありたる由にて皆な下士官との出來事なり明日は射撃演習の爲に外洋に赴くならんと思はる、今日驅逐艦**プレステヤスチエー**は外海に在りて何用にや端艇を下したりしが其を顛覆して三人溺死せり艦隊には殆んど毎日のやうに死亡者あり。

二月六日 八時半に寢床に入りたり天氣は良好にて風もなく海も風甚だ穏かなりき演習は終りたりノツシベの灣に歸航す可し、御身が送りくれたる新聞の切抜きを讀みたり諸艦が演習に赴きし時この灣内に何か演習の爲に驅逐艦の端艇數隻残り居りて其等も皆な外洋に出でたるも遠くは航行せざりき彼等は獨木舟に乗り出して顛覆せる三人の少年を救ひたりとの事なり。我が艦隊は此處に碇泊して空しく送りたる時日は果して幾何ぞ若し此の錨地だに無かりしならんには今頃は我等既に浦鹽に到着したるやも知れず只だ言語に云へば四十二日間マダガスカルに碇泊すと云ふ事は容易なる事なり余は嘗てマダガスカル附近の錨地の事を豫想し此の事を御身に書き送りたることさへもありたり然し其碇泊も案外に長かりしなり、**オレーグ**は未だ到着せず今月中旬迄に來着す可し彼得堡に於て**オレーグ**の來着する頃までも或は艦隊の進退の運命を決定せず艦隊をして更に第三艦隊を待たしむるに非ずやと想像して密に恐れ居れり果して斯くならんには何時出帆するの見込みもなし到底容易には出帆するを得ざるなり。

二月七日 二時頃に**カムチャツカ**に赴き同船にて朝飯を喫し其後義勇艦隊の**キエフ**に赴きたり同艦より更に七時に今他艦と共に沖より歸航せるばかりなりし**スワロフ**に歸るを得たり、今日艦隊は大砲の射撃を爲さず只だ艦隊運動の演習のみ爲したりとの事なり此の演習の際に**ドンスコイ**は機關の一部を破損せり**アウロラ**は同艦を曳船と爲して一時間も曳き來りしが其後**ドンスコイ**自ら航走するを得たり機關の損所は甚だ輕微にて**カムチャツカ**に於て之を修繕せり余が**カムチャツカ**の士官室に居りし時突然予が頭上にて大砲の音を聞きたり是れ**カムチャツカ**に於て病院船**オレーグ**にて病死したる機關兵曹の葬儀に對し弔砲を放ちたるものなりき。

(三十三) 日露開戦一週年商人暴利を貪る

二月八日 日本と開戦してより今日は丁度その一週年に當れり此の戦争は今日に至る迄は耻辱不幸類壞の外に我が國には何ものをも與へざるなりチエゴスアレツより佛國の驅逐艦來航せりオレーグは郵便を搭載し來らずとの風説あり同艦は郵便物を佛國の郵便艦に交附したりとの事なり即ち我等が既に落手したる郵便物はオレーグに搭載し來りたるものなり然らば郵便物の一部は何處にゆきたるにや配達せらる可き郵便物を未だに受け居らざる者は余一人のみに非ざるなり殆んど悉くの着は未だ受けざる郵便ありとの事なり。

二月九日 今日も亦葬儀ありたりドンスコイの水兵病死せりナヒモフは何處かを破損せり同艦に出張せざる可からずスウェトリナはマユンゴを経たる露國の郵便物を受け取りたり六時に郵便を受けたり又も艦隊に對する不満不平の言を記せりアレキサンター三世の掌電具兵に宛てたる書面を落手せり。

二月十一日 近頃葬儀を執行したるドンスコイの水兵は病死に非ずして負傷なりしとの事なり此の水兵は偶然に拳銃にて負傷したる者の由。陸上にて知事の夫人と一商人の妻との間に非常の衝突を起したり其事情は左の如くなりといふ知事の夫人は商人の妻を訪問して陸上にて泥酔せる露國士官の事を知事が提督に訴へたりとは其商人の妻の讒言なる事を詰問し且つ知事の夫人は尙ほ商人の妻に向ひて「我が夫は提督を訪問せず却て貴婦の夫こそ提督を訪問して士官の不始末を訴へたり又貴婦の夫が

此事を訴へたる所以は敢て士官が泥酔せるが爲に非らずして其士官が貴婦と戯け散らしたる爲に貴婦の夫は怒りて此を訴へたるなり貴婦の爲其士官等は今に上陸するを得ざるに至れり云々」と一言に云へば此の商人の妻は知事の妻に誹謗せられたるなり今其商人は旗艦の艦長の許に一書を送りて彼は未だ斯の如き事を訴へたる事なき證明を與へられん事を願へり余は御身に士官等が上陸を禁せられたる理由を書し其はトランプの賭けの爲めなる事を言へり艦長は商人に書面を與へて若し提督より之を得ば證明を商人に與ふ可しと云ひやりたり益々喧嘩に花が咲きて兩婦人の衝突甚だしくなる可し。書翰囊に封蠟を爲なんと欲するも當地にては封蠟を爲したる書翰を受取らず炎熱の爲に封蠟の溶くるが故なり。當地にて商人が暴利を貪るは實に驚くばかりなり多くの店を開きて皆な競て物價を騰貴せしめ且つ互に奸計をたくなみ居れりエスヘランスはマユンゴより買ひ得らる、だけの食料品を購買し來れり今同船は材料を得る爲に出帆せり當地にて露國の貨幣を消費せる其幾何なるやを知らざるなり軍艦運送船が斯くも多數に軍人が斯くも多人數居りて金錢を消費するは全く是れ露國がノーズベーマユンゴチエゴスアレツ等を富まし居る者なり物品や食料品は佛國よりさへも輸入せり。

二月十二日 今日多數の士官は祝祭日なるを以て六時まで上陸を許され皆な上陸せり多くの人々は懷中時計の或は機械を損し針を折りガラスなどを破りたり是等の人々は皆な當地及びマユンゴ等の店に於て時計を買求めたり全く無用の買物なり買ふや否や破損せる人多し何處にも修繕する所もなし。獨逸人は當地にて土地を買取り之を破産せる佛國人に賃貸を爲し其の條件として土地に於て收穫する華尼刺(藥草)を廉價にて買取る可き約を爲せり又當地にて毛皮椰子油、茄菲等を買取りて之を粗製の

まゝ歐洲に輸出して高價に賣捌けり又當地には歐洲より鐵類の手工品其他農具等を輸入せり彼等獨逸人は當地に石鹼製造所を設立しマダガスカル其他の嶋嶼に供給せり。

今日陸上に於て樂隊が音樂を奏したる際に當地の土人の女王が來りし由無論この女王は何等の權力をも有する者に非ずして當地方の領主なる佛國人の爲に只だ形式ばかりに遣されあるに過ぎずリペルウイリの女王に異ならず然し此處の女王は幾分か威嚴を保ちて金錢を請ふ如き事なしオスラビヤの一人の水兵は聖壇に獻金を入れたる盆を盗みたり其罪證を擧げ捕縛せられたれば多分委員の裁判に附せらるゝなる可し、オレーグは待てどもく來着せず今は之を待つ事も嫌やになれり。ノーズベールに入港する船舶に注意する爲め外洋の哨所に在る驅逐艦プレスチャースチーより無線電信にて七隻の船艦來航せり同艦驅逐艦は之を目撃せりと通信せり是れ或はオレーグ、イズムールド、ドネブル、リオン、イルトイシ其他二隻の驅逐艦ならんと想はるゝも尙は疑はし電信班へ行きて之を問はざる可らずイルツ井ツシュ一隻が他の諸艦に先立ちて來航せりと事なり御身に記憶するなる可し同艦は尙レーウエリに在りし際に既に破損せる事を同艦は尙は石炭を積込みて灣口に碇泊せり同艦は運送船中の最も大なる船なりオレーグの報知は全く虚報の如し。

二月十三日 九時に上陸せり當地の小兒輩の我儘には實に呆れたり我等は始終彼等を逐ひやるも何時も我等に付き纏ひ居れり彼等は今共に運動して歩きたる茶代を請へり。(譯者曰く十四日より十六日迄は原書なし)

二月十七日 非常なる雷雨なり電光閃々目眩み雷鳴轟々として耳聾せんばかりにて而も甚しく永く

續けりノツンペー全市内には露語の看板甚だ多く現はれ其看板の中には「來れ買へよ非常勉強」など記せるものあり郵便局の郵便切手には大に閉口なり三十五サンチームの郵券は既に久しく賣切れ其他の郵券も大に缺乏し廿一日か廿二日ならでは輸入せざる可しとなり余には餘程以前に買求め置きたるもの少々残れり。

二月十八日 我が提督は近頃始終病氣なり提督は神經痛に罹れりとの事なり昨日の如きは病苦に呻吟して昨夜も終夜眠られず今も臥し居れり提督は醫員諸氏の勸告に應せざるなり長く病氣になり居られては何の善き事かある可き、提督は臥し居られて朝の茶も喫せられず朝飯に食堂にも出でられざるなり。今日も提督は少しも室外に出でられず食堂にも來られざりき醫師の言に依れば提督は或は痲痺質斯ならんとの事なり昨日の如きは痛みの爲に聲を出して苦痛を訴へ氷にて冷したる程なりきスワロフには其氷の用意なかりし爲め士官が他艦に出張して之を求め來れり非常の混雜なりき。

(三十四) 海戰豫想日露軍艦比較

二月十九日 今日提督の病氣の爲めに朝の茶にも列席せざるを幸に九時まで臥したり其より又直に寢て今度は五時まで臥したり今日は左まで苦熱と云ふ程の炎熱にあらざりき日中は苦熱の爲めに安眠するを得ざるが通例なり今日奉神禮の祈禱ありたり。當地陸上に新に商店を開きたる一人の佛人は艦内に來訪して日本間諜の事を通信せり彼の通信は信するに足らず想ふに得意を引かんと考へより斯の如き事を通信せるなる可し或は然らん概して佛人の間には斯の如き心穢き人物尠ならず。提督

は輕快せり今日は午餐に臨席せられたり今日陸上にて艦隊の樂隊の演奏ありたり天氣は思はしからざりしも多くの士官は諸艦より上陸せり昨夜は通宵雨降りにて今日も亦雨降りなり夜中に明窓より雨が降り込み余が脚を濡したり随分ひどく濡れたり其が爲に安眠を妨げられ直に窓を閉ぢて一睡せり。當地郵便局の官吏には必要なる露西亞語を研究する者さへありて間々郵便物に露字にてペテブルグと書し來れる者さへあり。我等は尙ほ當地に碇泊し居りたらんにはノツシペーは全く露化せらる可しマユンゴより佛國の驅逐艦の齎らし來れる電報に依りて莫斯科の軍務知事暗殺の事と二月十五日（露曆の二月二日）に第三艦隊がリバウを解纜したる由を知り得たり、我等は此處に碇泊して第三艦隊の來着を待たんとするに非ざるか、第三艦隊が此のノツシペー迄で來航するに幾何の時日を要するか若し我等は此の著名なる第三艦隊の來着を待ち居る者とせば實に意外の事と云はざる可からず、此のノツシペーの錨地は我が第二艦隊の爲に諸艦に取りては非常の有害なる錨地にて船艦の底と舷側とは悉く貝殻と海藻とを附着せしめたり是が爲に船艦の航走力を減して石炭の消費を増加せざる可らざる如き不利少からず貝殻や海藻の掃除は船渠に於て之を爲さざる可からざるも我等には船艦を入る可き船渠あるなく潜水夫をして艦底を掃除せしむるには非常の時日を要して尙且つ充分なるを得ず然るに艦底に海藻類を附着發生せしむるは非常の有害にて船艦は是れに依りて其善良なる性質の大部分を失ふなり船舶に貝殻や海藻の附殖の有害なる事は彼の南洋若くは極東に往復し居る商船が少なくも六箇月に一回は入渠して莫大なる費用を要するを意とせず船渠に於て船舶の外部を掃除するの一事に徴しても明かなる可し。

嗟我等は如何なる結果を招く可きか我等は海藻や貝殻の附殖せる諸艦を率ゐて極東に赴かんとするに日本人は掃除修理の充分行き届ける船艦を以て我を迎撃せんとするに非ずや、我が船艦は大航路を航海して漸く其に到着せるばかりなるに、日本の艦隊は其港灣より出動し來るに非ずや尙ほ日本の爲に有利なるは旅順港内に沈没したる我が船艦を引揚げて之に充分の修繕を加へ舊艦名を附せるまゝにて其船艦にて我等に對せんとする一事これなり、彼等は是に依りて其海軍を優勢ならしむるに我が露國の耻辱は果して幾何ぞや嗚呼御身よ試にホルタワ若しくはレトウイザンの如き諸艦が我がスワロフに向て砲撃する事ある可しと假定して其光景を想像せよ我等は此の事を云ふにも堪へざるなり而して我が海軍を滅亡せしめたる者は果して何人なるか、是れ日本人——我が勇敢なる海軍々々人（輕侮的の意味にて）が常に侮りて猿猴と名附くる所の人民なるが彼等は日本人を猿猴なりと輕蔑して斯くも自負傲慢したるが爲に我が露國は非常なる打撃を被りしなり、あゝ余は亦も奮き繰言をなせり寧ろ言はざるに若かず言ふも何の益なし只自ら氣をくするのみなり。明後火曜日には演習の爲に外洋に赴く可し。

（三十五） 日本軍艦の砲力

二月廿日 戦闘艦アリヨールに於て朝飯を喫したり苦歷と……………蟲まで入り居りたるスプを食したり善く食したるに非ずや。アリヨールの士官等の言に依れば近頃毎晩のやうに地平線上に輕氣球の飛揚するを認め其輕氣球は燈火信號を爲したりとの事なり士官の一人は衣服の材料を得られざる

より白のスヤンを綿布にて作る事を想像して之を注文せり。明日艦隊は沖に赴く可し余はカムチャツカ及びアナトイリに出張するを口實に灣内に止り上陸して郵便局に赴く可し是に依りて一日にてもスワロフ其他艦隊の船より免るゝを得るなり余は明日公信郵便物を投函す可し公信郵便物は大きいなる包みなり郵便局に於て時間を費すなる可し。ソエサレウイチ損害の記事を読みたり甚た面白き記事なり同艦には十二吋砲彈十五箇命中せり(是れ恐る可き多數にて十二吋砲彈は最も恐る可き砲彈なり)然し一も装甲を貫通せる砲彈なかりしとの事なり 我か戦闘艦スワロフ、ホロチノ、アレキサンター、アリヨールの諸艦はノエサレウイチに比すれば尙完全なる装甲を有せり若し十二吋砲彈さへも之を貫通するを得さらんには其他の小口径砲彈は固より意とするに足らず勿論これ斯かる砲彈か防禦装甲部に命中したる時の事なりクロンホイ、ロンヤ等の目撃者の談に依れば一見したる所にては悉く破壊粉碎せられて總身慄然たるの感なき能はさるも防禦装甲部には一も貫通せるものなく艦の重要部には何等の重き損害をも受けざりしとの事なり先づ是等の事は甚た結構なるも此のノースヘーに斯く際限もなく碇泊し居りては全く士氣を沮喪せしむるを免れず。

二月廿一日 アナトイリ、カムチャツカ並に陸上に赴くの準備を爲せりカノターは間もなく本艦を離れ去りて艦隊も亦間もなく拔錨せり。正午十二時郵便局にて必要なる用事を終りたり、オレーク乗組みの一人の水先案内と市外に散歩せり餘り好ましき同行者に非ざりき彼は忽ち疲勞せりコヒー店に立寄りてコヒーとレモナーテ等を飲み鶏卵、ナ、等を食し其より墓地に赴きたり梟の番人は近頃埋葬したる獨逸人の墓を示して是れは日本人の墓ですといへり番人にナオフ君の墓を掃除する事を命したる

ひどく崩れて荒されたり其貨銀を拂ふ事を約せり其より歐洲の輸入品を賣り居る印度ハの商店に立寄りたり其店頭の手板は露西亞語にて「御來車の上に士官用の物品並に食料品御買上げを願ふ」と記せり主人なる印度人は多くの露品に通するに至れり店に腰打ちかけ居りたつ際に一人の男は扇にて我等を煽きくれたり諸店の品物は太抵賣れ切れたりしも汽船に到着して今日は物品店頭に充満せり三時にカノターを送るを命したりアナトイリに赴き同艦にて艦隊か沖の演習より歸り来るを待つ可し、我等多くの者か始終散歩に行く村はケラウイルといふ村なる事を近頃始て知れり此頃艦隊に於てノースヘーは既にノースヘースキー郡のノースヘースク市(即ち露國地名の稱呼なり)と洒落れる者あるに至れり當地は實際間もなく露國化せざる可し尙ほ碇泊し居るならんには人々皆な露語にて談話するに至る可し水兵の當地に於ける影響は中々に大なり。

二月廿二日 汽船が來着したるも歐洲より來航せるに非ず艦隊に着する郵便物を搭載せず今日早朝に書面と麻布の包みを受けたり開封して御身の來書たる事を知れり非常に喜ひたり又其包みはアリヨールの技師か書面を斥へて防水の試験に關する雜誌をぞりたるなり夜中に我かスワロフに一の悲劇を演出せり何者の所業にや艦内に飼ひ置きたる小猿を喰ひたる者ありて只その尾と毛皮の一部のみを殘せり是れ或は鼠か大の仕業なる可し此の外にも艦内に尙多くの猿猴殘れり。今日運送船キタイ並に驅逐艦に赴かざる可らず運送船イルチソイン近々來着す可しとの風説あり同艦は他の諸艦よりも遅れて露西亞を出帆せるなり。八時頃より甲板のノエルターテノキに居りたり風ありと云ふ程に非ざるも微風に吹かれて坐すれば少しも執さを感せず其處に多くの人々集まり來りて種々の雜談を爲せり。

今日余は某驅逐艦に出張せり艦長と士官は甲板の上に在りて茶を喫せり彼等は網の襦袢一枚に白のズボンを着けたるのみ跣足にて歩行せり余は斯の如き風習に慣るゝ事を得ず、余は艦長の足を見て驚きたり足の指は只だ季指一本を有するのみにて他の指は既に久しき以前に失はれたるなり意外の感に打たれたり。今日一士官に對して特別委員の軍法會議を開きたり、同士官は他の一士官を辯護するが爲に艦長に對して甚だ不敬に亘る言辭を以て上申書を提出せる者なり、此の士官は提督の命に依り既に一月中にウラールより轉任せられたりしなり今回は參謀部に於て免職を命するなる可し、裁判の結果は如何なる可きや之を知らず此の士官は甚だ濫良なる人物なりとの事なり、彼が訴へられたる犯罪は嚴重に處刑せらる可し或は水兵に貶黜さるゝか或は禁獄の刑に處せらる可し、某氏は今日書面を認め其を今日直接に汽船に送るの好機會を得たり余は此の機會を得る能はざりしを遺憾とす、露國にて或る人は艦隊より二月廿二日投函の書を受けたりといふ者ある可きに御身には二月廿一日投函の書面到着するのみなる可し然し他の家族中には御身の如くに多く書面を受くる者なかる可きを以て其にて慰む可し甚だ面白きを以て郵便局の書附を御身に送る可し郵便局の官吏は自慢して露語にて「ロシヤベテルブルグ書留」などと書せり是れ其官吏は余の書面より寫し取りしなり。書面の認めを怠りたり御身の爲に書面を書きたきは勿論なるも公用の書面に對して返辭を出さざる可からず其返書も簡略にして終る可し、某氏は露國に電報を發し五日間にて其返電を得たり甚だ速かなりと云ふ可し是れ大に天候の良好なるにも依れる事なる可し。露國に送金を容易ならしむる廻章を發せられたり爲替はベリシクに於て取組まる可し其爲替券を得て價額表記の郵書を以て發送するを得べし其爲替券を得たる者は銀行に於て支拂を受くるを得るなり。

二月廿三日 委員裁判は一士官に對して身分權を褫奪したる上に免官を宣告せり宣告は提督の確定を得て執行せらる可し裁判にて處刑は軽く決定せられたり、ウラールに於て行はれたる幾多の不都合醜事は曝露せられたり此の事件も漸くのことにて終了せり風説に依れば此の一士官は正直なる人物なりとの事なり同人は彼得堡に送らる可し。今艦内に非常の騒動ありたり即ち艦内の一室より烟渦巻き出でたるを以て人々其室に馳せつけポンプまでも用意し將に火災の警報喇叭をも吹かんとせり後に此烟は行李に入れありたる麻の夏服に火が附きて焼け居るものなる事を知り其夏服を引出して之を揉消し艦内一同安心せり。今日晝餐の時に腐敗肉を出したり余は最初に其を知らず其肉片を食したり。上陸して龜甲を買求む可し若し見當らば之を買ひて櫛またはビンなどの頭を造らしむ可し。

(三十六) 第一艦隊は何處に在りや

二月廿四日 アウロラより海上信號器にて何用にや出張を請へり朝飯を終りて同艦に出張す可し。或る所より得たる通信に依れば日本の軍艦がマダガスカル附近に在りとの事なれども日本人は自ら進みて其の海軍を殲滅せしむる如き愚を爲す者に非ざる可し、我が艦隊は來る二十八日に露國に出帆歸還す可しと確定したりとの説専らなり余は之をナヒモフに於て最新の確實なる報知なりとて傳聞せり能くも斯く馬鹿げたる事を考ふる者なり、ナヒモフの士官室に於て一人の技師と數時間雑談せり此の人は學校時代よりの知己なり。驅逐艦グロスヌイの水兵四人は上陸の際に土人の小屋を破壊し掠奪を

なしたる事の罪證を擧げられたり其者共は裁判の上に嚴刑に處せらる可し里人が其損害を申出でたる額は僅に約六十フランに過ぎず人命には別狀なかりき。

今日も非常の炎熱にて實に當地の俚語に所謂(己れの汗を浴び居る)有様なり飲み物のみを際限もなく飲み居るなり。**スワロフ**の冷却機の修繕を終りたる由なれば製氷を得らる可し甚だ好都合なり、今既に余が卓上には水と氷とを入れたるコップを置きあり何人も之を得らるゝには非ざるなり冷却機を運轉せざる時は提督にも氷を他艦より持來りて供するなり幕僚は此の水を得らるゝは勿論なり自ら此の熱さに經驗なき者は冷かなる飲物を如何に樂みて飲むかを想像するを得ざる可し艦隊にては此の水にて種々の用を爲せり陸上にも之を販賣せり。**タンボフ**の艦内に巻煙草ありとの事なれば同艦に赴きて之を得べし。無聊徒然に堪へず何れなりとも早く決定せられたき者なり總ての者は露國及び全世界との交通を絶たれて蠢爾たる動物の如くに生活し居れり一様不變なる生活は實に無聊に堪へざるなり徒れゝにて何事も手に附かざるなり其一例を示せば今日人々は士官室に於て猿にシャンペンを飲せ犬と喧嘩などを爲さしめて樂しみ居れり。若し第三艦隊が當地に到着するまで此處に碇泊せざる可らざるかを想へば實に嘆息に堪へず第三艦隊は來航中にて第二艦隊はノツシペーに碇泊し居るとして然らば第一艦隊なるものは何處に在るかを思へば實に滑稽に堪ざるなり第一艦隊は如何なる船艦より編成せられ居や浦鹽の三隻の巡洋艦隊より成るとせんか其中の二隻(ボカチール、グロンボイ)は暗礁に乗揚げて半ば破壊せられ居るに非ずや實に滑稽にもあり又甚だ残念至極にも感ずるなり。

二月廿五日

佛國新聞の影響にて和議締結の説甚だ盛んなり如何にもして平和を締結し莫大なる償

金をも拂うても之を爲す可しとの説あり、嗟我が露國は遂に賠償金を支拂はざる可らざるに立至れるか遂に戦争は全く敗軍なるか余は之を信するを欲せず我の招きたる耻辱は今までにて既に充分なるに其終局までも斯く耻辱のみなるか如何なる代價を拂うても平和を締結せざる可らずとは既に二者の側(露國人)よりも耳にするに至れり是れ果して如何なる精神ぞや此の耻辱極れる事を公言し且つ之を辯護せり斯の如き所信を懷き居る人々が果して善事を期待し得べきか實に困難なる秋なり戦争にも露國內地にも萬事が悪運なり此の結果は果して如何なる可きか善美なる終極は到底期す可からず。

二月廿五日

(續き)今朝書面の認めを妨げられたり石炭運送船**ゲルマン**の破損修繕の爲に出張せざる可からず**ゲルマン**より**オスラビヤ**に赴きたり。不愉快なる事件生じたり**スワロフ**の舵の鐵板少しく

剝落せり偶然此事を發見せり非常に大仕事なる潜水工事を爲さる可からず且つ日數を要す可し此の破損を目撃したる士官に未だ面接せず二時間も彼を呼びて待ち居り是が爲に上陸もせざりき、電報と書面の投函を他人に依頼せり余は舵の破損の事を思へば思ふ程甚だ疑はしき點あり鐵板の剝落したる者ありしやも知れざれど其が舵の鐵板なるや否や疑はし若し余が今思考し居る位の事に過ぎずとせば是れ鶏卵の殻位に過ぎざる可し余自ら潜水器を着て水中に入りて實地を調べ可きかと思へり**アラキシン**の時に潜水を爲したる勞を回想して能く必要に非ざれば水中に潜入せざる積りなり。三時我が想像は當れり**スワロフ**の舵は少しも破損せざりき鐵板は所謂僅かの窓のものが剝落せるにて其修繕は別に手數のかゝる事に非ず潜水技術専門の士官を潜入せしめたり。今日は甚だ面白からざる日なりき今日は先づ早朝に病院船**アリヨル**に於て死去したる水兵の葬式あり次に**オスラビヤ**の一人の水兵は

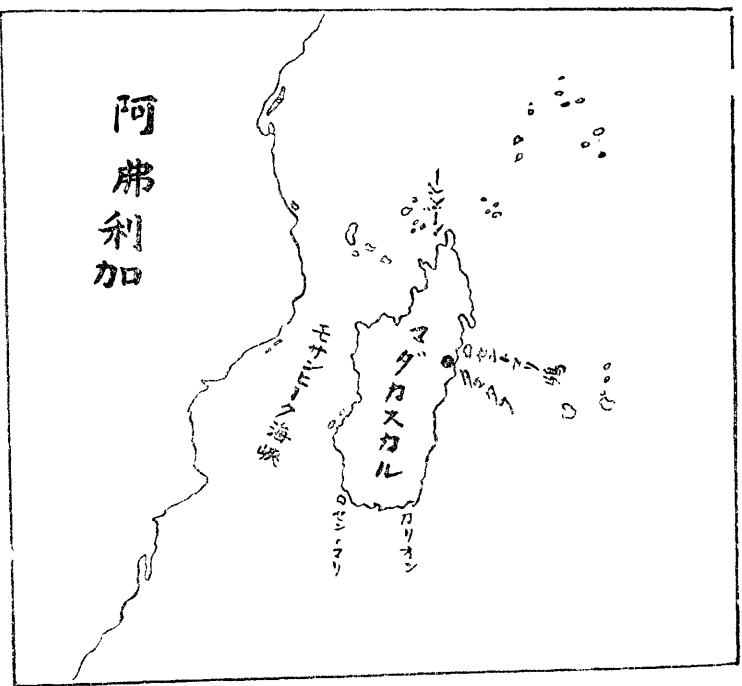
其脚をカッターと本艦との舷側に挟みて足を折り遂に死亡せり夕刻には**ドンスコイ**の一水兵溺死せり斯くの如き事件は今まで未だ曾て知らざる所なり**ボロチノ**に於て指を塗り取られたる水兵を病院船**アリヨル**に移乗せしめたる事を近頃聞知せり重傷なれども生命に別状なかる可しとの事なり。三十分程前に一人の士官が**スワロフ**の舷側より墜落したるも幸ひに本艦に救はれたり**シャンペン**に酔ひたる結果なりとの事なり今夜幕僚上席主理に面會せり**ダムボフ**に於て巻煙草一千本十五留にて販賣すとの事なり甚だ高價なるも致方なし若し其値にても買ひ得らるゝなれば宜し選ぶ事も得ずに其を買求めたり今是れより寝に就く可し明朝は**ゼムチーグ**に出張せざるを得ざるを以て六時に起すことを命じたり。今日**シャンペン**を入れたる箱數箇を**スワロフ**に搬送し來れり數人の水兵は其箱一箇を掠めて其船の燧爐の中に穩せり彼等は捕はれたり若し事を公にして軍法に問はれれば彼等は嚴刑に處せらる可し。陸上に**コーヒー**店俱樂部を設けられたりとの事なり又も新しき風説(固より信ずるに足らざる)ありて我が艦隊は第三艦隊に合する爲に**チブチ**に赴く可しとの説あり(譯者曰く廿五日より廿六日迄原書なし)

(三十七) 艦鐘四十二隻海員一萬二千

三月廿七日 今朝は六時に起きたり終日**ゼムチユグ**、**スワロフ**、**アリヨール**、**ボロチノ**、**アレキサンダー**其他**カムチャツカ**の諸艦に出張して働きたり朝飯の間にも合はず**カムチャツカ**にて朝飯を始むるや**スワロフ**に歸艦を請はれたり同艦には期日の仕事ありしなり故に朝飯の遑もなし**スワロフ**の仕事は未だに終了せず尙ほ之に従事せり昨日御身に電報を發したり、今日書類に接手せり郵券を貼りた

る封書は我が卓上に在り上陸する時に一度に之を投函す可し郵便船は來月の六日若しくは七日に出帆す可し。水兵は上陸を許されず**クロンスタット**出帆以來未だ一回も上陸せざる水兵甚だ多し**レーウエル**にては出帆前に多くの人々上陸せり、近頃の事なりしが**カムチャツカ**の一水兵は二箇の救助袋を身體に附けて舷側より海中に跳込み陸岸を目差して泳ぎ出せり既に泳ぎ出すや偶然に探海燈にて照されて海より**カムチャツカ**に引揚げられたり。其水兵は脱艦の次第を述べて「海上の無聊に堪へず陸地に赴き度くて忍耐が出来ず上陸を試みたるなり」と云へり此水兵の境遇は實に堪へざるなり特に余の最も奇とする一事は或士官等は**レーウエル**出帆以來上陸するの便利を有しながらも一回も上陸せざる士官等のある事なり。**チブチ**の事(第三艦隊に合する爲に同地

佛領マダガスカル及鮮島を示したる圖



に赴く可しとの説)は今尙ほ専ら風聞せり余は此の倦厭に堪へざる生活に苦められ家の事を想ひ精神何となく壓せらるゝが如く感せり、此漂泊が何時終るや少しも知れず余は此の艦隊より御免を被ふる爲に何事かを爲さんと欲するの念なきに非ず艦隊は戦争の終るまでも極東に赴かざる可し余は此艦隊に乘込みたるを大に後悔す。明日も早朝に起きてゼムチウグに赴かざる可らず同艦には尙ほ多くの破損あり特に潜水工事ありて仕事の結果を自ら實視するを得ずして指圖のみを以て爲さざる可らざる仕事は最も困難なり、ゼムチウグと同型に建造せられたるイズムールドにもゼムチウグに遭遇したる如き舵の破損を豫め防ぐ爲同じく潜水工事を爲さしめざる可らず。御身は此ノツシペーに軍艦旗商船旗を掲げて碇泊し居る船艦が其幾隻なるを知らざる可し實に四十二隻の大數なり其外にも當地には艦隊の運送船は其數をも知らざるなり又其士官と水兵とは果して幾人なるや一萬二千を遙に越ゆるならんと思はる。今日晝飯後に郵便を投函する爲めに是非上陸す可し再び粉失の憂ひあれば他人には託するを得ざるなり余は書面の差出しを澤山委託せられたり其中には公信書もあり未だゼムチウグに出張するを得ず大方今同艦に赴くを得べし途中カムチャツカに立寄る可し天氣は宜しからず宜しからざるのみならず大雨にて忽ちに全身渾濡になりたり。オレーグに出張して同艦にて朝飯を爲せり同巡洋艦に三十分も居りたりオレーグ艦長は病氣なり或は肺炎なりと云へり上席士官その他の者も同艦にては跣足にて歩けりエンクウイスト提督は其幕僚と共にオレーグに轉乗す可し同艦は彼等の爲には狹隘なる可しと思はる。從卒は書面の投函を託し置きながら何故にや持來らず今の所にては上陸を妨ぐる用事もなし偶然の事も生ぜざる可し。運送船コルチャコフは最初露國に歸還せしめらる可しと想像せられ

たる、歸還せざる可しとの事なり今日同艦並に運送船ヤコスラウリはヂエゴスアレツに赴く可し。今日二時に上陸せり六通の公信書を皆な投函せり陸上の商店は雨後の菌の如くに續々開店せり多くの新しき露語の看板いよゝ多く現はれたり今日は左の如き看板を見たり「此の商店に御寄りを請ふ」と記したる切りにて他に何も記せず、今度新しく開業したる「露佛コヒー店」の前を通りたり物價は益々騰貴せり普通の店にて冷水に少々ばかりの酒石酸を和したるもの一杯が水を入れずに五十サンチムを取れり。土人の結婚式を見物せり先づ黒人等が行列を爲して市役所に至り其處にて帳簿に記名し其より一同會堂に赴き其處にて牧師は結婚式を行へり二人の若き夫婦の者は靴を穿き歐洲風の服裝を爲して凡て歐洲人の通りに衣服を纏へり會堂内に於て結婚の式中に犬が會堂の中を走り廻り居るも誰も之を制する者なかりき大方當地にては犬を不淨なる動物と思はざる者なる可し、牧師が式を行ふ時に一人の黒人の少年が是に供事せり牧師も黒き立派なる鬚髯のある人なり(勿論歐洲人にて宣教師なり)會堂は黒人の参拜者を以て充滿せられたり見物人の中には我が士官等も多人數居りたり結婚式終りて新夫婦は相携て會堂に在る参拜者の間を廻り献金を集たり余も一フランを與へたり黒色人にて充滿せられたる會堂にて基督教の式典を舉行せられしは慣れざる者には何となく異様の感を爲せり。水兵等は何程酒を飲むにや今日も擔架にて既に感覺を失ひ居る水兵を運び来るを見たり動き廻りて滑り落ちたり實に視るに堪へざりき。オレーグ艦長の病氣は甚だ思はしからずとの事なり若し艦長の病氣は肺病なりとせば甚だ悲しむ可き事なり若し肺病の傾にてもあらんには當地の氣候は忽ち影響して急激に其病勢を進む可しとの事なり士官室には又も一つ獲物を増加せり何處より携へ來りしにや生きた

る小さき鰐魚を持ち來れる者ありスワロフは實に巡航動物園の如くなれり。來る三月中旬に當地を出帆して或は直に極東に赴くならんと思はる若し果して之を事實なりとせば何故に第三艦隊を増遣せるにや實に方針も熟慮も順序も何にも存せざるなり各人皆な思ふがまゝに妄想を逞うし居るに過ぎず。

（三十八） 淹留既に二箇月悲報頻に至る

三月一日 驅逐艦ホールドイに一度とカムチャツカ、スウェトラナ、ゼムチユグ等に各二度出張せりイルトイシの運命は心配に堪へず同艦は既に一月廿一日にポートサイドに着したりとの事なれば疾に當地に到着せざる可らざる筈なるに今に來着せざるなり各地に同艦の所在を問合する電報を發したり。我艦隊が當地マダガスカルに來着してより今日にて丁度二箇月になれり余が受けたる御身よりの最近着の書面は十二月二十六日後の書面なり若し佛國の郵便船が我が艦隊に郵便物を持來らずとせば甚だ遺憾なり。若し我等はノッシベールを出帆して直に極東に赴くなれば今發送する郵便や電信と今後の分と非常に其間を隔つ可し然し御身よ決して心配する勿れ斯かる杜絶は自然の事にて前途は非常の大航路なり若し天候にても不良ならんには約二十日間を要す可し。我が艦隊の極東發航に就きては多くの者は之を疑ひて此の事を信せざるなり實に失望せざるを得ず若し今後偶然の出來にても生ぜざらんには極東發航は近日なる可し種々の爭論始まりたり驅逐艦の二人の艦長は石炭積込の爲めに其艦の投錨位地の事より爭論を生じたり一人の艦長の如きは非常に憤激して驅逐艦には旗艦スワロフに

來り相手の艦長を提督に訴へたり、此の事件の終るや否や又も一事件を生じたり旗艦の水雷隊の一士官は猿猴を飼養し居りたるが其猿猴を全艦より取片附く可き事を命せられたり（此の士官は室内に猿を幾匹も飼ひ置きたり）此の事件の起りは其の猿が上長官の室に入りて亂暴したる爲に上長官が此の事を上申したるに原因せり之が爲に彼等二人は上長官の室に於て爭論を始めたなり是れ皆な餘り嬉戯に耽り居るより生ずる事なり、夜に入りて又一事件生じたりスワロフの一士官は水雷艇演習の際にオスラビヤが自艦に對する水雷の演習發射を認めざりしとてオスラビヤに向て何事かを言ひたりオスラビヤより此言を爲したる士官の姓名を知りたしと要求し來れり、大方明日此の事件の上申書を參謀部に提出するなる可し此處には如何に不愉快に生活し居るかはこの一事にても知らる可し。

三月二日 朝は例に依りて諸艦に出張巡航せり漸くの事にて朝飯に間に合ひたり驅逐艦艦長等の争ひは如何に結着するや未だ判然せず一人の艦長は今日何事かを説明する爲に參謀部に來りたり又説明を得る爲に一方の艦長を召喚せり尙ほ互に水かけ論を爲し居れり。今夕士官公室に於て盛んに論談せられたる事件ありたり一匹の犬が多くの入々より寵愛せられ居りたる小猿の尾を噛みたり犬は酷く苦められ醫師は猿の尾に治療を施したり今その猿は尾に繃帶せられて遊び居れり。

三月四日 煙草三百箱程買ひ求めたり皆な吸口なしの巻煙草なり其煙草は色が黒く味も甚だ不味なり然しロシヤ煙草は到底得られざれば是れにても貯藏し置かざる可からず。陸上に商店の開業尙ほ益々多し商人は互に競争を爲せり一人の商人は近日貨物を積みたる汽船の來航する事を豫知して凡て六割引の減價にて販賣す可しとの廣告を爲せり然し此の商人は前に總ての物價を約三倍も騰貴せしめた

るなり實に不埒なる商人のみなり。今夜遅く**ポロチノ**に出張せり夜間に灣内を航するは甚だ不便なり若し汽艇の方より暗號の合詞を答へざれば往々發砲せらるゝ事あり然し汽艇の方にては波浪や機關の音響の爲に其側を通る艦より哨兵の發する問ひの言を聞くを得ざる事屢々あり。郵便局に於て何事にや歐洲よりの電報を掲出したる由なるが知事は露國の士官等に之を知らしめざる爲に其電報の揭示を撤去せしめたりといふ是れ或は今迄のよりも更に重大なる（露國の）不幸の報知に非ざるか、揭示場に殘されある電報に依れば日本人は殆んど浦鹽を封鎖包圍せりとの事なり浦鹽には殆んど何等の軍需品の貯藏もある無し未だ旅順の陥落せざる前に軍需品を搭載せる四隻の汽船を旅順に送遣したるに四隻とも悉く日本人の爲に捕獲せられたり、日本は旅順より大砲を取り去りて其を以て（即ち我が大砲を以て）韓國の沿岸の防備を爲せり嗟若し浦鹽にして既に封鎖せられたりとせんか我が艦隊は何處に赴く可きか若し我が艦隊は浦鹽の陥落前に浦鹽に到着し得るとするも浦鹽には軍需品缺乏し我が艦隊にも軍需品は至て乏し斯の如くんば果して如何にす可きや我等饑餓に迫り居る者が同じく饑餓に瀕し居る者の救援に赴くなり斯くの如くならんには我が海軍は恰も旅順の海軍と其運命を同うして滅亡するのみなる可し序に言ふ可き事あり**ボカチール**船渠を出るや否や沈没しかけたるも浮船渠を以て之を救ひたりしとの事なり破損せられたる**グロンボイ**は修繕せられて船渠に在りと云へり、日本人は浦鹽に巡洋艦と驅逐艦とを遣はせり**クロバトキン**の行動は甚だ穢なし、日本は佛國と左記の如き密約を爲せる事を御身は知れりや即ち其約條は左の如し「露國艦隊は幾日にも其必要なるだけ**ノーズベール**に碇泊せしむるを得べし但し同艦隊は若し三日間同港より出動する事あれば其後三箇月の間は佛領の港

灣には一切入港する權を有せず」若し之をして眞實ならしめば露國の位置は全く絶望なりと云はざる可らず萬事は如何に終る可きか豫め之を知り難し余は筆紙の上に記述するを得ざる事尙は多くあり皆是れ一般の形勢を良好ならしむる事にあらず。**マユンゴ**に碇泊し居る**エスペランス**は四度も當地に向け出航の準備を爲したるも四度も其汽關に損所を生じたり勿論是れ乗員の故意の破壊なり。

今日御身よりの電報を落手せり其電報には只だ「壯健に……」とあるのみにて其後なし今はたゞ御身の生き居るだけの事を知り得たり我が海軍省は十二月の始より我が艦隊に一回も書面を送らず御身の報にて大に喜びながら今日は奉神禮の祈禱に與りたり（今日は戦死者追弔の祈禱會なりとの事なり）十一時に**ポロチノ**に出張せり余は何時も軍刀を掛け置きて之を帯びたる事なきが今日は軍刀を帯びたり然るに船の梯を登る時に軍刀が挑撥されて刀身鞘を脱して水中に落ちて沈みたり海水の深さは十二露尺もあれば之を取ると甚だ難し**ポロチノ**の技師は余に物品掛紐を贈る可しとの約束を爲せり軍刀を佩するに便利なる可し然し眞物の軍刀は當地に於ては購ふを得ず**ポロチノ**に於て甚だ愉快なる朝飯の馳走ありたり士官室は奇麗に裝飾せられ甲板には毛氈を敷き隅々には盆栽を置き食卓は露字のII字形に配置せられ其上に見事なる花を挿したる花瓶を置き又食卓布の上も花を以て裝飾せり來客は可なり大勢にて音楽も奏せられたり各士官は互に深厚なる友情を發露して其交友の情羨まじき程なり互に且つ笑ひて其歡樂尽きざるものゝ如し然し皆な職務を忘るゝ如き事なかりき、食後又た數人づゝ一團となりて集り杯を傾けたり樂隊を士官室に招ぎ其處に小卓を置きて音楽を奏せしめたり多くの士官等は互に自ら樂器を取りて我が懐かしき小露西亞の進行曲を奏せり最初余は少しも酒を飲まざりき然し後

ち一團となりて集りたる時に音楽を聞きながらシャンペンを飲み始めたり中々に澤山飲みたり余は杯を擧ぐる毎に御身は余が酒を飲み始めたるに喫驚するならんと想ひながら酒を飲みたり一同散じても尚ほ多く舞踏を爲し居る士官ありたり余は本艦に歸るために六時にカッターに乗りたり。郵便船エスベランス來着せり全艦隊に着したる郵便物は甚だ少なく僅に一袋に過ぎず其も只ギンスブルグ商會を経て發送せられたる者に過ぎずギンスブルグを経て送られたる新聞に依りて露國の出來事を知りたり又此の新聞に依りて戦死者並に負傷者に對する我が政府の處置の事をも知りたり斯の如き不幸危難の續出するは何故なるかを談ずる事さへも心苦し余は實に艦隊の航海に加はりし事を後悔す。

（三十九） 參謀本部の不親切好男兒日本を識れり

三月五日 一汽船明日歐洲に向けて出帆す可し今日は日曜日なり今日も明日も書留郵便を取扱はざる可しとの事なり甚だ遺憾なりマライヤは若し未だ蘇士海峡を通過せずば再び艦隊に引き歸す可しとの説あり。

三月八日 今日の上陸せんかと思へり別に臨時の仕事も今の所にてはあらざる如しゼムチユーグの舵の仕事は既に終りたり是れにて充分なりイズムールドにも亦同様の仕事を爲さざる可らず。夜の十一時グロムボイの修繕を了したりとの報知に接したりイルツイシは遂に見附かりたり同艦はデブチより二日に出帆したりとの事なれば當地には十二日か十三日に到着す可き豫定なりイルツイシにて露國より郵便物到着す可きや或は來らざる可しと思はる露國政府は若し此の事を配慮したらんには一月十

七日までの書面をデブチに送附するを得べき筈なるも是等の事を配慮せざる可しイルツイシが我が艦隊に持來れる郵便物は何處より持來れるにや然し兎に角に同船が郵便物を持來れるならんとの一縷の望あれば此の運送船の來着を頻りに待ち居るなり。

三月九日 今灣内より歸りたりゼムチユーグの潜水工事は上出來にて甚だ愉快なり最初余は工事の成功を疑ひたる程なりき潜水員並に此の仕事に關係したる士官等の功勞を記録せられん事を余は提督に願ひたり艦長は此の事を約束したり余も一言茲に附記す可し。今ポロチノより士官候補生來訪せり其姓名を忘却せり彼は士官試験の試験を受くる許可を得る事に助力せられん事を請へり三時頃に上陸するの仕度を爲せり。

三月十一日 急ぎて上陸し郵券と煙草とを購ひ郵書を投函し直に歸艦せり土人は其働さぶりを示して横着を極め居れり歐洲人は概して土人に對しては更に禮を重せざるなり土人等は余が手に包みを携へ居るを見るや大勢駈け來りて店頭に集りたり歐洲人なる店員は恰も犬を追ひ散らす如くに土足にて彼等を追ひやりたり然し容易に散せざりき、郵便局に於て我が艦隊に此の地方より發送せる郵書と電報とを配達せり其郵便の中にはキールより我が提督に宛てたる端書ありたり此の端書に一獨逸人は彼の北海の漁船砲撃事件の事を書きてロゼストウエンスキーを嘲笑し歸還すべき事を勸告し「況んや卿等の爲には火酒の貯藏あるに於てをや云々」と云へり。三時に無線電信にてイルツイシより報知を受けたり八時に同船は灣内に入り來れり郵便物は一も持ち來らず露國の海軍參謀部は實に不都合極れるものにて郵便物を送附せしむる如きは甚だ容易なる事なるも之を爲さざるなりイルツイシはデブチ約

一箇月も碇泊せり皆な異口同音に參謀部を誹謗せるも別に致方なし參謀部長自らはギンスブルグ商會の手を経て書面を艦隊に居る其子息に送り來れり。一の郵便物發送の如き單純なる仕事をも充分に爲すを得ざる我が國は如何で日本と戰爭するを得んや彼等參謀部の不親切なるが爲めに又一指をも動すの能力なきが爲めに我等は既に二箇月半も家郷より一言の音信をも受くるを得ざるなり軍隊に家郷の音信を得せしむるは士氣の發奮に最も必要なる事なるに斯の如き事をも爲すを得ざる者が日本の如き勁敵と何處に於て戰ふを得んや余は既に我が國の秩序の如何を知り居ればイルツイシに別に望みを屬せさり然し他の多くの人々は同船が多くの郵便を持來る可く其時は如何に愉快ならんと信じ居りたるなり、イルツイシに於て上官の一人發狂し蘇士より露國に歸還せしめたりとの事なり明日は同船に出張す可し又ボロチノにも出張せざる可らず。

(四十) 奉天は遂に奪取せられしか

三月十二日 郵便物事件にて多くの人々は參謀部の處置を憤慨し各艦一致してノーオエウレミヤに電報を發し艦隊の各士官は親戚知人にオデツサのギンスブルグ商會を経て書面を送られん事の廣告を依頼する旨を打電せんと云ひ合へりギンスブルグ商會は我が艦隊の戰爭史上に如何なる働きをなせるかを御身に話す事ある可しギンスブルグ商會なくんば全く何事をも爲すを得ざりしなる可しギンスブルグは我等に飲ませ且食はせ又全艦隊に一切の軍需品を供給せり(譯者曰くギンスブルグといふ人は露國の猶太人にて明治十年前後單身我が横濱に來り僅に三弗の給料にて人に雇はれし働きを爲し居りし由なるが次第に貯金して

多少の資力を得て商業を始め後露國軍艦來航毎に賣込み商となり遂には御用商人となり巨萬の財産を得るに至れる人にて現今オデツサ始め極東の樞要なる開港場に支店を設け居る大商人なり露國にてもギンスブルグ商會と云へば風指の豪商なり)奉天は遂に日本人に奪取せられ露軍背後の鐵道は破壊され露軍は五萬の死傷を出し捕虜となりし者五萬に達せりとの報知を受けたり實に畏怖す可き不幸なり現狀に依りて考ふれば戰爭は全く我が敗戦なり浦鹽が或は包圍せらるゝか或は奪取せられたりとの報知來るべしと日々之を待ち居れり我が艦隊は何處に赴かんとするか我が艦隊は嫌厭に堪へざる艦隊なるも兎に角に唯一の根據なり、嗟不運なる露國よ爾の患難は何時終らんとするか一難を去れば一難襲ひ來るは爾の運命なり。

三月十三日 歐羅巴並に米國より日本に砲彈大砲網鐵一切の武裝品並に食料等を輸入し一隻の汽船の如きはミルクのみを満載せるものさへもありたりとの確報ありたり日本には運送船より成れる一艦隊到着せり日本の海軍も陸軍も一切の軍需品を最も豊に供給せられ物資は河の流の如くに續けらるゝなり露國は日本と全く反對なり滿洲に於て我が兵は饑寒に苦み着るに衣なく跣足にて居る者あり大砲も砲彈も甚だ乏し我が艦隊は如何之を日本の艦隊に比する事も耻かし今我等は碇泊してギンスブルグの汽船レキンが何等かの物資を搭載し來るならんと之を待ち居れり我等は只一隻の汽船を待ち居るに我が敵には斯の如き船は數十隻あるに非ずや。余は敢て豫言者に非ず左れど余の言を記憶し置可し——日本は三月下旬を以て必ず樺太を占領す可し遅くも四月には浦鹽を封鎖し或は浦鹽附近に日本軍の上陸を見る可し我艦隊は極東に赴くを得べきか浦鹽が我等の到着迄保つと假定し又我が艦隊が日本艦隊に勝利を得べしと假定するも果して浦鹽に到着するを得べきか到着して後如何にす可きか浦

奉天は遂に奪取せられしか

鹽には石炭缺乏し砲彈火藥大砲は皆無なり我が艦隊が一回の交戦に其携ふる所のものを發射せば其餘す所果して幾何ぞ且それ日本の戦艦は交戦後直に佐世保長崎其他の諸港に入りて迅速に其損害を修繕し新なる戦争に準備す可し而して我等は如何只浦鹽に一箇所の船渠を有するのみに非ずや**グロムボイボカチール**が其修繕に幾何の日數を費したるかを一考せば既に是れにて充分なり浦鹽も亦第二の旅順たるを免れざる可し然も是れ浦鹽が我等の到着まで保ち戦争の結果が日露互に伯仲の間に在る者と假定しての事なり、我等は大航海を爲し大に疲勞せる水兵を以て海戦を爲し且つ我等は尙運送船をも防禦せざる可らざる者なる事を忘却す可らず、運送船**レギン**は我等に郵便を齎らす可し同船は幾何もなく當地に到着す可し彼の獨逸海の漁船砲撃の際に同士打ちの砲彈にて打貫かれたる**アウロラ**の損所を一見せり一箇の彈痕の如きは砲彈爆發の爲に殆んど直角に屈曲せり。非常の炎熱なり余は三月十四日(即ち露曆の三月一日)に我が艦隊は浦鹽に到着するを得べしと豫想したりしが余が豫想は大なる誤りなりき若し旅順及び陸戦の不幸だに無かりしならんには秘密に依れば我等は三月十四日には浦鹽に到着の豫定なりしとの事なり余は尙は露國に在りし際に艦隊に就きて想像したる日取りと只數日の差あるのみなり。日本は大巡洋艦の建造を迅速に竣成す可し三月下旬までに日本に於ては黒龍江の通河に用ふる多數の小砲艦を必ず準備す可し。

（四十一） 愈々拔錨諸艦船の混雜

三月十四日 **レギン**の外に我等は佛國の郵便船にて郵便を接手するを得べし同船は當地に十八日頃

に來着す可し今後の航海の爲めに急がはしく準備を始めたり若し佛國郵便船の來着を待たずに出帆する事となれば甚だ遺憾なり我が艦隊は兎に角に運送船**レギン**の來着を待たざる可からず同船にて輸送し來る軍需品を得ざれば前途に動くを得ざるなり第三艦隊の到着は待ち居らざる者の如し果して然りとせば何故に無用の資金を費して此第三艦隊を増遣したるにや若し我が第二艦隊が戦争に敗るゝ事あらば第三艦隊は獨立して航進を續くるを得ざるに非ずや若し第二艦隊の海戦が其結果決戰的ならざる可しとするも尙且つ第三艦隊は極東に赴くを得ざるに非ずや、全船艦に對して「命令を受けたる後廿四時間内に拔錨の準備を爲す可し」との信號ありたり運送船**レギン**は尙ほ來着せず又も舵機破損の爲に**カムチャツカ**に出張せり。**スワロフ**は波羅的造船所に於て建造せられたる艦なり余は幾度も之を觀時としては甚だ不快なる感を以て之を見たる事もありたり當時余はよもやこの船が余と斯くも因縁ある關係の船となる可しとは思はざりき。上陸して郵便を投函す可し今日船より出るを得らるゝや否やは不明なり郵便を差立つるを得ば大に安心なり、余は非常に神經過敏になりたり今日も友人と快談したるが遂には口角泡を飛ばして激論するに至れり一方より見れば甚だ面白き事なるも亦敵を作るといふ一事より考うふるも宜しからざる事なり。今新に時日の計算を始む可し即ち我等は當地出帆の後若し途中に何事もなくんば一箇月半にて浦鹽に到着す可し故に若し別に何事にも遭遇せず我が艦隊が近日中に出帆せば我等は五月中旬に相見るを得べし。

三月十五日 運送船**レギン**は接近し灣内に入れり間もなく投錨す可し我等は明日拔錨して極東に赴くやも知れず今後余の書面が暫く中絶するも決して心配す可らず海上穩かに航海するを得ば三週間に

てスタ海峡に到着す可し運送船レギンは多少の郵便物を搭載し來れり郵便物の一部を何故にやボートサイドに遣し來れりとの事なり齎らしたるは二月九日後の書面なり。三月十六日の正午十二時迄に蒸汽力を準備す可し」との信號ありたり即ち郵便船の來着を待たずに出帆せんとする者なり御身に書面を發送する爲めに上陸す可し。夜九時にいま一度書面を出すを得たり陸上の郵便局前に人々群集せり漸くの事にて自分の書面を投ずるを得たり來る十八日即ち我が艦隊の出帆二日後に來着する郵便物に就きては左の如く爲す可しとの事なり即ち病院船アリヨルが當地に残り居りて其郵便物を受取り直に艦隊に追着き其を受信者に配達す可しといふ余が想像する所に依れば余は二月廿五日及び二十六日後の御身の書面を落手するを得べしと信するなり、確たる事は知るを得ざるも我等はノツンペーより柴棍に赴く可しと想はる其途中に大方尙は何處にか碇泊す可し今度の航海は長途にて且つ至難なり天候はまた如何ある可きや。室内は實に地獄の熱さにて居るに堪へず應接所に坐して書面を認め居れり今其處此處の隅々に皆腰かけて書面を書き居れり明日は投函するを得べしと想像せらる明日の出帆は正午よりは早からざる可ければ其時まで約四十隻の全艦隊の船より郵便物を集むるを得べし船舶に對する必要なる余の仕事は期日内に終るを得たり。

三月十六日 夜今日は甚だ多忙なりき今朝余は自分の書面を出し又他人の分の依頼を受けて書面を差出さんと思ひて上陸せり郵便局の前は人山を築けり凡ての人々は皆な十一時までに即ち十一時より午後二時の郵便受附事務休憩時間前に差出さんと焦心せり、然るに正午に抜錮用意の信號命令あり多くの人々は折角認めたる書面や小包その他書留を差立るを得ざりき其書留郵便を普通書面の如くに直

に投函したるを以て郵便函は忽ち一杯になりたり普通郵便となしては時として遲着する事ある可し余は知らず居りたるに余と共に居りたる士官は余の書留郵便を余の手より取りて之を郵便函に投じたり余は此時他人より依頼を受けたる郵便に切手を貼り居りたり余は大に驚き兎角の思案も無く郵便局の側に至り窓より事務室内に入りたり其より土人に頼みて函中より郵便物を皆な出さしめ余の書面を搜して其を見出して事務員に渡し書留と爲して差立てられん事を依頼せり其受取書を受取るの間もなくスワロフに歸艦を急がざるを得ざりき。郵便局の事務員に余は多少名を知られたり是れ一は屢々郵便の事にて彼等に接したると又余は彼等にメタル及び勳章贈與の事を約したるを以てなり、外國人は是等の裝飾を非常に好めり余は既に此手続きをなしたるを以て彼等は勳章とメタルとを受くる可し郵便局にて余に向て「貴君の出帆は今日或は明日か何時なるや貴君は此處より直に露國に歸還するや」と問へり。余は十一時に本艦に歸りたり埠頭並に棧橋の混雜は殆んど名狀す可らざるものなりき貨物食糧品等山の如く積みて其邊に散亂せられ牛車は續々貨物を挽き來り人夫は其を脚艇に積込さんとて急がしく働けり先づ余は陸上の用事を終はりたり食事も終りたれば是れよりは余の氣樂なる舞臺なり御身よ請ふ之を恕せよ今余は筆を擱きて後は明日に譲る可し余は非常に疲れて殆んど座にも堪へず昨夜は熟睡せられず今日は又終日眼眩むほど奔走せり、今從卒さへも來りて「上官殿寢て御休息なされては如何です碇泊中は始終寢眠時間も尠なく絶えず御働きなさいましたから」と言へり實に然り隨分仕事は多忙を極めたり若し今後船艦に幸ひ何事もなくんは休息するを得べし然し航海中に或は船艦に破損にても生せば洋中に於て他艦に移乗せざるを得ざる如き場合なしとも限らざるなり。

三月十七日 朝我等は再び遠征の途に在り我等の着す可き塲所は今尙は秘密なり昨日拔錨前の事を記して昨日朝飯後間もなくカムチャツカより報知を受けたり同艦は冷却機を破損したりとの事なり又次で同艦がキングストンを穿ちたる爲め海水迸入して困難し今閉塞を行ひ居るとの報知ありたり是れ大に悲しむ可き事なり、余はカムチャツカ出張を命せらる可し同艦に永く止らざる可らず提督に請求ありたる爲め余はカムチャツカに赴きたり同艦に着すれば非常の騒動なり機關室の浸水の深さは既に胸まで達せり兎に角にキングストンを塞ぐを得たり是キングストンの管の開きしに非ずしてキングスの栓が破損せる者なるを確めたり不注意にて栓を切斷し之を管より除き去りたる爲に其間隙より海水の迸入せる者なりき修理略ぼ終りて既に危険なきを認めスワロフに歸艦せり提督は修繕仕事の全く終了するまでカムチャツカに止る事を余に命せられたれば再び艦に赴く事となり汽艇にて同艦に出張せり而してカムチャツカの工事を終り欣然としてスワロフに歸還すれば又も不意なる出来事は余を待てり即ちアウロラは汽艇を曳上ぐるを得ずとの事なり汽艇の曳上げに要する主要部を破損せるが爲なり直に同艦に出張して連滑車を巻き始めたり我等は如何に急ぎて働きたるかは御身の想像するを得ざる所なり此仕事は十二時より始められたり三時は艦隊拔錨の時間なり如何にしても汽艇を曳上げざる可らず然らざれば今は全く之を放棄せざる可らず或は切斷する部分もあれば挽き切る仕事もあり大騒ぎを爲して三時間半にて全く修繕を終り兎に角曳上ぐるを得たり。

信號は揚げられ艦隊は錨を抜き始めたり艦隊の光景は是れ如何に壯觀ぞや各種の船艦驅逐艦と運送船とを算せば四十五隻の船艦今や將に舳艫相啣で抜錨せんとす、佛國の驅逐艦は我が艦隊を送りて征途の平安を祈れり、佛艦の乗員は萬歳を歡呼し我が艦隊にてもマルセーユの國歌を演奏せり士官室は元氣に滿されたり然し此元氣は長く續く可きか余は満足せりや我れ自ら我が己の感情を判斷するを得ざるなり一方よりは我が全艦隊の運命を危ぶみ一方よりは速に御身を見得べき事と且つ日本艦隊を撃破するの望み甚妙なきを思ひてなり、日本は強し甚だ強し運送船レギン來着せり同船は日本に強迫せられて其搭載食糧品並に貨物の一部をポートサイドに陸揚げせしめられたり此の事御身は如何に感ぜらるゝか若しも日本にして之を欲せばレギンを此處に全く來航せしめざる事をも得しなる可し即ち我等は只日本の許諾したるだけのものを得たるに過ぎず見よ彼の一小國（日本）は如何に其力を自信し居るかを是れ軍事上の進歩に依るものなるは勿論なり。我等が第三艦隊の來るを待たずに出帆せる事を知らばネボカトフ艦隊の驚き果して如何余の見解を以てすれば我が艦隊が第三艦隊を待たずに出帆するは是れ輕學妄動にて自己の勢力を分離するものに過ぎず此のマダガスガルに二箇月半も碇泊したるに非ずや。

我が參謀部の一士官は或る秘密命令を受け彼は艦隊に來らずにノシベに止りたり彼は二箇月間滞在の費用を受けたり海軍大尉レドキンがデエオスアレツに在りし時に佛國人は彼に告ぐるに我が艦隊のノッシベ出帆の期日と今後の碇泊地の事を以てせり是れ三月九日の事なりレドキンは此の豫言を書して之を封じて其を我に與へ封書は海に投ずべしと言ひ添へたり是れ固より好奇心よりの仕業なれども出帆の期日が正確に示されたりと假定せよ是れ實に驚く可き事に非らずや佛國人は何處より斯の如き報知を得たるにや今後の碇泊地の事は未だ知らざれば之を信するを得ず。

昨日日暮より諸艦は燈火を掲げたり地平線上は點々たる火にて滿されたり是れ四十五隻の艦艇より成れる大艦隊に非ずや是等大艦隊の運動を一致せしむるは如何に至難なるか我が艦隊の占め居る海面の廣さは果して幾何ぞ提督は十時まで艦橋に居られたり我等は可なりに空腹を感じて此時食事を爲せり昨夜突然故障を生じたる戦闘艦アリヨールは機關を破損せりととの報知を爲せり艦隊は皆な速力を緩めたりアリヨールは一箇の機關のみにて航走せり又アナドイリの機關にも何か故障を生じたり之を修繕するに一時間程も待ち居りたり今日は曇天にて太陽を見す海は多少浪なきに非ず航海最初の十日間は特に風波を免れ度きものなり艦中に石炭を滿載し居れり是れ船の航走力に甚だ有害なり寢て休息せんとしたるも熱さにて眠むるを得ず余は御身に話したるや否やを忘れたるが余は着物をつけずに臥し居りて傍に厚紙を置き若し目醒めて熱き時は此の厚紙を扇に代用するなり斯くて再び眠るなり誰にや二枚の網を以て漁網を縫ひたる者あり今舷側より其漁網を投じて魚取りを始めたり天氣は靜穩にて艦の前後に多くの魚族を見るなり、スワロフと殆んど併行して驅逐艦ビエードエイ航走せり驅逐艦にては皆な甲板上に於て何事をも爲し甲板に生活し居れり驅逐艦乗員の食事も休息も皆な我が乗艦より望見するを得るなり昨日キエフより水兵一人海に投じて溺歿せる者あり彼は如何なる精神の状態に在りし者にや前途に赴く事を恐れたるにや然り殺さるゝを恐れたるなる可し是れ甚だ奇なるが如くなるも戦争にて殺さるゝ事を恐れて自殺して死する者ありとは余も聞きし事あり此水兵も戦死を非常に恐れて精神に異狀を來せる者なる可しと想ふ外他に之を説明するを得ざるなり。少しく風出でたり一時間前に一人の水兵熱さにかされてゼムチユークの舷側より水に投じたる者あり之を救ふが爲に救命袋を投じ端艇を下して之を助け幸ひに病院船アリヨールに泳ぎつき同艦に這上りたり今同艦内に收容せられ居たり。

（四十二） 印度洋開闢以來の新航路

三月十八日 昨日も亦食事に遅れたり食後に御身の爲に筆を取らんかと思ひたるも先づ少しく休息する爲に士官室に赴くことに決したり非常の熱さなりき余は此頃何時も網襦袢を着ずに夏服を直に着し居れり自室に在る時は是れも脱ぎ居れり士官室にて轉寢して遂に眠りたり目醒めたるは六時なりき自室に歸れば室内に椿事こそ出でたり明窓より浪波迸入し來りて寢臺から机まで皆な海水に洗はれたり仕方なく濡れたる吊床に臥したり朝机の抽匣を開けんとしたるも開かざるを以て大工を呼びて抽匣を開けしめたり海水は抽匣に浸入せるなり中のもは皆な濡れて今書き居る此紙まで濡らされたりインキを散流されざりしは幸なりき紙の乾くを待ち机の上を掃除せり棚の上に隔ての板を打ちつけざる可らず正服外套フロックコートなどはリバウ出帆以來手も着けず見たる事もなし大方損じたるならんと思はる別に正服の繡飾の如きは甚くいたみたるなる可し多くの人は皆な品物の損じたる事を小言いべり。昨日運送船ウラチミルの機關に何か破損を生じたり諸艦は同船の修繕するを待ち居りたり皆な徐々に航走せり今朝は偵察任務艦の外は悉くの驅逐艦を皆な曳船としたり是れ驅逐艦の石炭を消費せしめざる爲めに洋中に於て驅逐艦に石炭を積込むは靜穩なる時にて中々に困難なり風波にても

あらんには石炭の積込は到底爲す可からずチエゴスアレツより出帆せる獨逸の汽船昨夜我が艦隊に追尾し來りしが後ち進みて我等よりも先になれり甚だ奇怪なり該汽船は何故に我等と同一航路を取りて何處に赴くものなるか我が艦隊の航路は故意に未だ何人も通りし事なき別航路を選みし者なり。昨日ナワリンに於て新に備へ附けたる大砲の發射を行ひて試験をなせり砲聲我がスワロフにも聞えたり我が艦隊が日本艦隊に邂逅する際にも砲聲は斯の如く聞えるならんと想はれたり砲聲は左まで強からざりき自艦の砲聲は愉快に感ぜらるゝに相違なし。余は御身に我がスワロフに小さき鰐魚を飼ひ居ることを話せる事ありノツンベ出帆少し前に誰かが其鰐魚を海中に投棄せり然るに其小さき鰐魚はアウロラに泳ぎつきたれば其を同巡洋艦にて引きあげ今は同艦内に飼ひ置けりとの事なり。郵便物に關しては左の如く處理すべしとの事なり即給炭船が郵便物を受け取りて其船が我等と遇ひたる際に我等に渡す可しといふ若し其郵便物が給炭船より日本人の手にて渡る事なくんば甚だ幸ひなり其時は御身の書面なども日本人の手に歸して甚だ残念なる可し御身が其書面を認むる際に其書面が斯くも悲しき運命に遭遇す可しとは想はさりしならん。艦隊は徐々と頗る靜に航進す全艦隊は或は止る事もあれば或は五乃至八ノットの速度にて進むこともあり今艦隊に種々の出來事續發せりシロイ並に驅逐艦クローズヌイケロームスキ一等に破損を生し輕微なる破損も全艦隊の進航を止むるなり我が艦隊は若干の單縦陣をなして如何に延長して續き居るか殆んど其長さは十露里（凡我二里半余）に亘れり若し今後何時までも斯の如き速度にて進みたらんには何處かの港に到着するまでは非常の時日を費す可し。前進せる哨艦に於て遙に燈火を認めたりとの事なり日本は最良の巡洋艦を以て我より認められざる様

に我が艦隊の舉動を偵察するを得べし我等は燈火を出して航進し居れり快速なる巡洋艦を以て燈火を滅しながら我が艦隊に近附き我が艦隊の位置を確めて隠るゝは甚だ容易なる事なり斯の如き偵察のあり可き事は何人も疑はざる所なり、若し日本が今之を爲さずんば我が艦隊がスンダ海峡に接近するを待ちて偵察を爲すに相違なし是れ我が軍艦を襲撃するに非ざるも運送船を襲撃するに好都合なる場所を選定せんが爲めなり此運送船の防禦は特に困難なりとすネボガトフ艦隊は昨今如何に爲し居るにや同艦隊は極東の來航を續け居るにや是れ實に冒險の最も甚だしき者なり。

三月十九日 昨夜同じ所に三時間も止まりて漂泊せりボロチノに於て如何したるにや舵機を破損せり同艦は今尙ほ其修理を終了するに至らず故に諸艦の列外に出で居り一汽船我が艦隊の方に向ひて航進し來れるものあり昨夜我が偵察巡洋艦が船の燈火なる可しと認めたる火光は船の燈火に非ずして星の光りなりしとの事なり航海中に地平線に現はるゝ星光を誤まりて船の燈火なりと思ふこと屢々ありと云へり、今も亦斯の如き星光を認めたる事あり實に時々船の燈火に關する幻覺の甚だしきものある事あり最近露土戰爭の際に黒海に於て全艦隊は星光を敵艦の燈火と誤りて悉く遁走せる事ありと云へり勿論その誤りは直に明かになれりノツンベ碇泊中は毎日々光を見しも洋中に出で、既に二日間なるも毎日曇天にて時々雨模様なり、遠航中船内の生活は毎日一様平凡なり天氣は少しく時化始めたり今荒れられては甚だ困難なり艦隊は失望する程除々に航進す斯の如くにては港に着するは容易の事に非ず大洋を全く横切らざる可らず艦隊には又一ツの厄介！外洋に於て石炭積込みを爲さざる可らず。我が艦の右舷の方には多くの牡牛や牝牛を置けり牡牛は食料の爲め牝牛は搾乳の爲めなるも遺憾ながら

乳は出でざるなり犢は二頭あり是れは飼養する事となせり養はるゝや否や疑はし元來船にて四足獸を運送するには専ら其が爲に造られたる動搖を防ぐ圈房を設けざる可らざるも艦には斯の如き設備なく杜は甲板の上に直立し居れり。

(四十三) 開闢以來の新航路封緘命令の傳達

三月二十日 朝我が艦隊の航路はデエゴハルシー嶋の近傍なるチアゴス嶋の方向を指せり英領なるチアゴス群嶋の附近に日本の船艦居れりとの風説あり此風説は事實なる可し是等諸嶋の附近に於て或は衝突あらんかと思はるチアゴス群島は人煙稀少なる幾多の小嶋より成れり此群嶋と大陸との間には海底電線もなし。スワロフにクリムメルといふ機關士あり甚だ正直なる人なり或時余は此人と話して若し我等の中一人死したる場合の爲に遺書を交換し置かん事を約したり今日彼は左の如くに上書を爲したる封書を余に渡したり「余の死したる場合に此封書を宛名の者に送致し又遺物も宛名の者に送られん事を願ふ一千九百五年三月十六日クリムメル記す戦闘艦クニアズスワロフに於て」と余は自分の遺言書を未だ仕度せず余は其書面に何を書す可きや余は御身に對して一の秘密もなく御身は萬事を知れり余が最後の時に余が言はんとする事までも皆な御身は豫め之を知れり、我が艦隊が今進行し居る航路は諸船の通行甚だ稀なる航路なり此の航路は世界開闢以來戦闘艦小巡洋艦驅逐艦等少しにても我が艦隊に類似したる者の曾て通行せし事なき航路なり我が艦隊は戦闘艦巡洋艦驅逐艦運送船工作船病院船給水船艀舟汽船等より成りて如何なる船艦も我が艦隊に加はらざるものあらず。全艦隊は再び

停止せり驅逐艦の一隻は曳綱を切りたり艦隊は除々と航進せり出帆後今日の正午までに只僅に六百七十五浬即ち千八百八十露里(二里露は九町四十五間)を航走したるに過ぎるがスンダ海峽に到着するには約七千露里を航せざる可らず、明日は朝四時より我が艦隊に伴ひ來れる運送船より總ての軍艦に石炭の積込を爲す可き豫定なり。

三月二十一日正午 朝來一度も筆を執るを得ざりき或は諸船艦の間に往復し或は私室内の地獄の如き炎熱に苦められて筆を執る如きは思ひも寄らざる事なり今少しく涼しくなり二十七度なり夜スワロフに於て舵を操縦する鐵鎖を切斷せり用事は非常に繁忙なりしも余は成る可く其用事を避けたり今日は朝早く七時に起きたり全艦隊は停止して端艇にて既に石炭の積込みを始めたも運送船より端艇にて石炭を搬送し來りて其れを各艦に轉載するなり天氣は最初靜穩なりしも随分波浪は高かりきアウロラの汽艇は艦内に曳揚げたりしも如何に之を繋ぎたるかを見ざりしかば余は此の汽艇の事を心配せり自ら之を調べんと欲し且つカムチャツカにも赴く可し、ローランドはスワロフより遠方に停止し居る諸艦に各種の命令を傳ふる爲に赴く可し同艦にてアウロラに出張せんと決心し提督用艇にてローランドに赴きたり然し後悔せり小艇より軍艦に移乗するは頗る危険にて且つ非常に困難なりき、ローランドが封緘命令を傳達せざる可からざる艦船は九隻なりき然るに十一時までに僅に漸く六隻に傳へたるに過ぎざりき、各艦みな遠く隔りて止まり居るが故に端艇にて一々封緘命令を傳達するに非常の時間を費したり十二時にスワロフに歸着し又もローランドより小艇にて本艦に移乗せり、御身よ余は一小貝殻に乗りて大洋を往復したりと想像せられよ戦闘艦の上より海上を望見すれば全く靜穩なるが如くな

るも實際は全く然らざるなり各艦を巡訪したる際に皆人々は物珍らしさうに我等を眺め何か珍しき事なきやを問ひ恰も艦隊外より來りし者の如く思ひ居れり、封書を傳達したるに皆な非常の喜悅なりき。

(四十四) 日本艦隊接近説露艦區々の行動

三月二十一日の續き 間もなく石炭の積込みを終りて諸艦は進行を始め我等は尙ほ前進す可し大洋の波浪を冒して汽艇端艇等の小艇を舷側より曳揚ぐるは非常の困難なる可し天氣は良好なりといふ程に非ざりしも石炭の積込みは意外に迅速に終りたり明日また早朝より石炭の積込みを始む可し艦隊は錨を投じて碇泊し居るに非ずして只機關を止めて漂泊し居るに過ぎざれば風波に漂蕩せられ各艦位置を變じて甚だ危険なり、然し今迄は驅逐艦フェイストルイを除くの外は衝突もなく無事なりき同艦はレウエリに於ても破損を來しランゲランド或はスカージェンに於ても舷側を破り今又運送船と衝突せり。二十分前に進發せり午餐は遅くなれり今尙ほ食堂を開かず。巡洋艦の檣頭に哨兵を置くが爲め桶或は箱などを結び附けたる一種奇妙なる感を起さしむるなり或る巡洋艦には箱に類したる鳥籠を結びつけ或る艦には單に桶を吊したり此の箱若しくは桶の中に信號兵を立せしめて地平線上を望見せしむるなり檣頭の箱や桶は甚だ高く吊されあるなり若し箱や桶の中に居るに非ざれば哨兵は檣上より忽ち墜落す可し今信號兵は僅に頭と肩とを見得るに過ぎず。又も一樣變化なき遠航を續くるなり昨夜の如き士官室に於て將校等は退屈に堪へず種々の戯れを爲して遊びたり、犬に蓄音器を聞かしたり或る音聲は犬に氣に入らざりしと見えて犬は吠え始めたり皆なつれづれなるを以て此滑稽は大に人々に愉快

を感じしめたり蓄音器は甲板の上に置かれ其喇叭口を真直に犬の方に向けたり、又も警戒を嚴にす可き夜は來れり日本の巡洋艦が近傍に在るやの疑ひあり日本の巡洋艦は今我等が通過せんとする英領ス、リー嶋に根據地を有するものなる可し、我が無線電信部にて他國の通信を感受せり今は以前に比すれば危険は一層甚だし前方に進むに從て敵艦隊に邂逅す可しとの豫期は愈々強くなれり終日不愉快なる感に襲はれ夜分になりては心が壓せらるゝ如き感じして煩悶に堪へざりき人生の萬事が一時に何等の趣味をも感ぜざるに至れり、日本艦隊は接近せりとの説あり如何にす可きか其はどうでも宜し余は倦厭に堪へざる時日を送れる事果して幾何ぞ此の間退屈し激怒して萬事を惡口批評せり、余は今も左の事を思ふなり陸軍は海軍を度外視し獨立して活動せり海軍も亦陸軍の行動と敢て一致することを期せず、海軍は又一小部に分立し互に他枝隊の行動に一致するを謀らず各々勝手の行動を爲せり、三隻(或は今二隻なる可し)の軍艦は何を爲し居るにや大方浦鹽に居るなる可し我が艦隊は今極東派遣の途に在り第三艦隊は何處にか遣されたり(我等は其處在を知らず)又クロンシタット及びリパフにては(風説に依れば)殘存艦の仕度を爲し居るとの事なり斯く分離せられたる一部隊は他の者が何を爲し居るやを知らざるなり、斯の如き情狀にて果して其成功を期するを得べきか想ふに陸軍の方の秩序も全く斯の如き情況なる可し何處を視るも一の組織機關も秩序もあるなし、然るに我が敵は如何萬事が整頓せられ豫め調査せられ且つ豫定せられ居るに非ずや日本は豫め調査整頓せられたる企圖に従て戰爭を爲す者なり我が軍は成功を得らる可きか否之を得る能はざる可し勿論何事にても得られざるに非ざる如く我等も勝利を得難きに非ず左れど若し勝利を得るとも是れ偶然の事に過ぎず我露國は

萬事が舊式舊組織にて即ち「大概」といふ事に依頼せり萬事を爲すにコエカク（露語にて不注意に死に角の意の一天張りを以て爲せり誰かが洒落て「マカキがコエカクと戦争す」）（即ち日本の猿奴が「兎に角主義」と戦争すとの事）と言ひたるも偶然に非ず實に此の洒落の通りなり適當なる悪口を爲すは難き者なり。オレグは最快速力の巡洋艦の一なるを以て艦列命令に依り全艦隊諸艦の殿艦となりて航進せり艦隊の前方と傍側とは諸他の巡洋艦を配列せしめたり巡洋艦の一部と各戦闘艦驅逐艦運送船等を以て艦隊の中心たらしめたり。

三月二十二日朝八時　ドミトリドンスコイ報告して曰く同艦は昨夜何船にや三隻の燈火を認めたり其船は探海燈を以て互に信號通信を爲し我艦隊と同一航路を進行せりと。オスラビヤに於て又一人の水兵死亡せり其水葬を行はる可し此の水兵は三日前に死したる者なるも石炭積込の騒ぎにて葬式を遅延せるなりオスラビヤには屢々死亡者あり多くは艦隊航海中にのみ此の不幸あり。提督は久しき以前より神経衰弱に罹り居られしが此頃は特に甚だしくなれり提督は睡眠も尠なく且つ怒り易くなられて些々たる事にも非常に激怒せらるゝ事屢々あり一層甚だしくならざれば幸ひなり。

夜の十一時艦隊は虫の這ふ如くに徐々と進航す今日までの航程は一千哩なり若し同一航路を取りて進行せば碇泊地まで尙ほ二千八百哩の航程にて他の航路を取れば二千五百哩の航路なり若し途中にて何事にも遭遇せずとするも尙ほ十五日乃至廿日間洋中に漂流せざる可らず、一步毎に破損停船うち續けり今夜もシソイに於て始め舵機を損じ後ちまた機關を破損せり驅逐艦の曳船綱は紐の如くに切斷せらるゝ事屢々ありファistolイは大砲を備へある橋樓を破壊せり士官集會室にては何故にや艦隊は尙ほ四千四百哩を三十四日間に航す可しとの説あり、食料は既に盡きて今後は鹽漬の物を食せざる可からず士官の中にて誰が一番先きに食はるゝかと戯言をいふ者あり。明日は石炭の積込みある可しとなり若し波浪が今日の如くに高からんには積込みは困難なる可し又も一日を空しく送る可し石炭の積込みは現今の場合甚だ肝要なるも然し厭忌に堪へざるなり甲板の上は悉く石炭に滿され大砲の一部までも石炭の中に没せらるゝ如き有様なり。

三月廿三日　間もなく六時なるも今各艦は前進の準備を爲し居るが故に午餐は遅くなる可し早朝より石炭の積込を始めたり九時に驅逐艦グロムスキイは舵破損せりとの信號を掲げたり同艦はスワロフの附近に來れり端艇にて同艦に出張して調査せり余はスワロフに歸り驅逐艦はカムチャツカに赴きたり舵機の破損は容易ならざる損害なりゼムチユグの破損よりも重大なる可し朝飯前にローランドに乗りて再びグロムスキイに出張せり少時間に舵の修理上に爲し得べき事を爲したり、次の石炭積込の際に同艦は或は更に重大なる事生ずるやも知れず余は驅逐艦より潜水用の脚艇にてカムチャツカに赴きたりカムチャツカより偶然そこに在りたるボロチノのカツダーにて再びローランドに赴きたりローランドより直にスワロフに歸艦せり此通りに能く大洋の上を往復せり石炭積込みには適當の天氣なりしも巨濤は非常に甚だしかりき、余は此の諸艦の巡航に厭きたり毎日汚れて水に濡れ何時も海中に落ちなば鮫の餌食となるの危険を冒せり特に不快に堪へざるは端艇に移りて乗り居る事なり本艦より端艇に乗り移る際に水の上に何かに縋りて吊り下り何なりとも手當り次第に捉へる物を待居るなり端艇は其時舷側にうち附けらるゝなり時として端艇が舷側に觸れて粉碎せらるゝ事あり實に危険なり

余はカムチャツカよりスワロフの爲に品物を搬送せしめざる可らず、グロームスキイは潜水夫を下して修理工作を爲さしめざる可らず此處には鮫甚だ多し某艦にては鮫を漁せりと事なり我がスワロフにても其の漁を試みたるも得る所なかりき、グロームスキイにて潜水作業を爲すに當り潜水夫を防禦する爲に若干の水兵をして裝彈せる銃を持ちグロームスキイの艦上に立たしめたり海水は至極透明なるを以て能く鮫の襲來を望見するを得るなり下には潜水夫働き甲板の上に武裝せる兵士のイ立するなど一奇觀ならずや、汽艇より水面を飛ぶ魚を屢々見たり余は久しき前より之を見たるも餘り遠く飛ぶを見ざりき今日波の上を覆ひて久しく飛ぶを見て驚きたり。夜九時偶然の話より十五日後に何處かの港に到着す可しとの事を聞きたり果して然るにや甚だ疑はし余の考へにては尙ほ久しく海上に漂漾し居るならんと思はるゝなり、艦隊は靜かに甚だ靜かに徐航す且つ始終停艦せり今は此の停船に慣れて何故に停止したるやをも頓着せざるに至れり今も殆んど三十分間も停止し居るも艦隊航進の停止を爲したる原因を知る爲に甲板に上る事さへも懶くなれり。グロームスキイ、プレスチャースチーの二艦に又も出來事あり兩艦の曳船綱を切斷せり此の小艦に惡戯の演せられし事果して幾度ぞ、病院船アリヨルは同船に於て腹膜炎にて一水兵死去したりとの通信を爲せり明日その葬式ある可し。

三月廿四日 萬事が制限と關係との中に在るを免れず驅逐艦内の生活を一見す可し艦は始終動搖し不潔にて狹隘なれば何處にも寢轉ぶ場所だになく食物も甚だ粗末なり僅に漸く休息し得らるゝに過ぎず然るに大なる船の中に居る者は些々たる事にも常に小言を云へり。スウエトラーナは報告して曰く同艦の前方に當りて我が艦隊と同一航路を取りて進航する汽船を認めたりと實に奇怪なり、我艦隊は何人も航海せざる航路を取れる者なり斯く除行し且つ屢々停船する如き我が艦隊に追従する汽船は果して何船にや重量なる貨物を積める船にても斯くは徐航せざるなり。

(四十五) 艦隊滅亡の豫想

三月廿五日 ドンスコイ及びオレーグは遙に何等かの燈火を望見したる旨を報告せり其燈火を調べたりとの事なり想ふに是れ英國巡洋艦なる可しといふスウエトラーナの見たりと云へる汽船の事は全く虚報なりしとの事なり、カムチャツカは汽罐を破損したるも停船するに至らず艦隊は遅れ始めたるも疑はしき燈火を認むるや否や忽ち疾走前進する事もあり今日の正午までに我等はノツシベより約二千二百露里を航す可し靜に航進するも屢々破損沙汰の爲に停船す今日は幸に停船する事尠なかりき。我が艦隊は愈々極東に近く進めり間もなく赤道を通過す可し今や浦鹽は我等に取りて恰も約地(譯者曰く約地とは昔時猶太民が埃土を出で、神より約せられたるカナン即ち猶太の國に赴きしが猶太民は其約地カナンに赴くが爲に亞刺比亞の曠野に四十年間も漂泊したる後に漸くの事にて其地に到着せる古事なり)の如くなれり嗟ウラヂウオストクークウラヂウオストクーク。左れど若しサガレンと浦鹽の事の余が豫想(日本軍に占領せらるゝ事)が事實とならば如何其時我が艦隊は何處に赴かんとするか艦隊は其時如何にす可きか、石炭積込の爲に次回に艦隊が停止する際に余は朝の三時より終日グロームスキイに出張せざる可らず出來事は幾分か減せり曳船の綱の切斷も稀れになれりシロイの爲に艦隊は航進を止められたり同艦には始終修理の出來ぬ箇所あり今朝ナヒモフもシロイと同様になれり。オレーグ報告に曰く昨夜同艦の認めたる燈火は始終同一の

ものに非ざりしと彼等は煙筒より飛散する石炭の火の粉を船の燈火と見誤りたる者なる可し、何等かの汽船が始終我が艦隊を追跡する者なる可し其船は日中に地平線より隠るゝを以て我等は認むるを得ざるも夜に入れば認められざる様に燈火を滅して我が艦隊に近づくならん而して船の煙筒より飛散する火の粉に依りて船の所在を知られしなる可しとの事なり、此の説は眞に近し月のなき眞の闇夜に艦隊が其周圍を偵察するは甚だ困難なり我が艦隊は遠方より望見せらるゝ燈火を掲げて航せり故に我が航路を知れば我が艦隊を追跡する所の船が大洋に於て艦隊を發見し認められざる様に艦隊に接近するは至つて容易なり、暗夜には刻一刻毎に敵に襲撃せらるゝ憂ひなき能はず余は想像する毎に一事の憂慮に堪へざる者あり即ち我が艦隊は柴棍の某地點に何時までも無期限に碇泊する如き事あらざるかと
 の憂ひ是れなり若し果して斯の如き事あらば我等は如何にす可きや、同地方の官憲が局外中立を嚴守して、無期限碇泊を許さざる可しと思つて僅に己を慰藉し居るなり「中立」とは是れ至極便利なる好言なり「中立」は何國にても只強き方に取りて便利良好なり現時勢力は日本の方に存するを以て「中立」は何時も日本の爲に利益となり日本の爲に便利を爲せり。我が提督は若し中立港に於て日本の船艦に邂逅せばレシテリヌイが日本人に拿捕せられたる例に習うて日本の軍艦を撃沈す可しと斷言せられたりとの事なり、ロゼストウエンスキイ提督が果して此言を爲したるや否やは余自らは之を耳にせざりき左れど同提督の資性に想到すれば彼は必ず斯の如く斷行す可し但斯の如き事に遭遇せざらん事を願ふ者なり日本人は怜悯なり彼等日本人は決して我が露國の如くに其船艦を分散する如き愚を爲さざる可し願くは日本をして我が艦隊を撃破せしむるなからん事を萬一我が艦隊が日本の爲に全滅せらる

ゝ事あらんか我が艦隊の滅亡と共に露國の威力は十年間は茲に滅亡す可し海軍は容易に復興するを得ざるなり。之に反して若し我が艦隊にして日本を海上に破らんか即ち我等は茲に海上を領有して日本は滅亡す可し日本は其陸軍に糧食軍需品、供給の道を全く失ひて如何にするも戦争を持久せしむるを得ざるに至る可し其時陸軍は果して如何になる可きか日本に於てさへも全く食料品の缺乏を告ぐるに至る可し但斯の如き事に果して遭遇するや否やは疑はし若し單に制海權が我に歸する事ありとするも其時英米兩國は必ず日本に加擔するに相違なく露國は是等の諸國と開戦するを避くるが爲に讓歩を爲すに相違なし如何に骸子は投せらるゝとも戦争は露國の不利に終るに相違なし、露國の消費したる金は果して幾何ぞ其國民を滅亡せしめたる事果して幾何ぞ是に依りて我が露國の贏ち得る所は何者ぞ唯だ耻辱唯だ耻辱のみに非ずや、我が露國は曾て英國がグーアと交戦したる際に如何に英國を嘲笑したるか又伊國がアビシニアと戦ひたる時にも如何に伊國を嘲りたるか現今滿洲に於て如何なる事の存するやを知らず左れど遼陽奉天等の戦争の時日に依りて考ふれば次回の大戦争は八月若くは九月にあるやも知れず勿論是れ日本が奉天以北に進まず依然として前の如く自重し居るとしての事なり、露國は八月若くは九月には其軍隊を集中するを得べし我が陸軍の主力は現今何所に在るにや哈爾濱なるか或は然らん左れど哈爾濱も放棄して尙ほ退却するに至るべし、次回の石炭積込は二日間續けて行はる可しと想はる然し夜間は進航を續く可し。

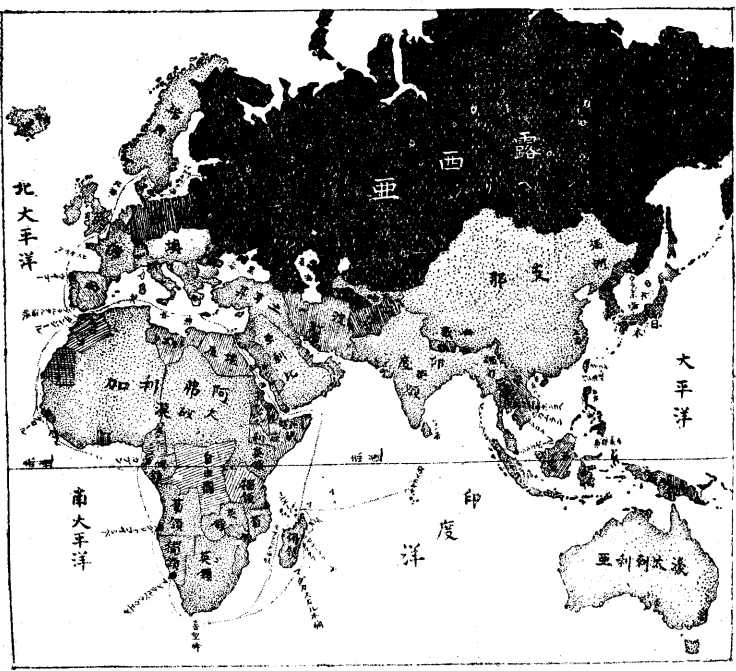
昨日少尉候補生等がスワロフには幾人の火夫居るか汽罐は如何に配置しあるかを爭論し居るを聞きたり約一年間も軍艦にて航海し居る者が今更斯の如き事を爭論し居るなり是れ提督の命令にて汽罐の傍

側に監視を命ぜられ居る者の争論なり甚だ慨嘆す可き次第なるも余は此争論を耳にして實に抱腹に堪へざる者ありき、我等自らよりも日本人の方が却て我が軍艦の事を能く知るなる可し嗟御身よ艦隊出帆前に余の言ひたる事を記憶せらるゝか航海の初めより余は常に余が前の意見を確むる實例を見るのみなりき我が艦隊が如何なる船艦より編制せらるゝも亦其艦数は幾隻を算せらるゝとも余は我が艦隊に信を置かざるなり寧ろ軍艦を尠なく有して其戦闘力を利用するに若かず日本艦隊は或は之を撃破するを得べし左れど我が勝利は偶然の勝利に過ぎざる可し。オレーグより電報あり同艦は舵の電氣操縦を損じたりとの事なり同艦は今蒸汽にて舵を操縦し居れり同艦に明朝カムチャツカに來る可きを命じ且つ新規に製作せしむる爲に次ぎの停船の時に破損したるものを此運送船に移す可き事を命じたり。

(四十六) 大洋中の市街

三月廿六日 今日日は日曜日なり奉神禮ある可し天氣は不良なり巨濤に風波を混へて海は荒れ居るなり。我が艦隊には少しも場合と事情の何たるを解せざる如き愚なる人物尠からずスワロフには唱歌者の一隊と樂長とあるも唱歌隊には二正音をも得る能はざるなり之れを何と稱す可きか神聖なる單調と稱す可きか又は馬鹿と稱す可きか抑も亦無禮と稱す可きか。若し明日も天氣が今日の如くならんには石炭積込は尙ほ便利なる時まで延期せらる可し二三時間も停船し居れり又一驅逐艦の曳綱を切断したり今尙ほ其綱を興ふるを得ざるなり波浪の爲めなりといへり、天候は益々險惡になれり是れ寧ろ我等に取りて利益なる可し敵の襲來に困難なればなり、明朝我等はチエゴガルシー嶋(チアゴス群嶋の

印度洋通過の航路及石炭積込の場所を示す



(一) より六十哩の沖を通過す可し同嶋には日本の軍艦居るやの疑ひあり明日は石炭積込に困難ならんと想はるゝ程の天氣なる可きも明朝は是非クロムスキーに出張の仕度を爲さざる可らず。艦隊は務めて徐行す我等の航海は潮流に乗じて流され居るは甚だ便利なり此潮流は我が船艦を一晝夜に五露里を前進せしむるなり。私室内の息苦さは殆んど堪ふ可らず室内は瞬時にして蒸發氣に滿さるゝなり夜寢る時の様子の如きは到底他人の想像するを得ざる所なり少しく明窓を開き置くの冒險さへも爲し居るなり今夜我が艦隊は月の上るまで其周圍を探海燈にて探照せり。

三月廿七日 嗟夜は明けたり昨夜寢たる際に寢床の敷布と枕のみならず敷座まで濡さられたり余は秋の外套を有し居るに過ぎざるが夏外套と引掛(たゞ肩に引掛ける外套)とを

持來れば便利なりしなり浦鹽に到着の頃は秋の外套を既に着るを得ざる可し然し何とかして間に合はす可し現今西比利亞鐵道は到る處騷擾のみなれば品物は到着せず輜重隊を以て送らるゝ品物さへも受取るを得ざる可し。日々我等は停船の爲に多く時間を空費せり不良なる事のみ續出せり驅逐艦の修理終りて航進を始むるや否やシロイは信號を掲げて同艦に破損を生じたるを報せり又も停船して待たざる可らず何故同艦を何處かの港に止め遺さゝりしや同艦は始終妨害をなし居るのみなりマダガスカルとスンダ嶋の間の約半航路を來りたりスンタ海峡に到らんか唯に敵の水雷艇襲來と沈設水雷の危難とあるのみならず艦隊戦さへもなきを保せず、我等の行程は浦鹽までは最も危険なり狹隘なる海峡や廣からざる海を通過せざる可らず幾多の事に遭遇し不意の出來事を期待せざる可らず而も是れ外洋に於ての出來事に非ず敵は交戦と水雷艇襲撃に便利なるを得んが爲に艦隊の一舉一動を偵察し居るなり。天氣は静かになれり明日は石炭の積込ある可し余は終日グロムスキイに出張せざる可らず。艦隊が外洋に於て機關の運轉を止め石炭積込の爲に停止し居る時の狀を誰やらが洒落を言ひて是れ大洋中に二萬の人民を有する露國の一市街を成せる者なりといへり。余若し浦鹽に到着せば余と御身との間の隔たりは十四五日にて往くを得べき距離なり今迄の距離と比せば如何に僅少なる隔たりぞや全く近し余は斯く想ひ居れり。マダガスカルの碇泊日數が二箇月半ならずして余が豫想せる如く只一箇月なりしならんには浦鹽到着の期日は余が豫想の通りなりしなり若し今後何處に於ても碇留する事なくんば艦隊は四月下旬に浦鹽に到着す可し然し只豫想と豫期とに過ぎず千百の偶然の出來事は尙ほ前途に横はれり。スンタ群嶋は狭くして長き海峡甚だ多きは我に取りて甚だ面白からず其海峡の中には終日通り

て尙ほ通過するを得ざる海峡さへもあり夜間には通らざる可らざる事ある可し是等の海峡に水雷の沈設なきを保せず海峡の出入の際に艦隊の艦列は延長す可し此時に水雷艇の襲撃を受くる憂ひなきに非ず又潜航艇その他陸岸よりも如何なる不意打を受くるやも識れず今我等は斯の如き思ひに滿され居れり、想ふに我等はサイゴンに赴く可しサイゴン迄の間に必ず敵艦との衝突を免れざる可し此の衝突は全艦隊の爲にも亦其人々の爲にも或は悲しむ可き結果を來すやも識れず書面も或は送るを得ざるやも識れず、我等はサイゴン迄で到着し得る者と假定す可し同地にはチアナ居れり同艦は公然に武装を解きたり同艦は我艦隊に合するを得べきやチアナの代にアルマーズが遺る其にても宜し若し我等にツレサレウイチ、アスコリード其他の驅逐艦が合するを得たらんには尙更宜しかる可し是れ豫想するを得ざるなり是等の諸艦は皆な中立港に在りて武装を解きて碇泊し居れり月の無き暗夜に海峡を通過せざる可らざる如き事あれば甚だ悲しむ可き事なりイズムールドは何汽船にや我艦隊と同一航路を取り居る汽船を認めたりと報告せり何人にや流言を爲して我等は二日を経ば石炭運送船に邂逅し同艦より郵便を得らる可しとの説を傳へたる者あり。

（四十七） 驅逐艦内の生活

三月廿八日 今日グロムスキイに出張する爲に五時に起きしめたり衣服を着換へる遑なく端艇にてクロムスキイに赴きたり途中カムチャツカに赴き同艦より必要なる材料を持行きたり潜水夫をも伴ひ行きて工作を始め随分長く働きたり最初は工作容易ならざりしも後好都合に進みたり、驅逐艦の不

潔なる生活には驚きたり航進中は震動して何にも書く事も出来ず實に非常なる動搖なり今日も驅逐艦の動搖甚しく卓上に支持器（卓上の器物の轉落せざるやうにする装置の器具）を用ひずには一物をも置くを得ざりき不潔にて煙筒よりは煤が飛び且つ狹隘極れり然がのみならず其食物の粗悪なる事驚く許りなりクコムスキイに十一時まで乗り居りたり食事の時刻なるも食卓には其準備の様子もなし兵卒に與ふるスープを運びたり之を見て一層空腹を覺えたり然し尙は食卓の用意をせざるなり食物としては小魚四尾の外に何もなかりきクコムスキイにカムチャツカの士官數名移乗し居りたるが彼等は近く迄居りたる自己の乗艦カムチャツカに傳令管にて話し同船より罐詰とラムネ其他の食品を送らん事を請へり余も食物を得んと欲して鯧魚蝦豚肉其他を取寄せる事を頼みたるに其を送られたり皆な大満足にて菓子を食べたり我等は特更に食料品を餘分に取寄せて其を驅逐艦の士官等の爲に遺し置く様になせり、彼等が斯の如き食物に缺乏し饑饉同様の生活を以て致方なき事を斷念して平氣にて居るを見て余は實に驚かざるを得ず彼等の食料品は運送船イルトイシより供給せざる可らざる手順になり居るも同船は充分その任務を盡さざるなり同驅逐艦の艦長は其供給を他の運送船に變更せん事を請へり余は彼等驅逐艦乗員の不幸なる境遇を特筆して余の力の及ぶ限り艦長の願意を參謀部に通じて之を計りたり、之れを要するに驅逐艦の生活状態は全く囚徒の生活なり然かも饑餓を忍び居る生活なりクコムスキの食料供給船をキエフに變更せらる可し余がクコムスキに乗り居りたる時に同艦の遙か側らの海上を非常なる強雨通過するを望見せり此の強雨が驅逐艦にかゝらざりしは何よりの幸福なりき若し此の邊にも降りしならんには我等は其が爲に濡れて仕事も妨げられしなる可し、潜水工作中に幾度か潜水夫は鯨に襲は

れたるも其を認むる毎に銃を發射して之を驅逐せり海水鮮明紫色にて深き所まで見るを得るなり海中を眺め居れば何やら巨大なる灰色の醜き形状のもの現はれ來る是れ即ち鯨なり其形状は甚だ醜き厭忌に堪へざる形ちのものなり。グロスーズヌイに於て「聖像排棄者グリーンシカ」と渾名せらるゝ猿の友なるワニカといふ猿を見たりワニカは大に生長せり面白き猿なり余はグリーンシカの事を言ひたるや否やを忘れたり此の猿はスワロフに於て或事件を演出したる猿なるが之を他艦に移したるなりグリーンシカ「聖像排棄者」の渾名を附られたる所以は此の猿が室内より聖像を持ちゆきて其を舷側より投棄したるが故なり若し明日と明後日と二日石炭を積込めばスング海峡までは今後石炭の積込みを要せざる可し。

（四十八） 我提督の冷酷

三月廿八日 私室の明窓を開きたる儘書面を認んとて坐したり又も波浪が明窓より迸入して余は全身海水を浴せられ匣や机も濡れ寢臺も皆な濡されたり今日余は航海がつくく厭やに感じたり早朝よりクコムスキに出張せり漸く事にて同艦に乗り移りたり驅逐艦は終日波浪に激動せられ風雨益々烈しくなれり驅逐艦は廿五度以上も舷側に傾き艦内の總べての物品は揺り落されたり椅子に腰掛くるにも足か手にて何かを支へ居らざる可らず余は今日幾度全身に海水を浴びせられ幾度それを乾したるやを知らず其困難は言語の盡す所に非らざりき斯の如き状況なるにも關せず潜水夫をして工作を爲さしめざる可からず潜水夫は水中に入りて働き居る間にも激浪の爲に或は舷側より引き離なされ或は舷側

に打當てらるゝ如きと屢々なりき潜水器の兜を甚だしく損じたり舷側に打寄する怒濤激浪の一去一來する毎に潜水夫の頭が或は上に現れ或は海波の中に没せらるゝなり潜水夫は海中に於て身體を波浪の爲に動搖せらるゝより恰も船中に於けると同様なる船暈にかゝれり彼等を網にて上に曳揚れば彼等の疲勞は實に甚だしきを認むるなり其勞働の困難如何ばかりなるを察せざる可らず左れと彼等潜水夫が其勞を辭せず海中に入るを見ては實に嘆賞に堪へざるなり御身よ是等の光景如何を想像せられよ然も是れ驅逐艦に乗りて大洋の上にて爲す仕事なり驅逐艦は波浪の爲に艦隊より次第／＼に流し去られて遂には艦隊の所在を見るを得ざる迄に離されたり驅逐艦と相並びて潜水工用端艇も漂泊せり此端艇が驅逐艦の舷側に激浪の爲に打當てらるゝ状は實に恐しきばかりなり艦隊は斯の如き状況の間にも頻りに石炭積込を爲せり滿目の光景は地獄を眼前に見るが如くなるも我等の仕事は甚だ靜に進行せり、天候斯の如くにて暴風雨は刻々に襲來せんとする状なれば余は驅逐艦より出るを得ざるに至る可しと想へて大に恐れたり余は仕事の結果如何を臨檢せんが爲に恰も獨木に止まりし小鳥の如くに小舟に乗りて海上に浮びたり其動搖して舟の傾く毎に全身に海水を浴び或は高く打ち揚げらるゝ如く感じたり小舟は狭く不潔にて非常に困難なり鱧の襲撃に遇はざりしはせめてもの僥倖なりき、斯くて余は端艇に乗じ渾沌たる波浪の飛沫を浴びながら漸くの事にてスワロフに歸り鎖に縋り足を舷側にかけて甲板に這揚がりたり余は全身濡れ穢れ且つ疲勞甚だしく足に力なく立ち居る事も出來ざる程なりき。然るに斯くも萬難と戦ひて漸く勞を終りて本艦に歸りたる余を迎ふる所の者は何ものぞ提督の勵聲一番「爾は參謀部に職を奉じながら害のみを爲し五時までかゝる所を三時に歸るなど耻づ可き事ならず

や」との宣告の一言なりき是れ余が提督より受けたる賞譽なり余は終生此一言を忘れざる可し實に是れ余が七箇月間の辛勞に報いられたる始めての宣告なり余は何の惡事を爲したるか今日も何時もの如く余に迎への爲に驅逐艦を送らざりき左れどクロムスキイは敢て過失を爲すに同艦が余を送りくるゝの便宜を得るや直に余を本艦に送りくれたりクロムスキイは其修理作業の終るや否や潜水夫をスウエトラナ、カムチャツカ、セムチューク等に送り歸したり又潜水器を汽艇に積込まざる可らざりき斯の如く余は自己の任務を遂ぐるに一の過失をも爲さざりき。余は私室に入るや否や衣服を着替へて直に寢て死したる者の如くなりき明日も亦石炭積にて又も驅逐艦へスウフレーチヌイに出張せざる可らず。

（四十九） 前程愈々 暗澹

三月廿九日(朝に) 昨夜は衣服のまゝ客室の長椅子に臥したり善く眠れり今日は石炭積込が見合せとなりて一日まで延期となりたり昨夜より赤道附近を通過せり少しく北方に進みたり一見したる處實に奇觀なり、昨日は南半球に居りて其處は秋なりき今日は北半球に進みて既に秋に非ずして此處は春なり全く冬期を逸し去りたり永く驅逐艦へスウフレーチヌイは其舵の事に就きて電信を送り越したり想ふに何か重大なる事生じたる者なる可し昨日の報告と今日の上申とを對照するも其損所の如何を明にするを得ず艦隊は今朝來止まらずに徐々進行せり大方その停船中に皆な機關の不完全なる點を修理せるものなる可し。我等は如何なる事に遭遇す可きかボカチイルは修繕を畧は終りたるが其修繕に十一箇月を有したりとの事なり同船は船渠に在り然かも露國に取りては極東唯一の船渠に入り居るなり

借問す若し我が艦隊が戦争をなして浦鹽に入るを得るの際に其破損船艦を何處に置く可きや修繕中の**ボカチイル**を再び船渠より出す可きか斯くては同艦が再び沈没するを如何にせん實に進退谷まれるに非ずや我が艦隊にして滅亡せば露國の海軍は全滅するに非ずや勿論運命には意外の事なきに非ざるも我等は之を期待するを得ざるなり。日本人は**ワリヤーク**を曳揚げたりとの報あり大方その修繕も既に終りたるなる可し我等は我軍艦が敵艦隊の列に加はりて來襲するに會す可し實に奇なる邂逅に非ずや我が軍艦が我等に對して戦はんとするなり其耻辱果して幾何ぞや**ドンスコイ**は地平線上に煙筒より飛散せる如き火光を偶然認めたりとの報告を爲せり我等を追跡するものなるや勿論なり我が艦隊は**マラツカ**海峽を通過す可し同海峽の延長は一千露里なり同海峽の通過の際に意外の出來事に遭遇するやも知れず、海峽を出るや否や東郷の全艦隊に邂逅することを保せず日本艦隊中には露國人が旅順に於て爆沈する事をせさりし船艦もある可し余は我が艦隊の捷利を信せず、余をして若し日本人の位置に立たしめば余は戦争を爲して自己の軍艦を損するの冒險を爲さず第二艦隊を妨ぐる事なく悉く之を浦鹽に入らしむ可し而して浦鹽をして第二の旅順たらしむる事は敢て難きに非ず浦鹽は封鎖も容易なり(若しまだ封鎖せられずとせば)又要塞も堅固ならず軍需品の貯藏工場船渠も不足なり一切の便宜は皆な日本の方に在り日本の成功は殆んど保證せられあるなり。

三月卅一日 天氣は荒れ始めたり晴雨針は降り暴風雨にならざれば宜し昨夜一時頃に強風ありたり其時より波浪は愈々烈しくなれり。風は次第に益々強くなれり殆んど烈風なり強雨さへ加はれり波浪は愈々高くなれり皆な是まで烈しくなる可しとは想はざりき故に明窓は皆な何處も開き置きたれば

到る處海水浸入せり二時頃には怒濤山の如くに高くなれり暴風雨となれり遮蔽物のなき處には立ち居るを得ず吹き倒さる可し風は激浪の飛沫を吹き海は一面白くなれり其雨の烈しき爲め海は恰も霧にて覆はれし如くなりて近傍に在る船艦を觀るを得ざりき。我が**スワロフ**は風の爲に三度の傾度にかたむきて斯の如き位置に止れり暴風は止みたり然し風は尙ほ強し雨も降り浪は高かし尙ほ是より高くなるやも識れず強風は幸に追風なり今日の烈風は喜望岬廻航の際の風よりは弱かりき波浪は其時よりも巨大ならざりき是れより強くはならざる可し我等は無風帯と稱せらるゝ緯度を航す可し無風は甚だ宜し今の季節に其處に風無きは確かなる事なり風位の方向線や風位の圖なども確かに之を示せり。驅逐艦の事を想像して念はず慄然たらざるを得ず驅逐艦は皆な曳船にて航進せり彼等は如何に爲せしにや余は非常に之を心配せり彼等は滅亡せしに非ずや風を止ませ度きものなり間もなく日暮れなば全く暗夜となる可し今驅逐艦は如何に操縦し居るにや**スワロフ**よりは皆な驅逐艦を見るを得ず。降雨は尙ほます地平線上は濛々たり大洋の光景は如何ならん上甲板に出で、望見すべし明窓より觀るも無益なり玻璃は皆な浪の爲に曇り居るなり風は靜かになりたるも波浪は尙ほ高し驅逐艦**ホールドイ**は第二桅を折られたり**クロムスキイ**は曳船の綱を切斷せられて自ら汽力にて操縦せり。

過日石炭積込の際に**シソイ**は一隻の汽艇を沈没せしめたり乗員は皆な救はれたり汽艇は不注意にも波浪に動搖せられ居る戰鬪艦に接近じ其に觸れて沈没せりとの事なり昨夜**テレツク**に於て水兵一人船艙に墜落して今日遂に死去したりと云ふ。室内の熱さは實に非常なり明窓は開くを得ず手巾や手拭を用意せり汗は流れて水を浴せし如くなれり今夜は何處に臥す可きや士官室の温度も矢張り高し。明朝海

の静かになり次第直に石炭積込を爲す可しクロムスキイの舵は甚た心配なり同艦の舵は未だ充分堅固にせられたるに非ず或は脱落するやも知れず驅逐艦は操縦するを得ざるに至る可し今同艦は自己の汽力にて航せり斯の如き天候にては曳船に爲すを得ざるは勿論なり同艦は兎に角に舵を保ち居れり。又も強風は雨を混じて吹き出せり海は荒れ始め戦艦はゆるやかに動揺せり然し驅逐艦巡洋艦は可なり動揺せりオレークはスワロフより望見するを得ざれば如何に動揺し居るやを知らず艦隊は今全く水中に在り何處を眺むるも皆な水のみなり水の上を航し波浪は飛沫を打ち揚げ雨は篠つく如くに降り瀧き身體は濡鼠の如くなれり。

(五十) 穀鯨死地に就く

四月一日 昨夜は他の室に臥したり其室には明窓なきも甲板に通ずる通風孔あり今風の方向は變はりたり然し波浪は依然として高し。余が私室は非常に蒸し熱しクロムスキイ其他の驅逐艦も昨夜は無事なりきクロムスキイは今日は曳船にせらる可し我が艦隊はノッシベより濠洲を廻航し若くはスンダ海峽を通過して極東に赴く可しとは大方全世界の人々が想像せる所なる可し然るに既に余が前にも記したる如くに艦隊はマラツカ海峽を通過する豫定なり皆な人々は其大膽に驚くなる可し我が艦隊は一二日を経ば多くの商船の通る航路に出づ可し即ち數日後には全世界に於て再び我が艦隊の所在を知るに至る可し其時には皆な我が艦隊の選びたる航路をも識るに至る可きは勿論なり。日本の艦隊は其全力を擧げて自から欲する所の地點に於て我が艦隊を邀撃す可し今後の戦争は全戦局に對して最も重要

なる時機を劃する者なる可し今や重要な事態に一變革を來さんとす我に取りては最も不利不幸なる戦局の新現象は來らんとす我等は柴棍に赴かずしてカムランに赴く可し是れ柴棍より北方三百五十露里に在る一小灣なり海岸には要塞と小市街あり電信は勿論無かる可きも郵便局はある可しマラツカ海峽までは尙ほ一千露里ありマラツカ海峽の延長も亦殆んど同里數の長さなり艦隊は遙に遠く新嘉坡を望見して其沖を通過すべし艦内の人々は皆な戦争後に着換の衣服を得んとて其携帯品を艦中の防禦區域(鋼鐵にて防禦せられたる區域)に隠し始めたり余は何物を隠し藏す可きやを識らず又人々は救助袋の適否などを試み居れり皆な敵艦隊の近きを感じしなり戦争の時に艦内の何處に居る可きや余は未だ其場處をも選定せず敵水雷艇の襲撃の際には勿論艦の上部に居らざる可らず是れ若し戦艦が爆破せられて將に沈没せんとする刹那に艦の下部より上がるの違なきを以てなりペトロパウロフスク並に初瀬などの例に依れば戦艦が水雷に觸れて爆破せらるゝや否や殆んど瞬間に沈没するを以てなり故に下より上がる違なきや勿論なり。明日は石炭の積込みある可し若し波浪のうねり依然として大なる時は積込まるゝや否や疑はし。晴風針は或は登り或は恐ろしく降下せり余は何事も忍耐す可し將に際會せんとする危険に對しても平氣なるへし危険は到底避く可らず寧ろ我が艦隊の運命を速かに定め少しなりとも將來に對しての希望を定むるに宜しかる可し。

四月二日 今は石炭の積込みを爲すを得ず波浪は非常に高し。多くの人々は我が艦隊に對して大なる希望を屬せり艦隊の人々は皆な四隻の新戦艦スワロフ、アレキサンダー、ポロチノ、アリオールを以て艦隊の首脳と爲せり日本人は我が全艦隊の司令官たる提督の搭乘し居るスワロフを殄滅するが爲に

必ず其全力を注ぐ可しスワロフに對し水雷攻撃も全艦隊の砲撃をも集中す可し故にスワロフは必ず最危険に遭遇するに相違なし他の戦闘艦特にボロチノ並にアリオールの如きは比較的危険ならざる可し日本人は先づ提督を殲さん事を努むるなる可し若し提督にして失はれんか其時は如何にす可きか若し我が艦隊が彼の既に幾多中立港に遁入したる我が諸艦の如くに遁竄する事ありとせんか我等は何處に於て武装を解かんとするか我等は既に十八日間大洋の上に在りたり然かも港は尙ほ遠し左れど推進機の一廻轉毎に我等は愈々目的地に近附くなり我が艦隊がリバウを後に見て今日にて五箇月半になれり僅にマラッカ海峡に到着するまで殆んど六箇月の長時日を費す可しとは何人も豫想せざりしなる可し。ドンスコイ、オレーグ、アリオール、テレツクの諸艦は海上に火光を認めたりとの報告を爲せり最初は火光の現出する毎に注意を引きたるも我等が今殆んど戰場に在るに際しては火光も左まで注意を引かざるに至れり何れにても同じきに非ずや寧ろ萬事を速に終了し去るに若かず。人々の間には事物の現在の状態を以て頗る満足し居る者尠からず余は斯の如き人々を見て驚かざるを得ず見よ今も士官集會室には士官等相會し酒を傾け歌を唄ひ居れり日本の艦隊にて果して是に類したる事を爲し居る可きか思ふに日本艦隊にては一種特別な酒宴を設け特別な歌を唱ふの準備を爲し居るなる可し通信は何時受けらる可きかカムラン到着前に得らるゝや否や疑はし。

四月三日(日中に認む) 今日早く起きたり石炭積込みありて余は汽艇にて驅逐艦ヘズウブレーチヌイに出張して舵を視たり事態甚だ面白ろからし同驅逐艦は或は全く舵の操縦を失ひて如何んともす可からざるに至るやも識れず舵を取らざる可からざるも大洋の巨濤の上にては是れ出來難き仕事なり

驅逐艦ヘズウブレーチヌイはカムラン灣まで曳船となし行き同地に於て修繕せざる可らずカムラン灣までは尙ほ約三千露里の航程を餘せり、同灣附近に日本の巡洋艦居りて我等を待りとの説あり同灣までは途中で何事も無くんば十日乃至十二日間にて到着するを得べしカムランより浦鹽までは約五千露里あるを以て艦隊は此の航程を急ぐ爲に今よりも速力を増して航するなる可し、朝の八時には既にスワロフに歸るを得たり然し今また端艇にてローランドに赴き同艦にて又もヘズウブレーチヌイに出張せり同艦より技手を連れ材料を取りてカムチャツカに行き同艦にて修繕するを待ちたりカムチャツカよりゲロムスキイに赴き其途中に技手をヘズウブレーチヌイに移乗せしめたり暫時同艦に止りたり余は工事に満足せり修繕は終りたり。暫時の間なりしも風雨ありたり余は雨具を用意したる爲めに餘り濡れざりき序に封緘命令を諸艦に持ち行きたり朝飯の食卓に列席するを得ざりき當番の一士官と共に朝飯を喫したりヘズウブレーチヌイに意外の事ありたり同艦に於て一箇所のキングストンより小さな絞侵入して艦内に海水を入れたり其絞は壓し殺したり、今各艦は其航海を續くる爲めに遠航艦列を作れり晝飯は大方遅くなる可し明晩は新月なり數日の間は毎晩弦月微に海上を照すのみなる可し是れ甚だ危険なり暗夜にマラッカ海峡を通過せざる可らず狭き海峡に於て日本人が我が船艦を殲滅せんとする幾多の襲撃を受くるやも知れず日本人は大方我が艦隊が此の海峡を通過する事を探知せるなる可し且つ全く邀撃の準備を整へたるなる可し。

四月四日 今日余は別に疲勞を感ぜざるも八時に轉寢して眠りたり明窓は開きあり風も入りて左まで熱からざりき余は何れ程起さるゝも眼の醒ぬ程よく熱睡せり、四時頃に始て眼を醒したり其も波浪

明窓より室内浸水して脚を濡したるが故なりき起て衣服を着換へ明窓を閉ちて又臥したり實によく寝ねたり昨日は石炭積込みに甚だ好き天氣なりき今日は波浪高く到底積込みを爲すを得ざるなり。ノツシベ出帆後夜中に艦隊を停止せしむる如き一事件も起らざりしは昨夜始めてなりき今日はオスラビヤに惨事ありたり同艦にて三人の水兵蒸汽の爲に火傷せり重傷なれば生死は不明なり。狂瀾とも形容す可き波浪には實に閉口なり海上静かなりと思ひ居るに巨濤襲ひ來りて室内に海水浸入して皆な濡らせり、今日も亦余は海水を浴せられ寢臺を濡らせり昨日來余は頻に睡眠を催はせしわけを今始めてわかりたり昨日余は新製の佛國製の煙草を喫し始めたり此の煙草には阿片を含有せり實に險呑なり余は此の煙草を百箇以上も藏せり今煙草は非常に大切なり他の煙草を喫して此オビームの含みある煙草は先づ豫備隊として保存し置く可し、驅逐艦ブーウイは昨日ウラチミルに衝突して自艦の艦首なる水雷發射管を破損せり今は用を爲さざるに至れりマラッカ海峽通過の際は艦隊は四箇の梯隊を成して航す可しとの事なり、運送船は凡て中央の梯隊となり戰闘艦は右の最端に列し巡洋艦は左の最端に列す可しとなり實に奇怪なり混亂を來す可し我等は今將に水雷潛航艇驅逐艦等を有する敵艦隊と邂逅す可き日の前晚も同様なり、余は全く安心せり寧ろ悦び居るなり一箇月後に浦鹽に到る可しとの未來の希望は我等を激勵せり余は毎日幾度となく地圖を開きて既に通過したる航路に其記標を附け浦鹽までの航程を頻りに數へ居れり、露國にては此の浦鹽に失望し浦鹽を自國の爲に保つ事を欲せざるか。若し艦隊はカムラン灣に到着して浦鹽の陥落したる事を知らば我が艦隊の位置は果して如何なる可きか其の時には我が艦隊は根據地を有せざるに至る可し果して然らば我が艦隊は如何にす可きか日本領の嶋嶼の一

を占領して其を自己の根據地と爲んか軍事情糧食の供給通信電報等の便利を得られざるを如何せん。中立國の港灣は固より我が根據地と爲す事を許されず日本の海軍は名目上和蘭の領地なるナトラン群嶋附近を自國の領地の如く支配し居れりとの風説あり是等群嶋は我が艦隊航路の途上に在りてマラッカ海峽の續きなる新嘉坡海峽より稍や北方に位せり。若し今日まで諸新聞紙上に我が艦隊の所在地を傳へられざりしとせば明日は全世界にて之を知るに至る可し、我等はブリヤウエー嶋の燈臺の側らを通過す可し我が艦隊の事は同燈臺より全世界のはてまでも發電せらる可しマラッカ海峽に於て如何に厭忌す可き事件生ず可きや何處かの狹隘なる場所にて水雷艇の襲撃を行ひ次で日本艦隊は我が艦隊の前面に現はれ其巡洋艦が後方より攻撃を加ふるを待ちて砲火を開く可し（日本の巡洋艦は我が艦隊に追尾して海峽を進航し來り必要の時機を見て艦隊に肉迫して攻撃を加ふ可し）斯の如くならんには我が艦隊の境遇は非常に危険に陥り我が艦隊は備砲全部の發射の便を失ひ僅に艦首と艦尾との備砲より發射するを得るのみなる可し故に其運命は甚だ面白からざるなり、他の船舶の燈火を認めたり我が艦隊にては不用なる燈火を消す可き事を命じたり明窓は戰時用の蓋にて覆れたり今夜或は敵の襲撃あるやも識れず嗟今夜戰爭の時機は來たれり前途不安なる夜は幾何ぞ其終極は果して如何なる可きか。

（五十一） 愈々危険なる海峽通過

四月五日 私室は蒸熱くして寝るを得ず余は艦尾の上甲板に枕もせず衣服のままにて臥したり昨日テレツクの艦長より左の如き内容の電信を受けたり曰く「祈禱の集會後に本艦乗員は退散せず上

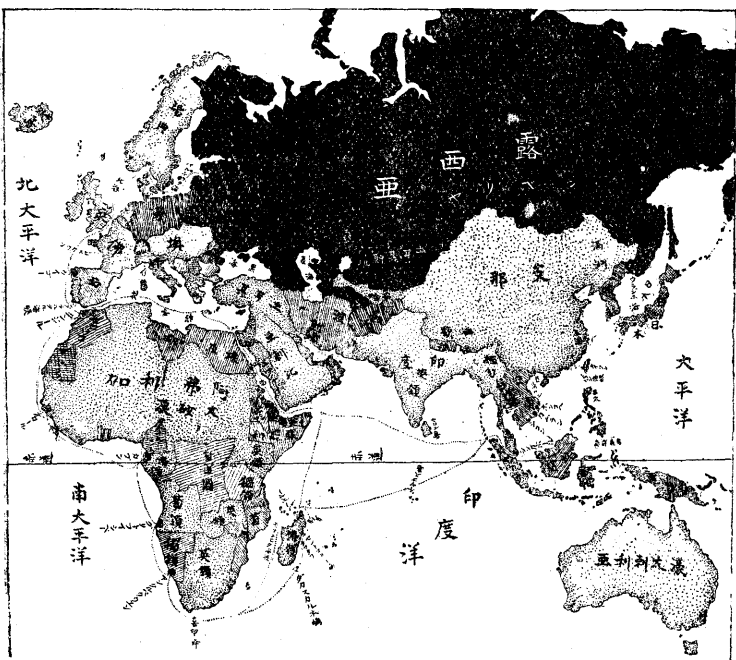
席士官の交任を要求せり上席士官は其の救を求め居れり乗員の不法を認む」と是れ何ぞやストライキに非ずや此の報告の最後の一言は確に之を示せり艦隊は速力を増せり今將にマラッカ海峡に入らんとす我等は今印度洋に別を告んとす二箇所の大洋——大西洋と印度洋とは先づ無事に航するを得たり第三大洋太平洋に於て如何なる事件に遭遇せんとするか、ブリヤウエ、嶋は既に程遠からざるも未だ其嶋影を認めず日中に地平線上にスマトラ嶋附近なる一小嶋の陸岸を望見せり山の頂上が水天鬚鬚の間に幽かに見えたり是れノーシペー出帆以來我等が見たる始ての陸地なり既に全く陸地を見ざりし事既に廿日間なりき艦の明窓は皆な戦時用の蓋にて覆はれたり室内は熱くして居るを得ず他には何處にも書面を認むるに便なる處なし戦闘艦内は到る處眞暗なり是れ人々が一寸暗き下甲板内に入るも目眩んで見えざる如き事なからしめんが爲に特更斯く暗くせられしなり。戦闘艦アリヨールは艦隊の進航を二時間も止めたり同艦は重要な一箇の蒸気管を折りし爲に航走するを得ざりき今修繕せり、我等は尙ほマラッカ海峡内の廣き處に居れり願くは海峡内の狹隘なる處や交戦中に斯の如き事の遭遇せざらん事を祈る者なり若し不幸斯の如き事あらんか左なきだに優勢なる日本艦隊をして愈々優勢ならしむ可し、熱さ堪へ難きも私室内に入れり八時より今まで降りずに艦橋の上に居りたり兎に角に余は満足なり艦隊が目的地向て進み居れば是にて満足なり。

四月六日 昨日は一晝夜の中より四時間を損失せり是れ甚だ宜しからず狹隘なる海峡通過の時間計算を皆な錯誤せしめたり危険なる場所を日中に通過せんが爲に海峡内に無用なる時日を送らざる可らず馬鹿氣たる話なりマラッカ海峡と新嘉坡海峡とを我等が速に通過するを得れば我等に取りて此の上もなき利益なり然るに此の海峡に於て斯の如き停船を來すとは果して何事ぞ。余は自ら己れの事を不思議に思へり余は少しも心騒がずに毎夜何時も敵の襲撃ある可きを豫期しながら依然として安心して熟睡せり毎夜衣服を脱して早く就寝せり危険を想ふ事甚だ稀なり。

今朝二度龍巻ありたり余は七時に起きたるも之を見ざりき驅逐艦ビエードウイは左の事を報告せり今朝甲板の上に身體の運動を失ひて横はり居りたる水兵を見出せり彼は死亡せる者と決定し直に彼を葬る許可を請へり參謀部にては其返辭を延引せり其中に俄にその水兵は生き居る事わかりたり若し生き居る此の水兵を海中に投せば果して如何なりしや。カムラン灣には如何なる郵便交通上の便あるやを識らず同地より柴棍に屢々郵便物の發着ありや調べ得たる所に依れば郵便は柴棍より歐洲に向けて月に四度づゝ差立てらるゝ由を識りたり。弦月天に在るも尙尙は若く夜色薄暗し斯の如き暗夜に乗して敵の水雷艇は我が艦隊に甚だ容易に接近するを得べし我が驅逐艦は皆な昨夜より曳船を廢して自力にて航進せり夜間には其艦影を殆んど認むるを得ず只だ僅に海上に朦朧として黒き影あるを見るに過ぎず、日本艦隊が我が艦隊を襲撃して成功を收むるを得べき望み甚だ多し實に多望なり、我が艦隊は空しく費したる四時間を恢復せんと欲して其速力を増したり只だ恢復し得らるゝや否は疑はし何事かを爲さんとすれば又も他に時間を費さざるを得ず、柴棍よりカムラン灣まで佛國人は鐵道を敷設せりとの説あり若し果して鐵道全通せりとせば我が艦隊が同灣に到着する時に我が艦隊に取りて如何程の利便あるや識る可るす然し皆な一の風説に過ぎず確たる事は何人も識らずマラッカ海峡に入りて是れ迄で航し來りたるも今まで未だ一隻の汽船にも遭はず夜間は時々何等かの火光を認めたり又日中に一

度地平線上に煤煙を認めし事あり其も僅に認め得たるに過ぎざりき。暴風雨の前には静かになるを常とす今は正に是れなる可し各士官は夜間に其管掌の砲側を離るゝ勿れとの信號命令ありたり一般の乗員は既に久しき前より砲側に臥し居りたり最も警戒す可きは夜間の水雷攻撃なり。多くの汽船に出會し始めたり諸汽船は皆能く注意して我が艦隊の航路を避けて通過せり今強風に雨を混へて吹き出せり今までは海上鏡の如くに静かなりき。艦内には到る處に火災の時に備ふる爲に消火粉を入れたる罐と糊帶材料を入れたる袋とを配置せり余は此の消火粉の効力を信せず。其の生死に關して異議ある水兵は今日葬りたり驅逐艦に於て誰れやらが規定の通りなる祈禱文を讀み司祭(牧師)は遠く立ちて十字架にて遺骸に祝福して其遺骸を直に

リハウ港よりカムラン迄の航路を示したるもの



海に下せり如何に簡畧なる葬儀ぞや。晝飯後に又も三時間程艦長と共に船橋の上に居りたり其處にて茶を喫したり艦長より浦鹽の事その生活上の状態などを聞きたり。今日の正午よりカムラン灣までは尙は二千一百露里を餘せり我等は途中にて若し戦争もなく停船沙汰もなくんば此の航程を七日間に航進す可し。

四月七日 昨夜は始終多くの汽船に遭ひたり然し何れも艦隊の航路を遠く避けて通過せり北海の漁船砲撃事件は此利益を現はせり汽船の通る毎に其を探海燈にて照せり今日も屢々汽船に會せりエンクウイスト提督は報告して曰く同提督艦長士官等並に水兵は十二隻の水雷艇を率ゐて進航せる汽船を明かに認めたりと然し日本人は白晝に自己の水雷艇を敵艦隊の前に露出するが如き愚者に非ず、**イズムールド**は汽船に鯨の従ひ行くを認たりとの報告をなせり**イズムールド**は之を以て潜航艇なりと斷言するを得ざりしが故に鯨の類の魚族と想像せしなり、我等は間もなく海峡の甚だ狹隘なる場處に到る可し其處は水路も至つて狭し此の水路を通過せざれば海峡を出るを得ざるなり其處には潜航艇及び我が艦隊の前程に他の船舶の觸れざる様に敷設せられたる沈設水雷あるやも知れず水雷は臨機沈設して一定の豫定時間を経過すれば自ら海底に沈下する様に沈設するを得べし極力我が艦隊に追尾し來れる彼の一汽船は能く此の作業を爲すを得べし。此の一汽船の行動は如何にも疑はし或は全速力にて航進するかと思へば或は停止し或は其航路を變せり該汽船は何故に我が艦隊に付き纏ふにや或は其通過せる後に沈設水雷を投下せんとする者に非ざるか、然し意とするに足らず若し幸ひに我が艦隊は無事に水雷に觸れずに通過せば其水雷は一定の時間を経過すれば忽ち海底に沈下して海峡は安然になり中立國

の船舶が海峡を通るに少しも支障なきに至る可し皆な斯くの如く簡便に之を實施するを得べし日本人は果して我が艦隊に損害を興へ得べき此の好機を空うせんとする者なるか、今日に奉神禮の祈禱ありたり然し余は祈禱所にゆかずに始終吊床に臥し居りたり。マラッカ海峡を通過するに尙ほ一夜を要す可し夜は眞の闇夜なり雨さへ屢々降り左なきだに狭き眼界は愈々狭くなれり。

明朝四時頃には最も狹隘なる水路を通過す可し日中に新嘉坡の沖を通り六時頃には愈々南支那海に入るべし日本人の居る可しと疑はるゝ彼のナトラン群島の傍側を通過す可し彼等日本人はマラッカ海峡に於て我が艦隊を攻撃するにや將た何事も爲さざるにや明晩にて此の事は明になる可し彼等は我が詭計に陥りて其注意と全力とをスンダ海峡若くは其以東に注ぎたるに非ざるか或は彼等日本人は我が艦隊が支那海に入るまでは何事をも爲すを欲せざるに非ざるか、日本人は大膽勇敢なり何故に彼等は其好機を逸し去らんとするか若し今後二十時間乃至二十二時間内に何事もなくんば甚だ狹隘なるマラッカ海峡は悉く我が有に歸す可し日中に細く狭く長き馬來半島の地形を望見するを得たり余は何時また再び此の亞細亞の陸地を見るを得べきか今日船艦の附近を奇妙なる鳥の飛ぶを見たり是れ鷗か或は他の鳥類なる可し。

四月八日 十一時頃に馬刺加市の沖を通りたり同市陸岸の市街の燈火は船中より明かに望見するを得たるなる可し、我が艦隊が同市街の沖を航進せる際に地平線上に帆走斯克那船現はれて我が艦隊の方に向ひ來れり同船を探海燈にて照し驅逐艦是に近附きて艦隊の側らを導き通過せしめたり四邊暗闇の海上に明煌々たる探海燈の紫光に帆船の白色なる船體と白帆とを照したる光景は實に美觀なりき同

は右方戦闘艦の艦列に最も近く航走せり。黎明までは尙ほ四時間を餘せり各士官は何人も殆んど一睡もせず余は今臥さんかと思ひ居れり或は日本艦隊に邂逅せずには浦鹽に到着するを得る如き事になるやも知れず何人に取りても是れ實に意外の事なる可し若し斯の如き事のある場合には海は廣く且浦鹽迄の里數は中々に遠し我等の今後の航程は日本に認められざる様に巧に航路を選定するを得べしカムラ灣より浦鹽迄の間に途中に何處なりとも寄港する事は困難なる可し然し其も爲し難きに非ず。戦地に於て奉天の敗戦後は如何なる事のありしやは我等之を知らず奉天戦の事に關しても實際は通信員の電報にて識り得たるに過ぎず多くの人々は今に至るまで其眞偽を疑ひ居れり然し余は之を信するなり今日まで通信員の發したる佛國電報は皆な之を確證せり。我等は暫時にして支那海に入る可し我が艦隊がマラッカ海峡通過の際に日本人が何事をも敢て爲ざりし事に關して種々の想像説を爲せり或る者は説をなして曰く日本人は我等が間もなく通過せんとするビーオ海峡に於て邀撃する準備を爲せる者なる可しと或は曰く英國人は複雑なる事件の生せん事を慮り商船の多く往復するマラッカ海峡に水雷を沈設する事に反對せるなるべしと或は曰く日本の海軍は我等をナトラン群島に待居る者なる可しと同嶋邊にて交戦するは我に取りては兎に角に有利なり是れ同嶋附近なれば我が船艦は運動を爲すを得べきを以てなり、今夜何事かに遭遇するや否やを見る可し或者は臆想を逞うして平和は既に締結せられたるに非ずやとの説を爲せり若し果して然りとせば平和は我に取りて甚だ恥辱ならざるを得ず露國は果して此舉に出るを得べきか。今日余は六時まで私室と出でざりき甲板に出で、左の如き新しき事を知りたり即ち午後三時頃に新嘉坡より露國領事は曳船汽船にて艦隊に近附き左の事を報告せりと云ふ

同領事の報告に曰く三週間前に日本の海軍は運送船浮動工作船病院船驅逐艦等十二隻を伴ひ全力を擧げて新嘉坡に來航せり日本艦隊は新嘉坡よりボルネオ嶋に赴けりボルネオの附近にラプアンと稱する一小嶋あり日本人は此の嶋に據て露國猶太人の所有なる地所を買収して自家の領土の如く支配せり日本人はラプアン嶋と新嘉坡との間に海底電線を敷設せり斯の如くなるを以て我等日本人は昨日既に我が艦隊の行動に關する報知を得たる筈なりラプアン附近に在る日本の海軍は運送船工作船病院船驅逐艦を除くの外軍艦二十二隻より成れり今夜は水雷攻撃ある可く明日は必ず海戦を免れざる可しとの事なり其結果は果して如何なる可きか清潔なる衣服を着代へ且つ砲聲に聳せざるやうに綿を用意せざる可らず。

哨艦より報告書を得たり皆な捏造せられたる虚言のみなり十時を過ぎたり然し今迄は無事なり由來日本人は九の日を以て最も善き吉日と爲せり彼等は或は九日迄戦争を延し居るに非ざるか領事の言に依れば我が艦隊のマラッカ海峡通過は日本人に取りても亦全世界の人々に取りても全く意外の事なりしなり若し我が艦隊が此海峡に於て何等の障害にも遭遇せざりしとせば是れ萬人の眼孔は他方面に傾注せられし事を示す者に非ざるか今何汽船にや前方より來航せる汽船に邂逅せり其船を探海燈にて照して艦隊の側らを通過せしめたり今日の正午より起算してカムラン灣までは尙ほ一千五百露里を航せざる可らず若し途中に何等の故障もなくば我等は今月の十二日に同灣に到着するを得べし大方今日の夕刻の電報にて我が艦隊が新嘉坡附近を通過せる事の通信を傳へたるなる可し浦鹽並に哈爾賓未だ我が掌裡に在る事を知りたり寢て一睡せんか然し敵の攻撃あれば如何にす可きか余は襲撃と交戦とに關

しては多少冷靜になれり戰爭始まりて別に驚かず平然として居らる可しと思はる果して然るや否やや間もなく確めらる可し。我が艦隊は又も世界の注意を集中するに至れり我が艦隊の勝敗如何が戦局に對して如何に大なる關係を有するや知る可らず勝利の希望は甚だ尠なし然し若し勝利を得る事ありとせば戦局の上に一大變動を來す可し日本艦隊の近接せる事と其衝突の免る可らざる事を知るや人々の顔容は何れも慎重になれり。

（五十二） 夢の如き戰闘計畫

四月九日 夜は無事に明けたり今朝までは全く無事なりき朝來艦隊は停船し居れり各驅逐艦は石炭を積込み各驅逐艦は何れも石炭の缺乏を告げカムラン灣迄は足らざりしなり、日本艦隊は何を爲し居るにや我が艦隊が何處に在るや其場處を知らずして海上を探し居るに非ざるか否な然らざる可し我が航路は新嘉坡より浦鹽に北方に向へる事は既に明かなる可し日本艦隊は或は我等の前途に魁げして何處にか我等を待ち居るに非ざるか或は然らん我艦隊カムラン灣に寄港せず直に浦鹽に航進するに非ざるかとの説あり若し船艦が斯の如き遠隔の大航路に堪ふるだけの石炭を充分に積載する事を敢て爲し難き事に非ざる可し刻一刻毎に敵の襲撃を待ちながら外洋に於て石炭積込みを爲すは智慧ある所業に非ず且つ甚だ危険なり。各驅逐艦の石炭積込み終りて艦隊は更に航進を始めたなり。今日奉神禮の祈禱ありたり余は祈禱に立ちながら是れ或はスワロフ艦上最後の祈禱に非ずやと思へり或は然らん次回の祈禱は奉神禮儀に非らずして戦死者追弔の祈禱なるやも知れず萬事を豫期し且つ萬事に對して豫め備

へざる可らず。同日アナンバ嶋を通過せり提督は明日日本艦隊に邂逅す可しと豫期せり海上静穩なり多少のうねりありて小艦は動搖せり我が艦隊が新嘉坡を通過したりとの報知は彼得堡に於て如何なる感想を惹起せしめたるか第三艦隊は今何處に在るや浦鹽到着前に第二艦隊は我等に合す可きか我等はカムラン灣に於て之を待たんとするにや、我等若し無事にカムラン灣に入るを得ば日本は浦鹽の我が巡洋艦と我が第二艦隊と更に第三艦隊の三方面に當らざる可らざるに至る可し斯の如くなれば日本艦隊をして其戦闘力を割かしむるを以て我等に取りては甚だ便利なる可し、彼等日本人は今浦鹽を警戒する爲に同地に其船艦を遣し置かざるか浦鹽は尙ほ結氷し居るにや浦鹽の結氷は毎年大抵四月中旬に解氷す可しとの事なり目前に迫れる交戦の際にはオレーグ並にアウロラは戦闘を爲し居る所の我が各戦闘艦に援護を與ふ可き事を命せられたり又巡洋艦の一部はカムラン灣に遁入せしめざる可らざる所の運送船の防禦擁護の任に當る可きを命せられたりカムランまでは今日の正午より尙ほ一千露里以上の航程を餘せり我等は最後の一敗に因りて忽ち徒勞に歸し去る可し日本の捷利の希望は既に顯然たるものあり我等がマラッカ海峡を無事に通過するを得たるは責めてもの幸なり日本は固より我等が斯の如き冒險的の行動を爲す可しとは想はざりしに相違なし、我が艦隊がスンダ海峡を通過す可しとの事を頻りに傳へたる諸新聞と同海峡附近に集りたる我が石炭船とはマラカカ海峡より一切の注意を奪ひて日本人をしてスンダ海峡に於て我等を邀撃するの凡ての準備を爲さしめたるに相違なしマラッカ海峡附近に於て五隻の潜航艇が我が艦隊を待居りしとの領事の報告ありしも是れ甚だ疑はし若し果して然りとせば我等は何故に我が艦隊を襲撃せざりしにや。

四月十日 今までは静穩なりき昨夜は非常の熱さにて私室内に居るを得ざりき余は十二時に寢に就きたるも苦熱の爲に眠むるを得ざりしを以て衣服を着て士官室に往き空き居る長椅子に臥したり。太陽の照りは非常に強し我が艦の音楽長は日當り好きにて炎天に長く立ち居り何時も兩手を艦の欄干にかけ居るを以て手は大陽の酷烈なる熱に焼けて枕の如くに太く腫れあがりたり。日本人は如何にせしにや何故に今まで襲撃せざるにや日本人が此の附近に全艦隊を集中せるは決して徒勞の事を爲し居るに非ざる可し彼等は我が艦隊がスンダ海峡通過の際に我が若干の船艦を襲撃して損害を加へ然る後に艦隊を全滅するが爲に大戦艦を以て既に弱りたる我が艦隊を襲撃せん事を期したる者なるやも知る可からず然るに我が艦隊がスンダ海峡をを過らざるしを以て彼等の企圖は全く畫餅に歸したる者なる可し或は又日本人は今頃我が艦隊を待設けて柴棍附近の何處かを巡航して我等を尋ね居る者なるやも知る可らず然し皆な是れ一の想像に過ず、我が艦隊はカムランに到着して同地に於て第三艦隊と當春スラワを先頭にして霧國を出帆したる諸船艦を待居る可しとの事なり、若し斯の如くなりとせば既にノッシベに於て此の事ありしが如くに我等は又もカムランに於て安閑として無期限に碇泊し居らざ可し。我が艦隊はカムラン灣に入らずに直接に浦鹽に航進す可しとの説専らにて人々毎日此の事のみを談じ合へり今また大に信するに足る可き一説として艦隊は直接に最後の港灣まで航行す可しとの説出でたり我等は既に二十七日間大洋の上に居りたり既に食料も盡きて今は醃藏を用ひざる可らざに至れりスワロフの我が提督の食卓にも既にウオトカ鮮肉コヒー等は全く缺乏せり、余は特に肉類の缺乏を心細く感せり人々の皆する所に習ひて余も物品を藏さんかと想へり冬帽が如何になり居りしやを一見

したるのみにて他に手を附けざりき余は懶惰なり然し何にても防禦區域内に物品を藏する事を妨げざるなり。我が艦隊は其全組織に於て既に非常の航海を爲せるのに今又我が艦隊がカムランに寄港せず直に浦鹽に航進するとせば全世界の人々は此の偉大なる航海と敢爲とに一驚を喫するなる可し若し斯の如き航進を爲すを得べしとせば日本人は我艦隊の踪跡を見失ひて何處に之を捜す可きやを知らざるに至るべし。夜十時に認む無線電信の感應を感じ始めたり是れ或は日本の巡洋艦が我等を掃索して互に通信し合へる者なるやも知る可らず我が艦隊は兎に角にカムラン灣に入る可しと思はるゝなり石炭運送船は同灣に十八日に非ずして十四日に入る可き筈なれば我等は通信を得らる可しと思はる若し我艦隊はカムラン灣に入るとするも同地には永くは碇泊せざる可し此の書面を適當の時まで書き終らざる可らず。余の考に依れば御身は此書面を五月の初旬に落手するを得べし其頃には艦隊と余が運命如何も既に定めらる可し明日は通信差立ての機會ありとの事なり此の事は唯り全艦隊に報せざるのみならず我がスワロフ艦にさへも報せざるなり。

(五十三) 警戒嚴重カムラン灣に入る

四月十一日 南支那海に在り柴棍に赴きたる病院船アリヨルに託して御身に書面並に電報を發したりアリヨルは若し途中にて日本人の襲撃に遭はずんば明朝黎明に柴棍に到着す可し若し途中にて攻撃せらるゝ如き事あれば同船は日本の傷病兵を搭乗せしめられ日本人の命令に従はざる可からざるに至るべし同船は赤十字を掲げ居るを以て沈没せらるゝ事なかる可し。唯りスワロフのみは通信を發する

を得たるも他の諸艦にては今日アリヨルが柴棍に赴く事を得知らざりし者さへありたり柴棍出張を命ぜられたるスワロフの士官がアリヨルに移乗したる際にアレキササンダーより一人の病氣に罹れる士官もアリヨルに移乗せり此の士官は自ら汽船に乗るを得ざりしかば安樂椅子に凭らしめて其まゝ船に移乗せしめたり。提督食卓用としてアリヨルより少量のコーヒーを得たりアリヨルは艦隊を離れて柴棍に出發せり同艦は二日を経て艦隊に歸着す可し今日は寢過して漸く九時に起きたり今日は石炭の積込みなし明日は大方停船の爲めにカムランに入るを得ざる可し。今は非常に警戒す可きときなり屢種々の汽船に邂逅せり特に英國旗を掲げたる汽船多しオレーグは何時も諸船に近附きて尋問せり(即ち戦時禁制品の搭載有無如何を問ふなり)今朝前後して二隻の英國巡洋艦に邂逅せり其中の一艦は禮砲を發せしを以てスワロフは是に答禮を爲せり是れ黎明の事なり余は寢床に在て大砲の音を聞き「始つたり」と思へり一寸明窓より望見して又寝ねたり。我が信號兵が最初の英國巡洋艦を見たる時に彼等は之を以てチアナが我等に合する爲に來航せる者なるべしと速断せり此の巡洋艦は一見したる所少しくチアナに類似せる點あり英國の諸巡洋艦は我が艦隊を搜索する爲め日本人を助け居る者なる可し、七條の煤煙を認めたるも忽ち地平線に隠れて見えなくなり無論これ何等かの七隻船なる可し我が巡洋艦の偵察艦隊の一部は英國旗を掲げたる汽船に遭ひたるに同船は信號を掲げて「日本の驅逐艦を目撃せり警戒す可し且つ今夜襲撃ある可し」と報告せり然り近附けり敵は近附けり敵艦との衝突は何故に斯くも延引せられ居るにや今夜は果して如何なる可きか。余は書面と電報を發するを得て非常に満足なり御身の返電は得らる可しとは思はざるなり、アリヨルは左まで永く柴棍に止らざる可し最近の書面

は我等が浦鹽に着する頃或は△△△頃には御身は五月の初旬か中旬に落手す可し。

四月十二日 今日早朝より石炭積込を爲せり停船し居れり若し航進を續くるなれば一二時間にてカムラン灣に到着す可し今日の所にては明日なならではカムランに着するを得ざるなり、各船艦互の間には更に通信なし**アレキサンダー**に非常なる侮辱事件ありたり**アレキサンダー**の積込石炭は約九百噸なりとの事なりしに實際は三百五十噸あるのみなる事發覺せり、日本艦隊は何處に居るにや或は我等はカムラン灣に於て日本艦隊に邂逅するに非ざるか。總ての者が段々終りに近づけり巻煙草も燐寸も將に盡きんとす今日石鹼の片塊を得たり石鹼は僅かの塊りが残りたるのみなり石炭積込みは終りたり艦隊は前進を始めたり 余は**スワロフ**より他艦に出張せざりき今日は幾度か艦隊の近傍を商船の通過するに遇へり明日黎明にカムランに到着する豫定なり同地に投錨するは遅くなる可し我が船艦の通る水路は一々その深さを測量し且つ掃海しながら航進す可しカムラン灣の測量は海圖の上に明示せられあるも信を置かれざる事あり、又日本人は水路に水雷を沈設せるやの危険あれば掃海を行はざるを得ざるなり何れも無用の注意には非ざるなり、カムラン灣は二箇の灣口を有せり一方の灣口には此の灣口より日本軍艦の我が船艦に對する襲撃を防禦する爲め臨時に防材を設けらる可し夜十時に認む。今日又水兵の水葬執行ありたり亦**オスラヒヤ**の水兵なりとは驚かざるを得ざるなり同艦には實に多くの死亡者あり。カムラン灣の測量海圖は甚だ不正確なる者なる事を識りたり某士官は同灣内に於て何船に乗りてか坐洲したる事あるを參謀部に報告せり船の座洲したる場所の水尋は甚だ廣く示されあるも實際は左までの處に非ず明日までに測量と掃海とを終る可し諸艦は時間を空費せざらんが爲に石炭の

積込みを爲す可し艦隊の近傍に種々の鳥飛べり**スワロフ**の近かくに翼の疲れの爲に蒼鷺と斑鳩と落ちたり蒼鷺は沈みたるも斑鳩は石炭積込のカッターにて拾ひ上げたり。

今は月光海上を照し居るも一時間半の後には月落ちて暗夜となる可し若し日本人は夜襲の爲に此の機を利用せずんば我等は朝には既にカムラン附近に到着するを得べし。

水雷夜襲の虞あるにも關せず余は平素の如くに少しも變りなく且つ睡眠し得て自ら満足なり兎に角に無用の疲労を感ぜざるなりあゝ余は寝好きなり熱さの爲に一寸眠りても直ぐ汗をかきて目を醒すなり故に休息する間も尠なし涼しき時に余は如何に大喜びにて寝るや知れず。實際の事をいふなれば余は開戦後全く生活の常軌を脱したり開戦となるや最初は造船の夜業の爲に大抵は宅に居らず後には船にてクロンタットに出張し次でレーウエリリバフに赴き其より海外に出發せり十四箇月の間一種の漂泊的なる斯くも不規律なる生活を送れり。

四月十三日 遂にカムラン灣に到着せり機關を停止したるのみにて碇泊せりカッターと驅逐艦とは掃海と測量とを爲し居れり今石炭の積込みを始む可し早朝に到着せし際は濃霧ありしも霧は俄に晴れ艦隊と海岸の間に汽船の居るを見たり。其汽船は我が艦隊を見るや遁れ去らんとて全速力を出せり**ゼムチユード**、**イズムールド**、**スウエトラナ**を遣はし之を臨檢せしめたり三艦は一汽船を追うて之を尋問し敢て臨險する事なく之を放ち遣れり今迄も幾度斯の如き船泊を放ちやりたるや識れず余は確信す是等汽船の多くは必ず日本に軍需品を輸送せるに相違なきに然るに斯の如き汽船に對し敢て甲板の上に登りて一見する事もせず只一應尋問する位にて之を放ち遣るなり。如何なる馬鹿者にても我は日

本に貨物を輸送する者なりと答ふる事はなかる可し汽船に對しては尋問する要なく直に之を臨檢す可きなり然る後之を放ち遣る可し今の汽船の如きも若し何等禁制品をも搭載し居らずんば何ぞ勿々遁れ去るの必要あらんや日本人は必ず斯の如き事を爲さざる可し只一通りの尋問を爲したるのみにて汽船を離れ去る如き愚を爲さざる可し斯く萬事を對照し來れば實に慨嘆に堪えず萬事自然に我が掌中に在る事までも我等は皆な之を打離しやるなり日本人や其友邦が如何に我が露國を嘲笑するとも其笑ふ方が正しきなり。此處は熱し浦鹽は涼しかる可し浦鹽に到らば氣候の急變の爲に健康を害せざる様せざる可らず大方多くの感冒症の病人を出す可し此のカムランにても忽ち地方病なる熱病に罹る者ある可し永き間の炎熱の爲に山の方よりは涼しき風を送れり、間もなく石炭船來航して久しく時日を経過したる郵便物を持來る可し十二月廿六日より一月三日までの郵書を落手せらる可しと思ひ居れり。我が海軍參謀本部と名附けらるゝ高貴なる官衙は今郵書類を何處に送遣せんとするか大方郵書類を皆な差留め置く可し。我が艦隊は未だ港内に入らず其附近に碇泊し居れり余は衷心に尙ほ御身より返電をアリヨルが齎らすならんとの望みを懷き居れり最後の報知を得たるは既に一箇月半前なりきカムランにては食料品も需用品も何も得られざる可し郵便物の差立さへも爲し得るや否や疑はしくなれりカムランには餘り長く滯留せず石炭と需用品の積込み次第に前進する豫定なり。此處より浦鹽までは直徑にすれば三千露里と少々なり勿論我艦隊の航路は是よりは大に長かる可し若し途中何事もなくば我等は十五日間にて航するを得べしと思はる此の日數の間は特に至難なる可し或は廻り路の航路を選ばるゝやも知れず其時には又長く海上に漂蕩せざる可らず。夜十一時に認む運送船と一部の驅逐艦

とは灣内に入れり他の一部の驅逐艦と各戰艦とは探海燈を照らしてカムラン附近を巡航して外海に居れり、大方明日灣内に入る可しカムランに碇泊して第三艦隊の來航を待つ可しとの命令ありたり。若し御身は此の艦隊に於て如何なる事が行はれ居るやを想像する事が出來且つ若し余は萬事を露骨に記述する事を得ば御身を驚かすを得べし若し幸に存命せば後に話す可し、否な我等は何處に於て戰爭を爲すを得可きや余は萬事に對して絶望せざるを得ざる状態に達せり只余は運命既に免かれずと觀じて他に慰藉を求めざるなり。天氣は荒れ模様なり且つ機關も蒸汽罐も皆破損し特に蒸汽罐は甚だしく損じたり晝夜三十日間も錨を投せずと云ふ如きは智慮ある事に非ず何事にも制限のあるものなり。

（五十四）願はくは第二の旅順たる勿れ

四月十四日　カムラン灣に在り三十時間も外洋に居りて今灣内に入り始めたり病院船アリヨルは今尙ほ歸還せず石炭船も同じく來航せず彼等は或は日本人に拿捕せられたるに非ざるか昨日戰艦は近くカムランに進み寄りたり漁船に乗り居る多くの漁夫を見たるも何故にや一人も我が船艦に來らざりき今朝我が戰艦の甲板上にて飛び疲れたる小鳥を捕へたり金絲雀なりしとの事なり昨夜は甚だ涼しく寢衣は汗にて濡れざりき斯の如き涼しき事は暫くなかりき。我等はカムラン灣若くは其附近に於て多くの時日を送るは果して利益なるや否やの問題を自然心中に起さざるを得ず日本が我艦隊を邀撃する爲にスンダ海峽に計畫したる企圖を今や之を他の場處に轉移す可し日本人は萬事を新に施設準備するの時日を有するに至る可し日本人がスンダ海峽に計畫したる企圖が一度不成功に終るや必ず我

が艦隊を自國の沿岸に於て邀撃するの最も便利なる計畫を速に準備するに相違なし。日本艦隊は沿岸に於て我を邀撃すれば破損船艦も急速修繕するを得べく許多の根據地を有するを得べきを以てなり凡て是等の事に想到し來れば日本艦隊とは臺灣島を通過せざる前には邂逅する事なかる可しと想はるゝなり勿論若し我が艦隊は永くカムランに碇泊し居る如き事あれば事情は全く變して日本艦隊はカムラン灣に我を襲撃し同灣を沈設水雷を以て封鎖する如き事なしとも限らざるなり斯の如くならんにはカムランは一變して現然たる畏とならん可し日本人は實際我等よりも非常に狡智なりと信ず我等露國人は甚だ淡泊なり物を言ふにも馬鹿正直なり。今錨を投じたり石炭船の來航せるを望見すカムラン灣の海岸は石礫にて地方は一帶に綠草繁茂し或は灰色の岩石若

佛領露艦隊碇泊地



くは砂原なり砂の色は或は普通の色の砂もあれば或は純白の砂もあり黄色の者もありて不思議に思はるゝなり、カッターにて巡航せざる可らざるも天氣は餘り面白からじ。夜間に二隻の驅逐艦は來航せる汽船を偵察の爲に出で行きしが**プレスチャーヌチー**は、**ベズウフレーチヌイ**の舷側に衝突して之を破りたり海上にて此の二隻の露國驅逐艦は互に押合ひたるなり修繕を爲さざる可らず**ベズウフレーチヌイ**も舵の破損を來し且つ一箇の機關は働かざるに至れり、昨日驅逐艦にて灣内に赴きたる士官はカムランに郵便電信局あり且つ食料品豊多にして柴棍に鐵道敷設中なりと報告せり、昨日當地に於て七日前に第三艦隊は**ヂケーチ**を出帆せりと電報に接したり又**ボルネオ島**附近に於て日露兩艦隊の激戦ありとの電報もありたり斯の如き虚報は只これ露國に於て不安の念を懐かしむるに過ぎず二週間前に此のカムランに二隻の日本巡洋艦來航したりし由なるも柴棍より二隻の驅逐艦來りて該巡洋艦に同灣を去る可きを要求せりと事なり、次で其巡洋艦も去りたり我等も亦此處を退去する事を要求せらるゝやも知れず然し我等は此處に永く碇泊す可しと思はるゝなりカムラン灣の外部地形その灣口等は旅順に彷彿たり願はくは實際に第二の旅順たる覆轍を踏まざらん事を今石炭船より郵便物を待來れり。

四月十五日 昨日各艦の艦長並に各提督は旗艦**スワロフ**に召集せられたり何等かの會議ありしなり石炭船が**ヂエゴスアレツ**より持來れる郵便物は只だ**マダガスカル**に宛て、發せられたる郵便物のみなり、或る船艦の如きは一も郵便物を受けず又二三通位受けたる船もあり實に落膽の外なし。病院船**アリヨル**が新報知を齎らすの期は近けり昨日午後三時に**ベズウフレーチヌイ**に赴きたり同艦の修繕工事は大仕事なり其の修繕を二週間にて終了す可しとの豫定の由なるも余は之を晝夜に爲す可し大方成就

す可し運送船**ゴルチアコフ**はノツシベより露國に歸艦する事に決したりしかば同艦には郵便物を託し多くの水兵は書面を差立てたり然るに書面差出人は既に古郷にて其書面を落手せるならんと想ひ居りしに豈に圖らんや**ゴルチアコフ**並に同艦に積みたる通信物は我等と共に此處に來航せり書面と共に多くは送金も託遂せられたるに此始末なるは實に憤慨に堪へざるなり**アリヨル**は病氣に罹れる士官を露國に歸還せしむる爲に柴棍に上陸せしめたり**マラツカ**海峽通過の際に**アレキサダー**より一人の水兵は其吊床と共に行衛不明となりたり大方水兵は脱艦を圖りてコロップを附けある吊床を携へて舷側より投身し泳ぎ去れる者なる可し。

當地の土人なる安南人種を見たり**マレイ**人種の一種族にて黄人種なるが随分醜き人種なり彼等は數隻の小舟にて**カムチアツカ**及び**ベズウブレーチスイ**等に漕ぎ來りて種々なる塵芥同様の品物を買はん事を請へり煙草は忽ち買ひ取られたり其煙草は甚だ高價なりき。病院船**アリヨル**は余が電報の(御身よりの)返電を齎らす可きか若し其の返電を得るを得ば余が満足は果して如何ばかりぞや**スワロフ**は石炭の積込みを爲せり艦内に到る處不潔亂雜極まれり士官室(集會室)の一部や士官の私室までも石炭を散亂せられたり。夜一時御身よりの返電を受けたり感謝に堪へず。

四月十六日 **カムラン**に提督座乗の佛國巡洋艦一隻來航せり禮砲の交換を爲し彼我提督は互に訪問を爲せり同巡洋艦は今日拔錨せり。余は昨夜は**カムチアツカ**の甲板の上なる腰掛けに坐して假睡みたり朝の七時に目醒めたり此數日の間余は食事や或は**ベズウブレーチヌイ**或は**カムチアツカ**に於て爲せり何れの艦も食物は**スワロフ**よりも遙に良好なり今まで食料品は甚だ困難にて陸上にては悉く皆な買

ひ盡したり始んど一物をも餘さざるなり鶏卵一箇二十八錢なり今日朝に陸上にて牛肉一斤は非常の高價なりき一頭の代價は何程に當る可きや。

カムラン灣の陸上の人口は歐洲人は只四人**マレイ**人は四十八居るに過ぎず全くの荒野にて家屋は僅々五六戸あるのみなり灣の一方の陸岸には鐵道敷設の技師の居宅あり其處には郵便電信局もあり通信技師は支那人なるが其執務の緩慢さ加減は驚くばかりなり昨日十二時より六時まで此技師は只二人の託信者より十二通程の書面と十通程の電報を受附けたるに過ぎず故に十二人の人々は書面を差立るを得ずして空しく歸りたり清國官吏は概して執務緩慢なり。**カムラン**の陸岸に石垣あり歐洲人の話に依れば其の内には古代の伽藍ありとの事なり陸岸には種々珍しき獸獵を爲すを得べし象虎猿猴を獵するを得べし今日**ドンスコイ**にて死亡したる一文官の葬儀ありたり陸上に葬りたり**ンエルケルザム**提督は卒中に罹れり然し醫師の言に依れば甚輕症なれば危険なしとの事なり。**マラツカ**海峽にて水兵が吊床を持ちて投身したる事を書きたる筈なり此の水兵は一汽船の爲に引揚げられ柴棍に連行かれて露國領事に引渡され領事より艦隊に送還せられたり彼は舷側より偶然に墜落したりと辯疏せり。病院船**アリヨル**の柴棍に入港したる際に同船に助力を爲なさんとて**ギンスブルグ**會社のカッター並に汽船等は**アリヨル**を迎へたる由**アリヨル**には公衆乗船を許さざりしとの事なり。

昨日の新聞に日本艦隊は我が艦隊を撃破し**アリヨル**は負傷者を以て充満せられ同船には公衆の來訪を許さざりしも負傷者苦悶の呻吟の聲を聞きたりとの報知出でたり斯くの如き虚報は徒に露國に於て不安の念を起さしむるのみなり柴棍には日本人甚多し一度この報知傳はるや彼等は大に憤激して翌日は

終日家を出でざる如き有様なりき。今日余は御身の爲に一筆をも取るを得ざる可きを恐れたり是れ書面を認めざりしは今日始めてなりき十二月の廿一日に喜望岬にて暴風に遭ひし時にも御身の爲に少しく筆を取りたり余は御身よりの電報を得て非常に満足せり最近に御身より電報を得たりしは一箇月半前なりき又書面は僅に一月差立ての分のみなりき。

（五十五） 艦内戦闘準備

四月十七日 今日信號を掲げて全艦隊の技師等を余が許に召集せり彼等と評議を遂げてナヒモフに出張せり同艦にて朝飯を喫しウオットカ並にビールなど二杯程飲み赤葡萄酒も少々飲みたり辭するの便なく止むを得ず飲みたるなりナヒモフにては艦内士官室の木造の隔離板壁を悉く撤したり是れ火災防禦の爲めなり故に今同艦内にては士官室を存せざるなり道具類も悉く取片附けられたり寢臥するの便に供す可き臺類なども同様に處分せり臥褥は甲板の上に横はり居るといふ有様なり之を要するに艦内は全く奇怪の感を引きしむる状態を呈するに至れり即ち艦内悉く戦闘準備を整へ到る處鏈鎖を以て防禦を施し其他水雷防禦の網石炭釜吊水兵の吊床等手當り次第に悉く防禦の用に供せられたり今各艦は平素見慣れたる外觀を全く一變するに至れり。ナヒモフよりメテオルに出張し後シロイにも出張せり汽艇若くはウエリポート（長艇）にて巡航せりベズウブレーチヌイには時間の足らざりし爲に遂に出張せざりき同艦の工事の進捗は如何にや明日は六時よりは是非共十隻の船艦に出張せざる可らず何れの艦に赴くも到る處にて珍しき事なきやを問はる可し同じ事を幾度も繰返すが如き事あり且つ艦隊には

種々の虚説を捏造して傳へり實に驚くに堪へたり。陸上の品物は悉く買取られたり此處に象三頭を賣らんとて牽き來れる者あり必要不必要を問はず何物も皆悉く買取りたるもマサカに象を買はんとするものはなかる可し。又左の如き話を耳にせり艦隊は何處に於ても爲替分を兌換するの便を有せざるを以て艦隊には全く現金の缺乏を告ぐるに至れりとの事なり故に金錢の拂ひを受けざる間は航海必需品をも賣渡さすと云へり然し此處にて支拂ふ金錢は些たる事なるも古郷へは送金するを得ざるなり。佛國巡洋艦は歸還して灣内に入り我が諸艦と相對して碇泊せり、今日中に日本に米二十八萬ブードを輸送する一汽船が當カムラン附近を通過す可しとの報ありたり我が提督は艦隊が中立港を以て巡洋艦偵察任務の根據地と爲したりとの非難を被る事を恐れて同船を拿捕せざる可し同船の船長は敢て自ら投降する事も辭せず又追跡を受くるも遁げ穩れもせざる可しとの説あり。浦鹽までの海路は約四千五百露里の航程なり若し此處より速かに拔錨出帆せずんば月の無き暗夜に航海せざる可らざるに至る可し是れ甚だ危険なり。

四月十八日 カムラン灣内の戦闘艦スワロフに在り今日は朝來終日船より船と各艦に巡航したるも余は別に疲勞をも感せず何れの艦に往きても攀上りては視察を遂げ或は爭論を爲せり今日巡訪したる船艦はベズウブレーチヌイ、カムチャツカ、オレーグ、アウロラ、ナワリーン、アリオール、ボロチノ、オスラビヤ、アレキサンダー等の諸艦なりオレーグにエンクウイスト提督が移乗する事となりたる爲め同艦員は憤激せりとの事なりアウロラの士官は獵に赴きたるも僅に鳩一羽を得たるに過ぎず彼等は勿論陸岸より遠くは赴かざりしとの事なり。

四月十九日 錨を抜きて外洋に出でたり戦闘艦全部とアウロラと出帆せり其他の諸艦は灣に止れり余は露西亞煙草の最後の一本を喫したり我が運送船の一部は柴棍に赴き再び歸航せざる可し此の事に就て如何なる報知を世に傳へらる可きやロイテル電報は左の通信を傳へたり(是れにてもロイテルは尙ほ信す可き報知を傳ふる分なり)其通信に曰く戦争ありて日本艦隊は我が驅逐艦フイヌイブレスチヤースチイ並に二隻の巡洋艦アウロラ、ドンスコイ等を撃沈せしめたりと是等諸艦の附近を航しなから斯の如き電報を讀むは如何に面白きぞや。未だ料理人を連來らざるも食卓は幾分か善くなれり柴棍より來航せる汽船より多くの食料品を得たり其中には「炭酸水」と銘うちたる日本の鑛泉もありたり此の鑛泉は最も多く我が艦隊に供給せられたり余も之を試みたるも敢て特別の鑛泉にもあらず、食料品は汽船より分配せられたり恰も餓えたる狼の食を得たるが如くなりき實に見るに堪へざる始末なりきアリヨールの水兵等は何かを入れたる箱を破り之を挽割りたり一人の水兵は何の爲にや鐵拳を振りあげて軍醫を打たんとしたるも軍醫は其難を免れたり二人の士官は一人の水兵と摺合ひ殆んと水兵を氣絶せしめたり水兵の顔は散々に壁かれたり何たる醜體ぞや佛國人は皆な是等の事を目撃せり彼等は如何に露國人の事を觀る可きや。食料品を積みたる汽船外にも一隻來泊せりギンスブルグ所有の汽船なり此の汽船は一箇月半前に浦鹽に在りしとの事なり船名はエワなり。

昨日佛國巡洋艦の將校等我諸艦を訪問せり我等は二時に灣内に歸航して直に食事を爲せり記録の草稿を終りたり是れ二回目の記録なり尙ほ此の上に記録を作らる可きや此の二部の記録に書きたる事果して何事ぞ皆な是れ破損挫折等の歴史に非ずや。日本の艦隊に就きては更に風聞だに耳にするを得ず日

本艦隊は戦はずに我が第三艦隊を此處に來らしむ可きかコルヤアコフ、ユヒテル、キユフ、キタイ等の諸船は既に柴棍に來りたりとの事なり是等の汽船は巡洋艦を以て護送せられたり是等の汽船は我艦隊に石炭を搬送し來れる者なるべし石炭は柴棍にも在り此の石炭は露國の者なるも佛國人は我に此の石炭を積取る事を許す可きか明日は又も船にて出張を要する用事ありて多くの船艦に赴かざる可らず今日スワロフの水兵一人水雷艇の推進機の下に墜落して推進機に太く打たれたり然し骨は折られざりしとの事なり。陸上には毎日毎夜火事(山火事)ありて夜間には中々に美觀なり歐洲人の談話に依れば陸岸には毎夜多くの象虎豹など徘徊し居るとの事なりこの地方は全く人家もなし獸類は非常に跋扈し人家近くまで來るを以て夜間には外出するも危険なり實に

佛領にて露艦隊の錨地



未開の地方といふ可し鐵道敷設の測量技師の談に依れば象は電柱に對して何故にや常に害を爲して斷えず電柱を掘かへして之を倒す由にて閉口し居るとの事なり。此の地方は中々に景色に富みたる地方なるも我が露國などの舟遊などよりは面白からず、余は今まで上陸せず大方今後も上陸せざる可し余は萬事に厭きたり或は斯の如き生活が永久に打續くに非ずやと感ぜらるゝ事もあり萬事に對して全く倦厭の情に堪へざる者あり徒然なる時日は非常に永く感ぜらるゝなり。

（五十六）カムラン灣の退去を迫らる

四月二十日 終日執務す今日は一日驅逐艦に日を送りたるも同様なりき一日の勞を終りたりと思ひ居りしにファイヌイに赴く事となりしは全く日暮れての後なりき今日はアリヨール水兵が士官に對して亂暴せる事件の審問ありたり若し眞面目に此水兵の行動を視來れば彼は死刑を免れざるなり柴棍に我運送船を護送せるクバン、テレック、ウラル等は歸航せり尙ほ若干の運送船を柴棍に送遣するの準備をなせり。旅順開城の情況が明白となるに従ひ佛國の諸新聞は益々露國人に對して輕侮の言を爲すに至れり彼等佛國人は我等露國人を稱して(臆病者)なりと言へり今度の戦争の全局の上に只僅に光榮のある一頁——旅順の防戦ありたるも今や是れさへも泥を塗られたり佛國の巡洋艦はカムラン灣に碇泊し居れり我艦隊がカムランを抜鑿せざる間は此處に止まり居る可し佛國巡洋艦の居るは日本艦隊の襲撃に對して我艦隊を保護するが爲なりとの事なり。嗟實に惡運なる戦争なる哉我等は外國人に對して實に面目なし敗衄に敗衄を重ね侮辱と輕侮の外に何の得る所もなし我が艦隊には其妻を浦鹽に移住せし

めんとの仕度を爲し居る將校甚だ多し浦鹽は如何に比較的近くなりしか我等は非常なる大航海を爲し今は僅に其一部を餘せるのみなり、此の殘餘の航程は速に航するを得べきか今我が艦隊は第三艦隊の來航を待ち居り日本艦隊は我等を邀撃する準備を爲せり日本艦隊の動靜に關しては我等は風聞だに得る能はず我等は今日日本艦隊は那邊に居るや其所在さへも知るを得ず然し日本艦隊の方にては必ず我が艦隊の一舉 動をも詳にし居るに相違なし嗚呼萬事が汚辱醜穢のみなり我等が自己の全戰鬪力を利用するを得ざる事を見らるゝ曉には其耻辱果して如何ぞや。

四月二十一日 今日は終日何處にも出張せざりき朝間は何もせずスワロフに居りたり佛國の一小汽船柴棍より來泊せり何かを各船に運送し來れるなり我が假裝巡洋艦は運送船を護送し行きての歸途に佛國の大汽船に邂逅したりしが同船には多くの露國人乗り居りたり是れ俘虜より放還せられし者なる可く彼等は露國人の服裝を爲し居れり彼等は帽を振りながら我が巡洋艦に對して萬歳を唱へたり。此處の氣候は驚くほど平順なり既に數旬に亘りて夜七時より朝九時或は十時まで毎日風なく其他の間内は風吹き錨地及び灣内には可なり波浪高し毎日順序正しく斯の如くなり。

朝飯の際に佛國の提督來訪せり全く不意の來訪にて其會見の間は朝食を中止せられたり同提督の來訪は或は是れ我等に此の灣を退去せん事を要求せんが爲の來訪に非ざるか實に其が爲めなりき佛國は我等にカムラン灣を放棄せん事を強硬に要求せり嗟斯くても佛國は我が同盟國にや、我が艦隊は六百露里を後方に退き其處にて第三艦隊を待つならんとの説あり後方に退却して自己の最後の地方より遠避かる如きは最も耻辱なり若し第三艦隊を待つことに決せられたりとせば何故に第三艦隊を待たずに

ノツシベを出帆したるにや若し第三艦隊を待つを欲せずば諸方のカムラン同様の地に時日を空費せず
に浦鹽に進む可きに非ずや我等は只だ日本人に最良の準備を爲すの餘裕を與ふるのみなり遂には第二
艦隊を待たずに進まざるを得ざる事となるやも知れず時日は空しく徒費せられ我戰鬥力は少しも加は
らざるなり其に反して日本の戰鬥力は最も善く集中せられ其海軍活動の區域は狭くなり従て愈々正確
ならんとす。今や第二第三艦隊は如何に危険なる位置に在るか何處に於て如何にして此兩艦隊は合せ
んとするか若し此の第三艦隊に無くんば我等は疾に浦鹽に在りしなる可し今提督は如何なる行動に
出でんとするか何處に赴かんとするか第三艦隊を如何せんとするか豫定の如くんば第三艦隊は僅にコ
ロンボを通過せるのみなり彼得堡より第三艦隊にスンダ海峽を通過す可しとの命令ありたり。

四月二十二日 佛國巡洋艦より一名の士官來りて我が提督に書面を傳へたり次で我艦隊は信號を掲
げて明日正午に抜錨する旨を報せり我等は或は浦鹽に航行す可きかは猶ほ不明なり明日は書面を差立
つるを得るか其望み甚だ尠なし兎に角に差立ての仕度を爲す可し。正午十二時に錨を揚げて外洋に出
でたり運送船とテルマーズとは灣内に残りたり運送船は獨逸汽船より石炭を積取れり艦隊に伴ひ出で
たる運送船はタンボーフとカムチャツカの二隻のみなり我が艦隊は運送船が獨逸汽船より全く石炭を
積取るまでカムラン灣附近に漂泊す可し其後に運送船は我等に合す可し然る後に我等は何處に向て行
く可きかは不明なり勿論我等は第三艦隊の來航を待つて無期限に海上に漂蕩し得ざるに非ず然し石炭
——石炭を如何せん石炭問題は活問題なり我が露國の石炭船二隻拿捕せられたり一隻は新嘉坡にて他
の一隻は柴棍にて拿捕せられたり（柴棍にて拿捕せられたるは佛國汽船なり御身は此の事を如何に思

はるかか）。通信はタンボーフに托したり船は艦隊に其貨物を轉載して柴棍に赴く可し若し日本人の爲
に拿捕せらるゝ事なくんば書面は露國に到着すべし。我艦隊には廿八日（八月十日）の戦争の時に即ち
ウイトゲフトが戦死し我が艦船は思ひくゝに遁逃するの恥辱を演じたる日にツイザレウイチに乗り居
りたる士官一人乗込み居れり同士官の言に依れば當時艦員の士氣は全く沮喪し居りて全員始めより只
旅順に歸航する事を豫想し居りたる由、又此の日の戦争に日本人も大に苦戦に陥りたる事なりしを以
て若し我諸艦にして尙ほ三十分間も健闘したりしならんには敵艦を敗走せしむるを得ざりしならんと
云へり、同士官の詳細なる談話に依れば我等が勝利を得る事は敢て難からざりしなり絶望の精神全艦
に滿ち居りしは何よりの禍ひなりきツエザレウイチは尠しも損害を受け居らざりき我が海軍に多くの
害毒を爲したるはウイーレンなる可し此の幾多の恥辱なる歴史は假令ひ今日曝露せられずとするも戦
後には明瞭になる可し。其時には多の豪傑中に官位を剝奪せらるゝ者も多かる可し一切の事實に徹す
れば若し勇敢にして有力なる指揮者だに在りしならんには旅順艦隊は容易に日本艦隊を撃破し得るに
相違なし。籌策を誤り戰鬥力を輕視せる事果して幾何ぞ此惡運なる不注意と誤想とは之を如何に説明
す可きやを識らざるなり之が爲めに高き價ひ——甚だ高き價ひを拂ひしなり、陸上に於ても妄愚を演
じたること果して幾何ぞ壯丁の生命を空しく失はしめたる者果して幾何ぞ之が爲めに露國の拂ひたる
價は果して幾何ぞ。天氣は靜穩なり諸艦は燈火を滅しながらカムラン灣附近に據りて甚だ徐々に進行
せり余は例に依りて長く艦橋に居りたり當地は間もなく梅雨の季節になり屢々大風ある可し其時には
驅逐艦の如き小艦は如何に之を操縦す可きや。

（五十七） 外洋に第三艦隊を待つ

四月二十三日 朝飯後にタンポーフに出張す可し同船は間もなく柴棍に赴く可し同處に於て此の書面を差立つ可し昨日オスラビヤに於て又も水兵の葬式ありたりタンポーフには旗手將校も來る可し然し彼等は殆ど病氣にて臥し居れり參謀官等は何かの毒にあてられて皆な殆んど病人となれり余は幸に壯健なるは感謝に堪へず。今日は奉神禮儀の執行ありたり「枝の主日なり」（譯者曰く枝の主日は基督復活祭の一週間前の日曜日にて基督教信徒は此の日曜日の祈禱に楊柳の枝を持ちて會堂に集る風習なり）時日を経過せる事果して幾何ぞ諸艦は終宵外洋に漂泊せり、夜は無事に明けたりイズムールドは朝に自艦の推進機に鍵鎖を纏絡せり潜水夫を下して働かしめたり諾威の國旗を揚げたる一汽船艦隊の側を通過せり之を臨檢したるも毫も疑はしき事を認めず同船は日本の方より來航せる者なるも日本には寄港せずとの事なり、今日臨檢を行ひたる諾威の汽船は最近の新聞を譲りくれたり皆英國刊行の新聞なり英國の諸印刷物は萬事に就きて緘黙を守り居るは實に驚く程なり而も英國人は日本を以て自國の同盟國と爲して日本の海軍の事に關しては一言も言及せざるなり然るに我艦隊の事に關しては凡そ通信の得らるゝ限りは何事にても總て之を掲載せり。斯の如き事を爲すは唯り英國の新聞のみに非ずして諸他の各國新聞も皆な同様なり日本の事に關して苟くも確實なる事ならんには彼等諸外國の新聞は勉めて之を隱蔽し日本にては今までに如何なる船艦を失ひたるかをも何人も之を正確に識れる者あらず唯り船艦のみに非ず今日に至るまで何人も日本が幾何の軍隊を出すを得べきかを知れる者あらず日本は約三十萬の軍隊を出すを得べしと想はれしが今や日本は既に約百萬の兵を出せり外國（英佛）の諸新聞は開戦以來の我が露軍の損害を算して約四十萬と爲せり果して然りとせばリネウイチの手中に残存する所果して幾何ぞ全く空乏にて僅々數萬に過ぎざるに非ずや今回の戦争の如くに恥辱なる事は他に之を想像するを得べきか此の戦争は斯くも不名譽に終極するに非ざるか。

四月二十四日 我艦隊の近傍に屢々多くの商船出沒するに至れり我が巡洋艦と驅逐艦とは是等の汽船を臨檢せり佛國の一汽船我が艦隊に全く接近し來り同船に乗り居る一佛人は我が提督に何事かを自ら提供せん事の希望を表白せり彼は只だ第三艦隊がコロンボを通過したる時日を報じ且滿洲には何も新しき事件無しとの事を述ぶるに過ぎずとの事を識りたり、我が諸艦は我が同盟者なる佛人の爲に放逐せられたるカムラン灣附近を徐々と往復して漂蕩せり、運送船は灣内に在りて荷を積み居れり外洋には波浪のうねりありて戦闘艦は軽く傾動せり一様平凡なる徒然なる時刻は如何にも永く感ぜらるゝなり往くも往くに非ず止るも止るに非ず且つ斯の如くにして將に第三艦隊の來航するまで漂蕩せんとなす今までは幸に無事なりき是れより時化は始る可し最初余は風雨針や風に少しも注意せざりしが今是等の事に趣味を感ずるに至れり夜間には艦隊の燈火を滅せり是寧ろ鹿馬げたる事なり或は密に明窓を鎖し或は士官室を眞暗にせざる可らざるなり若し明窓を鎖さんか室内の熱さは堪ふ可らず。浦鹽と此處の隔りは十二日乃至十五日の航程なり浦鹽は涼しく此處は熱し故に感冒の病氣多くなる可し况んや我が乗員の被服の不充分にて衣服は切れ破れ靴の如きは皆無なるに於てをや。佛國人は何等の新しき話を傳へず我等は新聞を得たり此の新聞に依りて見るに佛國にてはカムラン灣の事に就きて多くの議

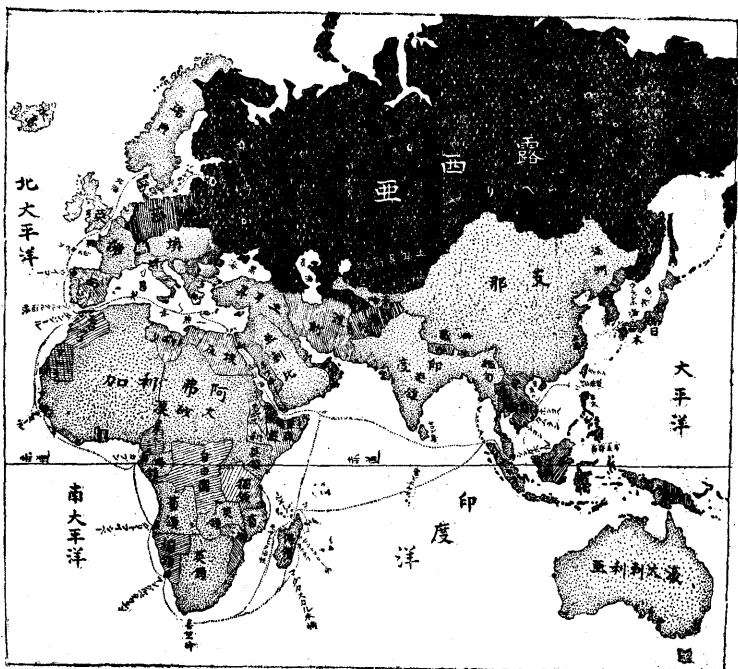
論あり佛國にては日本人を恐れ居るなりネボガトフ艦隊(第三)がコロンボ附近を通過したりとの通信は尙ほ疑はし同艦隊の航路は別航路なり。

(五十八) ホンコーへに碇泊

四月廿五日 時として凡ての人々が一度に騙さるゝ事あり昨日我がスワロフの人々は我が艦とアレキサンダー三世との間を一汽艇の通行するを認めたりアレキサンダーの方よりも此の汽艇を認めたり忽ち探海燈を照して其光りを疑はしき場處に指向けたるに只だ白き波浪と泡沫を観るのみなりき多くの人々は是れ探海燈に照されし時に海中に沈下したる潜水艇ならんと想像せり此の想像説を確むるに又左の如き話を以てせりイズムールトは潜水艇のビルスコップに(潜水艇の窓鏡にて艇體より水中に出て居り潜水したる際に前程に在る物を望見し得る所)類したるものを認めたりとの事なり。我等は二日を経なばカムランより何處かの他の灣に赴く可しとの説専らなり是れが爲には運送船に遺りある石炭や食料品を積取らざる可らずタンポーフは我等と伴ひ行く可し即ち郵便物は柴棍に持行かれざる可し我が艦隊の彼方に當りて運動し居る軍艦あるを認めたり是れ日本の艦隊に非ざるやを危ぶみ其の何船なるやを調ふる爲にオレーグを差遣せり。危惧警戒は徒勞なりき大方是れ佛國巡洋艦デカルトなる可し尙ほ外に今真直に我が艦隊に向て進行し來る一汽船あり我が艦隊は他の灣に入る可しとの問題は決定せられたり其の灣の名稱は余は記憶せず其灣はカムランより北方一露里に在り(露里は我が九町四十五間)同灣に入るは明日に非らずして明後日なる可し先づ其より先に我が運送船を處分せざる可らず我等はホンコーへに入

入る可し同灣は大方全く荒蕪未開の地なる可し然し是れ單に余が想像に過ぎず徒然退屈甚だしく家に歸り度し何時果して此の事に遭ふ可きや。

四月廿六日 ホンコーへに入る可し十時頃に信號兵は慄ひ聲に報告して曰く北方より我艦隊に向て進航し來れる軍艦あり其軍艦は露國の軍旗を掲げ且つ多くの信號を掲げ居れりと種々の想像説を爲せり然し忽ち事實は明かになり即ち佛國巡洋艦デカルト來航して同艦は我が艦隊に對して信號を爲せる者なり同艦が露國の軍旗を掲げたるは我等に對して信號を爲す者なる事を我等に識らしめんが爲めなりき。病院船一隻バタバアに來泊せりとの報知ありたり此の報知にはネボガトフの艦隊と共に來れるコストロマに就きて云々せりバタバアはスンダ海峽附近の嶋嶼なり此の電報は何を意味するものなるか此の電報は只だコストロマ一艦のみがスンダ海峽を通過し諸他の船艦はマラツカ海峽を通過せる事を意味する者に非ざるか或は又同電報はコストロマに引續きて全艦隊もタバアに來航せる事を意味する者に非ざるか若し第三艦隊がマラツカ海峽を通過せりとせば我が艦隊に合するは遠きに非ざる可し。是れよりホンコーへの錨地に赴く可し船艦の一部は既に灣内に入り始めたり佛國提督は我等に對して明に同情を表せり若し同提督の勧めならんには我等は何處にても其の欲する所に碇泊す可し同提督は多くの事に對して殊更に見ぬふりを爲せり然し佛國政府の態度は萬事に就きて之と異なる者あり若し佛國提督が我等に對して斯の如き同情を表せざりしならんか我等は如何に困難に陥りたるや知る可らず其一例を示せば佛國提督は我が艦隊がカムラン灣を出で、何處に赴くかを知り居るも彼は何も知らざる如き風を装ひ居れり斯く時として萬事が一個人の如何に關する事なきに非らず。愈々浦鹽



に接近せり我等は今まで約二萬八千五百露里を航し來り残る處は四千二百露里なり殆んど全航程の八分の七は先づ無事に終りたり諸艦は悉く投錨せりスワロフは獨逸汽船より石炭を積込めり此の獨逸汽船の乗員の一部は支那人なり其中には日本人も居るなる可シカムラン灣に食料品を運送し來りたる汽船タグマ一の乗員の中に二人の日本人を認めたる事を御身に告げたるや否やを忘却せり日本の偵察任務の組織は果して如何ぞや何處を視るも到る所に日本の間諜を見るに非らずや。間もなくネボガトフ艦隊に合す可し我等は萬事倦厭に堪ずネボガトフ艦隊と合せば他國の港灣に漂泊す可き何等の理由もなかる可し浦鹽附近の結氷は既に解けたりとの報ありたり故に若し日本に對して此機に乗じて妨害を與ふるに非ずんば日本人は浦鹽に對して海軍の行動を開

始す可し、若し浦鹽は陸上より遮斷せられありとせば日本に對して阻害を與へざる可らず然らざれば浦鹽は第二の旅順たるを免れず。復活祭には間もなし此處の船中には何等祝祭の仕度をも見ず矢張り何時もの如く飲食して生活し居るに過ぎずして何等の用意もなく到る處みな塵芥と石炭とのみなり談話も趣味も少しも祝祭の様子なし。

四月二十七日 各驅逐艦にては艦隊がカムランを出るや否や直に浦鹽に進行す可しと信じ居りし故に驅逐艦は何れも他の港灣に入る事を豫期せざりきカムラン灣に於て水兵一人遁亡せり斯かる荒蕪の地方に於て彼は如何にするにや又同灣に於てリオンの水兵一人豫め救助帶を携ひて海に投じたる者ありしも無事に海中より引揚げてリオンに渡されたり彼等は皆な何事を想ひ居るにや此の地の河岸は何れも斷崖絶壁にて風景絶佳なり陸岸に一村落あり小舟にて支那人來れり鶏家鴨バナナ南瓜など賣れり價は高し雞一羽一留餘を取れり南瓜の小さなもの一箇五十錢以上の價ひより引かざるなり石炭船にて支那人の食事を爲し居るを見たり彼等は米飯を何かの副食物と共に食せり竹箸にて甚だ巧に食せり辨髪を後頭より長く背に垂れ居る多くの人種を見るは奇異の感なき能はず。フェルケルザム提督は今日まで尙ほ恢復せず同提督は床に臥し居れり醫師は輕症なりとの説なりしも卒中は決して輕症に非ざる様子なり。余が私室には鼠甚だ多し昨日机に倚り居りたる際に鼠は余が足の邊りを駆けあるく程横行せり諸船よりスワロフに郵便物並に電報等を送り來れり露國に差立てんが爲めなり皆な何れも各船に返しやりたりジアンクにて食品を賣りに來れる支那人は日本にて作りたる三留の贗造銀貨を賣らんとせり。今晏然としてスワロフに居れり何等の仕事のある様子も見えず。南方より日本の爲めに貨物

を運搬する若干の汽船は日本に赴く事を拒絶せり其等船長の言に依れば乗組員は露國船艦の居る海上に來る事を欲せずとの事なり。艦長は乗組員に對しては少しも危険なる事なしとの理由を述べて水夫等を勧誘せり即ち危険は只汽船を拿捕せられて之を失ふのみなりと告げたるも水夫等は應ぜざりしとなり彼等を裁判に引き出したるも其處にて航行を欲せざる原因を明かにせられたり水夫等の辯明は左の如し露國の規則は若し疑はしき汽船を見れば直に砲撃して何人をも救助せざる規則なり露國人は獨逸海に於て既に斯の如き行動を爲せり我等は敢て此の冒險を爲すを欲せずとの事なり然し不幸にして露國は斯の如き斷然たる行動を爲さゞりき左れど例の北海事件は兎に角に大なる利益を爲せり。米國より日本に禁制品を自由に輸入するの道あるも今や確たる見込の無き限は(南方より日本に)禁制品を輸送する商船は我が艦隊の所在地方には來らざるなり日本は永く石炭の缺乏を告げざる様に保證せられありとの風説あり浦鹽に輸送する多量の石炭は日本の爲に奪取せられたり近頃まで浦鹽に在りたる一汽船エワの船長の言に依れば浦鹽にては食料品の缺乏を感せず寸燐は缺乏し居るとの事なり是れ甚だ奇怪なり或は船長の捏造説に非ざるか又同船長はネポガトフ艦隊が既に新嘉坡を通過したりとの電報を自身に讀みたりといへり若し之をして眞ならしめば我等は間も無く同艦隊に合するを得べし。

(五十九) 露國式の冒險と大祭當夜

四月二十八日 鼠の跋扈は實に非常なり今夜余は鼠に足を噛まれたり大に退治せざる可らず今其に取りかゝる可し。無線電信班にては電信を感じ始めたり然し其感じは甚だ不定なり或る人々は此

電信の符牒を總合して是れ或は(第三艦隊と共に來航せる)ニコライの發電に非ずやと解せり兎に角にネポガトフ艦隊の來否を確むる爲に外洋に巡洋艦を差遣す可しネポガトフ艦隊と共に郵便物も來着す可し。ポロヂノ報告して曰く同艦の無線電信班に於て電流を感じたりと又シロイの士官來りて同艦に於て甚だ明確なる電信を感受し其の電信はニコライがスワロフに對して其所在を問ひたる者なりと實際にニコライの發電せる者なる可し兎に角間もなく明瞭になる可し若しネポガトフ艦隊來會せば同艦隊の諸艦に臨險し且つ石炭を積取り然る後に浦鹽に赴く可し今やスワフ其他の諸艦の來航を待たざる可し大方これらの諸艦は未だ露國を出帆せざるものなる可し。我が艦隊の所在を知らしめざるが爲め今日まで此處より郵便電信を發する事を禁せられたりニコライの電信の事は明かになれり佛國の二隻の某汽船が互に無線電信にて話したる者の由忽ち其事に關する風説は止みたり。軍刀を有せざるは甚だ不便なり軍刀を佩ぶるの必要ある時は他人の物を借用せり(軍刀を海中に落して以來今日始て其必要を感じたり之を用ふる事の稀なるは尙ほ宜し)我等は萬事特別なり皆な全く露國式なりホンコーへ灣に入りて投錨せり灣の入口には哨艦を配備せり艦隊は灣内を偵察せざるなり今日俄然灣内より出帆の運動を始めたる汽船あるを認めたり何汽船にて何處より來れるものや又何を爲さんとするにや非常に危懼の念を起さしめたり然し是れ既に四日前より此處に碇泊し居りたる佛國汽船なる事を識りて大に安心せり御身は如何に是等の事を面白く感せらるゝか。ホンコーへの灣内は實に廣く灣内には多くの入江あり然し兎に角に餘り便利なる灣に非ず日本の水雷艇は豫め隠れ居りて我等の豫想せざる方面より我が艦隊を夜間に襲撃する如き事あらざるか。日本人は固より之を爲し得ざるに非らず若

し日本人は我等が豫め灣内を偵察せざる事と我等が此處に入る事を知りたらんには彼等は襲撃を爲したるに相違なし然し我等には屢々僥倖なる事あり「猿猴」と「放慢主義」の戦争なりとの言は眞實なり。病院船アリヨルにコステンコの病氣見舞に赴かざる可らず余は此の汽船を好まざるなり航海中に余は只だ一度この汽船を訪ひたるのみにて其も止むを得ざる用事の爲めなりき此の汽船に對して斯の如き感じを爲し居るは余一人のみに非ず多くの人々は同船に對して一種の悪感を懷き居れり汽船エワは間もなく柴棍に赴く可し同船に通信を託する事を許可せらる可し。今日は室内は涼し僅に列氏二十五度なり樂に座して執務せり余の考にてはネボガトフはホンコーへに五月の二日若くは六日に來航す可し若し六日に來るとせばネボガトフ艦隊が浦鹽に出發する前に其破損を修繕するが爲に若干日を要す可し何時同艦隊は投加するとも尠なくも五月下旬に非ざれば浦鹽に到着するを得ざる可し是れも良好なる事情の際の事なり。

四月二十九日 今日早朝より驅逐艦ボードルイに出張せり途中より同艦の艦長の乗りたる端艇をスワロフより病院船アリヨルまで曳船を爲せり暫時ボードルイに居りて直にオレーグに赴き同艦に一時迄居りたり朝食を饗せられたるも生憎に精進料理なりき。オレーグ滑稽見世物師たりし水兵ありて彼は犬を飼訓し種々の面白き藝を爲せり又同艦には火の王と綽號せられたる料理人の助手あり彼は燃え居る麻屑を食へり同艦には音楽者俳優など甚だ多し實に愉快なる船なり將校等は互に親睦して生活し居る様に見うけたりネボガトフは廿六日にマラツカ海峽のビーナン附近に在りし事を報知せる通信員の電報に依れば日本艦隊は四月廿日に馬山浦に在りたりとの事なり。旗艦の航海長並に艦長と共に

暫時小言を(洗濯の事に)いへり實に奇觀なり艦長が上衣を着せずに司令塔に居るといふ有様なり此の方は寧ろ宜しと言へり士官集會室は綠葉を以て飾りたり陸上より種々の蔓草や木の枝を持來りたるも裝飾は固より充分ならざるは遺憾なり然し兎に角に鶏卵だけは赤く染めた繪工はなかりき麩包焼はクリーチ(クリーチは復活祭の供物にする圓形のパンにて紅卵も同じく供物並に祝祭の食物なり)を焼きたり牛乳製のパスハは(同じく乾酪の供物)は勿論なし提督の食卓の御馳走も同様なる可し。此處に在る支那船は皆な船首に白粉にて何かの肖像を畫けり其の繪は目を畫き形どりたるものなる可し是れ小舟の行く方向を示すが爲に畫く者なるべし。柴棍に赴きたる我が運送船は同船がラデッサまで航するに足るだけの石炭の數量を積取る事を許さる可し若し各運送船が爲し得るなれば出來得るだけ全艙に石炭を積込み得るは勿論なり積取る事を許されさへすれば分量は何時も勝利を得るなりウイゴーにて各艦に僅々四百噸宛を積取る事を許されたるも諸艦は皆な八百噸以上宛を取りたり通信員の電報を公にせられたるは出帆以來今日始めてなり。イルトイシにては艦長も上席大尉も亦副艦長も非常に飲酒家にて始んど終日酔仆れ居るなり日々野蠻極れる事を演じ居れり運送船は壓制と暗黒なる状態を以て満ち居れり全員悉く不平なり此の結果は不良なる可し廿一日と云日(露曆の八日)は我が艦隊の運命に取りて大に關係ある日なる様に思はるなり戦争も此日にある可し諸艦に名刺を配布したる鄭重なる人あり(復活祭の祝賀の爲に)今日の如き事情の場合に迄も斯の如き事を爲せり十一時四十五分より早課の祈禱始めたり(基督の復活祭の祈禱は夜の十二時より行はる、慣例なり)聖體禮儀は執行せず人々皆な古郷の復活祭の光景を追想せり

四月卅日

基督復活! (復活祭の最も喜ばしき挨拶) 今日常よりも遅く起きたり旗を掲ぐるも遅かりき

未だ私室より出でず。我等は復活祭を迎へたり大祭の祈禱の際には士官並に乗員の半數は裝彈せる大砲の側に在りて離れざりき祈禱所燈火の外部に漏れざる様に周圍を嚴密に圍ひたり故に非常に息苦しかりき祈禱は可なり嚴かに行はれたり皆な白き服を着け祈禱所の聖障（聖像を掛けある板壁）も白色に塗り可祭の祭服も同じく白色なりき祈禱所は悉く熱帶地方の植物にて豊かに裝飾せられたり皆な綠樹綠葉にて覆はれ花輪を天井より吊りたり祈禱所は種々の裝飾を施されし爲に甚だ低く見え恰も穴藏の如くなりき朝飯の後に精進明けの馳走あり食卓の上は随分立派なりき。露國にては我が艦隊に正か此のホ
ンコエ灣に於て復活大祭を迎たる可しとは何人も識らざるべし夜の六時より艦内の生活は平常に復され食料品石炭等の積込みを始め又も艦内は不潔になれり之を要するに萬事は従前の通りになれり過ぎにし復活祭を廻想せんか是れさへ不規則に迎え其準備も僅に二日前より始めたるに過ぎず今日はポロチノ或はオレーグにも出張するやも知れず。昨日ポロチノの積載水雷艇は警戒任務に出で漁夫の乗り居る三隻の支那船に遭ひたり水雷艇は此の支那船に臨檢したるに一人の支那人は甚だ疑はしく彼は日本人ならんと思はれたり其者を水雷艇に捕へ來りたるに隙を窺つて海中に投じて潜り忽ち岸に泳ぎ附きて遁れたり其支那船の中には書類ありたるも其は只だホンコーへ灣に於て漁魚を許可せられたるものなりき此の許可書は支那文にて書きたり。余が身體に熱帶地方の麻疹を發したり甚だ不潔なり每晚余は食後に前艦橋にゆきて休息せり今日も其處にゆきて艦長と談話せり艦長は輕便なりとて上衣も着ず跣足にて居りたり涼船エワは間もなく柴棍に赴く可しとの事なり郵便を差立るを得べしタンボーフに託したる書面は今尙ほ此の涼船の中に在るは甚だ遺憾なり若しタンボーフが其郵便物を自ら浦鹽迄

持行く如き事あらんには何も言ふの必要なし是れ寧ろ我が露國風の順序なり人々は皆書面は既に久しき以前に柴棍に送られたりと信じ居るに非ずや。ネボカトフ艦隊を待ち居られざる可し同艦隊の事は只だ風説に過ぎざる可し或は同艦隊來航せば我等は直に我が目的地に向け進來す可し辛うじて浦鹽に到着したる上の生活は果して如何なる可きや。

（六十） 佛提督中立違反

五月一日 有名なる徐家滙の氣象臺（上海近傍）は今支那海に襲來せる大風の警報を傳へたり我等は此大風に會す可きか當地方には屢々此大風ありて其度數は四季の變化に關係あり我が驅逐艦は此大風の爲に浦鹽迄無事に到着せらるゝや否や危険なり、若し我等は朝鮮海峽に到らば同海峽に於て大方日本の驅逐艦及び潜航艇に會するを免れざる可し、若し我が船艦が同海峽通過の際に（彼の獨逸海に在りし際の如く）多少荒れ居る方却て宜しかる可し何んとなれば海上の時化居る際には驅逐艦や潜航艇は我等を襲撃するに困難なる可きを以てなり。近頃は空氣濕潤して甚だ息苦しく感せり余の煙草も濕りたり（佛國製の）煙草を經濟の爲に之を二様に區別せり余が從卒ゴロフコは昨日士官室よりブランの壘を詐取して之を飲みたる事發覺して是が爲に旗艦の從卒を附せらる可し甚だ遺憾なり余もゴロフコに慣れ彼も余が習慣を覺えたりしなるオビームの含まれ居る煙草を喫し今睡くなれりネボガトフは諸艦を率ゐて間もなく來航す可し艦隊は前途に進む可し時刻を考ふればネボガトフは明日頃到着す可しか同艦隊は郵便物を持ち來らざるか我が露國の事なれば何んとも識れず。

五月二日　ネボカトフは二十六日に非ずして二十八日に彼南を通過したりとの電報ありたり若し之を確實なりとせばネボガトフ艦隊の來着は今日に非ずして四日なる可し朝に驅逐艦クロームキイ、ベスウフレーチヌイ、ポードルイの諸艦に赴きたり旗艦の潜水技師を訪ふ爲にスウエトランに赴かんとて仕度を爲したるも彼の方よりスワロフに來訪せりスワロフの多くの人々は其書面を露國に差立つる爲に託したり余も然かす可し。戦闘艦アリヨールに牝牛の事よりして騷擾起りたり何人の仕業にや牝牛の足を折たる者ありしかば此の牛を屠りて肉は乗員の食に與へたり然るに乗員等は斃死したる牛の肉を食はしめたりとの流言を爲せしかば忽ち騷動を起したるなり今日其が爲に提督自身に今朝アリヨールに出張せり同艦に於ては電雷の襲來を一時に被ぶりたる如く艦長も將校も乗員も皆な其襲撃を受けたり、アリヨールの乗員は實に醜穢なる人物のみにて水兵中には罰金の處分を受けたる者甚だ多し、余が嘗て御身に告げてアリヨールの乗員は水兵に非ずして囚徒なりといへるを御身は記憶せるなる可し、戦闘艦アリヨールに就きて同艦の沈没並に二箇の機關を破壊せんと試みたる者ある事を記憶せり乗員の放縱に關しては多くは艦長の責任なり同艦の艦長は何故にや乗員の斯の如き行爲を傍觀し却て若し士官の中に規律を嚴肅にせんとする者あれば其士官を迫害するが如き風あり規律などは勿論只だの秩序さへも存せざるなり。明日當地に佛國軍艦來航す可しとの報知あり是れに依りて儀式的に左の如き滑稽劇を演ず可しとの事なり即ち各戦闘艦とオレーグ、アウロラの二艦は朝の六時三十分に出帆して外洋に出航す可し運送船と其他の艦船は出帆の状態を裝うて運動す可し是等の艦船は實際の處出帆するに非ずしてネボガトフ艦隊の諸艦の爲めに或順序の位置を残して只だ其碇泊の位置を變更するに過ぎず嗟是れ皆な局外中立と國際公法の滑稽劇に非ずして何ぞや、我等は戰地に接近して中立國の海上に碇泊し居る事既に半箇月に非ずや若し大風襲來の虞なくんば諸艦は皆なホンコーへを出帆す可し、御身に此の書面が接着するは必ず我が艦隊の浦鹽に到着する頃なる可し若し此の書面が日本人の手に落つるが如き事ありては甚だ遺憾なり此の書面はエワに非ずして(エワの艦長は信用するを得ず)タンポーフに託して差立つ可し戰爭の狀を自ら想像するに砲戦は左まで恐るゝに足す砲戦は水雷攻撃程に滅亡的に非ざるが如し砲弾は戦闘艦や巡洋艦を撃沈するを得ず然し水雷は命中さへすれば容易に撃沈するを得べし。錨を揚げて外洋に出でたりホンコーへを出る際に佛國巡洋艦に邂逅せり互に禮砲を交換せり佛國巡洋艦は無線電信を發して同艦には我等に送達せらる可き郵便物を搭載し居るを以て其郵便物は灣内に残り居るアルマースロ傳ふ可しとの事を報せり佛國巡洋艦は灣内に入り我が諸艦は僅に同艦を離れて機關の運轉を停止して漂泊せり、巡洋艦キシアンは灣内より出で我等は其處に入る可し實に滑稽なり然り我等の利益の爲に演せらるゝ此の滑稽は是れ實に佛國提督の厚意にて演せらるゝ滑稽なり若し同提督にして在らざりしならんには佛國政府は甚だ無造作に我等を放逐せるなる可く萬事は茲に窮せしなる可し。

(六十一) 朝鮮海峽の豫想と疑心暗鬼

五月三日　佛國巡洋艦は灣内を出でたり然し我等は一夜を外洋に送れりネボガトフ艦隊の事は更に報知なし實に奇怪なり豫定の如くんば同艦隊は既に新嘉坡を通過したるに相違なく勿論其報知もある

可き筈なり。我が提督はネボガトフ艦隊が我が艦隊に合する前に日本人の爲に撃沈せらる可きを確信し居れり或は撃沈迄には到らずとするも損害は免れざる可し斯の如くならんには、其等の諸艦を修繕せざるを得ざるを以て浦鹽發向は従つて無期限に延期せらる可しネボガトフ艦隊と合したる後は浦鹽に到着するまでは露西亞との交通は茲に全く斷絶するならんと想はるゝなり今は假令公報のみなりとも彼得堡より電報を受け居れりネボガトフ艦隊に合したる後には是も斷絶す可し。ネボガトフ艦隊は既にスタタ海峡を通過せるに非ざるかネボガトフは左の如き行爲を爲し得べきなり、即ちネボガトフはトラツカ海峡に到着して諸人をして同艦隊が新嘉坡の沖を通過するものと信せしめ茲に於て忽ち其航路を一轉してスタタ海峡に廻るの一事是れなり。或はネボガトフはマラツカ海峡を通過するとすれば日中に航進す可く夜間には燈火を滅して陸岸近く投錨して碇泊す可きなり斯の如くにせばネボガトフは海峡通過の爲に多くの時間を要するや勿論なり若し兩艦隊は合する事を得るとせば朝鮮海峡に到着せざる前には戦争を期待する事難かる可し（然し水雷攻撃は別として）是れも勿論若し朝鮮海峡に到着する事としての事なり日本人に取りては其自己の港灣を遠く離れて艦隊戦を爲すは不便なり我等に取りては何處も同様なり浦鹽近傍にも我が港灣は無し。

五月四日 十一時頃に信號の砲聲の音を聞きしかば上衣を着して甲板上に出でたり艦内到着の處に人々駈け廻りて戦闘の際に彼等の居る可き各位置を定め置かんとて急ぎ居れり其處此處に「一發か二發か」との問ひを聞きたり是れ號砲の事を問へるなり一發の信號砲は全艦隊の戦闘演習の警報にて二發は敵艦近附き將に實戦あらんとするの警報なり、今の號砲は一發なりき夜間の警戒は我れ等には甚だ稀にて人々は是に慣れざるなり各艦皆な探海燈を照らせり。

五月四日 朝八時我が艦隊は灣に入りたり驅逐艦は電報を待ちて明日來る可し若し第三艦隊自らホンコーへに來着せずんは同艦隊に就きて明日は其消息を得らる可しと思はるゝなり、書面差立の爲には獨逸石炭船に托すより他に致方なし我等は助け手の無き小兒も同様にて手に郵便物を握り居りても如何ともす可からず斯の如き怠慢と放縱とが如何に人々を激せしめ居るかは御身の想像し得ざる所なり、若し何事も爲すを得ずんは人々は皆な是に慣るゝなり何等の困難もなく爲し得る事にて何人も之を慮らざるなり。汽船エウに出張せざる可らず同船に於て何か破損せりとの事なり或はホンコーへを放棄して少しく北方に移るやも知れず然し是れまた想像に過ぎず。驅逐艦アラウイに書面を託するを得たり同艦は明日郵便物の爲に出帆す可し余若し幕僚中に在らざりしならんには書面を差立るを得ざりしなり今日はグロームキイ、オレーグ、アナドイリ、エウ等の諸艦に出張せり。汽船エウは佛國旗を掲げずに獨逸國旗を掲げ可れりエウは非常に不潔なる汽船なり從卒ゴロフコは他艦に移されたり彼は余の許に來りて涙を流さんばかりに證明を與へられん事を請へり余は勿論之を與へざりき。

五月五日 今日終日御身の爲に書面を認むる寸暇をも得ざりき朝に諸艦に出張しイルトイシにも赴きたり同艦の艦内の空氣は非常に不潔なりイルトイシの副艦長は艦長に對して何か暴言を吐きたる爲に特別委員の裁判に附されたり裁判は七日に開かる可し獨逸の石炭船子ウミウミユールンに出張せり同汽船の船長は勿論露西亞語には少しも通せず佛語には極めて小々通せり兎に角に必要な事だけは話したり驅逐艦グロムスキイに於て朝飯の馳走になりたり同艦の舵は大洋に於て修繕したるもの

なれば潜水夫をして之を實視せしめんとしたるも舵は大丈夫なりとの事なり甚だ危険なり若し舵を脱落したらんには驅逐艦は如何とす可らざる可し且敵は間近になれり四時にスワロフに歸航せりファイストルイの艦長は書面を遣はして出張を請へり同艦に何か面白からざる事ありと見えたり今日はファイストルイに出張するを得ざるを以て若し能ふ可くんば明日同艦に出張す可し。ローランドは近傍の或る灣に赴きたり若し我等も今の碇泊地より放逐せらるゝ時は其灣に入るを得べし子ボガトフ艦隊の事に關しては何等の消息も無し同艦隊は何處に隠れたるにや諸汽船さへも同艦隊に邂逅したりとの偶然の報知さへも傳へず。余がグロムスキイに赴き居りし際に同艦に支那船一隻來りたり其船に二人の安南人と三人の少年乗り居れり其少年は一列に並べられ合掌して伏拜し居れり是れ何を爲す者なるやを問ひたるに彼等安南人は少年を賣らんとする者なりと云へり少年自ら之を欲するに非ざる可きも小供を賣るは疑ふ可らざる事實なり小供の賣買は當地にて五フラン乃至十フラン位にて小豚の價ひよりも甚だ廉價なりとの事なり故に小供を買ひ取りて之を奴婢と爲すを得べきなり然し斯の如き事を爲すは何時も惘然なる始末を來し小供は拒みて離す事々に困難なりと云へり。我が艦の艦長に驅逐艦に於て見聞したる事を話したるに同艦長は何を誤り聞きしにや余は其小供を買ひ取る事を欲せる者と思ひ込み余に對して小供を買ひ取る事を思ひ止まる可しとて極力勸告せり余は決して買ひ取るの心なきを辯じて辛うじて艦長の疑念を晴せり余が家に歸る時に小供或は十二歳の清國少年を伴ひ行くも亦一興ならずや。甚だ疑訝に堪へざる事ありたり今日ボードルイの艦長が會見したる佛國海軍の提督は佛國軍艦の運動と所在地に關して甚だ詳密なる談話を爲したるも此ホンコーへ近傍に碇泊し居るに相違な

き驅逐艦の事に關しては一言も談せざりしとのことなり。今日ウラルと共に哨艦の任務に在りしドンスコイは二時頃に北方を指して駛走する二隻の驅逐艦を望見せり其驅逐艦は量初旗を掲げ居らざりしが後に佛國の國旗を掲げたりドンスコイは其にて安心し敢て其驅逐艦に近寄るの勞を爲さざりしとの事なり勿論その驅逐艦は何等の妨げを受くる事なく駛走し去りたり我が提督始の其他の人々も皆な此の驅逐艦は日本の驅逐艦に相違なしと確信せり。

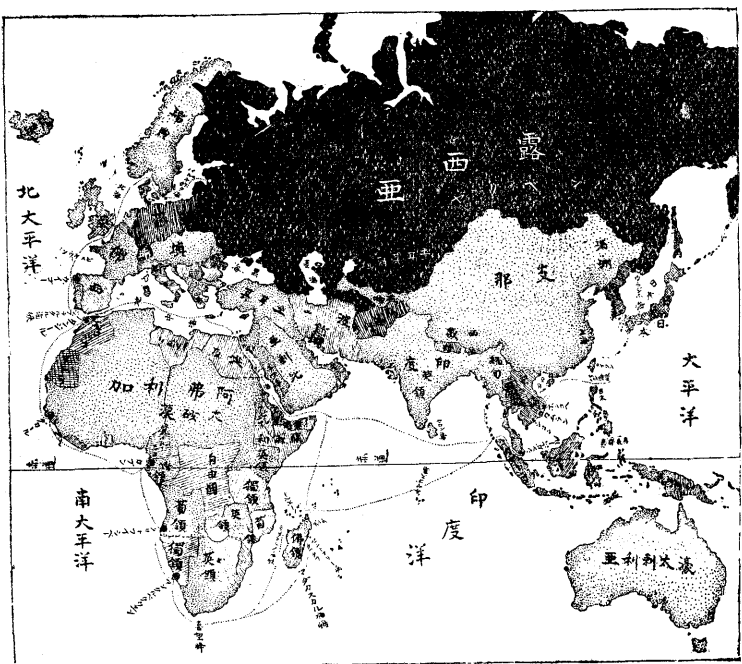
今夜今陸岸の方に沿うて外洋の方より時々探海燈の射光を自撃す軍艦の探海燈なるは勿論なりドンスコイは只だ火光を自撃すとの事を報告せり是れ何れの火光にや或はウラルの射光にや若し然りとせば何故に斯くするにやウラルは何故に全く沈黙し居るにや甚だ解し難き次第なり日中に二隻の驅逐艦の現出と合せ考ふればウラルの探海燈なりとするも此の火光は甚だ怪訝に堪へざるなり若しウラルの探照なりとせば是れ同艦が何等か疑しき者を認めたるに非ざるか全艦隊に警戒の命令を與へられたり、ドンスコイが後れて佛國旗を上げたる驅逐艦に近寄りさへすれば事實は初めより明かなるを得べかりしなり若し其驅逐艦が果して日本の驅逐艦なりしならんには國旗を望見して安心し去りたる我が驅逐艦の馬鹿さ加減を如何に嘲笑したるや知る可らず自ら欲する所の國旗を揚ぐるは左まで難き事に非ざるなり何ぞ愚鈍の甚だしきや。

（六十二） 哨艦の無責任ホンコーへ撤退

五月六日

昨夜は一時頃まで船の上を散歩せり室内は非常に蒸し熱かりき遂に艦尾甲板の長椅子の

シ海峡通過の航路を示したるもの



上に一睡せり。五時に目を醒したり枕をせず
に臥したりしかば寢ても寢心地悪く頭を動か
すに頸さへ痛かりき今日は陛下の命名日にて
感謝の祈禱あり各艦より禮砲を發したり此時
軍艦の附近に多くの支那船ありて其れに安南
人乗れり大砲の發射始りし時に彼等は非常に
驚き狼狽して遁逃する様は實に觀物なりき。
朝に驅逐艦に出張せり。漸次凡ての事に簡便
なる事を覺えたり紙巻煙草を捲く爲に煙草を
封筒に入れ置く様になりたり是れ巻煙草入れ
に入れ置くよりも甚だ便利なりネボカトフ艦
隊は未だ來航せず同艦隊の消息だに無しネボ
カトフ艦隊は果して來航するや否や若し來航
するとせば日本人の襲撃に遇はざるや否や等
の賭と談論とは艦内何處にも盛んなり。アウ
ロラの將校等はネボカトフ艦隊の來否如何に
關して賭博を爲せり。余は左の事に關して心

配せり浦鹽の船渠は僅に幅七十五フット（一フットは我が一尺強）以下の船より外入渠するを得ざる可しと
思はるゝなり果して然るや否やは正確に識るを得ず我が新戰艦（スワロフ、アレキサンダー、ボル
チノ、アリヨール等）は皆七十六フットの幅を有せり若し果して斯の如しとせば是等諸艦の修繕を要
する場合にも入渠せしむるを得ざるなり浦鹽船渠の幅員其他の寸尺は何故にや秘密に附され海軍省の
參考書にも記載せず願くは余が此心配は杞憂に過ぎざらんことを。哨艦の任務に在りし當番の巡洋艦
は我が艦隊の方向を指して共に運動せる三隻の船舶を認むとの報告を爲せり同哨艦に對して急速に全
速力を出すを得るの準備を爲す可しとの命令を與へられたり。

五月七日 灣の近傍に於て何の火光にや終始火光の閃々たるを認めたり哨艦任務に在る巡洋艦は何
事にや解し難き報告を爲せり我等は是等諸艦に信賴するを得べきか是等諸艦中より一艦長の事に就き
て左の如き談を聞きたり即ち其艦長は自艦の武装を解く事の自己の希望を敢て隠さんともせず此武装
を解く事の想像さへも爲し居るの事なり、旗艦の耳目となりて働く可き哨艦が全く當然に爲す可き行
動を爲さざるなり其一例に示せば同哨艦は陸岸より三哩の地點に在る可きを命せられ居るに三十哩も
沖に出で居るなり同哨艦の艦長に取りては我が艦隊の進航は何等かの仇敵視す可き行動の如くに感せ
らるゝ者なる可し。彼等は何故にや今度の戦争の時に四隻の新戰艦の中よりアレキサンダー三世は
滅亡す可しとの事を信じ居れり。

五月七日 遂にネボガトフの報告に接したり今日郵便局の所在地なるナトランに赴きたり驅逐艦は
第三艦隊が五日の朝四時に新嘉坡の沖を通過せりとの電報を持來れり第三艦隊は十日には我が艦隊に

合す可し同艦隊は凡て無事なるが如し然るに同艦隊は殆んど一週間何處に漂泊し居りたるにやビーナ
ンより新嘉坡までは航程三日路に過ぎず兎に角に間もなく此處に到着す可し或は二十一日といふ余が
豫想的中するやも識れず余は先きに二十一日といふ日は我が艦隊の運命に取りて大に縁因のある日
なりと想はるゝ事を御身に告げたるや否やを記憶せず。我等に對して同情を表し居る佛國海軍提督ジ
アンキエルは我が提督に旅順の事とステツセルの事を題にしてものしたる詩を贈れり。

第三艦隊は如何なる状態にて此處に到着するにや同艦隊は何等の新聞を我等に傳ふるか多くの郵便物
を搭載せるにや何日發の郵便物にや同艦隊より煙草類を多く得らる可きか同艦隊は我等よりも殆んど
四箇月も後れて露國を出帆せり同艦隊の出帆したる頃に我等はノーシペーに碇泊し居りたり、滿洲よ
りは更に全く何等の通信をも得ず滿洲には何事を爲し居るにや。佛國提督ジアンキエルは巡洋艦ギン
アンに座乗して我が艦隊にホーンコーへを撤退す可き事を交渉する爲に來航せり大方明後日は數日前に
豫めローランドをして視察せしめたる灣に赴く可しギシアンは既に出帆せり同艦には感冒病者甚だ多
し是が爲に何人に對しても樂隊も音楽を奏せず種々なる談判の爲に午餐甚だ遅くなりたり明日早朝に
ゼムチユグ、イズムールド、ドチブル及びリオンの諸艦は第三艦隊を迎ふる爲めに出帆す可し。補
助巡洋艦の艦長の一人は佛國軍艦の接近し來れる事を報告し且つ同艦長は愚の至りにも佛國軍艦を臨
檢する事を命せられざる可きかを問へり物好きにも程こそあれ彼は軍艦を臨檢して如何にせんとする
か然し是に類したる滑稽甚だ多しと識る可し斯の如き亂暴に少しも注意せざる事さへ屢々あり。

五月八日 明日ホーンコーへを出帆す可しとの事なりオスラビヤに勤務せる將校ケデオフは病院船

アリヨルに於て死亡せり明日同人の水葬ある可し。余は旅順艦隊の人員の状態と彼等の士氣と秩序
とに關して詳細の事を識れば識る程同艦隊の滅亡は寧ろ當然なりと思ひ益々其滅亡を驚き悲むの心を
減せり、勿論船艦は甚だ残念なる事をせり、日本の海軍も亦幾多の大なる誤謬を爲せり柴棍より汽船
エリダンは佛國旗を掲げ種々の物資を搭載して來泊せり余は同船より御身の書面を得たりギンスブル
グが柴棍に在る其兄弟メツス（ギンスブルグの木姓はメツスなり）に宛てて送り呉れしものなり郵書
は甚だ尠かりき幕僚中にて書面を得たるは余一人のみなり余の満足果して如何ばかりぞや今日は實
に幸福なる日なりき、御身に書面を認めんとて座したるに旗艦の副艦長某氏來訪して同氏は卷煙草四
千本を得たれば一千本を讓る可しといはれたり露西亞煙草なり是れも同氏にメツスより送りしものな
り今余は煙草に不自由なきに至れり。エリダンの來泊したるは朝十時半なり余は安閑として何もせ
ずに坐し居りたり艦尾の甲板の上に居りたるに突然水兵來りて余に一通の書を與へたり余は惘然たり
き全く不意の出來事にて實に無限の喜びなり特に僅か一箇月前に認められたる通信を得たる事なれば
余が喜びは一層大なりき此時余が室に旗艦の潜水技師なる士官用事の爲めに來訪したるも余は彼に對
して何事を談じたるか今殆んど記憶せざる程なり然し何事かを談じて用事を使せしなり。エリダンに
て艦隊に大佐ボルリス來着せり同大佐は今日まで我が秘密通信員としてバタビヤに在りし人なり又旅
順陥落の數日前に驅逐艦にて旅順を脱出せる大尉某も來着せり彼等二人共艦隊に止る可しボルリス大
佐はアレキサンターに乗込ましめらる可しエリダンは今日出帆す可しとの事なるが此書面を同船にて
差立る事を得ば甚だ幸ひなり。

（六十三） 又も港灣放逐、第三艦隊愈々接近

五月八日 余は御身の書面を落手するや否や急ぎスワロフに歸り且つボルチノに出張する事に決せり余が同艦に赴きし時に提督は尙ほ睡眠せられたりき（エンクットスト提督の事なる可し）其より提督を起し共に座してビールを傾けたり提督は余が爲に美味なる御馳走を供へたり、戦争後我等は提督と共に歐洲を旅行するに如何なる順序に旅行す可きとて提督自ら其圖などを書き始めたり我等はセレブリヤンニヨフ等と共に座して種々の談論を爲せり此時同氏にスワロフより書面を傳達せり余は同氏に書面の達し居る事を知らざりしは甚だ遺憾なりき若し此事を知りしならんには余自ら傳達す可かりしなりボルチノにて古郷より書面を得るの喜びに與りしは只だ艦長とコチヨフの二人のみなりきスワロフの士官中に此の喜びを得たるは余一人のみなり實に今日といふ今日は余に取りて全く眞の祝日なりき、余は六時ごろボルチノの水雷艇にてスワロフに歸り通信は既にエリダンに發送せられし事を識りて喫驚せり余は大急ぎにて五フランの郵券を得て其を書面に貼り皆な其を大なる封筒に入れてメツス（ギンスブルグ會社宛）にて送たり此封筒はカシターにてエリターに持行かしたるが同船は柴棍に出帆する爲に今刻々に錨を揚げ居たるなり。明日はホンコーへより出るならんと豫想せらる當地の土人は實に不思議なり金若しくは銀の鈕を一箇五フランよりも高價のものとし水兵等は之を利用して鈕にて代價を拂ひ其上に交換までもなせり。第三艦隊は未だ來着せず同艦隊にて來りたる書面は既にギンスブルク會社を経て得たるものなり我等の郵便物は同艦隊に在る可し余は御身より書面卅三通を

得らる可しと思ひ居れりノーンペーに來泊したるギンズブルグ會社の汽船レギンは日本人の爲に拿捕せられたるに非ざるやの恐れありとの事を御身にも話したるやうに記憶す然るにレギンはモサンビク海峡（アフリカ大陸とマダガスカル嶋間の海峡）に於て難破したりとの事を知りたり午餐後船首の艦橋に居りて風出でなば私室に入らんと待ち居りたり艦橋の中にさへも鼠の居るを見たり今日從卒は鼠が余の半長靴を噛りたるを見出したり然し長靴は尙ほ用ふるに宜し。

五月九日 適時に今日抜錨せざりき我等を放逐する爲に又も佛國巡洋艦來航せり是に於て錨を上げ全艦隊動き始めたり第三艦隊の迎接に赴きたるイズムールド、ド子フルは歸來せり兩艦は第三艦隊に邂逅せざりしとの事なりリオンとゼムチユーグ未だ歸航せず或は此の二艦はネボカトフ艦隊に出會して同艦隊に合せるに非ざるか、ネボカトフ艦隊より一步先に來れるウラチミルモノマフより電信を得たり第三艦隊は舳艫相衝んで來艦する旨を報告せり間もなく合す可し、第三艦隊の情况如何その士氣は果して如何にや其艦長は誰れにや之を知るは中々に愉快なり第三艦隊の多くの艦長に對して皆な嘲笑せり彼筆は從前の官職にて知られ居るなり、然し戦争は萬事を一變革す不良なるものが良好なる者に變じ或は其反對にも出るなり。

午後二時ネボカトフ艦隊の煤煙マスト煙筒等を望見せり人々皆欣然として艦橋に集れり望遠鏡を争ひて奪取る様にせり我等は遂に前進する事となるべし是より以上何も希望す可き事もなし。モノマフと無線電信にて談話を始めし時に是れ實にモノマフにして日本軍艦に非ざるやを確むる爲に同艦の副艦長の姓名を問ひたり同艦は是に答へたり然しスワロフより斯の如き問ひを發せしなり、ド子フルは夜

間に第三艦隊を認めたるも然し是れ或は日本艦隊に非ざるやを恐れて急ぎ後方に退却したりとの事發覺せり是れが爲に同艦をネボカトフ艦隊に合する爲に差遣せり余も艦橋に赴く可し余將に兩艦隊は合せんとす兩艦隊は互に接近せり互に禮砲の發射を始めたり。

（六十四） 第三艦隊の來着と發向準備

五月九日 余は何を爲す可きや頭は全く馬鹿になりて何事を書く可きを識らず余は只だ幸福と満足と喜悅とを感ずるのみなり凡べての事を書き認めんと欲するも氣のみ焦がれて心は錯亂せる如く皆な忘るゝに非ざるやを恐るゝなりネボガトフ艦隊は益々接近せり人々皆な甲板の上へと急げり余は同艦隊の來着に大に敬禮を表する爲に新しき帽を戴きたり。視よアフラキシンは來航せり余は五年前に同艦に働きたるに豈敢同艦を此處に於て見る可しとは夢想だもせざりき。アフラキシン、ウシアコフ、セニヤウイン等は如何に奇妙なる艦型ぞや艦體短小にして其煙筒のみ如何に長きぞ是等諸艦の風姿は恰も圭角稜々たる青年者を見るが如く感ぜらるゝネボガトフ提督は四時にスワロフに來訪せりロゼストウエンスキー提督と接吻を爲せり艦隊が無事に合したるを祝する爲に幕僚は招待を受けてシャンペンの盃を擧げたり食卓に就きてネボガトフは同艦隊の艦海中の事の談話を爲せり先づ同艦隊の航海は成功せる者なりき諸艦には損破もなく理想的の航海を爲せり夜間には燈火を滅し乍ら來航せりネボカトフがビーナンを通過せるは皆な去月廿八日なりと思居れり同提督がマラツカ海峽に入りたるは五月二日にて同海峽内に二日間無用の時日を徒費せりニコライよりスワロフにネボガトフ提督を送り來れ

るカッターは郵便物を持來れり提督は食卓より席を離るゝは禮儀の許さざる所なるも其座に居たまらずして郵便物を見に行きたり、郵便物は既に幾包にも別けられたり余が郵便物は既に余が私室に持ゆかれたり、余は室に急ぎしが心も有頂天にて先づ小包に手をつく可きか書簡の方を先きにす可きかを迷ひへり小包を開きたり小包には靴足袋、鼻巾、肩章、菓子煙草、石鹼コロム水、香水、刷子煙草其他種々の物品あり只だ其も是も一瞥せるのみなりき從卒は余を助けて一々分類し且つ品物を拭き淨めたり菓子煙草は溶け罐詰は流出せり新聞紙も鼻巾も石鹼もみな粘りつきたり余は非常に注意してみな之を剥がしたり余は喜びの爲めに心動きて何も書き認むるを得ず先づ心を落着けざる可らず。コロム水と香水とは異状なく到着せり罐詰は能く封じありたるも流出したり煙草は少しく損じたるも喫するに支障なし新聞紙は全く讀むを得ず只だ御身が色鉛筆にて記しを附けたる所だけを讀みたり余は前後の連絡に頓着なく書き認む可し明日は此の書面を差立るを得べし余は何となく蒙昧せり。

五月十日 未だ艦隊に合せざるコストロマにも郵便物積みある可し余は實に小兒の如くになりて頭は痴呆同様になり智慧も分別も無くなれり然し余は満足幸福なり御身が送りくれし凡ての品物を受けて甚だ満足なり。

五月十日 御身に書面を認めんとす然るに今驅逐艦クローズヌイとベスウフレーチヌイと衝突せり急ぎ兩艦を修繕せざる可らず我等は今外洋に漂泊し驅逐艦は我等より卅露里に離れて灣内に碇泊せり余は如何にもして驅逐艦に出張せざる可らず。午後四時驅逐艦フィストルイに移乗せんものと思ひて随分久しくウエリポート（長艇）に乗り居りたり余はフィストルイにて艦隊の一部が碇泊し居るグイ

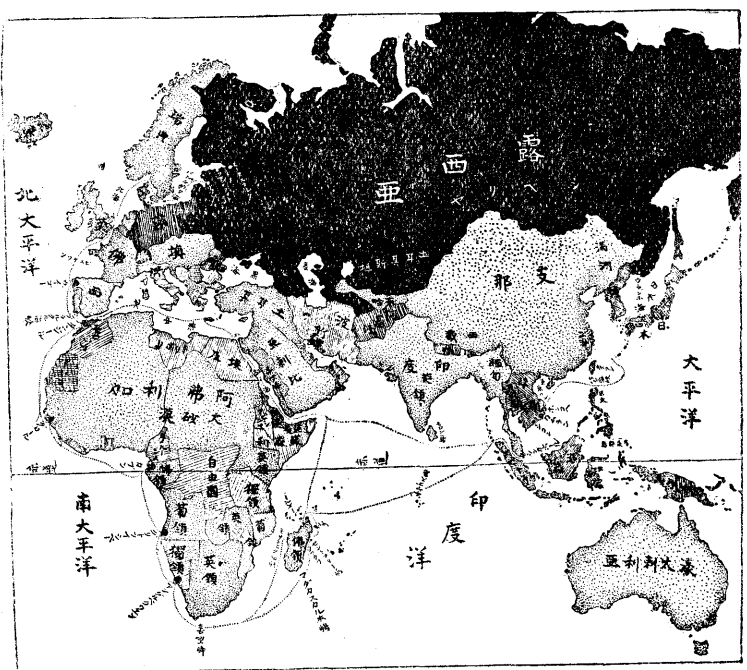
オト港に赴く可しオレークにも出張せり余は今カムヤツカに乗り居れり此書面を獨逸石炭船に託するを得るや否やを知らず明日黎明にスワロフに赴く可しフィストルイに於て朝飯を爲せり艦隊に着せる書面は概して甚だ尠し皆な不平を鳴し居れり然し余は満足なり。將校自身に上衣に火熨などをかけ居るを見るは甚だ奇觀に非ずや余は驅逐艦に於て斯の如き事を目撃せりベスウフレーチヌイの仕事は左まで大仕事に非ずクローズヌイが大破損を受けて陸岸に乗り揚げたりと聞き余は大に驚きたりしも更に其様な事のなかりしは甚だ幸ひなりき我等は間もなく浦鹽に赴く可し。

五月十一日 ベスウフーシチヌイ修繕の余の仕事は先づ上出来なりダイオト港より驅逐艦ボードルイにて艦隊に歸航せり途中にて石炭積込の爲に又ホンコーへに引返せる我が艦隊に邂逅せり是れ外洋は波浪高くして石炭積込みに困難なるが故なり此處より明朝出帆す可し嗟實に煩累に堪へざるなり我等は強て放逐せらるゝも幾度にも此處に現出す可しタイオト港は實際ホンコーへの一部に過ぎず是れホンコーへに續き居る灣にて廣き海峡にて連絡せらるゝ灣なりタイオト灣は風景甚だ佳なり海岸は斷崖絶壁にて草木繁茂せり灣の一隅に難破せる佛國の砲艦一隻横はれり今取り毀ち居るなり陸岸には山羊孔雀猿象其他の動物甚だ多し。昨日はベウフレーチヌイに於て午餐の饗應に與りたり數時間甲板の上に腰かけて快談を爲せり夜は甚だ静かなりき彼等は皆な甚だ睦まじく生活せり誕生日や命名日などには互に贈答を爲し時としては其贈物が如何にも珍奇なる事ありといへり同驅逐艦に一泊する事を勧められたるも辞退してカムチャツカに赴きたりカムチャツカには余の爲に一室を備へくれたるも余は空氣の新鮮なる甲板上のロングセーズに臥したり六時に余の爲に驅逐艦を遣はされたりカムチ

ヤツカにてスワロフに種々の手工作品を持行

く事を勧められしも持來るに不便なりしかば遂に取らざりき余は八時にカッターにてスワロフに歸還せり驅逐艦は動搖せしかば食卓に食器の轉落を防ぐ爲めコロツプの栓を處々に立てたり是が爲に食卓布にも孔を穿ちあるなり食器を置きたる時に其周圍にコロツプの栓を立つるを以て食器は轉倒せざるなり驅逐艦はスワロフの爲に碎かれざる様に巧に接近せり余は四方に目を配りて若し驅逐艦が沈没し始めなば何か取りつく物なきやを探し始めたなり。ベスウフレーチヌイの士官等はスワロフの士官室より茶を分與せられん事を請へり之を承諾して贈る事を約束せり昨日病院船アリヨルにて何かの用事の爲に水兵數名を船艙内に遣はしたり艙内には毒瓦斯充滿し居りたる爲め人々は窒息し始めしかば一人を除くの外

臺灣沖通過の航路を示したるもの



皆な遁げ出したり艙内にて遂に死亡したるものは今日或は昨日の中に既に埋葬せらる可し。御身の送りくれし肩章は制規のものに非ずして中尉のものなり余は其肩章を技師クリメル氏に贈りたり彼は大喜びて士官等にシアンペンの御馳走までなしたり余は肩章を與ふことを欲せざりしも無用の物や身邊に積み置く事を欲せざるなり扁桃を焼きて人々に馳走せり扁桃は變な臭氣を發せり中に蜚蟻に似たる虫が入り居りしなり。

明後日は浦鹽に向け出帆す可し多くの人々は危険を恐れり余は御身よりの書面を得たる後は自ら元氣を覺え未來の事に對して希望を屬し居れり。左の如き説あり日本人は我等が浦鹽に到着する前には敢て艦隊戦を爲さざる可し且つ始終浦鹽に對して水雷攻撃を以て之を威嚇す可く又日本人は浦鹽を陸上より遮斷す可しと然し誰か能く事情を前知するを得んや。御身よ今後久しく書信特に電報を得ざればとて決して心配する勿れ斯の如く人跡の絶えたる荒蕪の地に隠れ居るを以て電信を發するは非常の困難なり書面は機會のある毎に送る可し是れさへも我が艦隊は甚だ準備に乏し御身よりの書面も満足には配達せられず僅に一部分のみなり其期日の如きは言ふも愚かなり一月出したる書面を五月の始めに受くるといふ始末なり或は最近の分として昨年十月發送の分を受けし者もあり殆んど信せられざる如き話なり。

五月十二日 書信は發送甚だ遅々たる爲めに人々激怒せり郵便物はスワロフより朝の四時に持行き余は其郵便物は遅るゝならんと思へり若し我等は灣内に止らんには余も書面を差立つるを得可し我等は早朝より外洋に出でたりウオロニーチ並にタンホーフは柴棍に赴くならんと思はる然し何時出帆

するやは何人も知らざるなり。何汽船にや一度隠れんとしたる汽船が我艦隊に接近し來れり我が逐驅艦並に哨艦の任務に在りし巡洋艦は其汽船を追ひ行けり其汽船は英國の國旗を掲けたり同船には臨檢せず單に訊問せり日本より南方に航する者にて苦力(清國労働者)を搬送するものなりといへり之を放ちやりたり。依然として外洋に漂泊し居れり此處より或は明晩或は明後日の朝に出帆す可し。病院船(第三艦隊の)は全く艦隊に合せずとの事なり今や我が艦隊の船艦は果して幾隻なるやを知れりや實に五十二隻の多きに達せり若し柴棍に在る運送船の一部を加へなは更に多數となる可し。

(六十五) 艦隊愈々臺灣の東岸に向ふ

五月十三日 コストロマ來航せり大方郵便物を搭載し居るなる可し。

五月十四日 昨日病院船コストロマ船隊に合したり同船は柴棍に寄港して同地より郵便物を搭載し來れり余は四月十日後に投函せられたる最近の書面を落手せり頗ぶる早く到着せり然し皆なギンスブルクを経て送致せられし分のみなり諸艦にて何れも多數の郵便物を受けたり其を分類するに中々に時間を要したり。五月十四日我が艦隊はホートタイオートを出帆して浦鹽に發向す可し南支那海を駛走す可し今我が艦隊は五十隻の艦船より成れり其中の九隻は驅逐艦二隻は病院船なりアルマダは大船なり大方臺灣を廻り朝鮮海峽を通過す可し浦鹽迄の間に艦隊の砲撃戦あるや否やは疑はし水雷艇並に潜航艇の狂暴なる水雷攻撃は免れざる可し。

五月十五日 我艦隊の航路は臺灣を迂回して同島の東岸を通過せざる可らずと豫定せられたり此の

預定の如くなりき、余の考へにては臺灣嶋を走越する前に我が艦隊は兎に角に海南嶋(即ち瓊州嶋)に到着するならんと想はる然し或は然らざるやも識れず。夜間に平素諸船舶が北方より南方に向け若しくは其反對に航海する所の一航路を横断せり其時二隻の汽船に邂逅せり彼等は我艦隊の運みたる航路の事を報告するなるべし。今我が艦隊は平素汽船の通行せざる支那海に入りて航進せり石炭積取りの事の談話は始りたり明日早朝に石炭積込みを爲す可し驅逐艦は運送船にて曳船にせられて航走せり今までは破損挫折等の出来事なく航行せり。

夜九時戦闘艦アリヨールは暫時航進を停止せり同艦は何處かに故障を生じたるなり。我艦隊の取れる航路に臺灣嶋とフィリッピン群島の一なる呂宗島の間(即ちバシ海峽)と識られたり。我が艦隊が露國を出帆してより今日にて丁度七箇月になれり海上は甚だ静かなり燈火を隠しながら安心して明窓を開き置くを得べし我が艦隊は僅少なる燈火のみを掲げ其光力を甚だ弱くせり船艦の衝突する如き事なかる可し月夜にて明るし。

五月十六日 今までは皆な無事に航進せり航海安然なり今日は八時に起床したる爲め朝の茶に遅れたり獨り私室にて茶を喫したり。

(六十六) 愈々臺灣に接近す

五月十七日 今日の石炭積取りは大方是れが外洋に於ての石炭積込みの最後なる可し。タンポーフとメルクリイとは同船より石炭を積取りたる後ち艦隊に別れて柴棍に歸航するならんと想像せらる

同船に通信を依頼するを得べし。又他の運送船も我れ等に別れて上海に赴く可しとの説あり殘る所は軍用船(カムチャツカ、イルトイシ、アナドイリ)其他軍需品を積み居るコレヤのみなる可し。若し斯の如くに實行せられなば我が提督は艦隊の浦鹽到着前に日本艦隊と艦隊戦を爲す可きを自ら期し居る者と察せざる可らず。夜十時無線電信班に於て電信の信符を感じたるも何人も其意味を解するを得ず、戦闘艦内は驚く程靜肅なり最も騷擾せるは彼の大西洋に於て英國巡洋艦が我が艦隊を包圍したる時なりき余は少しも驚かず平然として居りたり何事かあるならんと豫期したるなり。

今夜は月明かにて白晝の如し斯かる明るき夜に水雷艇の攻撃には不便なる可きも潜航艇の襲來には便利なり海上穩かなりうねりあるも靜かに低き波浪なり。間もなく涼しくなる可し臺灣に接近せり人々皆な臺灣の事に趣味を感せり旨く行き何事も無くんば十二日乃至十五日を経なば浦鹽に到着す可し。余が戦争の準備としては品物を整理して之を藏し始めたる位のものなり艦内に非常の騷擾ありたり明日は審問ある可し。若し好天氣なれば朝六時より石炭の積込みを始む可し。ポートダイオートより我が艦隊より分離したるは運送船グスターワ、レールへ給水船グラフィストロガノフの外に浮動工作船に充てられたる運送船クセニヤ等なりクセニヤを此處に曳き來る可きか同船は速力弱く工作船としても甚だ不充分なりとの事なり余は同船に乗りたる事なしネポガトフ提督の率ひ來れる諸船艦には何れにも一回も赴きたる事なし。

五月十八日 朝八時全艦隊は石炭の積取りを爲し居れり海は靜かなり然しうぬりは中々に高く大戦闘艦も傾動する程なり甚だ熱し然し間もなく涼しくなる可し赤道地方を經由し來りし者には其涼氣は

如何なる可きや病人多く出づ可しタンポーフ並にメルクリイは艦隊と共に前進せざる可く今日柴棍に引返すならんとの談話始れり。只驚くの外なし萬事何事にても一度決定したる事も千百度も變更せらるゝなり故に何人も確たる事を識れる者一人もなし。

（六十七） 運送船拿捕

五月十九日 南支那海に在り。タンポーフ並にメルクリイは昨日柴棍に赴きたりメルクリイに郵便を託したり。艦隊は石炭の積取りを終り機關に全速力を與へて愈々前進せり。夜室内に在りて若し浮流水雷を發見せる場合に處する爲に諸艦の艦列命令を石版に書きたり。リオン、ドネブル、クバン並にテレーツクの諸艦を順次に偵察任務に出す可しとの事なりウラルは派遣せしめず同艦は信用するを得ざるが故なり是同艦の艦長は艦の武装を解く事の想像を公然口外し居るを以てなり。今夜余は艦尾の艦橋に居りてオレーグが何船にや一隻の汽船を追跡し行たる其結果の報知を待てり人々と談話しながら遂に轉睡せり一時頃に就寝せんと思ひて私室に入りたり然し室内に尙は暫時座し居りたり。二時にオレーグは臨檢の結果を報告して曰く同船の船長は其汽船に搭載貨物の送状を有せざる事を告白せり又船長自身も貨物に就きては委細の事を識らず石油を搭載し居れり汽船は紐育より日本に赴くものなりといへり茲に於て船脚の重き此の汽船に艦隊に同伴し來る事を命じたり同船は疑はしき汽船として之を拿捕せりこの運送船調査の爲に之を浦鹽に護送す可し。我が水兵と旗手とを同船に移乗せしめたりスワロフよりの旗手士官の一人は船長に任命せられたり同船の船長並に機關士は同船に留置れた

り勿論何等の権利をも與へられず單に乘客として殘されしなり他の乗員は我が諸艦に移されたり乗員等は訊問に對して皆な種々の答へを爲せり或る水夫の如きは搭載貨物中に大砲並に砲彈のある事を告白せり（或る一人の水夫は汽船の拿捕せられし時に船長に知れざる様に手眞似にて此汽船の中に何か丸きものゝ積みある事を示せり）此汽船が何處より來れるものにや判明せず乗員の答ふる所は區々なり此汽船オルダシヤは我艦隊と共に津輕海峽を經て浦鹽に伴はるべし。是れ果して宜しきにや或は途中にて日本人の襲撃に出會せざるか寧ろ同船は禁制品を搭載し居る者と認定して乗員を我艦に移乗せしめて汽船を撃沈する方却て簡便に非らざるか。同船拿捕の爲めに多くの時間を費せり全艦隊は正午十二時まで動がずに停止し居りたり同船に乗員の爲め食料品や石炭等を積込み移せしめたり同船は石炭全く不足にて浦鹽まで伴ひ行くには足らざりき（ネボガトフ艦隊の運送船なるリウオニヤより石炭を轉載せり。

（六十八） 戦闘準備を始め

十二時より艦隊は三ノットの弱速力にて航進せりリウオニヤは拿捕船と縛り合して併進しながら同船に石炭を轉載せり何故に斯くまでも我等は屢々自己の損害を顧みず萬事を秘密に附さんとするにや既に我艦隊の參謀部にては禁制品を搭載して日本に航する船舶の船名を示せる電報を受け居りたりとの事なり。今日迄の電報にて示されたる船名中に此の拿捕船の船名存せざるや否やを更に調べざるを得ざるしとの事なり。其電文付秘密書類として金庫に納められ其金庫は戦争の際の爲にとて隠された

り若し我等は之を以て秘密の者と爲して之を識りて利用するを得ざる程の者ならば何故に之を我等に通信したるにや實に驚かざるを得ざるなり、禁制品搭載の汽船の船名の如きは之を全艦隊に公示して凡ての人々をして其船名を識らしむ可きに非ずや嗟我等には斯の如き事が即ち一大秘密なり、更に其意を解するを得ざるなり露國の利益の爲に勤むる汽船の名稱を秘するは意味なき事に非ざるも日本の利益を謀る者の名稱を秘するは是れ全く愚の極なり然し我國にては何時も到る處みな斯の如くなり、今朝オルダミヤを護送中に更に二隻の汽船を認めたり一隻は貨物を搭載し居り一隻は空船なり其中の一隻をゼムチユークは隊に伴ひ來りたり勿論是れ空船なりき伴ひ來れる汽船は諾威の國旗を掲げ居れりベルケンに赴く船にて船名はオスカル二世なりオスカルは日本に在りて既に二箇年間も（何會社にや）日本に勤務したる船なり同船を解放せられたり同船は日本の沿岸を航し來りて嗚呼がましくも我艦隊の艦列を横斷せり、大方同船は日本人が特更に偵察の爲に遣せるものなる可し今は何處に於てか我が艦隊を見たるやを報知す可しと思はる往きながら寫眞を撮り我船艦を算へたるならん若しオスカルは特更に派遣せられし者に非ずとするも我艦隊の所在地を通報する點に於ては何れにても同じなり多くの時間を空費せり又空費しつゝあり此の損失は償ふを得ざるなり明き月夜を失ふ可し今日は陛下の祝日にて感謝の祈禱あり且つ祝砲の發射ありたり。書籍の中を探して奇麗なる日記簿と手帳とを見出したり日記簿は甚だ好都合なり今までの既に皆な書き詰めたり。夜七時に認むオスカルを臨檢せず放ち遣りたるを後悔し始めたり汽船オルダミヤより船長と機關士とを除くの外は乗員を悉く移したり彼等は皆な疑念に滿され居れり。天候疑はしくなれり大風にならざれば宜し艦隊は大に困難す

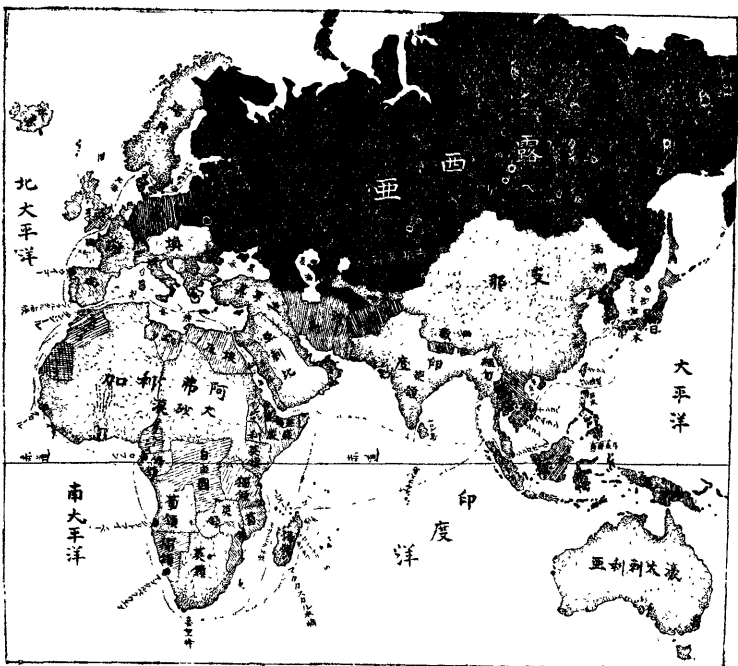
可し。日本に禁制品を運送し居る汽船に關する書類を公にせられたり（勿論書類全部に非ず）輸送せざるものは殆ど無し馬匹大砲砲彈火藥綿火藥爆裂裝具被服ミルクレール罐詰類電線鐵類銅鐵裝甲鐵板小銃榴彈到着爆彈信管汽艇鐵道材料等なり一隻の汽船の如きは専ら旅順に沈没せる我が艦船の引揚げに適用せらるゝものあり。

五月二十日 見よ我艦隊は既に太平洋の上に在り此海洋は何故にや「大なる」洋と稱せらるゝなりバタン群島の傍を過ぎたり此處に噴火山ありとの事なるも我が戰艦よりは之を望見するを得ざりき今夜は上甲板の艦尾の休息所に臥したり室内の吊床には寢るを得ざりき開きありし明窓より吹込みたる波浪の爲に吊床は太く濡されたり、拿捕船オルダミヤに昨日充分に石炭を積込むを得ざりき波浪の爲に妨げられしなり今日も波浪の爲に石炭の積取りを妨げられたり若し同船に浦鹽までの石炭を積取るを得ずんばコルサコフ港に（サガレンの）に赴く可しとの命令を同船に與へられたりオルダミヤには石炭を積込み居りたるが我が艦の乗員が尙ほ二百人も残り居れり波浪の爲に彼等を引取るを得ざるなり尙ほ明日彼等を引取る事に試む可し浦鹽までは尙ほ二千八百露里を餘せり我等は此の航程中に如何なる事に遭遇す可きか、昨日より戰鬪準備を始めたり其準備至つて簡畧なるものなり革包を開きて何等の説明を俟たず何物かを其處此處に運び又は肖像や書面や妻の寫眞などを何處かに隠せり。

（六十九）最後の書面三通

五月二十一日 明日は又も石炭の積込みを爲す可し此の石炭積取りの大混雑は何時終る可きや大方浦鹽までに是れが最後なる可し今日北廻歸線を横切りて廻歸線外に出づ昨夜寢臥したる際に鼠に足の指を噛まれたり實に厭忌になりたり艦内生活の狹隘と不潔とは最早や澤山なり。拿捕船オルタミヤは艦隊より離れたり同船は一隻にて浦鹽或はコルサコフ又は若し濛霧の妨なくんばベトロバウローウスケに赴く可し同船の傍らにクバン一隻残りクバンは拿捕船に若し出来るなれば石炭百噸を供給す可し其後ちオルタミヤのみ一隻船走してクバンは禁製品搭載船拿捕に赴きたりオルタミヤは新造汽船にて昨年その建造を終りしとの事なり此汽船は既に久しく禁制品の輸送を爲し居りたる由にて何貨物にや日本の爲に大連に輸送し又露國の爲に浦鹽に輸送せるならんとの事なり。オルタミヤの船長は最初は無遠慮に露西亞人を嘲りて日本人を替稱せり彼は同船より艦隊の方に轉乘を命せらるゝ事を豫期せざりしなり然るに同船長は自己の船より轉乘せらるゝ事を發表せらるゝや彼の態度は全く一變し汽船より出でながら涙を流して泣きたり、英國人等はオルタミヤを退去するに當りて巧に不都合なる事を演出せり即ち機關區劃内のキングストンを開きしかば汽船は沈没し始めたり然し我が水兵は早く開かれたるキングストンを發見して之を閉塞せり錨杜(シトック)の方向を示せる小板をみな錨杜より剝取りたり我等自ら之を判断せざる可らず、昨日オルタミヤの汽罐の附近に既に我が水兵の在りし時に危き事にて汽罐の破裂を免かれたり機關士が其不幸を豫防するを得たり勿論若し我等さへ不注意ならざりしならんには英人等はキングストンを開く事も揭示札を剝取る事も出来ざりしなり能く英人等に追跡して一分間たりとも彼等を機關室や汽罐部に置く可らざるは火を見るよりも明かなる話なり。今日

まで未だ禁制品を發見せず禁制品を積みある可しと思はるゝ船艙は何れも石油を積みありて其上より大なる鐵葉にて覆はれあり船底まで調ぶるには凡ての鐵葉を剝取らざる可らず。五月二十二日 石炭積取りは遂に實行するを得ざりき天氣は宜しからず今日も上甲板の艦尾の休息所に臥したりテレークは艦隊を離れて偵察任務——汽船拿捕の爲に赴きたり。天氣は一變して曇り出して涼くなれり或る人々は最早感冒に罹り始めたりフエルケルザム提督の病ひ篤し何とかして浦鹽まで事なく到着させ度きものなり。夜九時支那海に在り。大平洋に別れて東支那海に入りたり我運送船を赴かしむ可き上海に向て航進せり今は此の運送船のみを放ちやるを得ざるなり上海には同地に於て武装を解きたる我が船艦の出港せざる様に看守する爲に日本の船が居るならん



此圖にて對島迄の全航路終る

と察せらる上海に赴かしむるは左の諸船なる可しウオロ子チ、ウラチミル、ヤロスラーウリ、メテオル、リウオニヤ、クロニヤ等なり或はスウイリも送遣せらるゝやも識れず。メテオルは給水船、スウイリは曳舟用汽船なりスウイリは意外にも速力至つて遅緩なりき若是等の諸船が皆な離れ去るとせば商船旗を揚げて我艦隊に遺るはコレヤとルース(人々は皆な同船をローランドと呼べり)のみなりルースは曳舟用汽船なり赤十字旗を揚げ居るオレーク並にコストロマも残る可し軍艦旗を揚げ居る運送船はカムチャツカ、アナドイリ、イルトイシ等の諸艦なりイルトイシは九ノット半以上の速力を出し能はずとの事なり同艦か諸艦を妨ぐる如き事あらば甚だ遺憾なり。臺灣を通過し又日本領の若干の小島の沖を過ぎたり浦鹽は甚だ接近せり東支那海を横切り朝鮮海峽を通過して日本海に入るのみなり其沿岸には久しく待に待ちたる浦鹽あり。日本人は如何にせしか彼等は何處に在るが日本人は必ず我等を邀撃するに堂々たる準備を爲し居るに相違なし、大方朝鮮海峽若くは其附近に於いて激烈なる水雷攻撃ある可し月出の時刻は遅し是れは夜襲を妨ぐ可し艦隊戦はある可きが日本は我が艦隊の浦鹽到着前に我等に對して艦隊戦を爲すべし。是れ日本に取りて大便利なり我が艦隊は大航海を爲し來りて若し運送船の我が艦隊に遺れる者四五隻に過ぎずとするも兎に角に運送船にて艦隊の活動を制縛せらるゝを免れず。日本は浦鹽附近に水雷を沈置したるに相違なし然り今より一週間を経なば全世界に我が艦隊の風説は傳はるべし、日没後は水兵にネルの underwear を着す可きを命せられたり間もなく冬服を着る可らざる可し。今日も石炭を積取るを得ざりしかば又明日積込みの豫定なり上海に赴く運送船の一隻に書面を託するを得べし果して郵便差立ての好機會ありしも大方誰も此好機會を利用するの仕度を爲さ

ざる可し。

五月二十三日 東支那海に在りフェルケルザム提督の病氣は全く危篤に陥りたり石炭を積取り中なり天氣は曇りたり然し靜穩にて涼し多くの人々は既に半外套を着始たり。イルトイシの艦長は同艦が八ノット以上の速力を出し能はざる旨を申告せり今此の運送船を如何に處分す可きや若し上海に赴かしのば同艦は武装を解きて戦争の終局まで何等の働きをも爲すを得ざるに至る可し同艦は軍艦旗を揚げ居れり若しまた同艦を艦隊に伴ふとせば是れ同艦は全艦隊に取りて無用の邪魔物なる可し。余は自から此書面を差立つ可し家郷に書面を送らんとする者なし皆な浦鹽より差立る方が早く着す可しと云へり然し第一浦鹽より果して發送するを得可きか又何處より發送する書面が早く着するやは尙ほ不明なり。浦鹽までは一千二百哩(二千一百露里)を餘すのみ幸に好都合ならんには六日乃至七日にて此の路程を航す可し。

著者 細君の跋文

是れ上海より送られたる最後の書面なりき妾が此の書面を落手せるは六月なり海戦の際に技師トポリーウススキイは戦闘艦クニヤズスウオロフが敵弾の貫通孔を受けしが故に其閉塞指圖の爲に艦底に居りたり其後ら最後に同艦の旗手佐官はポットーウススキイに病室に於て遇ひたりと云ふ佐官の語る所に據れば其時技師は戦況如何と問ひ佐官は「悪し」と答へたり後ち間もなく幕僚の一部は驅逐艦ヘドウエーに移乗して戦闘艦を離れ去りて艦底に居りし者を呼ばざりしなり彼等をば顧みずしてロゼストウエンスキー提督の「貴重なる」生命を救ひしなりと (大尾)

明治四十年十一月十五日印刷
明治四十年十一月十八日發行

不許
複製

翻譯者

東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地

時事新報社

發行者

長崎縣佐世保市濱田町八番地

田熊萬藏

印刷者

東京市神田區中猿樂町四番地

藤澤外吉

印刷所

東京市神田區中猿樂町四番地

秀光社

發行所

長崎縣佐世保市濱田町

海軍勳功表彰會本部

東京市神田區西紅梅町十一番地

海軍勳功表彰會支部

定價金五拾錢
郵税金八錢

○本會出版物の種目及其概要

海軍勳功表彰會編纂

天日露海戰記

附錄 戰域大海圖

定價金 貳圓

本書は日露戰役に於ける我海軍の行動を網羅して遺す所なく文章は潤色を避けて着實を旨とし尙文中詳密なる圖解を挿入して參考となし専ら日露海戰の正史として後昆に傳へんことを主眼として編纂したるものなり

附錄は日露兩艦隊の行動を明らかにせん爲め黃海蔚山沖日本海の三大海戰は固より軍艦及商船の沈没場所其他海戰日誌日露兩軍艦の噸數及艦形等を明寫せしものなり

時事新報社翻譯

露艦隊來航秘録

定價金 五拾錢

本書は露國第二艦隊口提督の幕僚たりし將校の一人がバルチック港拔錨以來對島海峽迄の出來事を細大漏らさず筆記して最愛なる妻に寄せたる日誌なり
尙同人は日本海に於て無慘の最後を遂げたるに依り其妻たる未亡人は夫の靈を慰めん爲涙と共に公表せし珍書也

時事新報社翻譯

露艦隊幕僚戰記

定價金 五拾錢

本書の著者は同じく口提督幕僚の一人なるも戰國中觀況觀察の任務を帯びて筆記に従事したる將校なれば視界内にある露艦隊の行動は勿論旗艦スプロフの最後に到つては其慘憺たる光景を最も詳細に且つ寫實的に明記したるを歸國の後公表せしものなり

時事新報社翻譯

露艦隊最期實記

定價金 五拾錢

本書は同じく第三艦隊の幕僚なりし海軍中佐の著はせし戰記なり其特色は口提督の作戰計畫より脱起し彼我兩艦隊の巧拙を最も無遠慮に論破し然る後日本海大海戰奮闘の有様より降伏軍艦の大悲劇に到る迄快調なる文字を以て遺憾なく著述せし好文草なり

時事新報社翻譯

右三戰記合本 全

定價金 壹圓五拾錢
郵稅 十 八 錢

本書は前掲の三戰記を合本とし最も斬新なる意匠を以て日露海戰記同様總クロース金文字入の美麗なる洋裝なれば紀念として珍藏せらるるに最も適當の良書なり